

令和 7 年度

---

男女共同参画に関する意識・実態調査

---

報 告 書

令和 8 年 1 月



彩の国 埼玉県



# 目 次

<b>第Ⅰ章 調査の概要</b>	<b>1</b>
1. 調査の目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査内容	4
4. 回収結果	4
5. 報告書の見方	5
<b>第Ⅱ章 回答者のプロフィール</b>	<b>7</b>
1. 性別	9
2. 年齢	9
3. 就労経験の有無	10
4. 職業	10
5. 結婚の有無	11
6. 配偶者の年齢	11
7. 配偶者の職業	12
8. こどもの有無	12
9. 一番下のこどもの状況	13
10. 家族構成	13
11. 居住地域	14
<b>第Ⅲ章 調査結果の要約</b>	<b>15</b>
1 男女平等に関する意識について	17
2 家庭生活・子育てについて	20
3 男女の就業・仕事について	23
4 男女の社会参画について	25
5 男女間における暴力について	27
6 男女共同参画を推進するための取組について	30
7 困難な問題を抱える女性への支援について	30
<b>第Ⅳ章 調査の結果</b>	<b>33</b>
1. 男女平等に関する意識について	35
(1) 男女の地位の平等感	35
(2) 性別役割分担意識	43
(3) 性別役割分担に同感する理由	48
(4) 性別役割分担に同感しない理由	51
(5) 「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無	54
2. 家庭生活・子育てについて	56
(1) 家庭生活での役割分担	56
(2) 家庭生活の優先度	63
(3) 子育て経験の有無	67

(4) 子育てへのかかわり	68
(5) 子育てへのかかわりが十分ではない理由	71
3. 男女の就業・仕事について	74
(1) 女性の働き方の理想と現実	74
(2) 勤務先の女性の労働環境	80
(3) 男性が育児・介護休業を取得することについての考え	83
(4) 育児・介護休業の取得状況	87
(5) 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと	92
(6) 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと	97
(7) 仕事と家庭の両立に必要なこと	101
4. 男女の社会参画について	105
(1) 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度	105
(2) 女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由	109
(3) 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの	114
(4) ポジティブアクションに対する考え方	117
(5) 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ	120
(6) 男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面	122
5. 男女間における暴力について	124
(1) 夫婦間の暴力と認識される行為	124
(2) 配偶者等への暴力の加害経験	135
(3) 加害行為に至ったきっかけ	147
(4) 配偶者等からの暴力の被害経験	150
(5) 配偶者等からの暴力の被害経験の時期	158
(6) 配偶者等からの暴力により命の危険を感じたこと	164
(7) 配偶者等から暴力を受けた時の対処（心情）	165
(8) 暴力行為によるケガや医師の治療	166
(9) こどもによる暴力被害の目撃	167
(10) こどもの被害経験	168
(11) 配偶者等からの暴力に関する相談	170
(12) 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験	171
(13) 交際相手の有無	173
(14) 交際相手からの暴力の被害経験	175
(15) 配偶者からの暴力について相談した相手	180
(16) 交際相手からの暴力について相談した相手	182
(17) 配偶者からの暴力について相談できなかった理由	183
(18) 交際相手からの暴力について相談できなかった理由	185
6. 男女共同参画を推進するための取組について	186
(1) 男女共同参画に関する言葉の認知度	186
(2) 「With You さいたま」の利用経験	198
(3) 「With You さいたま」に期待すること	200
(4) 男女共同参画に関する情報の入手方法	203
(5) 男女共同参画社会実現のために必要なこと	205
7. 困難な問題を抱える女性への支援について	208

(1) 「困難女性支援法」の認知度 .....	208
(2) これまでに抱えたことのある悩み .....	209
(3) 悩みの相談相手 .....	211
(4) 悩みを相談した結果 .....	213
(5) 悩みを相談したことがない理由 .....	215
(6) 悩みを相談したい方法・場所 .....	217
(7) 女性が困難な状況から回復するために必要なこと .....	219
(8) 家に居場所がない女性に対してあるといいと思うサポート .....	221
(9) 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているか .....	223

第Ⅴ章 自由回答 .....	225
----------------	-----

第Ⅵ章 調査票 .....	235
---------------	-----



# 第 I 章 調査の概要





## 1. 調査の目的

本調査は、男女平等の視点から埼玉県における男女共同参画に関する県民意識と生活実態について把握し、今後の施策を推進するための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査設計

- ①調査対象：埼玉県在住の満18歳以上の男女  
 ②標本数：5,000人  
 ③抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法  
 ④地点数：165地点

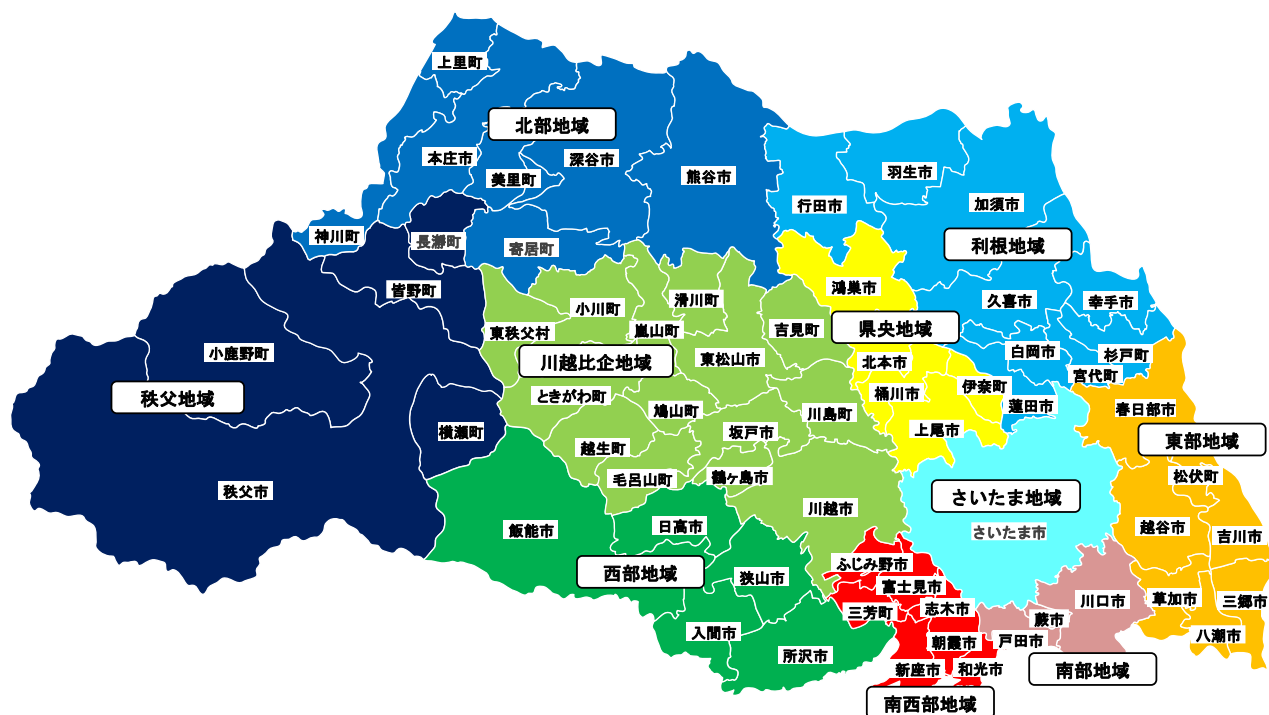
	地点数	標本数	標本比率 (%)		地点数	標本数	標本比率 (%)
南部地域	19	581	11.6%	川越比企地域	17	513	10.3%
南西部地域	17	517	10.3%	西部地域	17	513	10.3%
東部地域	26	789	15.8%	利根地域	14	421	8.4%
さいたま地域	30	915	18.3%	北部地域	11	330	6.6%
県央地域	12	360	7.2%	秩父地域	2	61	1.2%
				合計	165	5,000	100.0%

注) 県内を3ゾーン10地域に区分し、地域ごとに人口に応じて「埼玉県町(丁)字別人口調査結果報告」(令和7年1月1日現在の推定数)により165地点を比例配分する。1地点あたりの対象者数を30人程度とし、住民基本台帳より抽出した。

## ●地域区分と該当市町村

地 域		地域内市町村(ゴシック体は該当市町村)
南 部	南 部	川口市、蕨市、戸田市
	南 西 部	朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町
	東 部	春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町
	さいたま	さいたま市
圏 央 道	県 央	鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町
	川越比企	川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、東秩父村
	西 部	所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市
	利 根	行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町
県 北	北 部	熊谷市、本庄市、深谷市、美里町、神川町、上里町、寄居町
	秩 父	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町

## 第 I 章 調査の概要



⑤調査方法：郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用

⑥調査期間：令和7年9月1日（月）～9月30日（火）

⑦調査機関：株式会社CCNグループ

### 3. 調査内容

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| (1) 男女平等に関する意識について | (5) 男女間における暴力について       |
| (2) 家庭生活・子育てについて   | (6) 男女共同参画の推進に対する取組について |
| (3) 男女の就業・仕事について   | (7) 困難な問題を抱える女性への支援について |
| (4) 男女の社会参画について    |                         |

### 4. 回収結果

- ①標本数：5,000（女性：2,488人 男性：2,512人）
- ②有効回収数：2,233（女性：1,215人 男性：948人 回答しない：41人 性別無回答：29人）
- ③有効回収率：44.7%（女性：48.8% 男性：37.7%）

## 5. 報告書の見方

- (1) 調査結果の数値は原則として回答率（％）で表記している。回答率（％）の母数は、その質問項目に該当する回答者の数であり、n＝と表記している。また、複数回答についても回答者の数としている。
- (2) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。このため、各回答率（％）を足し上げても100.0％とならない場合がある。
- (3) 「時系列比較」を行っている部分は、埼玉県において過去に実施した調査の結果を用いている。なお、平成6年度から平成27年度の調査は原則として郵送配布、郵送回収法で行っており、平成12年度と平成15年度の調査は訪問配布・訪問回収法で実施している。平成30年度の調査からは郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用法で行っており、調査方法が異なっている。
- (4) 分析の軸（＝縦軸）としたプロフィールや設問は、無回答を除いているため、各設問の回答者数の合計が全体と一致しない場合がある。また、分析によっては、必要な選択肢を抽出したり、複数の選択肢をまとめて使用しているところもある。
- (5) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。
- (6) 回答者数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (7) **新規調査**とあるものは、今回新たに調査した項目である。
- (8) 平成30年度調査から対象年齢を18歳からとしている。
- (9) 今回、性別の選択で「回答しない」を用意したが、回答者が41人と少なく分析に適さない為、掲載はしていない。
- (10) 文中の表記は概ね以下の表現を用いている。

割合（基準値）	主な表記	別表記
30.0%	3割	
30.1～30.9%	3割を超え	3割台前半
31.0～33.9%	3割強	3割台前半
34.0～35.9%	3割台半ば	
36.0～37.9%	3割台半ばを超え	3割台後半
38.0～38.9%	4割弱	3割台後半
39.0～39.9%	約4割	
40.0%	4割	



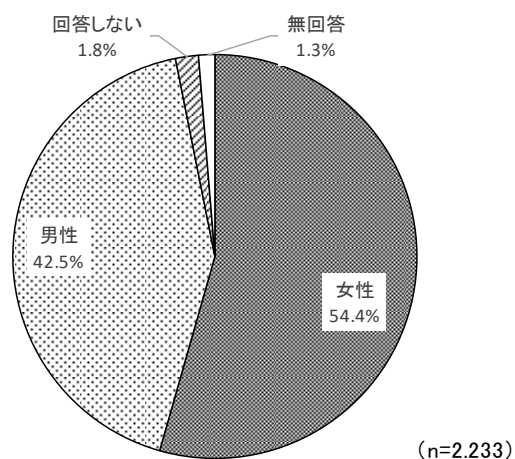
## 第Ⅱ章 回答者のプロフィール



## 1. 性別

上段は基数、下段は構成比(%)

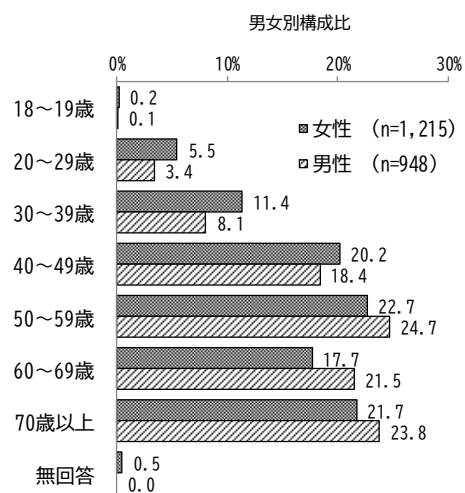
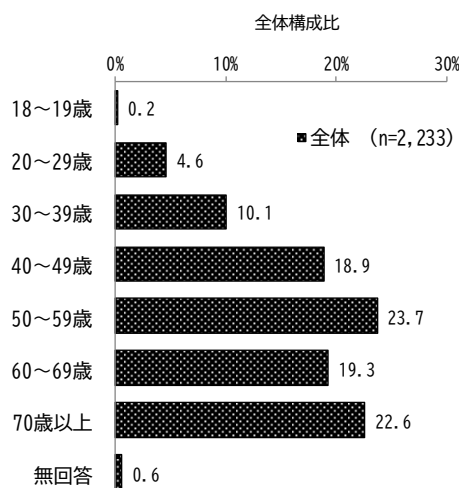
	構成比 (%)	基数
全 体	100.0	2,233
女性	54.4	1,215
男性	42.5	948
回答しない	1.8	41
無回答	1.3	29



## 2. 年齢

上段は基数、下段は構成比(%)

	合計	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
全 体	2,233 (100.0)	4 (0.2)	103 (4.6)	226 (10.1)	423 (18.9)	529 (23.7)	431 (19.3)	504 (22.6)	13 (0.6)
女性	1,215 (100.0)	3 (0.2)	67 (5.5)	139 (11.4)	245 (20.2)	276 (22.7)	215 (17.7)	264 (21.7)	6 (0.5)
男性	948 (100.0)	1 (0.1)	32 (3.4)	77 (8.1)	174 (18.4)	234 (24.7)	204 (21.5)	226 (23.8)	-
無回答	29 (100.0)	-	1 (3.4)	1 (3.4)	-	2 (6.9)	6 (20.7)	12 (41.4)	7 (24.1)

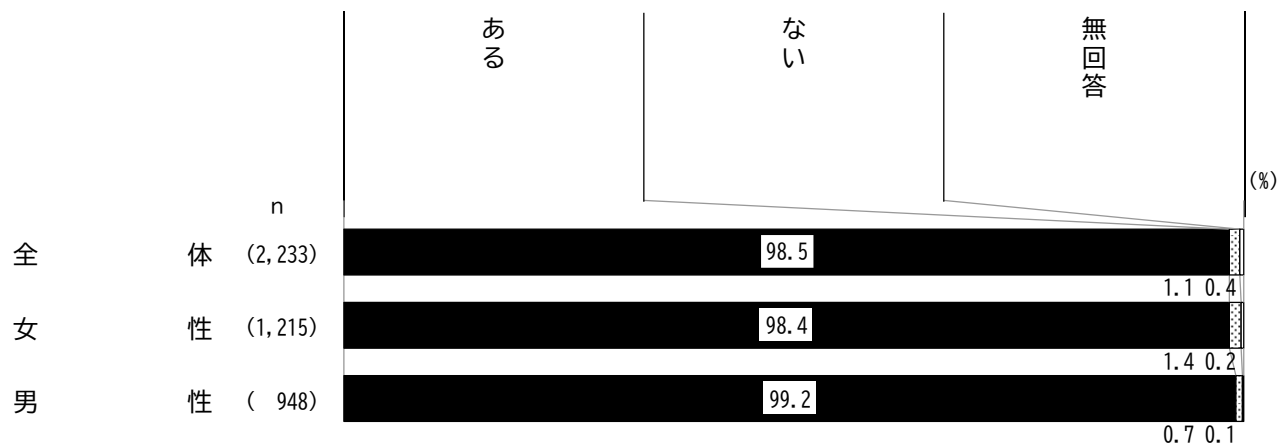


## 第Ⅱ章 回答者のプロフィール

### 3. 就労経験の有無

上段は基数、下段は構成比(%)

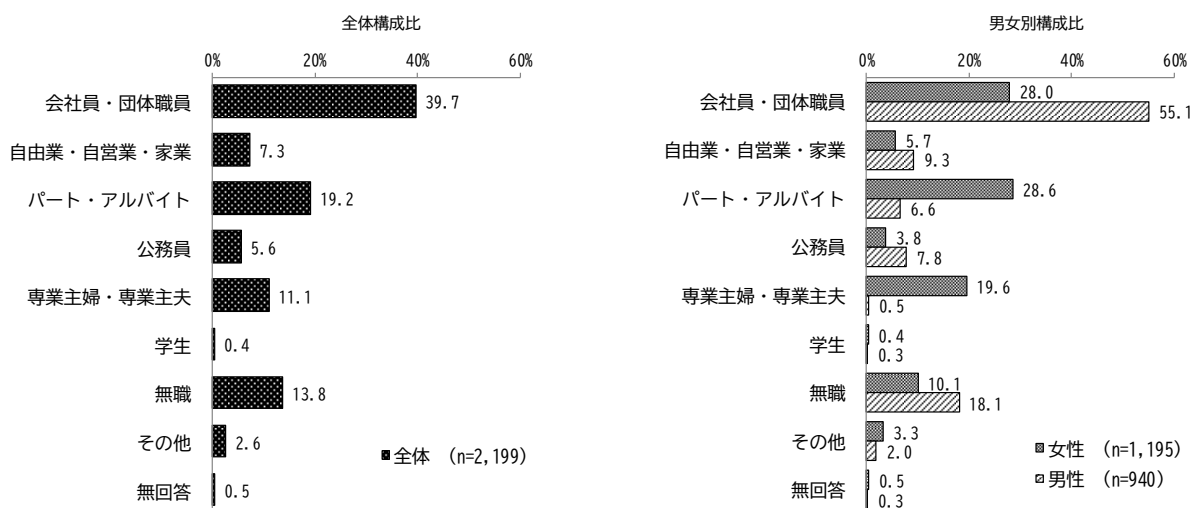
	合計	ある	ない	無回答
全 体	2,233 (100.0)	2,199 (98.5)	25 (1.1)	9 (0.4)
女性	1,215 (100.0)	1,195 (98.4)	17 (1.4)	3 (0.2)
男性	948 (100.0)	940 (99.2)	7 (0.7)	1 (0.1)
無回答	29 (100.0)	24 (82.8)	-	5 (17.2)



### 4. 職業

上段は基数、下段は構成比(%)

	合計	会社員・団体職員	自由業・自営業・家業	パート・アルバイト	公務員	専業主婦・専業主夫	学生	無職	その他	無回答
全 体	2,199 (100.0)	872 (39.7)	160 (7.3)	422 (19.2)	123 (5.6)	243 (11.1)	8 (0.4)	303 (13.8)	58 (2.6)	10 (0.5)
女性	1,195 (100.0)	335 (28.0)	68 (5.7)	342 (28.6)	45 (3.8)	234 (19.6)	5 (0.4)	121 (10.1)	39 (3.3)	6 (0.5)
男性	940 (100.0)	518 (55.1)	87 (9.3)	62 (6.6)	73 (7.8)	5 (0.5)	3 (0.3)	170 (18.1)	19 (2.0)	3 (0.3)
無回答	24 (100.0)	3 (12.5)	3 (12.5)	5 (20.8)	1 (4.2)	4 (16.7)	-	7 (29.2)	-	1 (4.2)

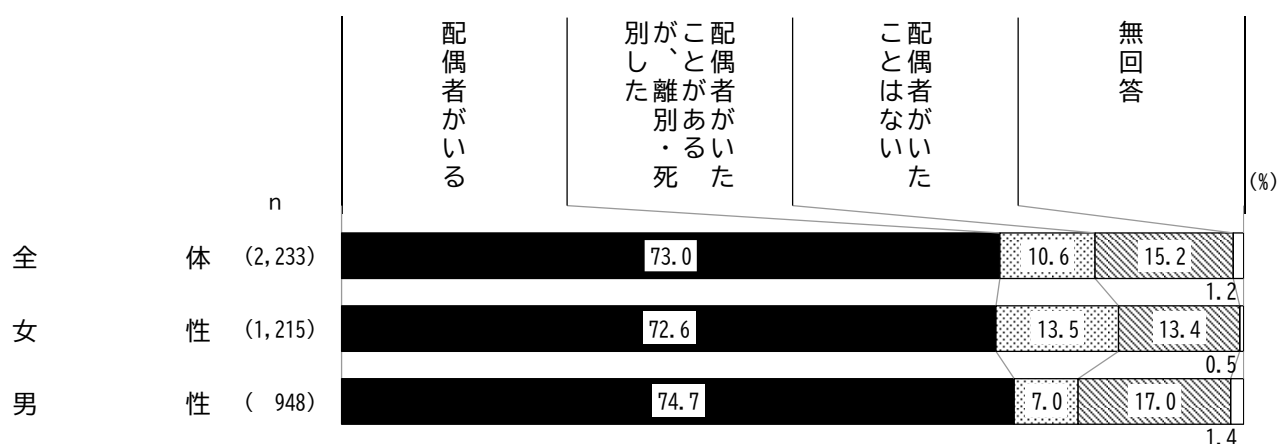




## 5. 結婚の有無

上段は基数、下段は構成比(%)

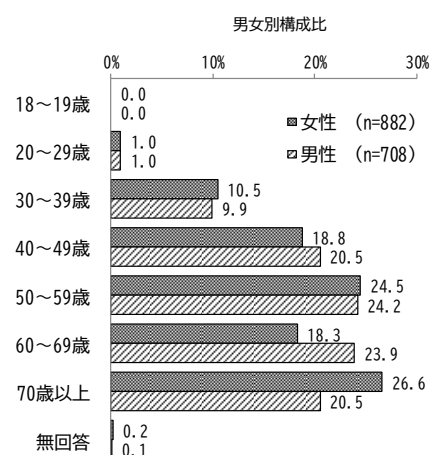
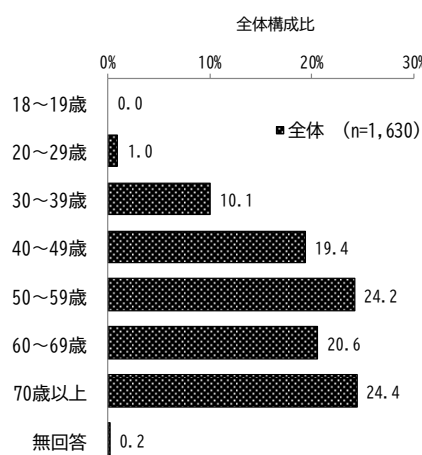
	合計	配偶者がいる	配偶者がいたことがあるが、離別・死別した	配偶者がいたことはない	無回答
全 体	2,233 (100.0)	1,630 (73.0)	237 (10.6)	340 (15.2)	26 (1.2)
女性	1,215 (100.0)	882 (72.6)	164 (13.5)	163 (13.4)	6 (0.5)
男性	948 (100.0)	708 (74.7)	66 (7.0)	161 (17.0)	13 (1.4)
無回答	29 (100.0)	18 (62.1)	2 (6.9)	3 (10.3)	6 (20.7)



## 6. 配偶者の年齢

上段は基数、下段は構成比(%)

	合計	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
全 体	1,630 (100.0)	-	17 (1.0)	165 (10.1)	316 (19.4)	395 (24.2)	336 (20.6)	397 (24.4)	4 (0.2)
女性	882 (100.0)	-	9 (1.0)	93 (10.5)	166 (18.8)	216 (24.5)	161 (18.3)	235 (26.6)	2 (0.2)
男性	708 (100.0)	-	7 (1.0)	70 (9.9)	145 (20.5)	171 (24.2)	169 (23.9)	145 (20.5)	1 (0.1)
無回答	18 (100.0)	-	-	-	-	1 (5.6)	3 (16.7)	13 (72.2)	1 (5.6)

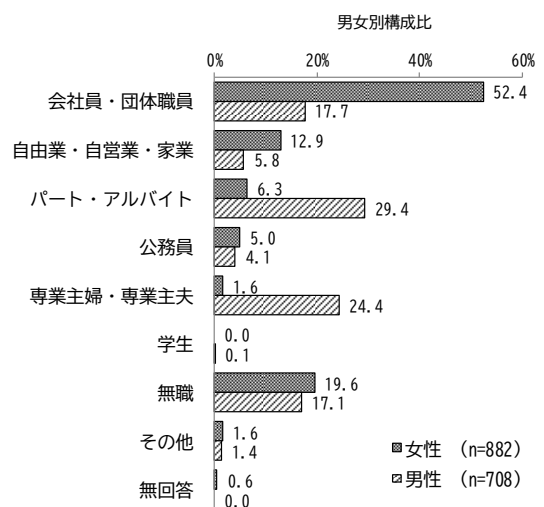
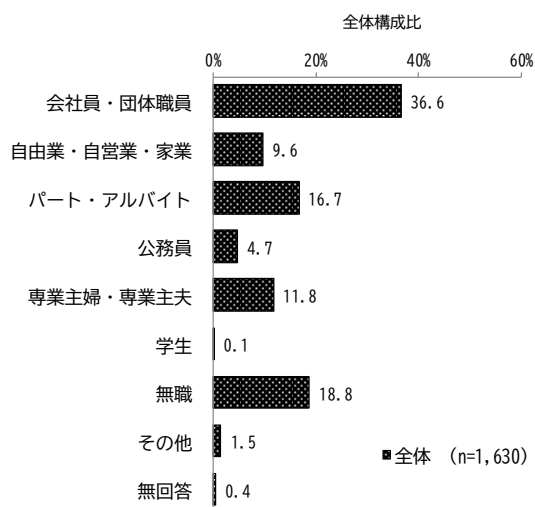


## 第Ⅱ章 回答者のプロフィール

### 7. 配偶者の職業

上段は基数、下段は構成比(%)

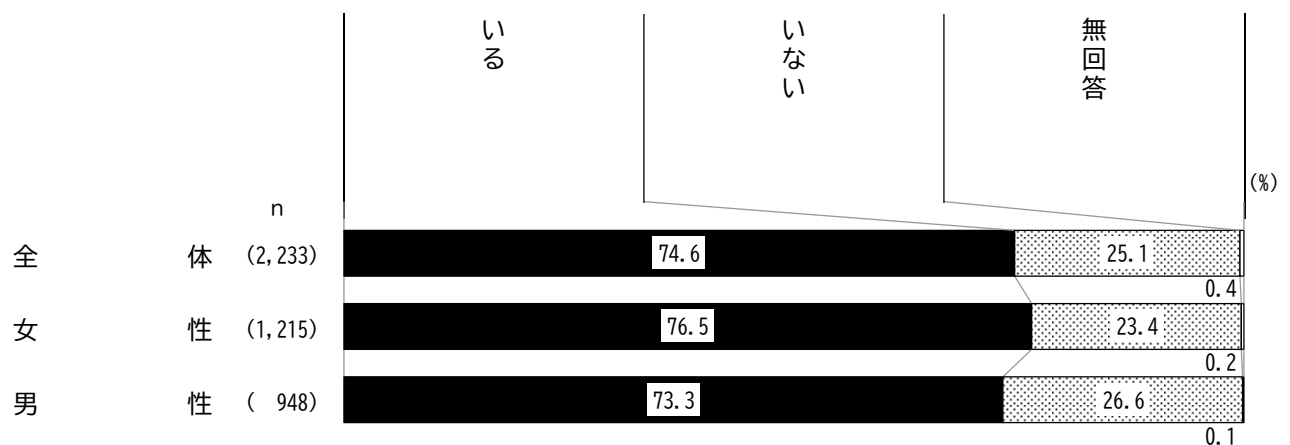
	合計	会社員・ 団体職員	自由業・自 営業・家業	パート・ アルバイト	公務員	専業主婦・ 専業主夫	学生	無職	その他	無回答
全 体	1,630 (100.0)	596 (36.6)	157 (9.6)	272 (16.7)	76 (4.7)	192 (11.8)	1 (0.1)	306 (18.8)	24 (1.5)	6 (0.4)
女性	882 (100.0)	462 (52.4)	114 (12.9)	56 (6.3)	44 (5.0)	14 (1.6)	-	173 (19.6)	14 (1.6)	5 (0.6)
男性	708 (100.0)	125 (17.7)	41 (5.8)	208 (29.4)	29 (4.1)	173 (24.4)	1 (0.1)	121 (17.1)	10 (1.4)	-
無回答	18 (100.0)	2 (11.1)	2 (11.1)	3 (16.7)	1 (5.6)	1 (5.6)	-	8 (44.4)	-	1 (5.6)



### 8. こどもの有無

上段は基数、下段は構成比(%)

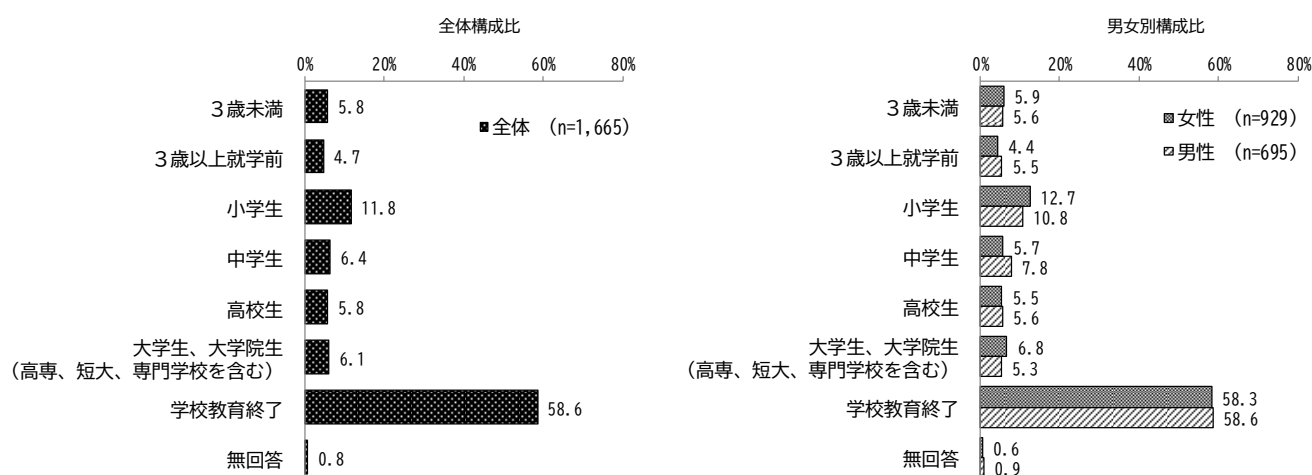
	合計	いる	いない	無回答
全 体	2,233 (100.0)	1,665 (74.6)	560 (25.1)	8 (0.4)
女性	1,215 (100.0)	929 (76.5)	284 (23.4)	2 (0.2)
男性	948 (100.0)	695 (73.3)	252 (26.6)	1 (0.1)
無回答	29 (100.0)	19 (65.5)	5 (17.2)	5 (17.2)



## 9. 一番下のこどもの状況

上段は基数、下段は構成比(%)

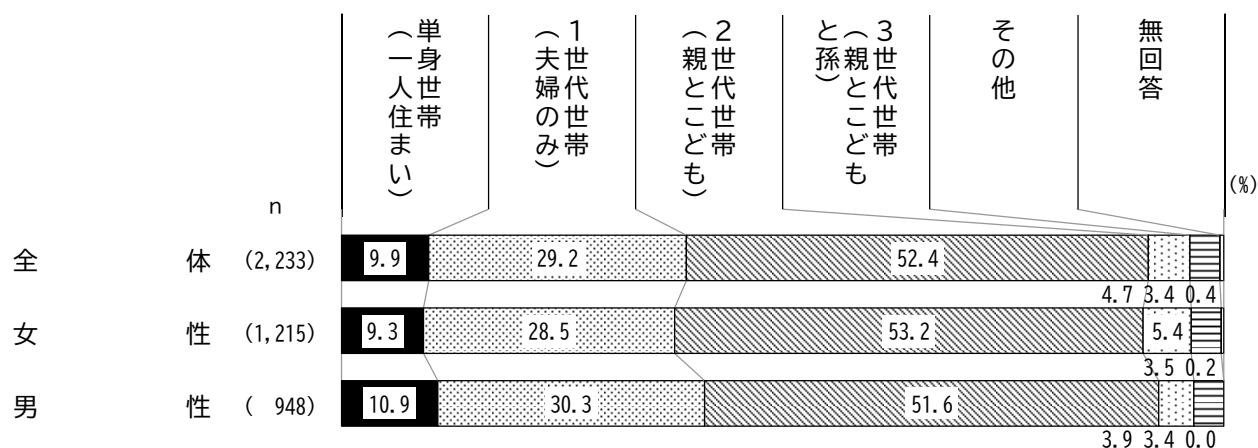
	合計	3歳未満	3歳以上 就学前	小学生	中学生	高校生	大学生、大学院生 (高専、短大、 専門学校を含む)	学校教育 終了	無回答
全 体	1,665 (100.0)	96 (5.8)	79 (4.7)	196 (11.8)	107 (6.4)	96 (5.8)	102 (6.1)	976 (58.6)	13 (0.8)
女性	929 (100.0)	55 (5.9)	41 (4.4)	118 (12.7)	53 (5.7)	51 (5.5)	63 (6.8)	542 (58.3)	6 (0.6)
男性	695 (100.0)	39 (5.6)	38 (5.5)	75 (10.8)	54 (7.8)	39 (5.6)	37 (5.3)	407 (58.6)	6 (0.9)
無回答	19 (100.0)	-	-	-	-	1 (5.3)	2 (10.5)	15 (78.9)	1 (5.3)



## 10. 家族構成

上段は基数、下段は構成比(%)

	合計	単身世帯 (一人住まい)	1世代世帯 (夫婦のみ)	2世代世帯 (親と子ども)	3世代世帯 (親と子どもと 孫)	その他	無回答
全 体	2,233 (100.0)	222 (9.9)	652 (29.2)	1,169 (52.4)	106 (4.7)	76 (3.4)	8 (0.4)
女性	1,215 (100.0)	113 (9.3)	346 (28.5)	646 (53.2)	66 (5.4)	42 (3.5)	2 (0.2)
男性	948 (100.0)	103 (10.9)	287 (30.3)	489 (51.6)	37 (3.9)	32 (3.4)	-
無回答	29 (100.0)	2 (6.9)	7 (24.1)	10 (34.5)	2 (6.9)	2 (6.9)	6 (20.7)

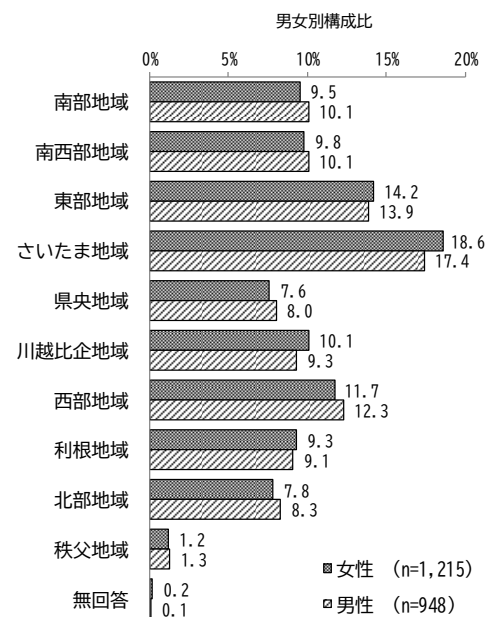
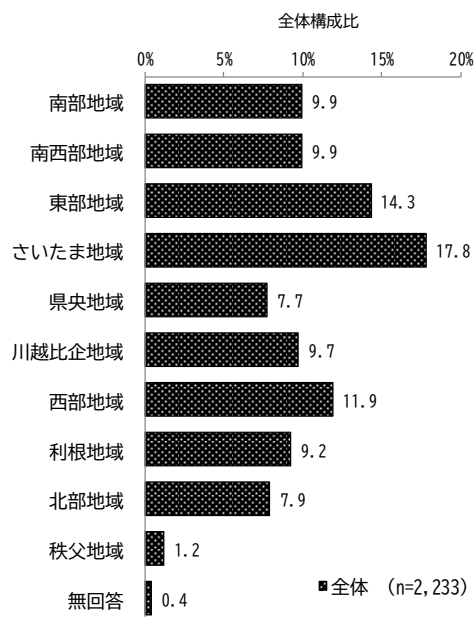


## 第Ⅱ章 回答者のプロフィール

### 11. 居住地域

上段は基数、下段は構成比(%)

	合計	南部地域	南西部地域	東部地域	さいたま地域	県央地域	川越比企地域	西部地域	利根地域	北部地域	秩父地域	無回答
全 体	2,233 (100.0)	221 (9.9)	221 (9.9)	320 (14.3)	398 (17.8)	173 (7.7)	216 (9.7)	266 (11.9)	206 (9.2)	177 (7.9)	26 (1.2)	9 (0.4)
女性	1,215 (100.0)	116 (9.5)	119 (9.8)	173 (14.2)	226 (18.6)	92 (7.6)	123 (10.1)	142 (11.7)	113 (9.3)	95 (7.8)	14 (1.2)	2 (0.2)
男性	948 (100.0)	96 (10.1)	96 (10.1)	132 (13.9)	165 (17.4)	76 (8.0)	88 (9.3)	117 (12.3)	86 (9.1)	79 (8.3)	12 (1.3)	1 (0.1)
無回答	29 (100.0)	3 (10.3)	2 (6.9)	6 (20.7)	1 (3.4)	3 (10.3)	- (-)	3 (10.3)	3 (10.3)	2 (6.9)	- (-)	6 (20.7)



## 第Ⅲ章 調査結果の要約

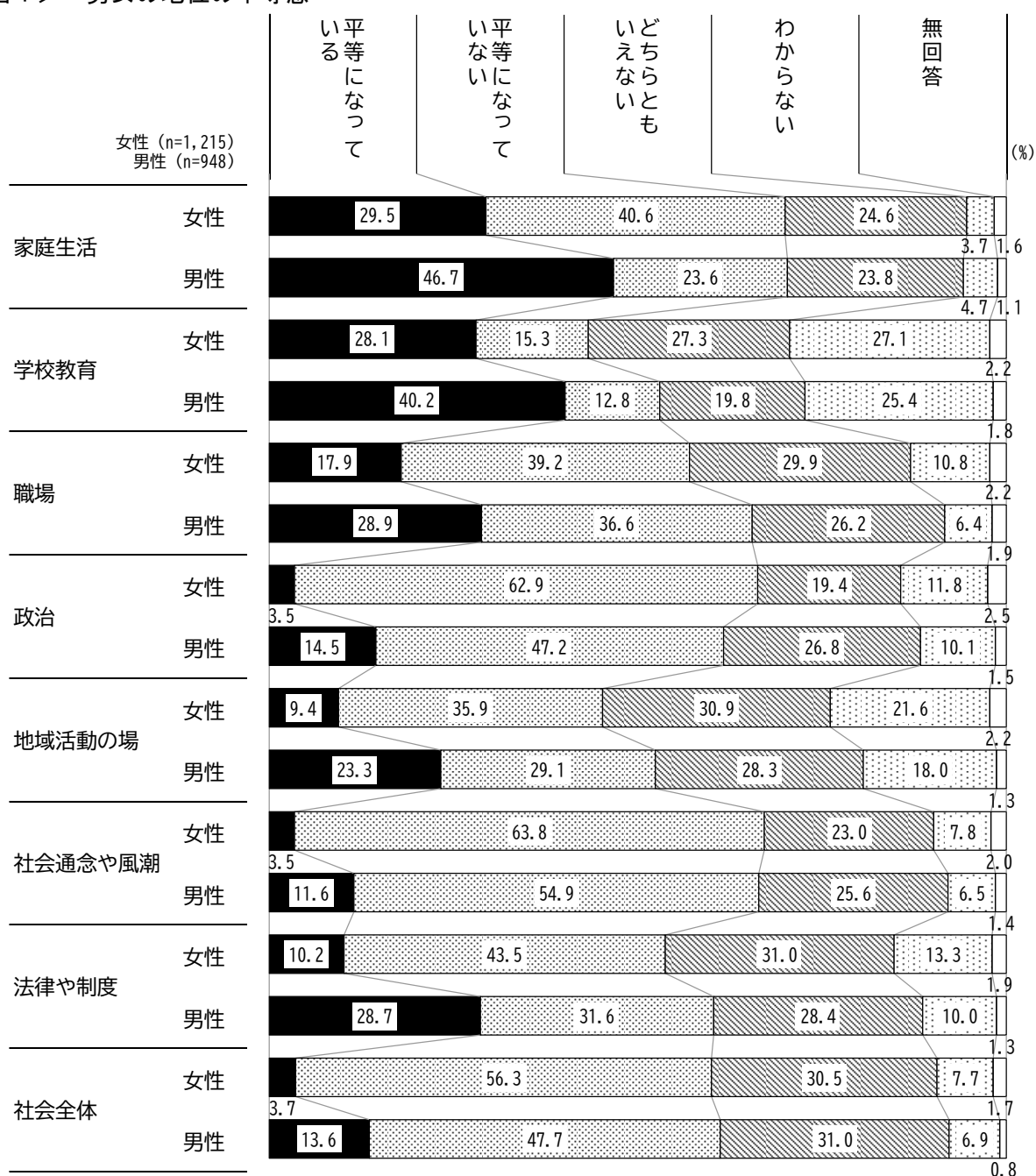


# 1 男女平等に関する意識について

## ◎ 男女の地位の平等感【報告書 35～40ページ】

【政治】、【社会通念や風潮】、【社会全体】で男女とも不平等感が強くなっています。  
「平等になっている」はすべての分野で男性が女性を上回っています。「平等になっていない」はすべての分野で女性が男性を上回っています。  
(図1)

<図1> 男女の地位の平等感



◎ 男女の地位の平等感（時系列）【報告書 41～42ページ】

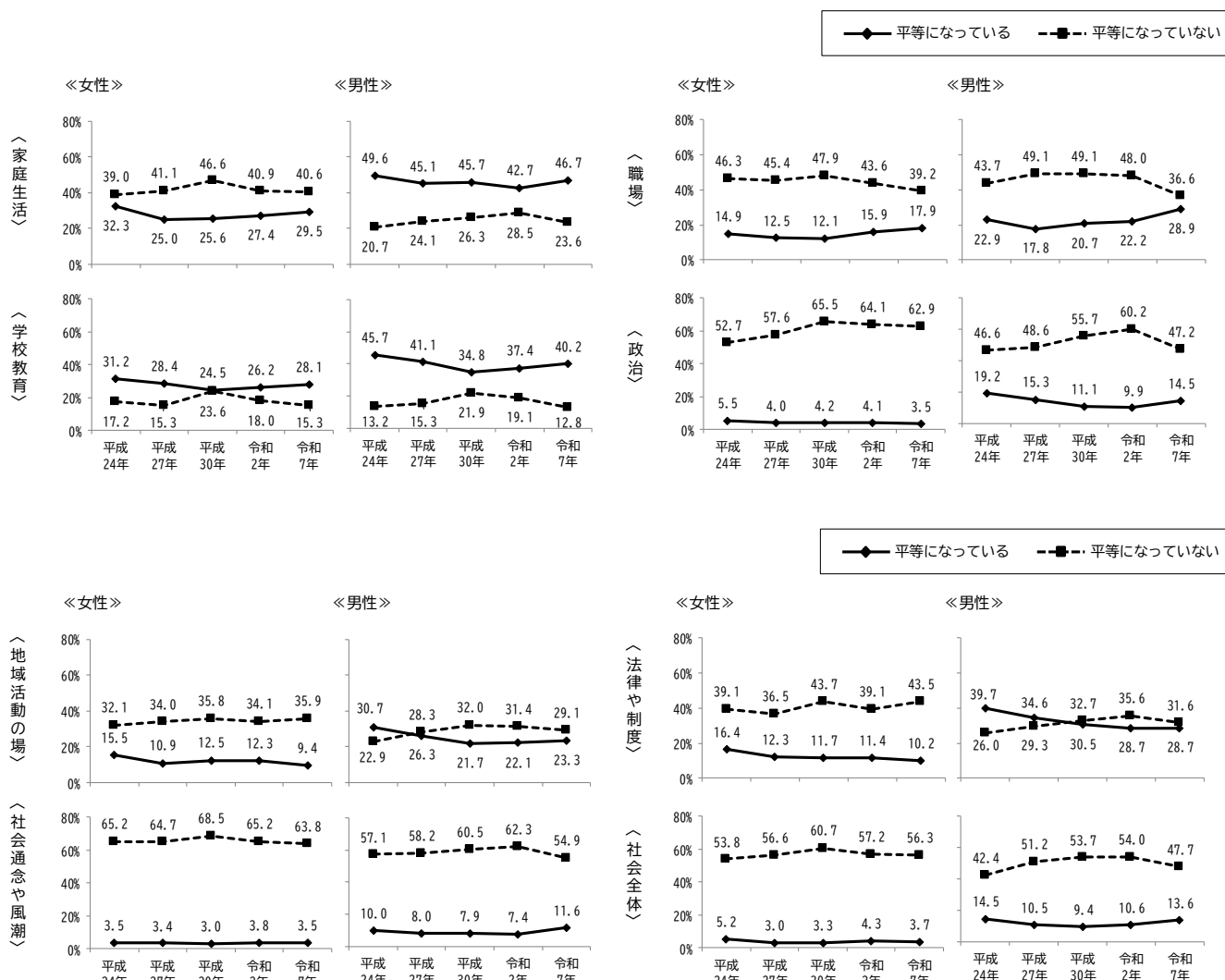
【社会通念や風潮】は男女とも「平等になっていない」が5割以上を占めるようになっていきます。

【職場】は、男女とも「平等になっていない」が減少傾向にあり、「平等になっている」が増加傾向にあります。

【家庭生活】は女性で「平等になっていない」が4割弱～4割台後半で推移しています。

（図2）

＜図2＞ 時系列比較（抜粋）



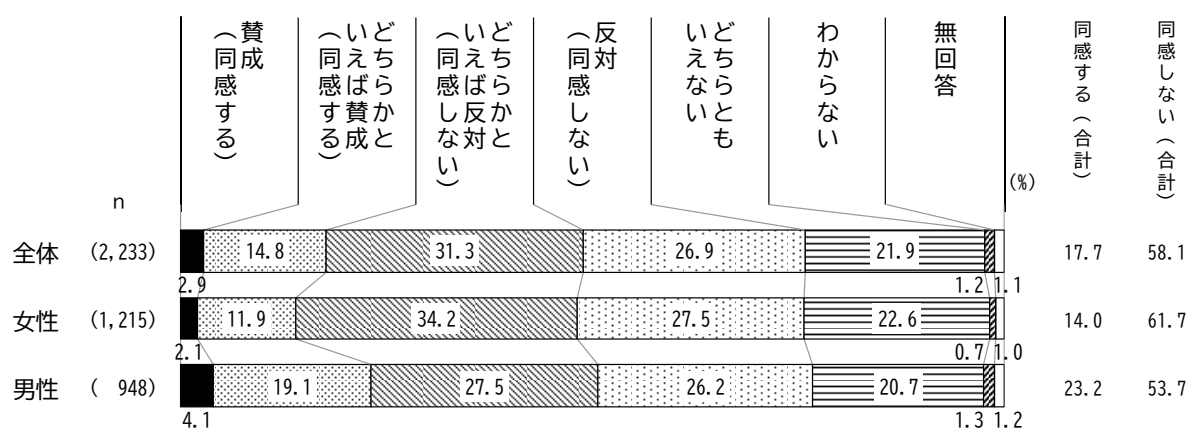


◎ 性別役割分担意識【報告書 43～47ページ】

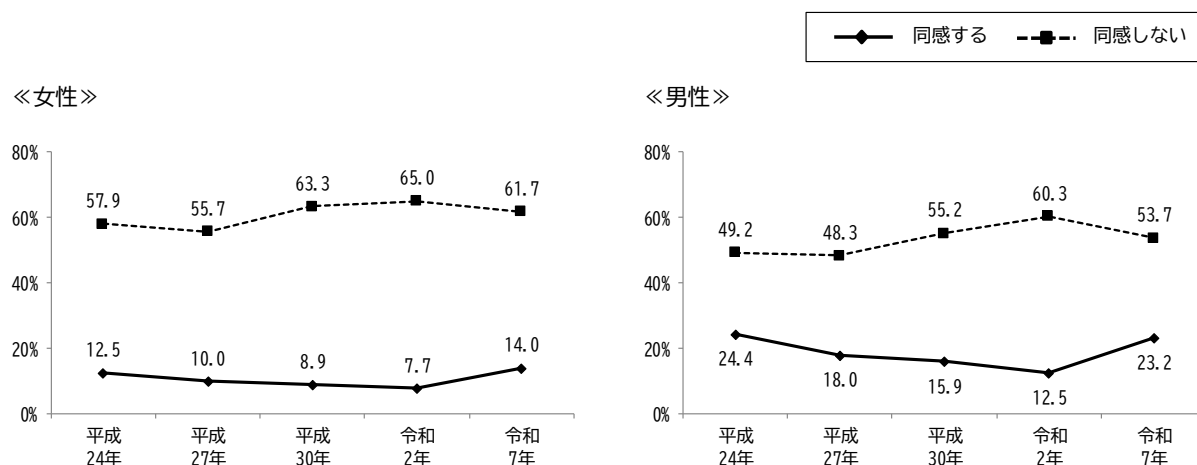
《同感しない（合計）》は女性で61.7%、男性で53.7%となっており、女性が男性より8.0ポイント高くなっています。（図3）

令和2年度と比較すると、《同感しない（合計）》は男女ともに減少しています。（図4）

<図3> 性別役割分担意識



<図4> 時系列比較



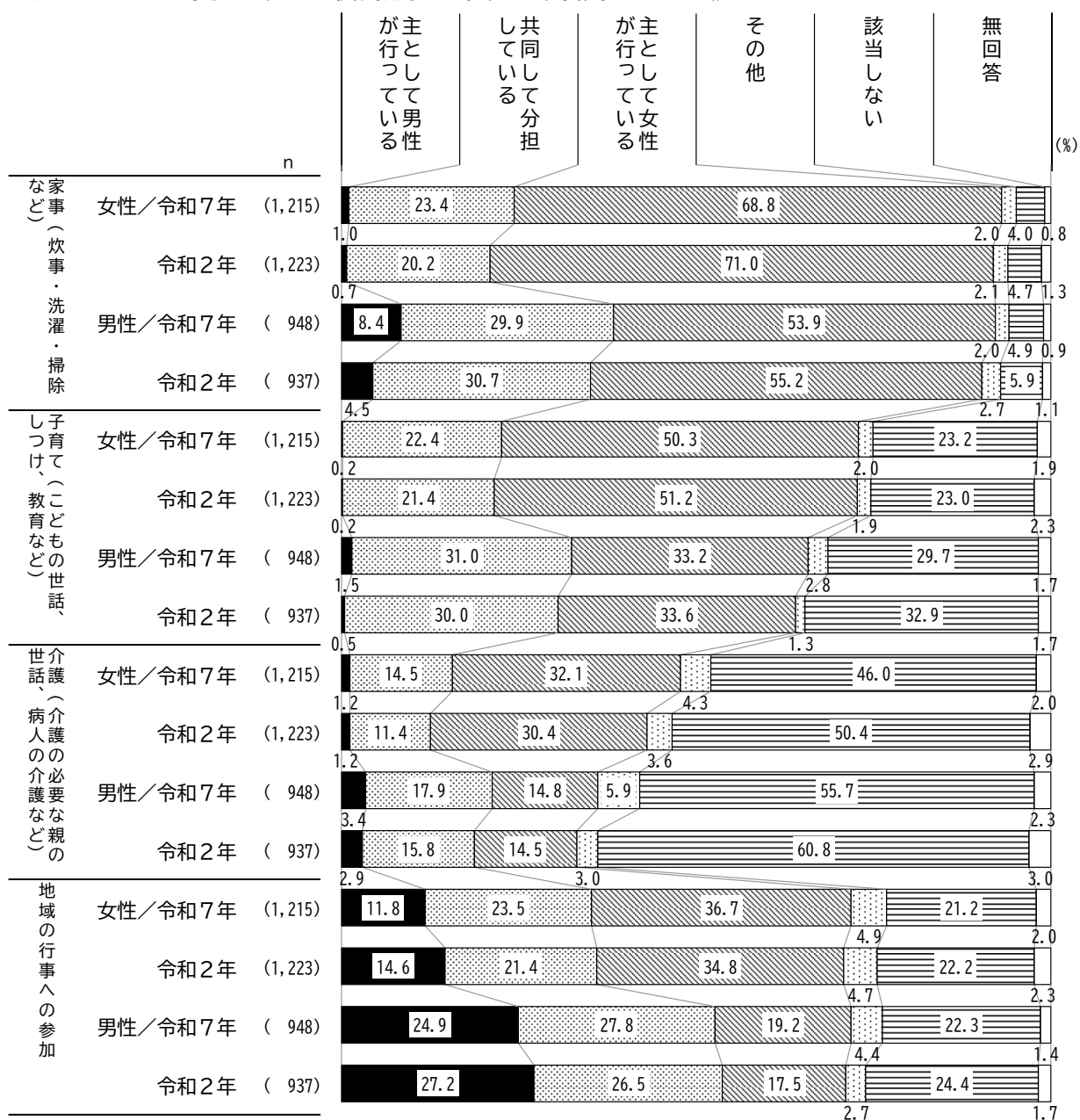
## 2 家庭生活・子育てについて

### ◎ 家庭生活での役割分担【報告書 56～62ページ】

8つの分野についての家庭における役割分担は【生活費の確保】は男女ともに「主として男性」が最も高くなっています。「主として女性」について男女の意識の乖離が大きい項目は【自治会、PTA活動】となっており、女性は4割台後半（46.3%）、男性は2割台後半（26.4%）と女性が男性より19.9ポイント高くなっています。

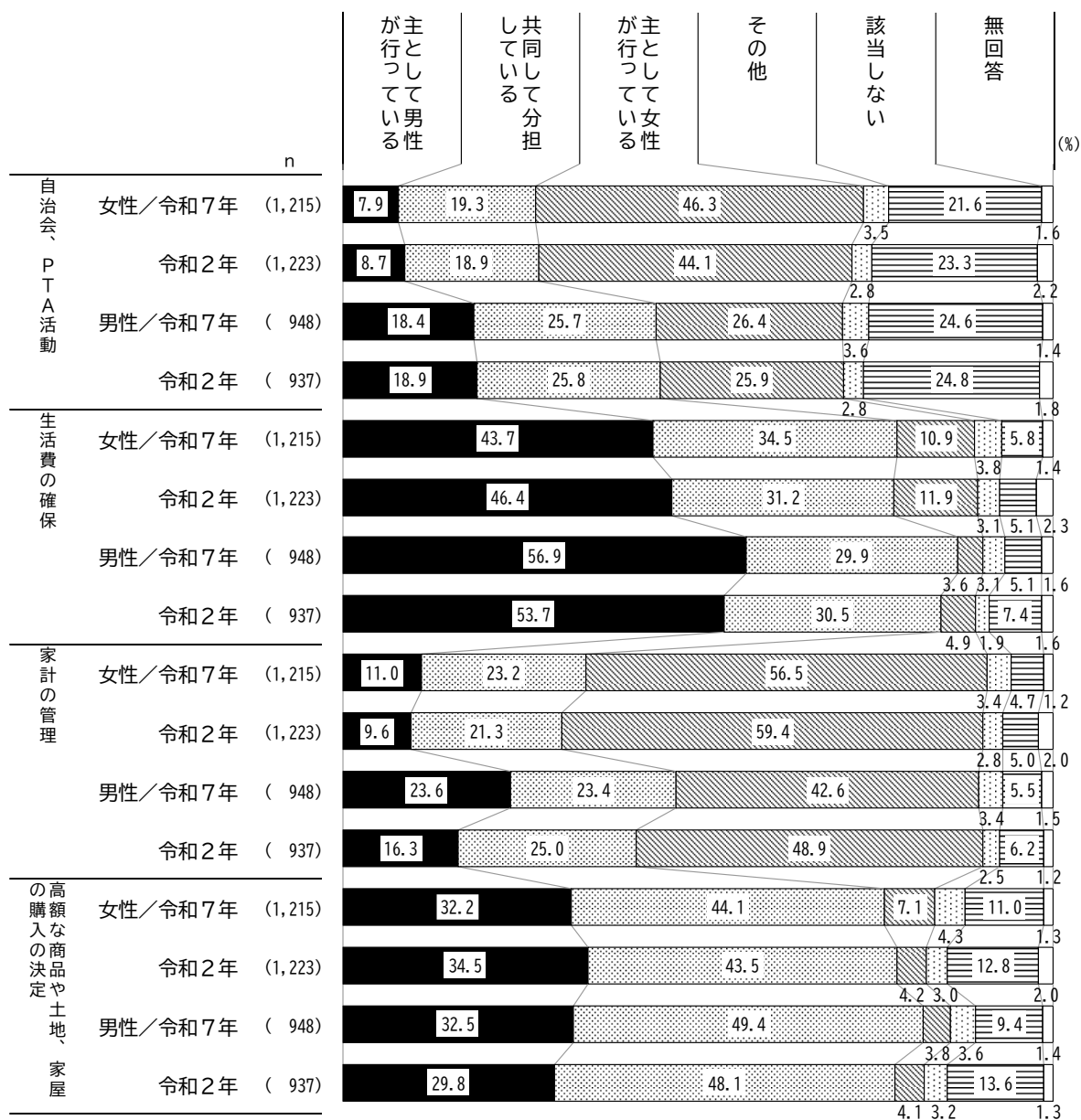
令和2年度調査と比較すると、【家計の管理】は男性では「主として女性」が6.3ポイント減少しています。（図5-1、図5-2）

＜図5-1＞ 家庭生活での役割分担（令和2年度調査との比較）



（次ページへ続く →）

＜図５－２＞ 家庭生活での役割分担（令和２年度調査との比較）



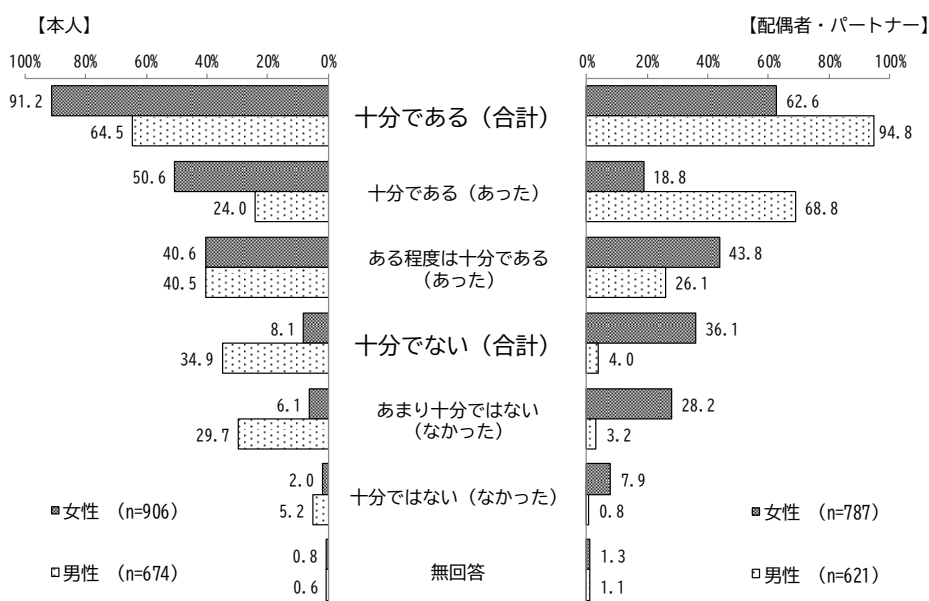
（ ← 前ページから続く ）

◎ 子育てへのかかわり【報告書 68～73ページ】

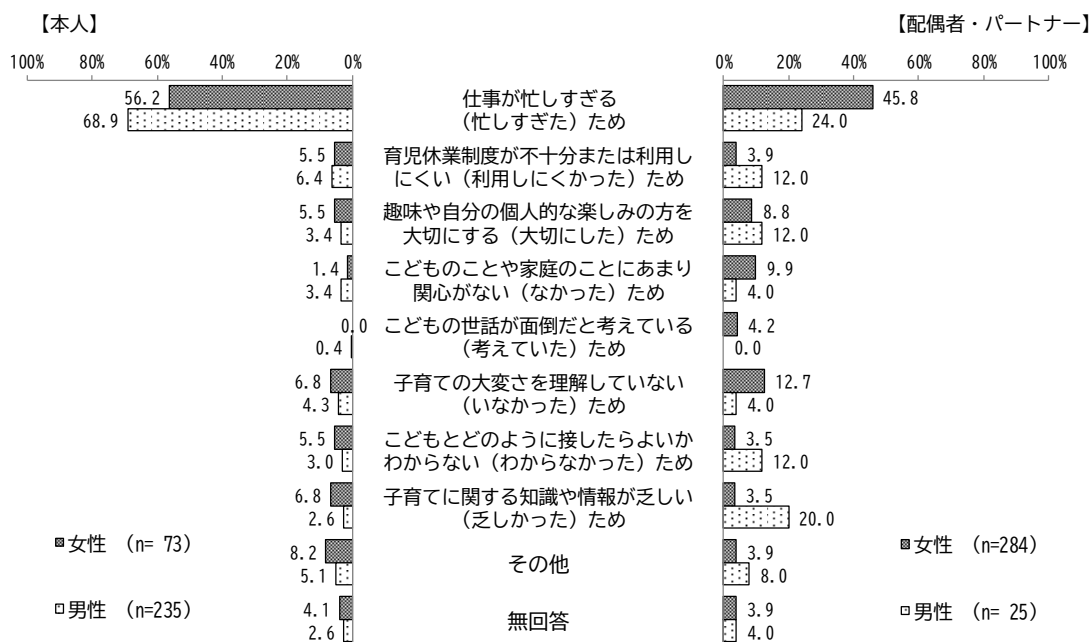
【本人】【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりについて、男女ともに《十分である（合計）》が《十分でない（合計）》を上回っています。女性は【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりについて3割台後半（36.1%）が十分でないと考えています。男性も3割台半ば（34.9%）が【本人】の子育てへのかかわりが十分でないと考えています。（図6）

子育てへのかかわり方が十分でない原因は、男女ともに【本人】【配偶者・パートナー】では「仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため」が最も高くなっています。（図7）

＜図6＞ 子育てへのかかわり



＜図7＞ 子育てへのかかわりが十分でない原因

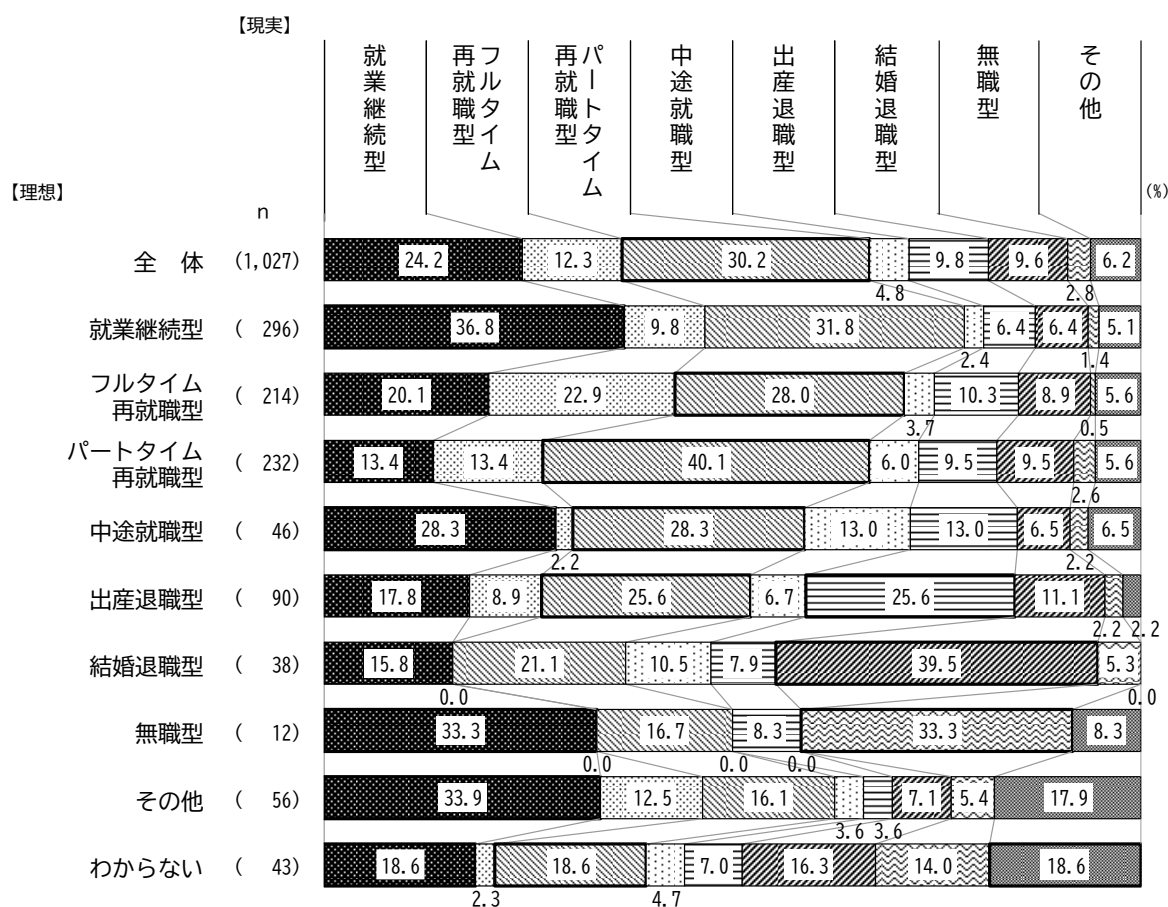


### 3 男女の就業・仕事について

#### ◎ 女性の働き方の理想と現実【報告書 74～79ページ】

結婚経験のある女性のうち、「就業継続型」を希望する人は現実でも3割台後半が「就業継続型」として働いています。「フルタイム再就職型」で希望どおり働いている人は2割強で、3割弱が「パートタイム再就職型」として働いています。「パートタイム再就職型」は4割台前半が希望どおり働いています。（図8）

＜図8＞ 女性の働き方の理想と現実（結婚経験のある女性）



※1 結婚経験のある女性、かつ理想と現実のどちらも回答している方のみで集計しています。

※2 基数が不足しているため、無職型は参考扱いとしています。

※3 説明を簡略化するため、以下のように選択肢を再定義しています。

※4 最も割合の高い項目を太枠で囲んでいます。

再定義した選択肢	本来の選択肢
就業継続型	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
フルタイム再就職型	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
パートタイム再就職型	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
中途就職型	結婚後または子育て終了時から仕事をもつ
出産退職型	こどもができるまでは仕事をもち、こどもができたらか家事や子育てに専念する
結婚退職型	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事などに専念する
無職型	仕事はもたない

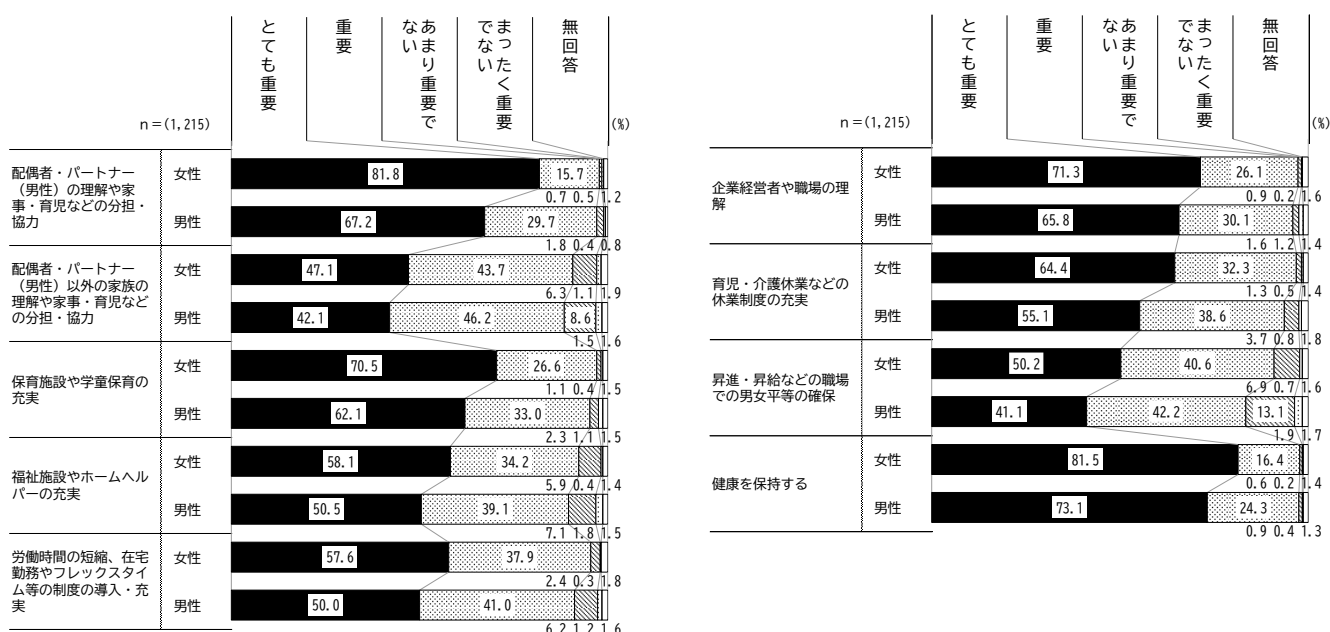
◎ 女性が結婚・出産後も働き続けるためや再就職するために重要なこと

【報告書 92～100ページ】

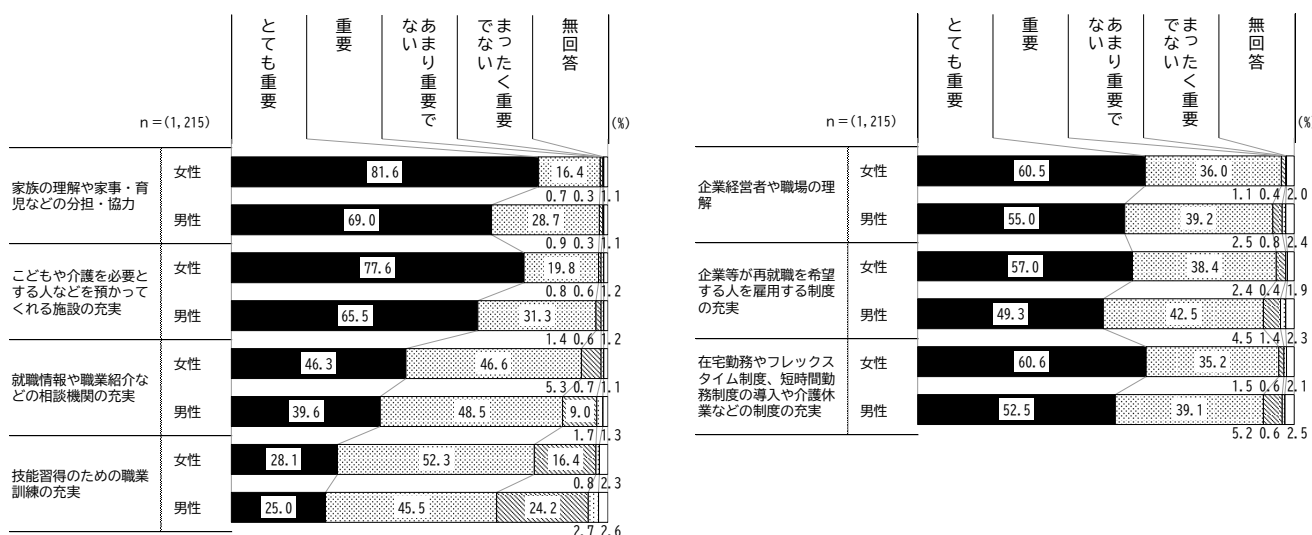
結婚・出産後も退職せずに働き続けるために「とても重要」と考えているのは、女性は【配偶者・パートナー（男性）の理解や家事・育児などの分担・協力】が最も高くなっています。男性は【健康を保持する】が最も高くなっています。（図9）

結婚や出産のために退職し、その後再就職するために「とても重要」と考えているのは、男女ともに【家族の理解や家事・育児などの分担・協力】が最も高くなっています。（図10）

＜図9＞ 女性が結婚・出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと



＜図10＞ 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと

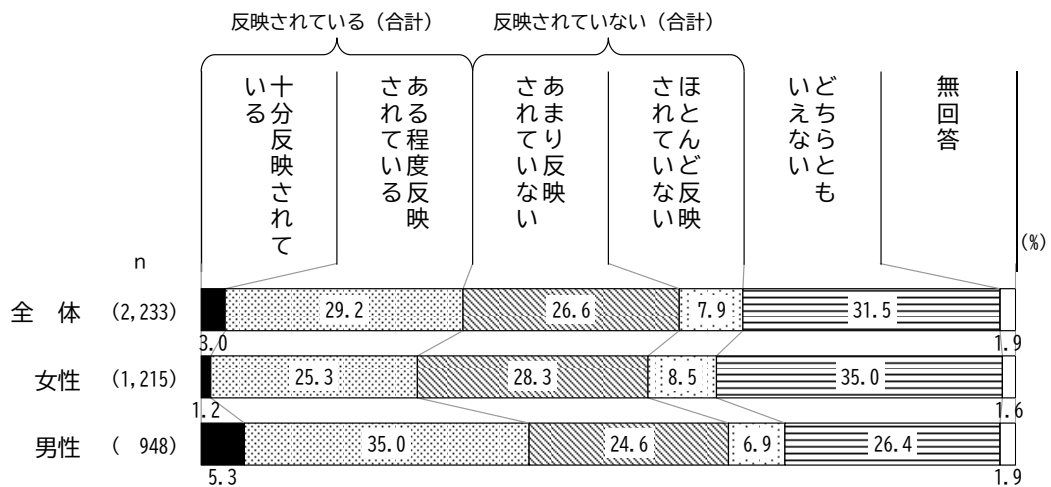


## 4 男女の社会参画について

### ◎ 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度【報告書 105～108ページ】

男性は4割台前半（40.3%）が「反映されている（合計）」としていますが、女性は2割台後半（26.6%）にとどまっています。（図11）

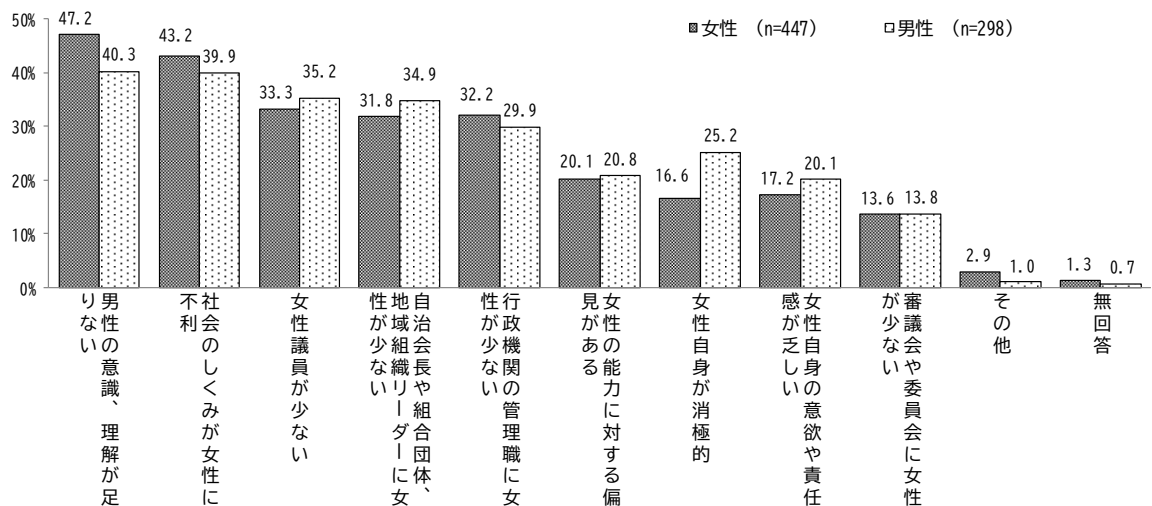
＜図11＞ 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度



### ◎ 女性の意見や考え方が反映されていない理由【報告書 109～113ページ】

女性の意見や考え方が反映されていない理由としては、「男性の意識、理解が足りない」、「社会のしくみが女性に不利」、「女性議員が少ない」が高くなっています。（図12）

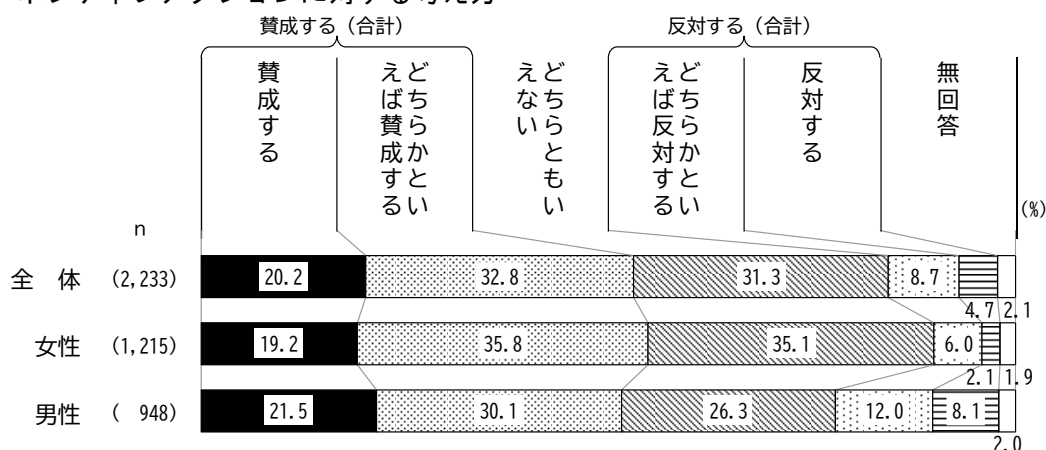
＜図12＞ 女性の意見や考え方が反映されていない理由（3つまで複数回答）



◎ ポジティブアクションに対する考え方【報告書 117～119ページ】

ポジティブアクション（※）に対する考え方をたずねたところ、男女ともに「賛成する（合計）」が5割を超えており、女性は55.0%、男性が51.6%となっています。（図13）

＜図13＞ ポジティブアクションに対する考え方



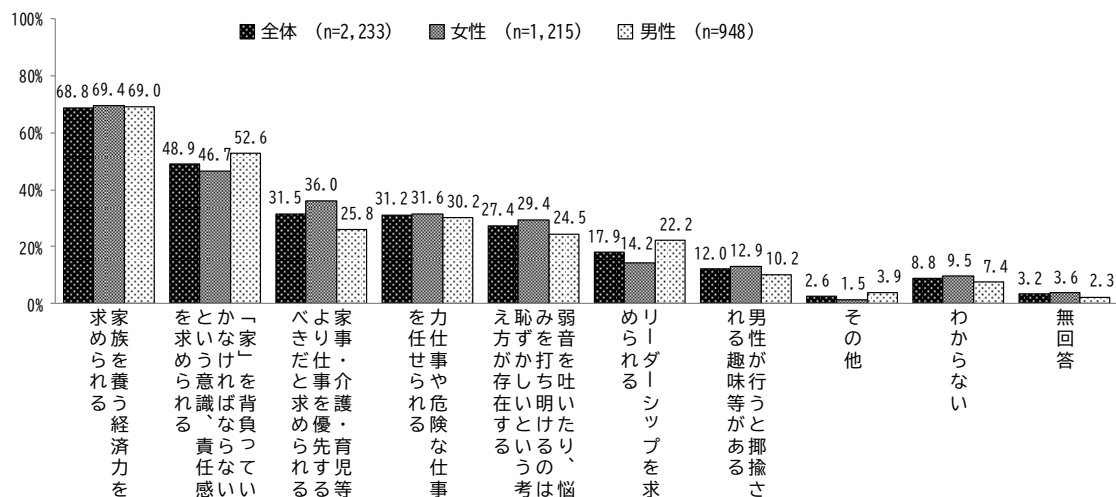
※ ポジティブアクションとは

男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会の均等を確保すべきであるという考え方です。

◎ 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ【報告書 120～121ページ】

強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさを聞いたところ、男女ともに「家族を養う経済力を求められる」が最も高くなっています。（図14）

＜図14＞ 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ





## 5 男女間における暴力について

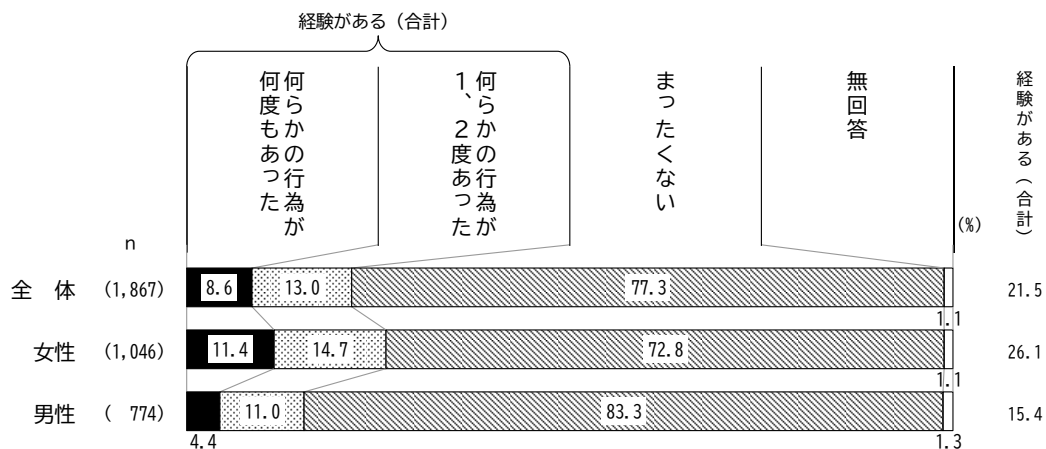
### ◎ 配偶者等からの暴力の被害経験【報告書 150～164ページ】

配偶者等からの暴力の被害経験についてたずねたところ、《経験がある（合計）》（「何らかの行為が何度もあった」と「何らかの行為が1、2度あった」の合計）は全体では2割台前半、女性では26.1%で約4人に1人が被害経験があります。（図15）

また、被害経験のうち、【心理的攻撃】が男女ともに最も高くなっています。（図16）

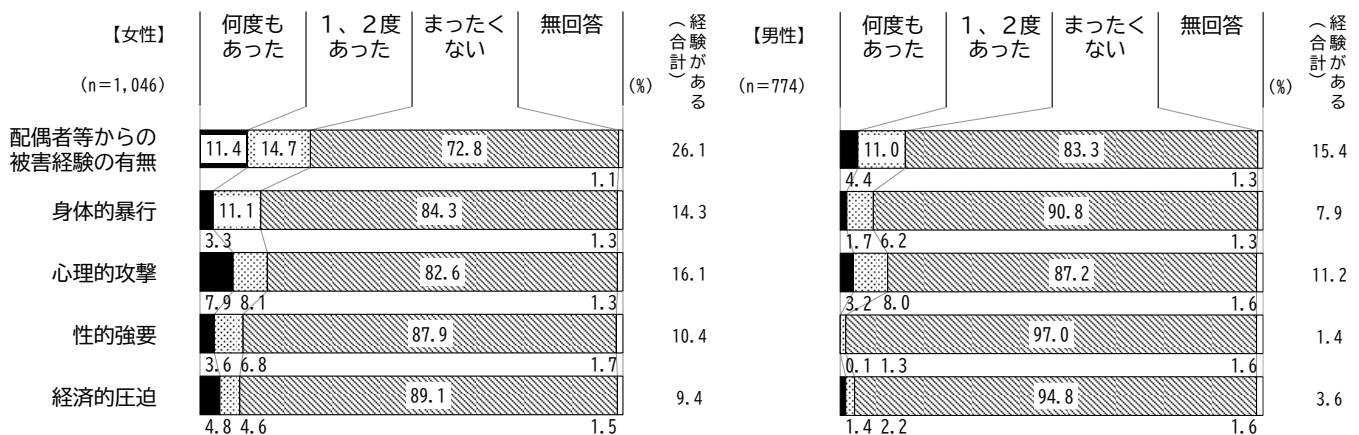
被害経験のある人のうち、女性の約2割（19.4%）が相手の行為により命の危険を感じたことがあります。（図17）

＜図15＞ 配偶者等からの暴力の被害経験（性別）



※配偶者がいる方、または過去に配偶者がいた方のみで集計しています。

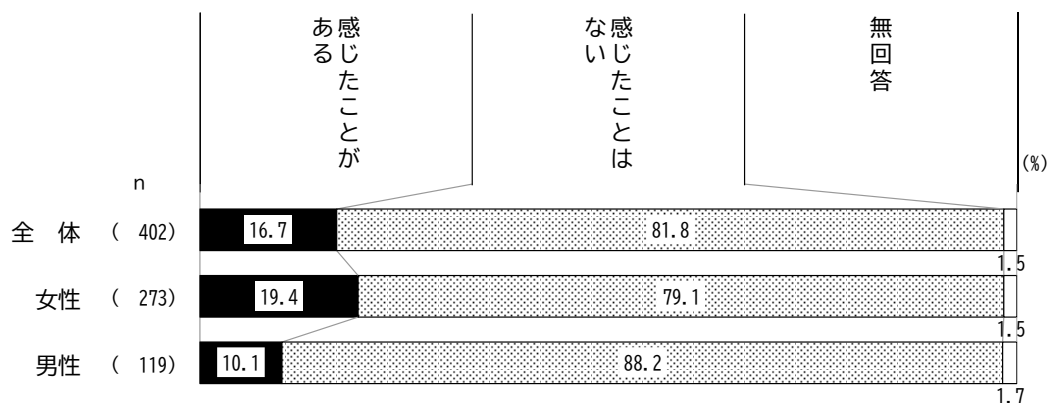
＜図16＞ 配偶者等からの暴力の被害経験（性別・行為別）



※配偶者がいる方、または過去に配偶者がいた方のみで集計しています。

選択肢	行為の内容
身体的暴行	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行
心理的攻撃	人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じさせるような脅迫
性的強要	いやがっているのに、性的な行為を強要する、見たくないのに性的な映像等を見せる、避妊に協力しないなど
経済的圧迫	生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど

<図17> 配偶者等からの暴力により命の危険を感じたこと

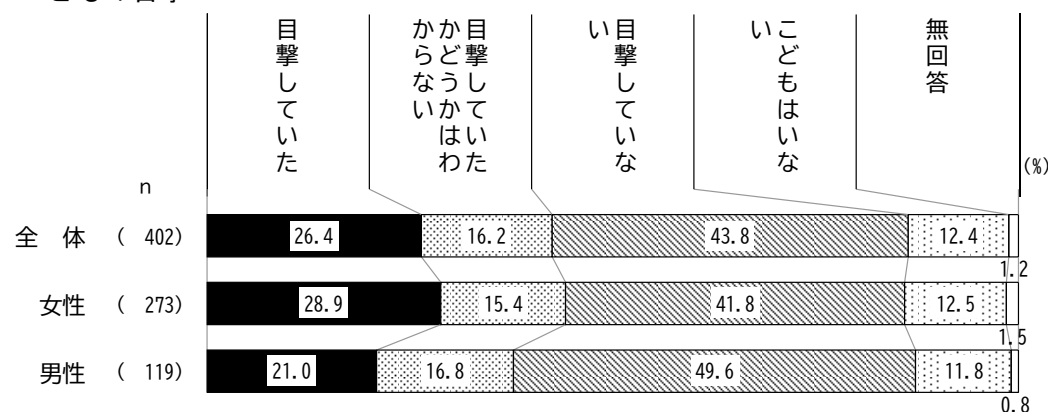


◎ こどもによる暴力被害の目撃、こどもの被害経験【報告書 167～169ページ】

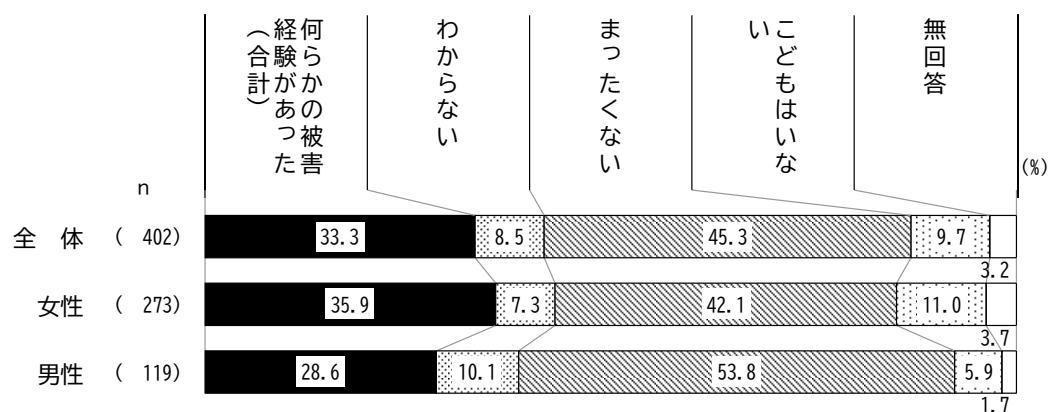
相手の行為を受けた際に、こどもがその様子を目撃したかどうかをたずねたところ、2割台後半のこどもが暴力を「目撃していた」としています。(図18)

また、こどもの被害経験をたずねたところ「何らかの被害経験があった(合計)」は、女性(35.9%)で3割台半ば、男性(28.6%)で3割弱となっています。(図19)

<図18> こどもの目撃



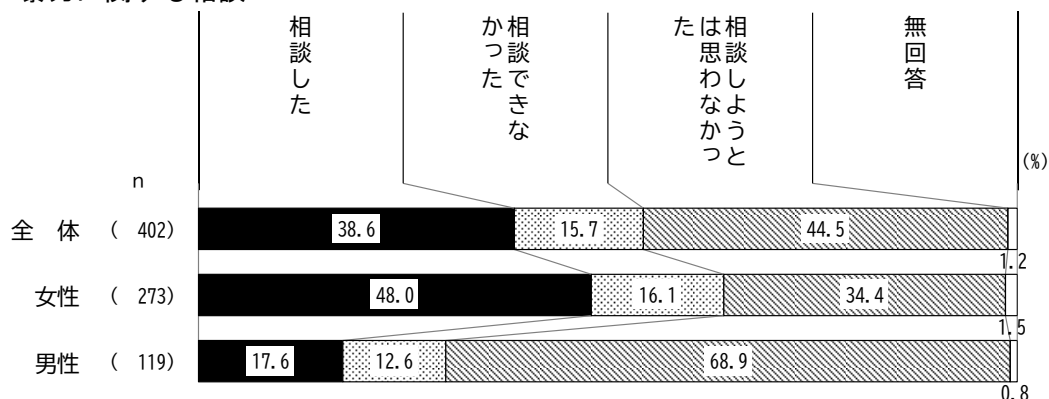
<図19> こどもの被害経験



◎ 配偶者等からの暴力に関する相談【報告書 170ページ】

相手から受けた行為について、女性は「相談した」が5割弱で最も高く、男性は「相談しようとは思わなかった」が7割弱で最も高くなっています。（図20）

<図20> 暴力に関する相談

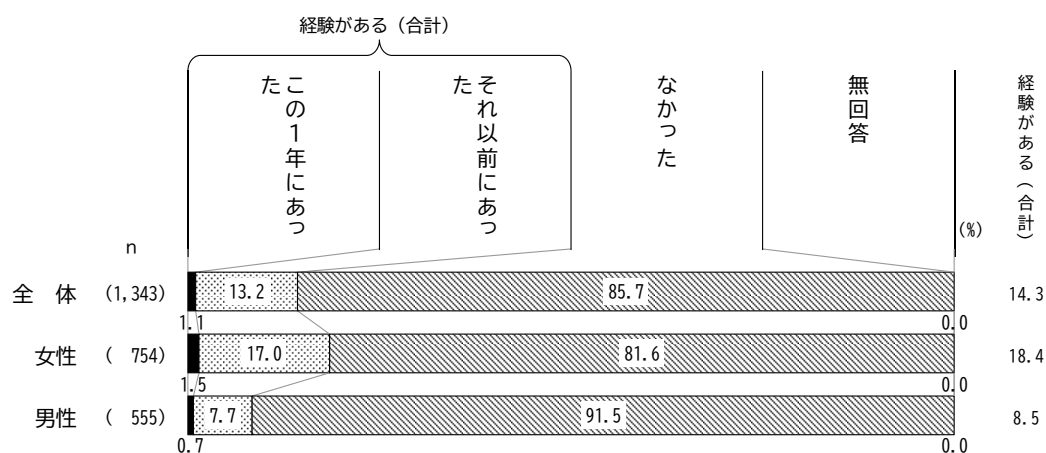


◎ 交際相手からの暴力の被害経験【報告書 175～179ページ】

交際相手から、何らかの被害経験を受けたかを聞いたところ、《経験がある（合計）》は14.3%となっています。

性別でみると、《経験がある（合計）》は女性18.4%、男性8.5%と、女性が男性を9.9ポイント上回っています。（図21）

<図21> 交際相手からの暴力の被害経験（性別）

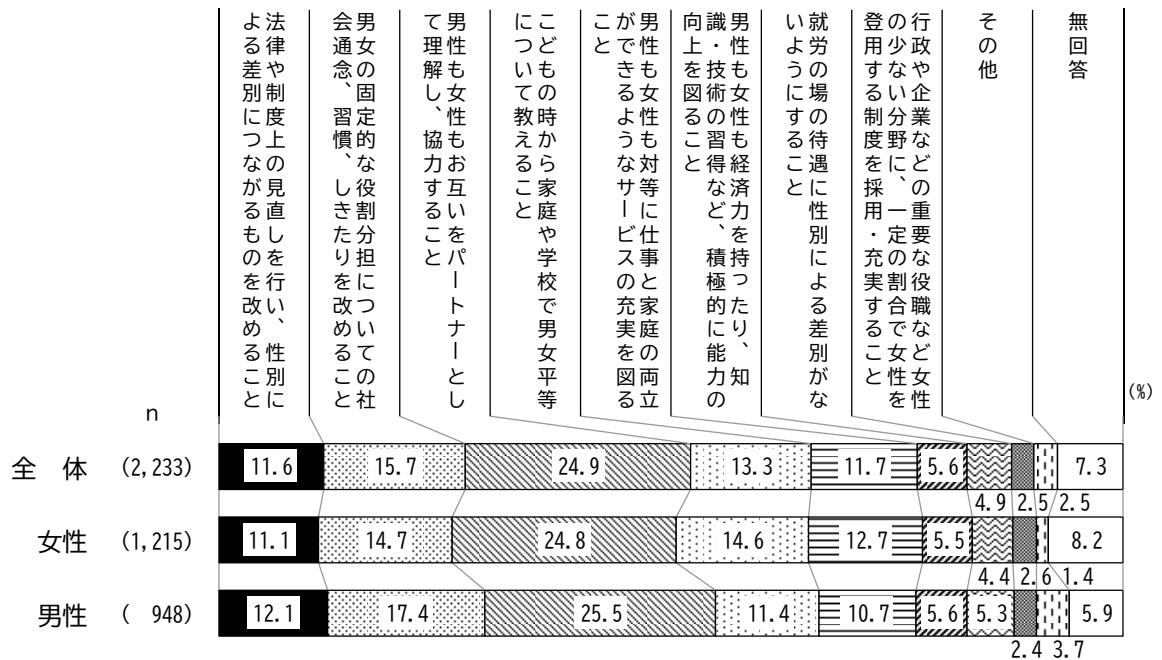


## 6 男女共同参画を推進するための取組について

### ◎ 男女共同参画社会実現のために必要なこと【報告書 205～207ページ】

「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること」は、男女ともに2割台半が必要だとしています。(図22)

＜図22＞ 男女共同参画社会実現のために必要なこと



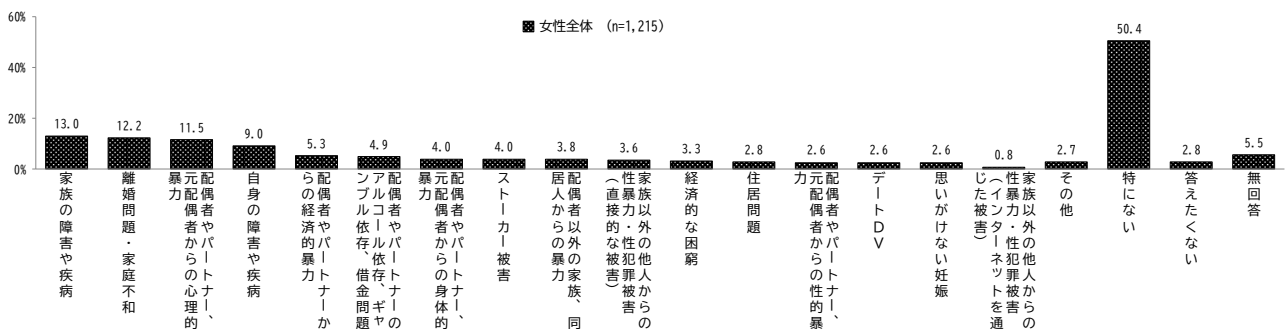
※この設問は、複数回答された方を回答の母数から除外して集計しています。

## 7 困難な問題を抱える女性への支援について

### ◎ これまでに抱えたことのある悩み【報告書 209～210ページ】

これまでに抱えたことのある悩みについては「家族の障害や疾病」が1割強で最も高くなっています。(図23)

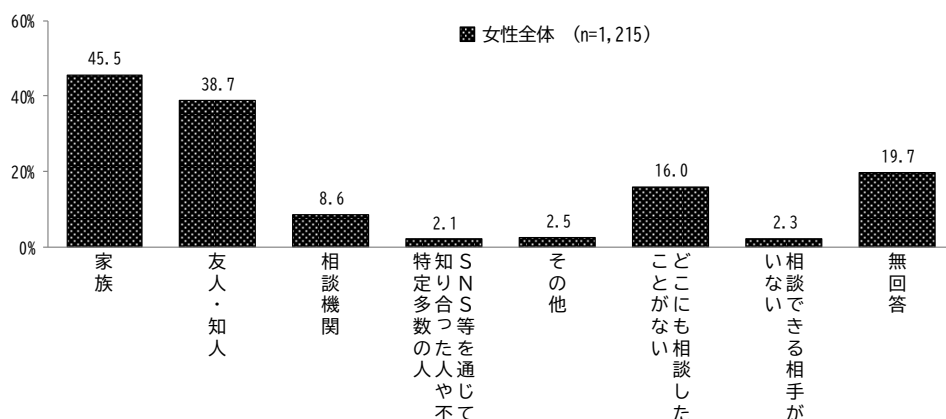
＜図23＞ これまでに抱えたことのある悩み



◎ 悩みの相談相手【報告書 211～212ページ】

悩みの相談相手については「家族」が4割台半ばで最も高くなっています。 (図24)

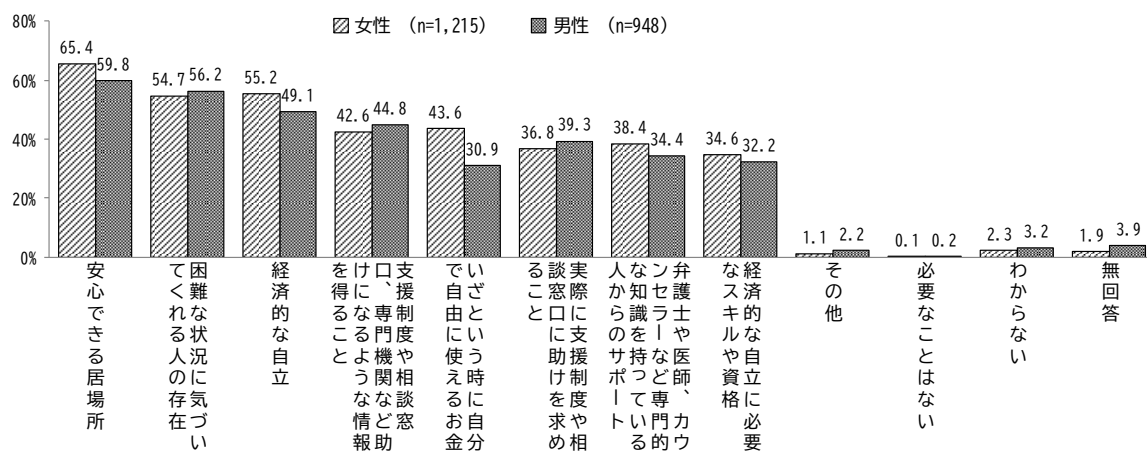
<図24> 悩みの相談相手



◎ 女性が困難な状況から回復するために必要なこと【報告書 219～220ページ】

「安心できる居場所」は、女性で6割台半ば、男性で約6割が必要だとしています。 (図25)

<図25> 女性が困難な状態から回復するために必要なこと





## 第IV章 調査の結果





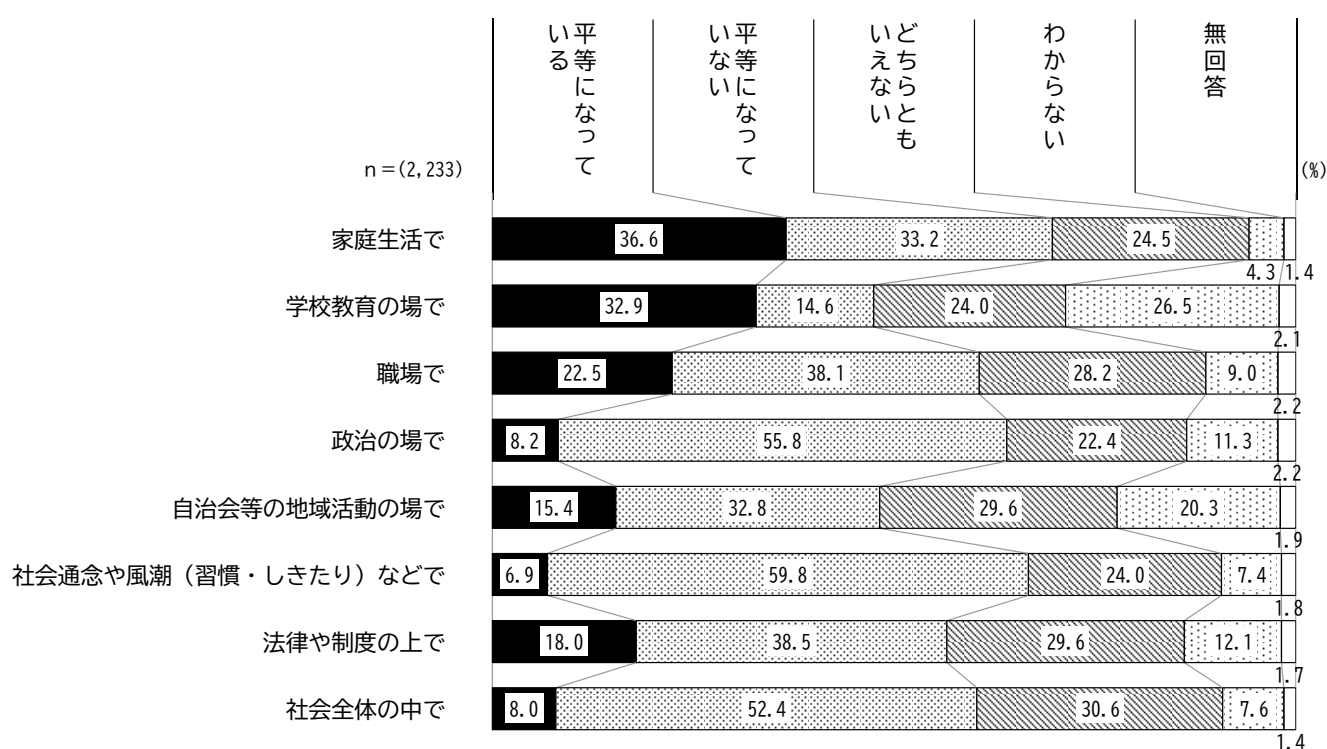
## 1. 男女平等に関する意識について

### (1) 男女の地位の平等感

◎【家庭生活上】【学校教育の場で】では3割台が「平等」と感じているものの、【政治の場で】【社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで】【社会全体の中で】では過半数が「不平等」と感じている

問1 あなたは、現在、男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(1)～(8)のそれぞれについてあなたの考えに近いものを選んでください。  
(それぞれ1つずつに○)

図表1-1 男女の地位の平等感

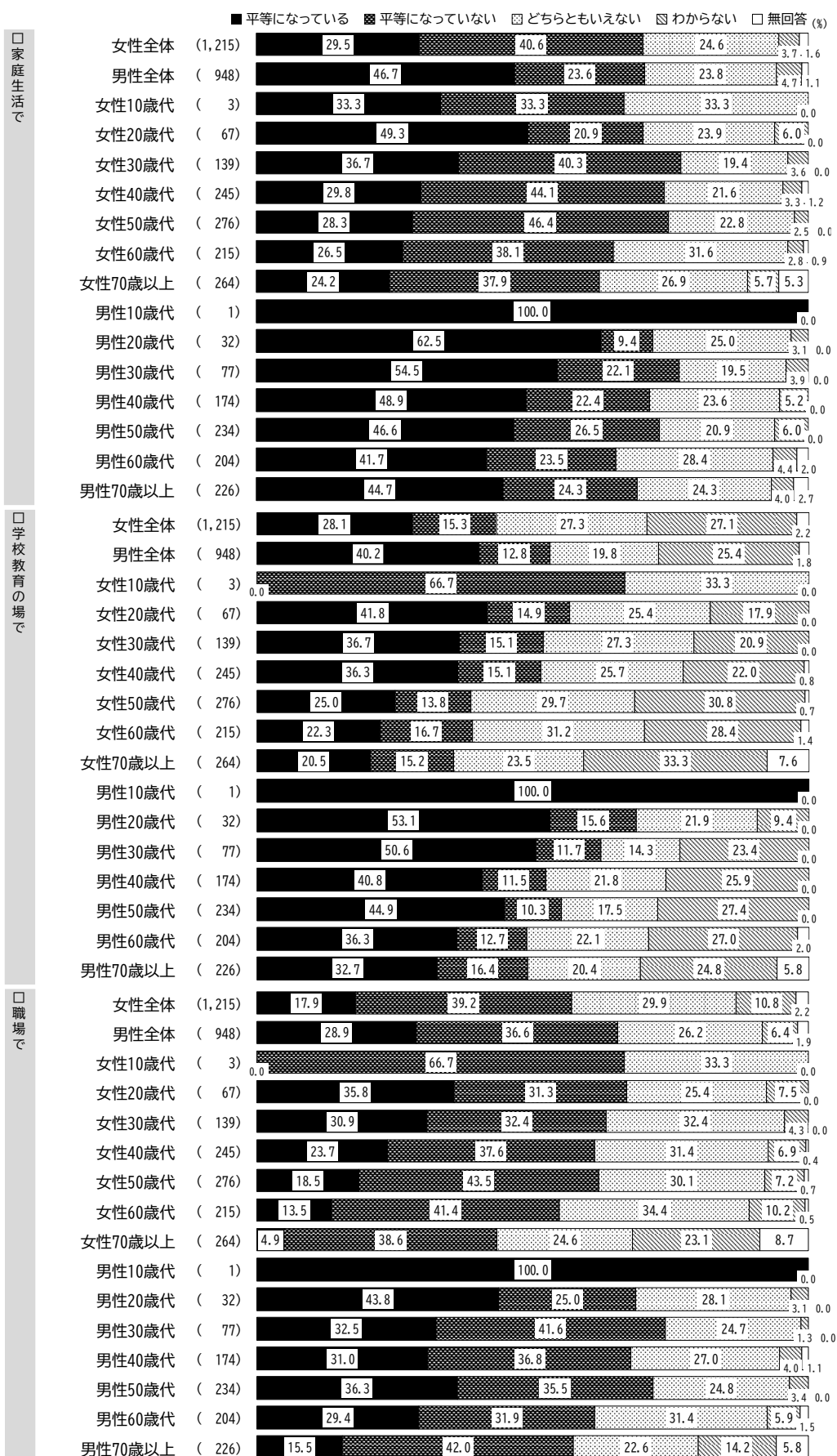


8つの分野について男女の地位の平等感を聞いたところ、【家庭生活で】【学校教育の場で】以外の6分野について、「平等になっていない」が「平等になっている」を上回っている。

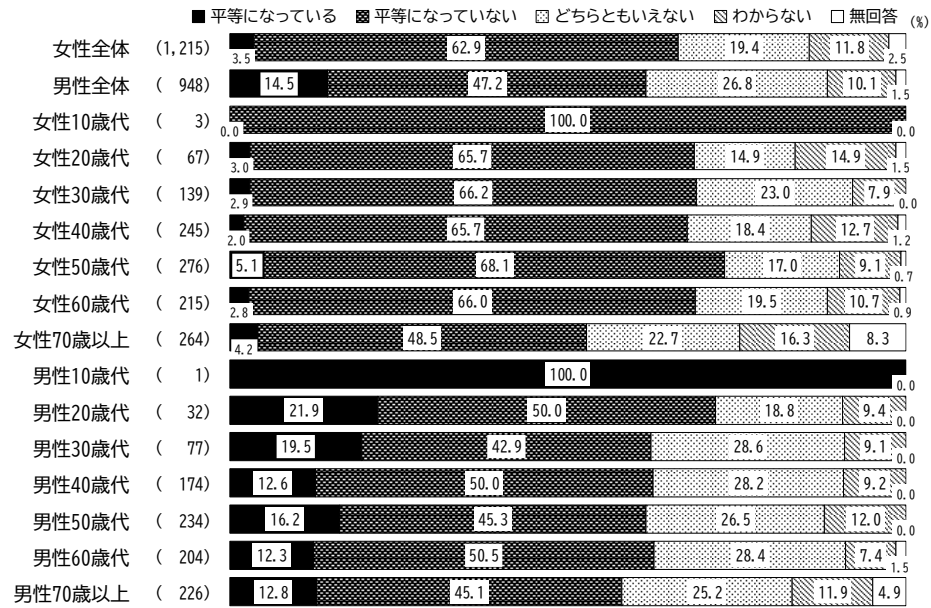
それぞれ回答割合が高い順に見ると、「平等になっている」では【家庭生活で】(36.6%)、【学校教育の場で】(32.9%)、【職場で】(22.5%)となっている。一方、「平等になっていない」は回答割合が高い順に【社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで】(59.8%)、【政治の場で】(55.8%)、【社会全体の中で】(52.4%)となっており、いずれも「平等になっていない」が過半数を占めている。

(図表1-1)

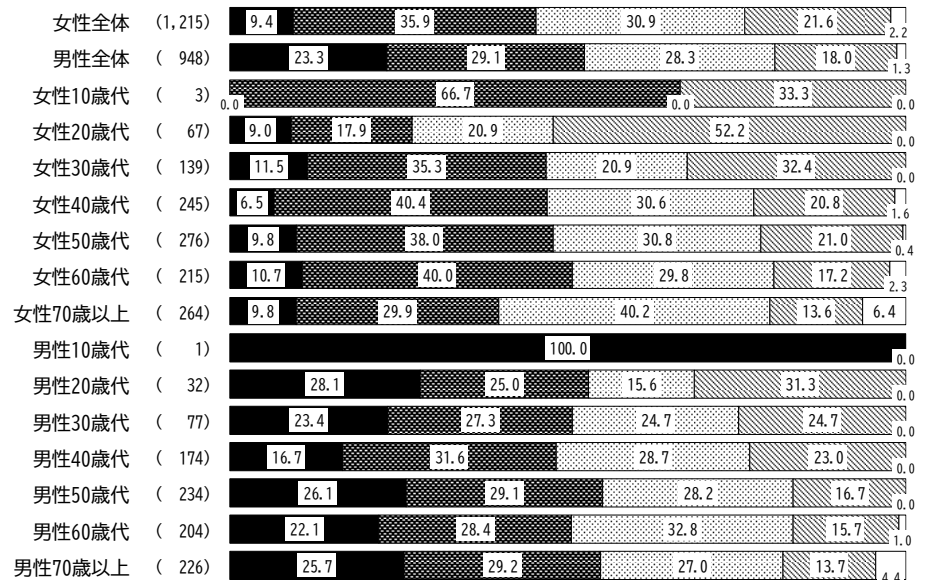
図表 1－2 男女の地位の平等感（性別・性／年齢別）



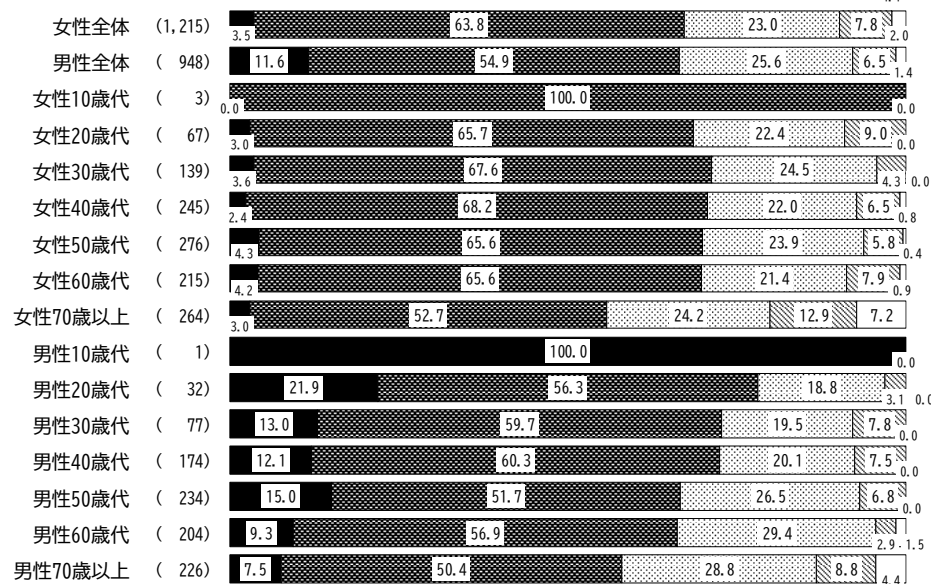
□ 政治の場で



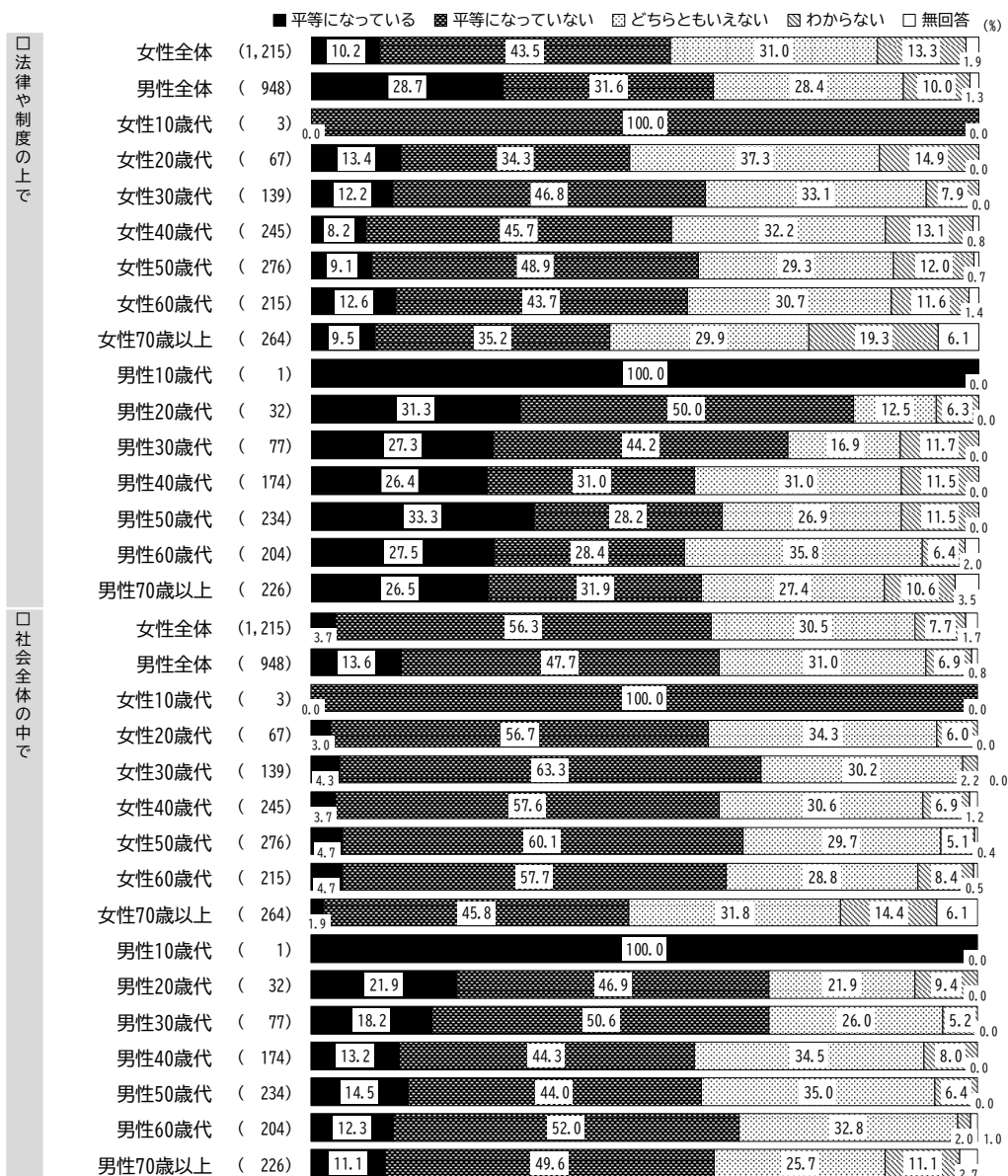
□ 自治会等の地域活動の場で



□ 社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで



## 第IV章 調査の結果



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性別でみると、「平等になっている」は、すべての分野において男性が女性を上回っている。「平等になっていない」は、すべての分野において女性が男性を上回っている。

男女の意識の差が大きいものを分野別にみると、「平等になっている」では【法律や制度の上で】で18.5ポイント（女性10.2%、男性28.7%）、【家庭生活で】で17.2ポイント（女性29.5%、男性46.7%）、【自治会等の地域活動の場で】で13.9ポイント（女性9.4%、男性23.3%）、それぞれ男性が女性を上回っている。一方、「平等になっていない」では【家庭生活で】で17.0ポイント（女性40.6%、男性23.6%）女性が男性を上回っている。

性／年齢別でみると、【家庭生活で】では「平等になっている」は女性では20歳代（49.3%）で約5割、30歳代（36.7%）で3割台半ばを超えているが、40歳以上ではいずれも2割台にとどまっている。男性では20歳代（62.5%）が6割強と最も高くなっており、最も低い60歳代（41.7%）でも4割強と比較的高くなっている。「平等になっていない」は女性では50歳代で4割台半ばを超え、他の年代に比べて高くなっている。男性では50歳代で2割台半ばを超えている。

【学校教育の場で】では「平等になっている」は女性では20歳代（41.8%）が4割強となっているが、30～40歳代では3割台となり、50歳代以上では2割台となっている。男性では20歳代（53.1%）が5割強と最も高く、次いで30歳代（50.6%）が5割台前半となっている。「平等になっていない」は女性では60歳代で最も高く16.7%、男性では70歳以上で最も高く16.4%となっている。

【職場で】では「平等になっている」は女性では20歳代（35.8%）で3割台半ばと最も高く、年齢が高くなるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。男性では20歳代（43.8%）で4割強と最も高く、次いで50歳代（36.3%）が3割台半ばを超えている。一方、「平等になっていない」は女性では50歳代（43.5%）、男性では70歳以上（42.0%）が4割強でそれぞれ最も高くなっている。

【政治の場で】では「平等になっている」は女性ではすべての年代で1割未満となっており、男性では20歳代（21.9%）で2割強、その他の年代で1割台となっている。「平等になっていない」は女性では70歳代（48.5%）を除くすべての年代で過半数を占めており、50歳代（68.1%）では7割弱と高くなっている。男性は20歳代、40歳代（ともに50.0%）、60歳代（50.5%）で過半数を占めている。

【自治会等の地域活動の場で】では「平等になっている」は女性では30歳代、60歳代で1割台、その他の年代で1割未満となっている。男性では40歳代で1割台半ばを超え、その他の年代で2割台となっている。「平等になっていない」は男女ともに40歳代（女性40.4%、男性31.6%）で最も高くなっている。

【社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで】では「平等になっている」は女性ではすべての年代で1割未満となっている。男性は20歳代（21.9%）で2割強、30～50歳代で1割強～1割台半ば、60歳以上で1割未満となっている。「平等になっていない」は男女ともにすべての年代で過半数を占めており、女性の20～60歳代と男性の40歳代では6割台と他の年代に比べ高くなっている。

【法律や制度の上で】では「平等になっている」は女性では最も高い割合が20歳代で13.4%であるのに対し、男性では全体で28.7%、最も低い40歳代で26.4%となっている。「平等になっていない」は女性では50歳代で48.9%と最も高く、次いで30歳代（46.8%）が4割台後半となっている。男性では20歳代で50.0%と最も高く、50歳代までは年代が上がるにつれて減少しており、60歳代から再び増加傾向がみられる。

【社会全体の中で】では「平等になっている」は女性のすべての年代で1割未満、男性は20歳代のみ2割台でその他の年代は1割台となっている。「平等になっていない」は女性では70歳代（45.8%）を除いたすべての年代で過半数を占めている。男性では30歳代、60歳代で過半数を占めている。

（図表1－2）

## 第IV章 調査の結果

図表 1－3 男女の地位の平等感（居住地域別）（％）

	n	平等 になっている	平等 になっていない	どちら ともいえない	わから ない	無回 答
□ 家庭生活で	全 体	2,233	36.6	33.2	24.5	1.4
	南部地域	221	39.4	26.2	29.4	2.3
	南西部地域	221	40.3	30.8	23.5	0.9
	東部地域	320	30.6	38.1	26.3	1.6
	さいたま地域	398	36.4	34.7	23.4	0.8
	県央地域	173	39.3	32.4	24.9	—
	川越比企地域	216	44.9	26.9	21.3	0.5
	西部地域	266	31.2	36.5	24.4	3.4
	利根地域	206	36.9	37.4	22.3	0.5
	北部地域	177	35.0	32.8	24.3	1.7
	秩父地域	26	38.5	30.8	26.9	3.8
□ 学校教育の場で	全 体	2,233	32.9	14.6	24.0	2.1
	南部地域	221	32.6	13.6	25.8	2.7
	南西部地域	221	39.8	14.9	19.5	1.4
	東部地域	320	29.1	19.1	23.4	1.9
	さいたま地域	398	36.4	15.6	21.9	1.0
	県央地域	173	32.4	15.0	25.4	2.3
	川越比企地域	216	26.4	9.3	25.5	0.9
	西部地域	266	31.2	14.3	23.7	3.8
	利根地域	206	35.0	13.1	25.7	1.9
	北部地域	177	33.3	13.0	27.1	4.0
	秩父地域	26	26.9	15.4	26.9	—
□ 自治会等の地域活動の場で	全 体	2,233	15.4	32.8	29.6	1.9
	南部地域	221	15.8	30.8	27.6	3.6
	南西部地域	221	18.6	28.5	29.0	0.9
	東部地域	320	12.2	34.4	27.5	1.6
	さいたま地域	398	14.1	33.2	26.1	1.0
	県央地域	173	13.9	29.5	32.9	2.3
	川越比企地域	216	17.1	31.5	32.9	1.4
	西部地域	266	17.3	32.7	29.7	3.4
	利根地域	206	14.6	33.0	36.4	1.0
	北部地域	177	18.6	43.5	29.9	1.1
	秩父地域	26	11.5	26.9	26.9	7.7
□ 法律や制度の上で	全 体	2,233	18.0	38.5	29.6	1.7
	南部地域	221	16.7	42.1	31.7	3.6
	南西部地域	221	19.5	45.7	24.0	1.4
	東部地域	320	16.3	38.4	30.0	1.6
	さいたま地域	398	16.8	39.2	28.9	1.3
	県央地域	173	21.4	31.8	33.5	2.3
	川越比企地域	216	16.2	31.5	34.3	0.9
	西部地域	266	16.5	45.1	25.2	2.3
	利根地域	206	23.3	35.0	32.5	0.5
	北部地域	177	22.0	32.8	29.9	1.1
	秩父地域	26	3.8	42.3	23.1	3.8

※基数が不足しているため、居住地域別の秩父地域は参考扱いとする。

居住地域別でみると、【家庭生活で】では「平等になっている」は川越比企地域（44.9％）が4割台半ばと他の地域と比べて高くなっている。

【学校教育の場で】では「平等になっている」は川越比企地域（26.4％）が2割台後半と他の地域と比べて低くなっている。

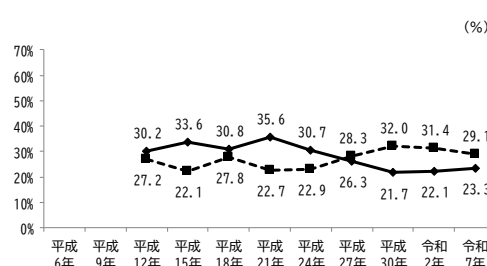
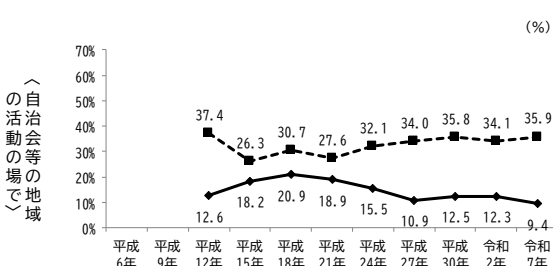
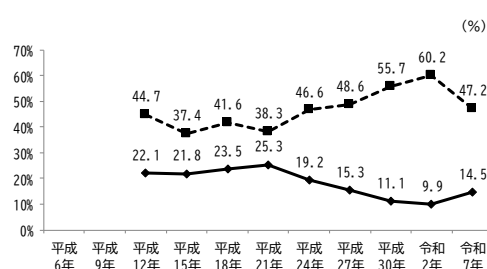
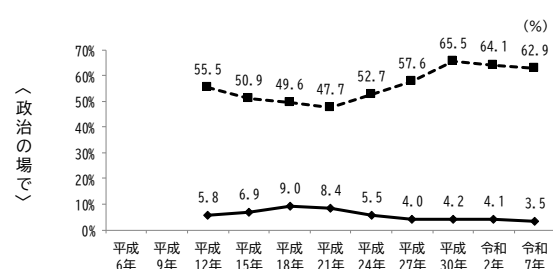
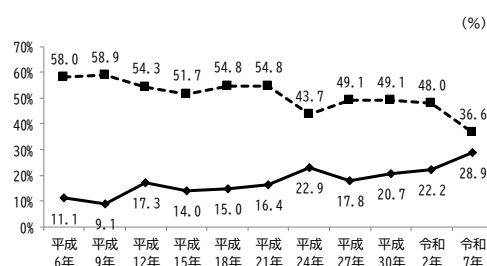
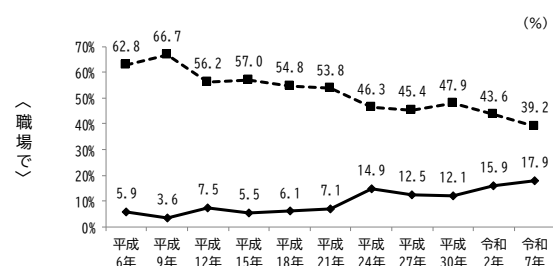
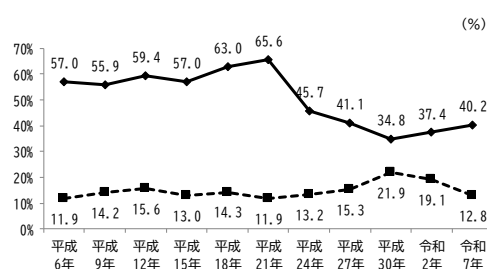
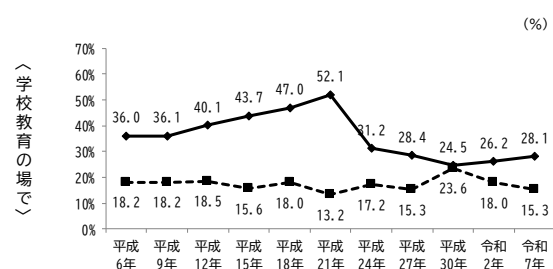
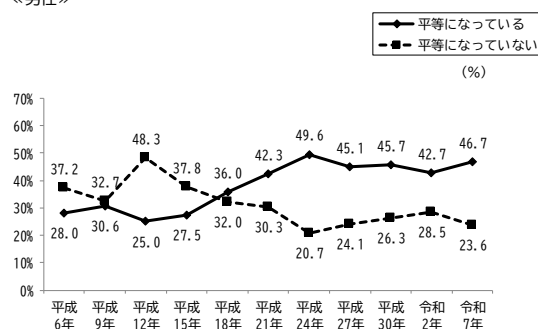
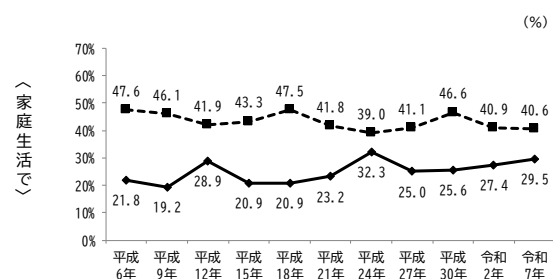
【自治会等の地域活動の場で】では「平等になっていない」は北部地域（43.5％）が4割強と他の地域と比べて高くなっている。

【法律や制度の上で】では「平等になっていない」は川越比企地域（31.5％）、県央地域（31.8％）が3割台前半と他の地域と比べて低くなっている。（図表 1－3）

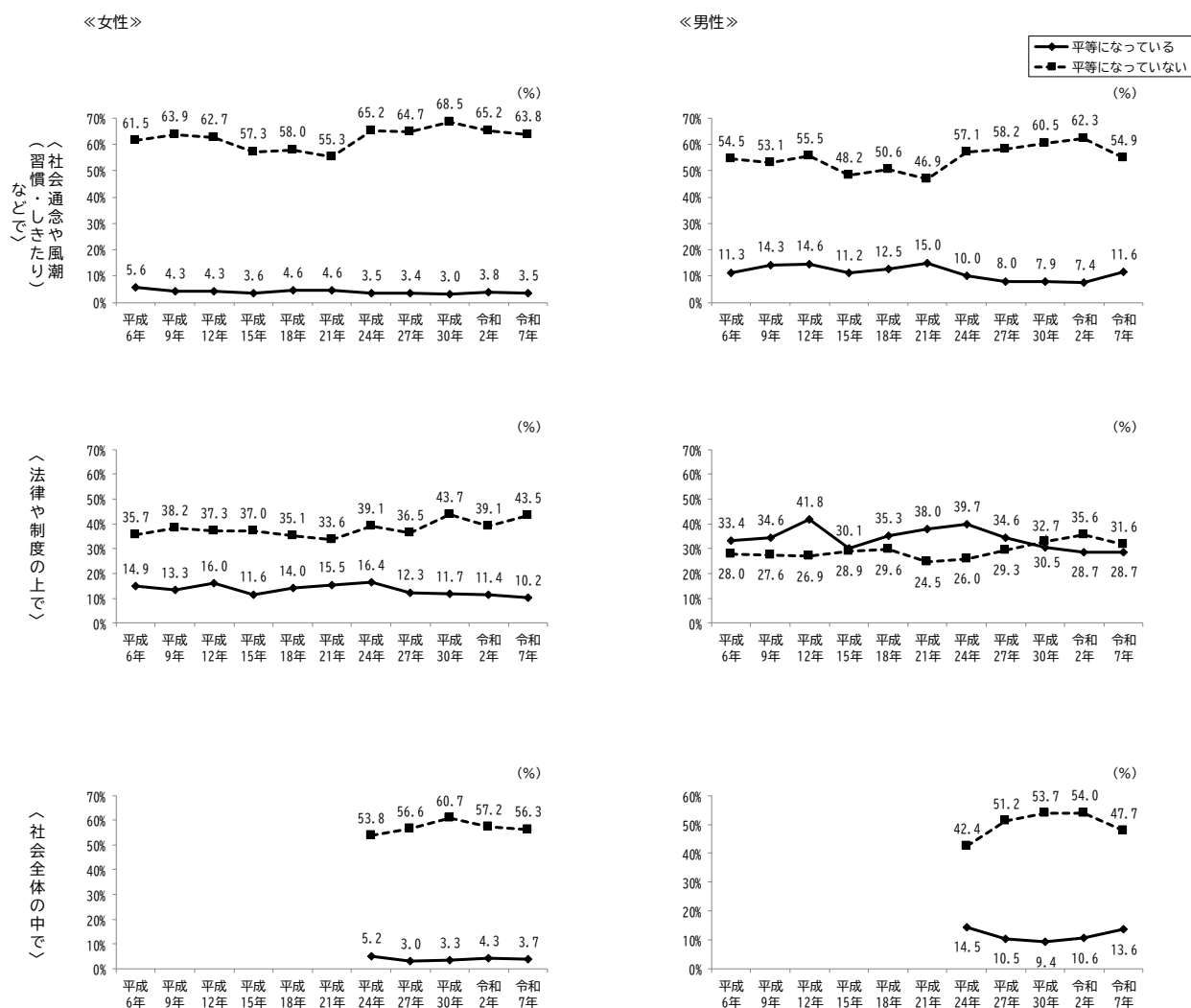
図表 1-4 男女の地位の平等感（時系列比較）

《女性》

《男性》



## 第Ⅳ章 調査の結果



時系列でみると、「平等になっている」は女性では半数以上の項目で前回を下回っており、【自治会等の地域活動の場で】で前回より2.9ポイント減少している。男性では【法律や制度の上で】を除くすべての項目で前回を上回っており、【職場で】で前回より6.7ポイント増加している。

一方、「平等になっていない」は女性では【法律や制度の上で】が前回より4.4ポイント増加、【職場で】で前回より4.4ポイント減少している。男性ではすべての項目で前回を下回っており、【政治の場】が13.0ポイント減少している。（図表1－4）

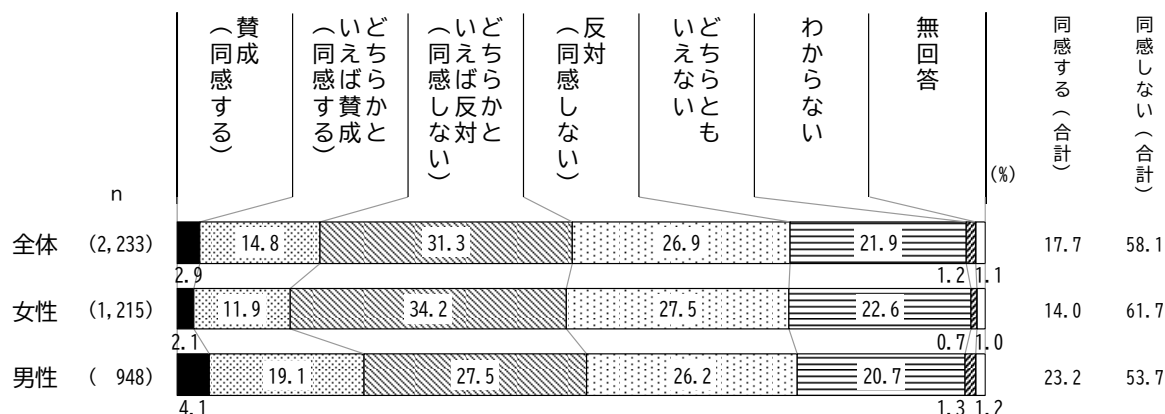


## (2) 性別役割分担意識

◎性別役割分担に《同感しない（合計）》が6割弱、《同感する（合計）》は1割台半ばを超えている

問2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考えについて  
どのように思いますか。  
(1つだけに○)

図表1-5 性別役割分担意識

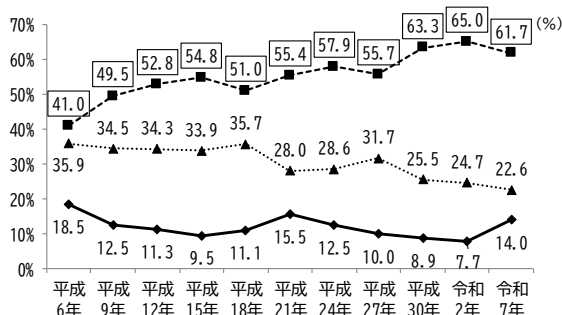


性別役割分担については、全体でみると「賛成（同感する）」（2.9％）と「どちらかといえば賛成（同感する）」（14.8％）を合わせた《同感する（合計）》は17.7％、「反対（同感しない）」（26.9％）と「どちらかといえば反対（同感しない）」（31.3％）を合わせた《同感しない（合計）》は58.1％、「どちらともいえない」は21.9％となっている。

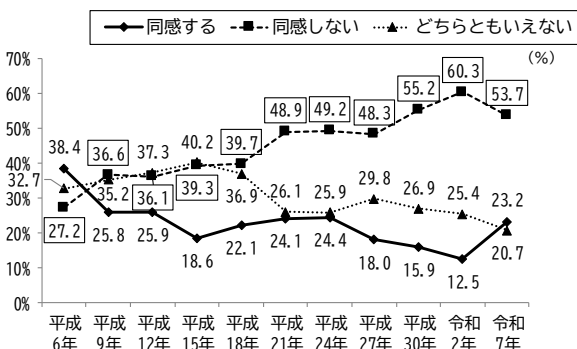
性別でみると、《同感する（合計）》は女性（14.0％）、男性（23.2％）と、男性が女性を9.2ポイント上回っている。《同感しない（合計）》は女性（61.7％）、男性（53.7％）と、女性が男性を8.0ポイント上回っている。（図表1-5）

図表1-6 性別役割分担意識（時系列比較 性別）

《女性》



《男性》

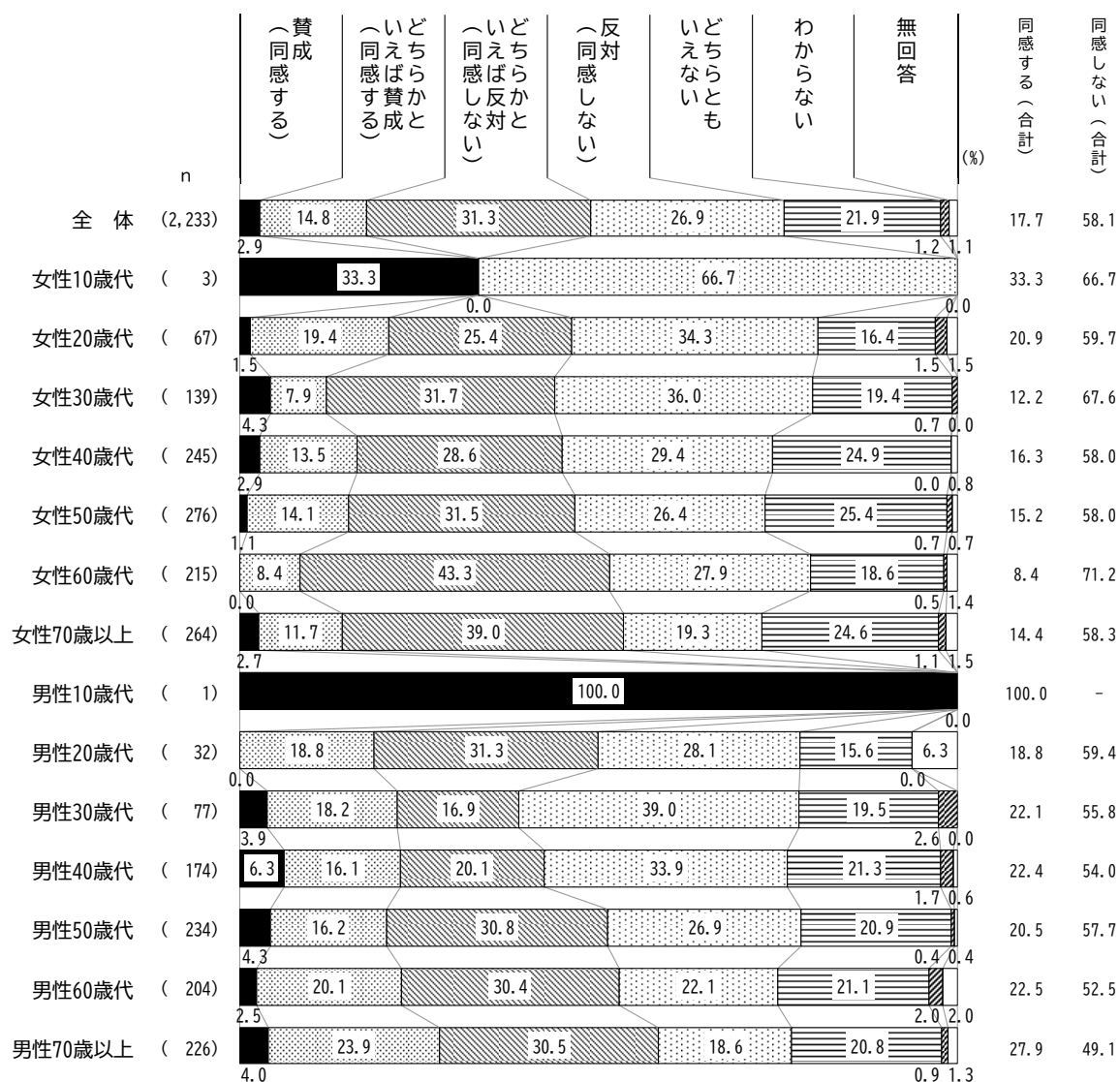


※令和7年度は従来の「同感する」を「賛成（同感する）」と「どちらかといえば賛成（同感する）」に、「同感しない」を「どちらかといえば反対（同感しない）」と「反対（同感しない）」に細分化している。

令和2年度調査と比較すると、男女ともに《同感する（合計）》が増加し、「どちらともいえない」、《同感しない（合計）》が減少している。（図表1-6）

#### 第IV章 調査の結果

図表 1－7 性別役割分担意識（性／年齢別）

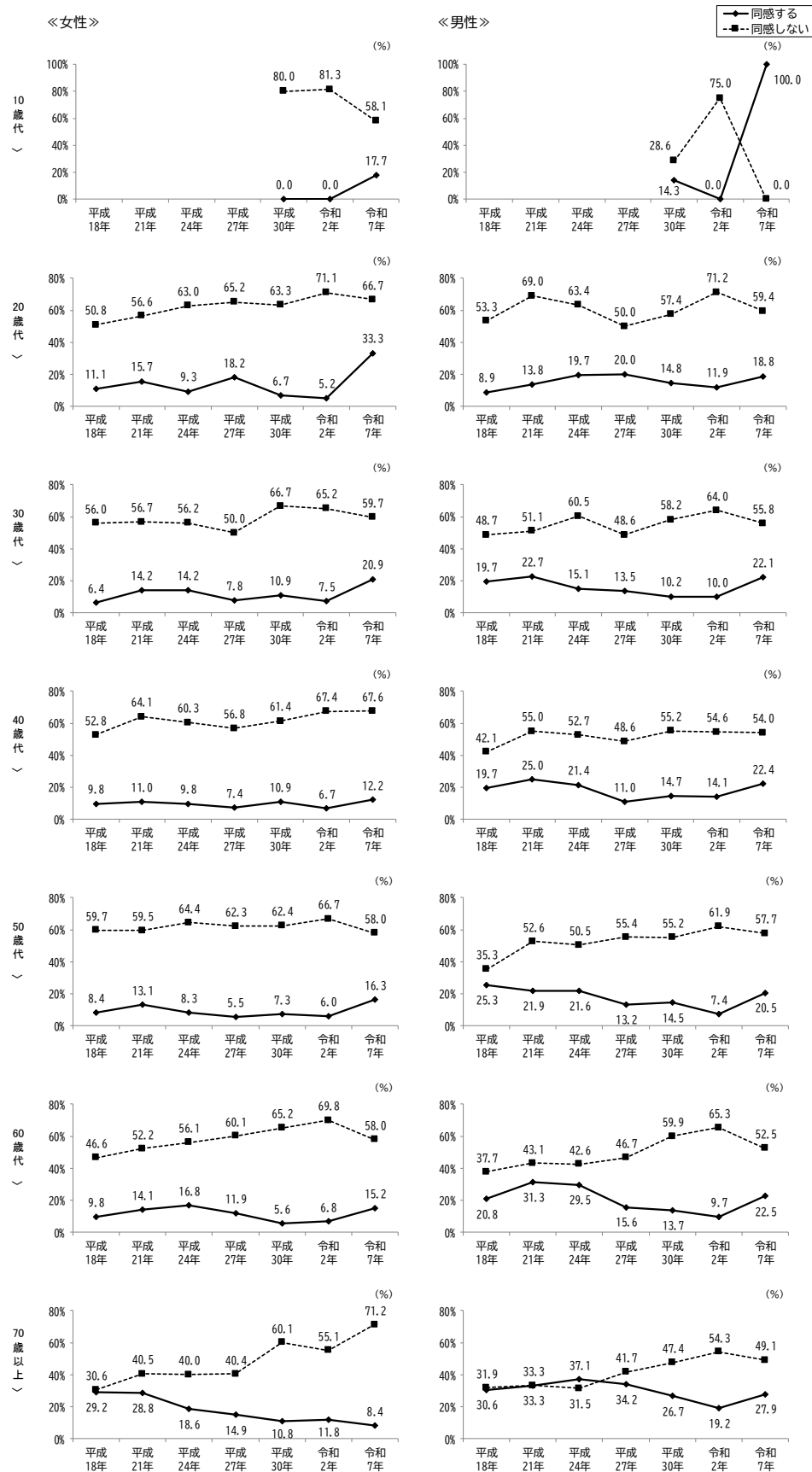


※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、《同意する（合計）》は女性では20歳代で2割を超え、60歳代で1割未満、他の年代では1割台となっている。男性では20歳代で2割弱となっているが、他の年代では2割台となっている。

《同意しない（合計）》は女性ではすべての年代で過半数を超えており、60歳代で7割強、30歳代で6割台半ばを超え比較的高い割合となっている。男性では70歳以上が約5割と最も低くなっているが、他の年代では過半数を超えている。（図表 1－7）

図表 1－8 性別役割分担意識（時系列比較 性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

#### 第Ⅳ章 調査の結果

令和２年度調査と比較すると、女性では70歳以上を除いたすべての年代で《同感する（合計）》が増加しており、20歳代と40歳代と70歳以上で《同感しない（合計）》が増加している。男性ではすべての年代で《同感する（合計）》が増加しており、すべての年代で《同感しない（合計）》が減少している。

《同感する（合計）》、《同感しない（合計）》の差をみると、女性70歳以上を除くすべての年代で令和２年度調査に比べて差が縮まっている。（図表１－８）

図表 1－9 性別役割分担意識（居住地域別・性／居住地域別）

		n	同感する (合計)		同感しない (合計)		同感する (合計)			同感しない (合計)		
			賛成 (同感する)	どちらかといえば賛成 (同感する)	どちらかといえば反対 (同感しない)	反対 (同感しない)	どちらともいえない	わからない	無回答	同感する (合計)	同感しない (合計)	
全 体		2,233	2.9	14.8	31.3	26.9	21.9	1.2	1.1	17.7	58.1	
居住地域別	南部地域	221	2.7	15.4	29.0	26.2	24.0	0.9	1.8	18.1	55.2	
	南西部地域	221	1.8	15.4	29.0	27.1	24.9	0.9	0.9	17.2	56.1	
	東部地域	320	3.1	14.7	30.6	30.3	20.0	0.3	0.9	17.8	60.9	
	さいたま地域	398	2.5	13.1	31.9	27.6	22.9	0.8	1.3	15.6	59.5	
	県央地域	173	4.0	14.5	37.0	22.0	20.2	2.3	-	18.5	59.0	
	川越比企地域	216	1.4	17.1	28.2	26.4	22.7	2.8	1.4	18.5	54.6	
	西部地域	266	2.3	16.9	29.7	29.3	20.7	0.4	0.8	19.2	59.0	
	利根地域	206	5.3	15.0	34.0	23.8	18.9	1.5	1.5	20.4	57.8	
	北部地域	177	3.4	11.9	31.6	27.7	23.2	1.1	1.1	15.3	59.3	
	秩父地域	26	7.7	15.4	46.2	11.5	19.2	-	-	23.1	57.7	
女性／居住地域別	南部地域	116	1.7	15.5	25.9	29.3	25.9	-	1.7	17.2	55.2	
	南西部地域	119	0.8	12.6	35.3	22.7	26.9	-	1.7	13.4	58.0	
	東部地域	173	2.9	11.6	33.5	33.5	17.3	0.6	0.6	14.5	67.1	
	さいたま地域	226	1.3	11.1	37.6	25.2	22.6	0.9	1.3	12.4	62.8	
	県央地域	92	3.3	10.9	41.3	23.9	18.5	2.2	-	14.1	65.2	
	川越比企地域	123	0.8	11.4	30.9	29.3	25.2	0.8	1.6	12.2	60.2	
	西部地域	142	2.8	12.0	31.0	32.4	21.1	0.7	-	14.8	63.4	
	利根地域	113	1.8	10.6	38.1	25.7	23.0	-	0.9	12.4	63.7	
	北部地域	95	2.1	12.6	34.7	24.2	25.3	-	1.1	14.7	58.9	
	秩父地域	14	14.3	7.1	35.7	14.3	28.6	-	-	21.4	50.0	
男性／居住地域別	南部地域	96	4.2	15.6	32.3	21.9	21.9	2.1	2.1	19.8	54.2	
	南西部地域	96	3.1	19.8	20.8	33.3	22.9	-	-	22.9	54.2	
	東部地域	132	3.8	19.7	26.5	26.5	22.7	-	0.8	23.5	53.0	
	さいたま地域	165	3.6	15.8	24.8	30.3	23.6	0.6	1.2	19.4	55.2	
	県央地域	76	5.3	18.4	32.9	19.7	22.4	1.3	-	23.7	52.6	
	川越比企地域	88	2.3	26.1	25.0	23.9	17.0	4.5	1.1	28.4	48.9	
	西部地域	117	1.7	23.1	26.5	26.5	20.5	-	1.7	24.8	53.0	
	利根地域	86	10.5	22.1	31.4	20.9	11.6	1.2	2.3	32.6	52.3	
	北部地域	79	5.1	11.4	27.8	30.4	21.5	2.5	1.3	16.5	58.2	
	秩父地域	12	-	25.0	58.3	8.3	8.3	-	-	25.0	66.7	

※基数が不足しているため、性／居住地域別での秩父地域は参考扱いとする。

居住地域別でみると、《同感する（合計）》は利根地域が20.4%と最も高く、次いで西部地域（19.2%）となっている。《同感しない（合計）》は東部地域で60.9%と最も高くなっている。

性／居住地域別でみると、《同感する（合計）》は女性では南部地域、男性では利根地域がそれぞれ最も高くなっている。

一方で《同感しない（合計）》は女性では東部地域、男性では北部地域がそれぞれ最も高くなっている。（図表 1－9）

(3) 性別役割分担に同感する理由

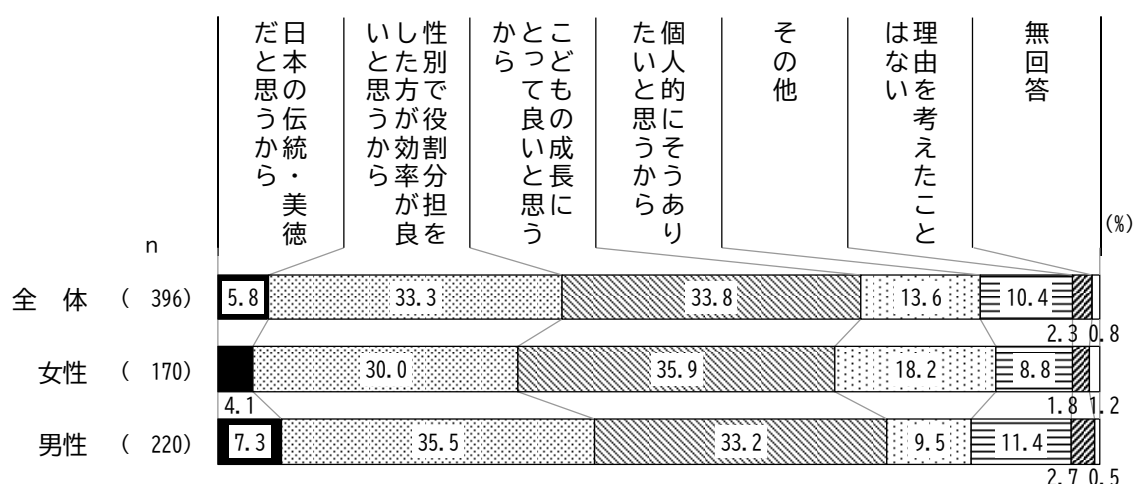
◎「こどもの成長にとって良いと思う」が3割強で最も高くなっている

【問2で「1」「2」と回答した方に】

問2-1 そう思う理由を教えてください。

(1つだけに○)

図表1-10 性別役割分担に同感する理由

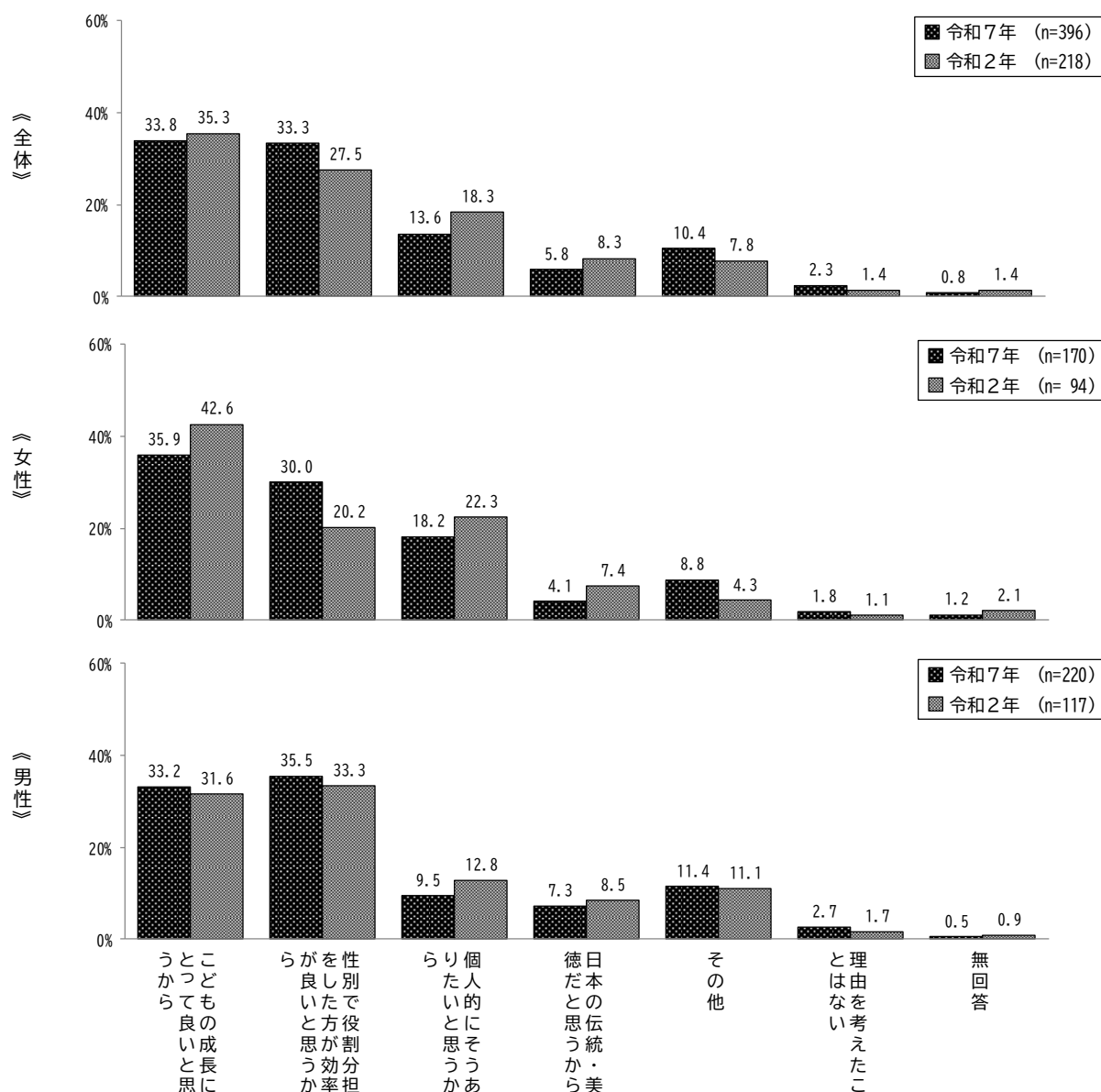


性別役割分担に同感する理由としては、全体でみると「こどもの成長にとって良いと思うから」が33.8%と最も高く、次いで「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」(33.3%)、「個人的にそうありたいと思うから」(13.6%)となっている。

性別でみると、女性では「こどもの成長にとって良いと思うから」(35.9%)が最も高く、次いで「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」(30.0%)となっており、男性では「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」(35.5%)が最も高く、次いで「こどもの成長にとって良いと思うから」(33.2%)となっている。

また、「理由を考えたことはない」は、女性(1.8%)、男性(2.7%)となっており、男女で意識に大きな差はみられない。(図表1-10)

図表 1－11 性別役割分担に同感する理由（令和２年度調査との比較）



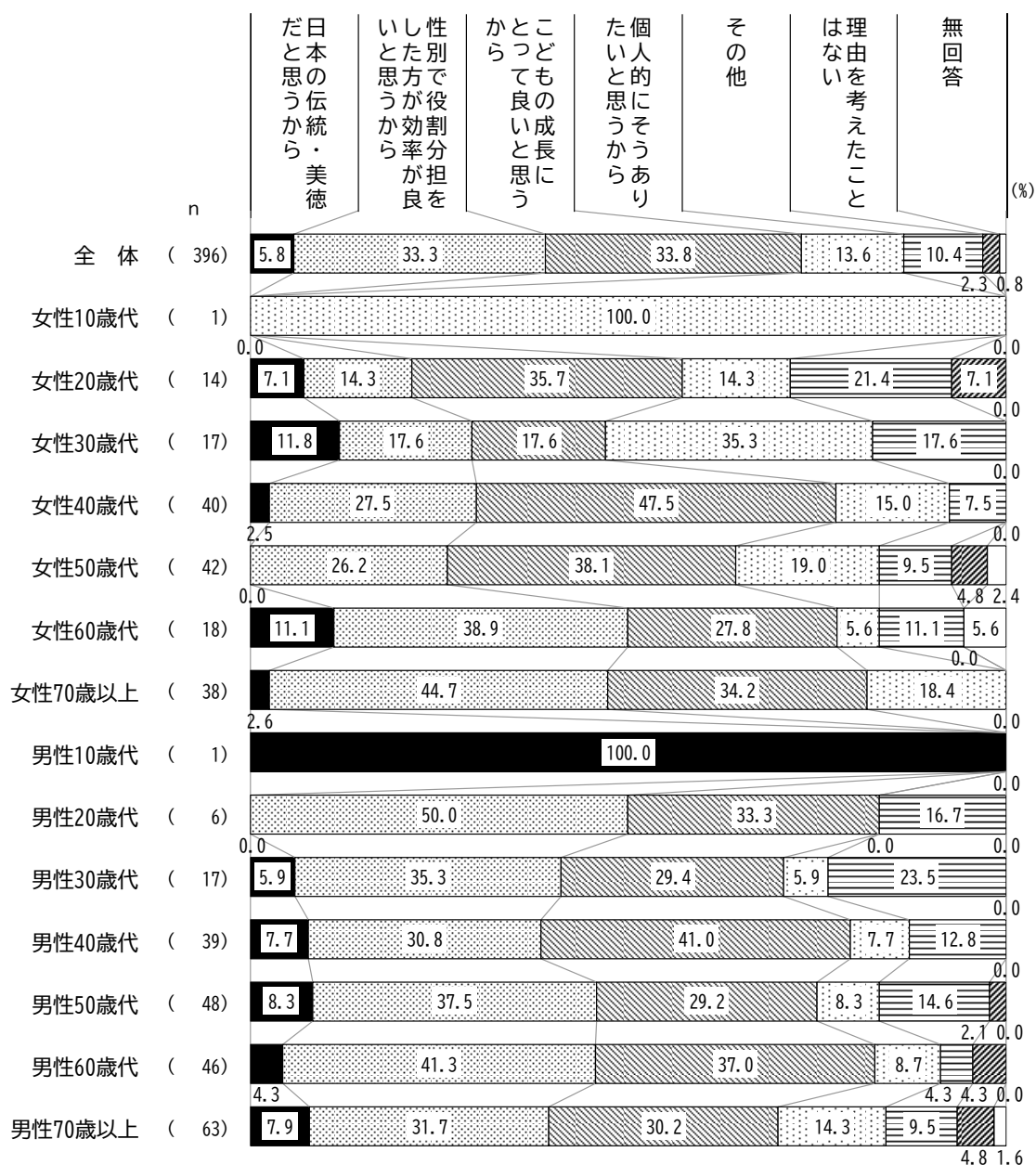
令和２年度調査と比較すると、全体でみると「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が令和２年度調査（27.5％）から令和７年度調査（33.3％）で5.8ポイント増加している。

一方、「個人的にそうありたいと思うから」が令和２年度調査（18.3％）から令和７年度調査（13.6％）で4.7ポイント減少している。

性別でみると、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」は女性が令和２年度調査（20.2％）から令和７年度調査（30.0％）で9.8ポイント増加している。

「個人的にそうありたいと思うから」は男性が令和２年度調査（12.8％）から令和７年度調査（9.5％）で3.3ポイントの減少となっている。（図表 1－11）

図表 1－12 性別役割分担に同感する理由（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10～30歳代、60歳代、男性10～30歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、女性の70歳以上では「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」（44.7%）が4割台半ばと高くなっており、男性の70歳以上（31.7%）に比べ13.0ポイント高くなっている。（図表 1－12）

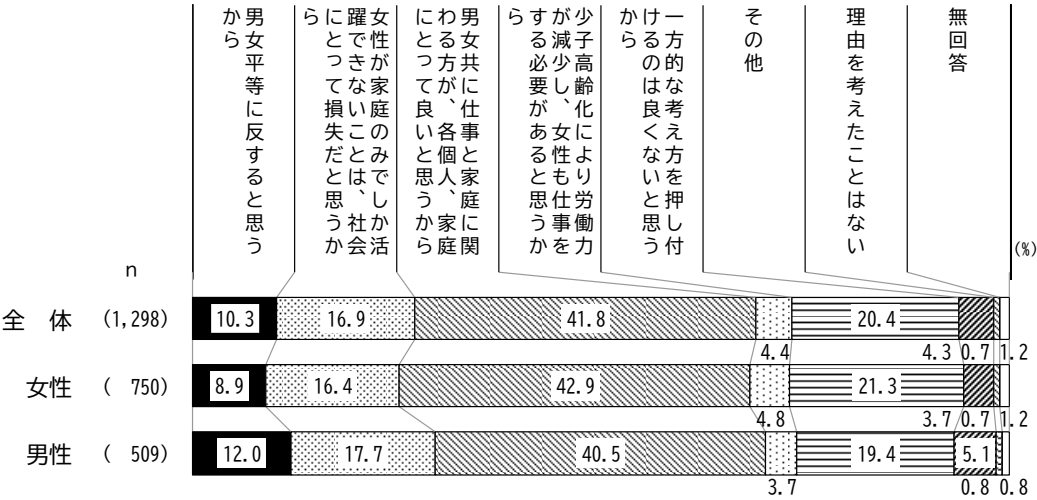


(4) 性別役割分担に同感しない理由

◎「男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が4割を超え最も高くなっている

【問2で「3」「4」と回答した方に】  
問2-2 そう思う理由を教えてください。(1つだけに○)

図表 1－13 性別役割分担に同感しない理由

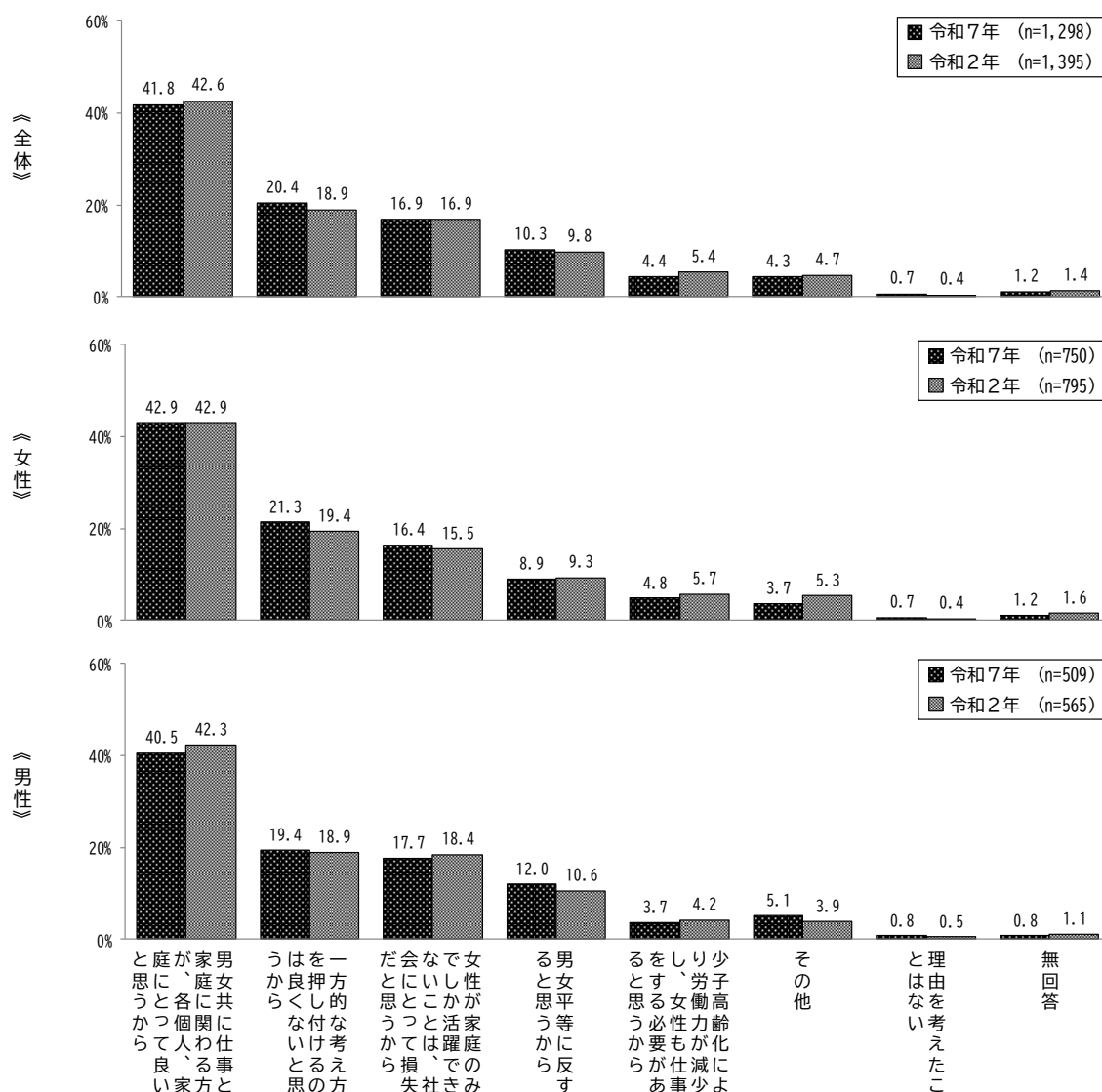


性別役割分担に同感しない理由としては、全体でみると「男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が41.8%で最も高く、次いで「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」(20.4%)、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」(16.9%)となっている。

性別でみると、男女ともに「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が4割台で最も高くなっている。(図表 1－13)

## 第IV章 調査の結果

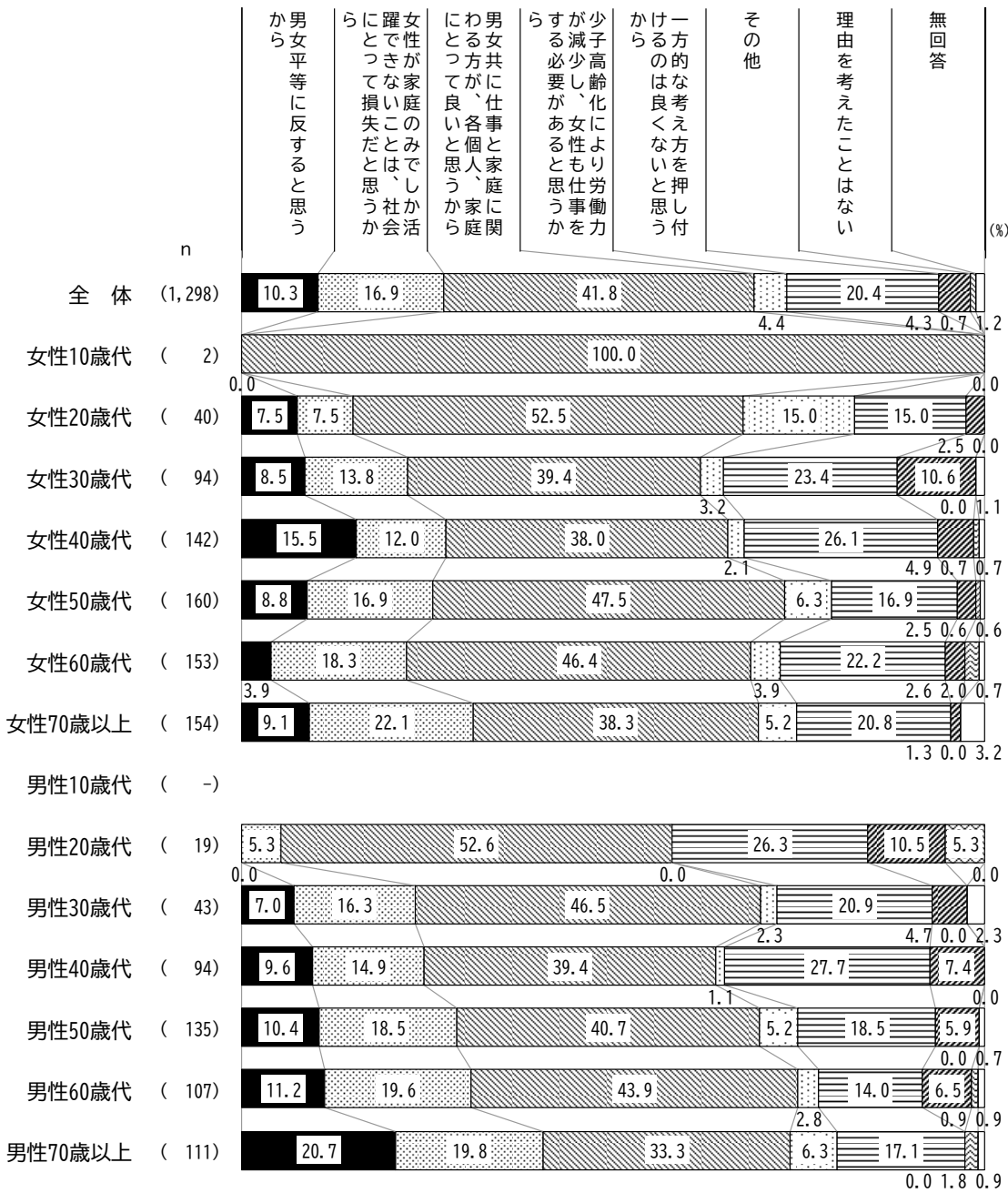
図表 1－14 性別役割分担に同感しない理由（令和２年度調査との比較）



令和２年度調査と比較すると、全体でみると「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が令和２年度調査（18.9％）から令和７年度調査（20.4％）で1.5ポイント増加している。

性別でみると、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が女性では令和２年度調査（19.4％）から令和７年度調査（21.3％）で1.9ポイント増加している。一方、男性では「男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が令和２年度調査（42.3％）から令和７年度調査（40.5％）で1.8ポイント減少している。（図表 1－14）

図表 1－15 性別役割分担に同感しない理由（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10～20歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」は女性20歳代（52.5%）で過半数を占めている。また、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」は、男性の40歳代（27.7%）で2割台半ばを超えており、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」は女性70歳以上（22.1%）で2割強となっている。

（図表 1－15）

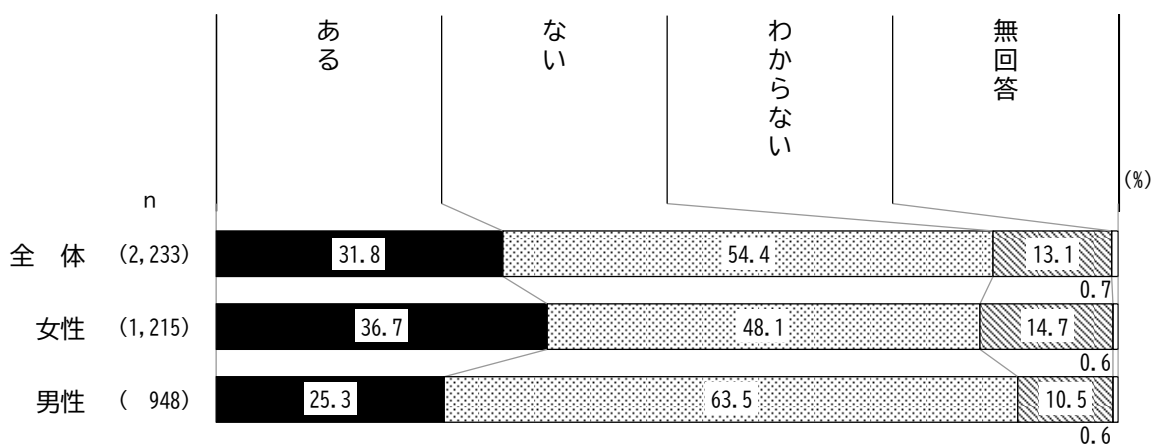
(5)「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無

◎負担感や生きづらさを感じたことについて「ある」が3割強、「ない」は5割台半ばとなっている

**新規調査**

**問3** あなたは「男性らしさ」または「女性らしさ」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(どの性別の方もお答えください。)(1つだけに○)

図表1-16 「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無

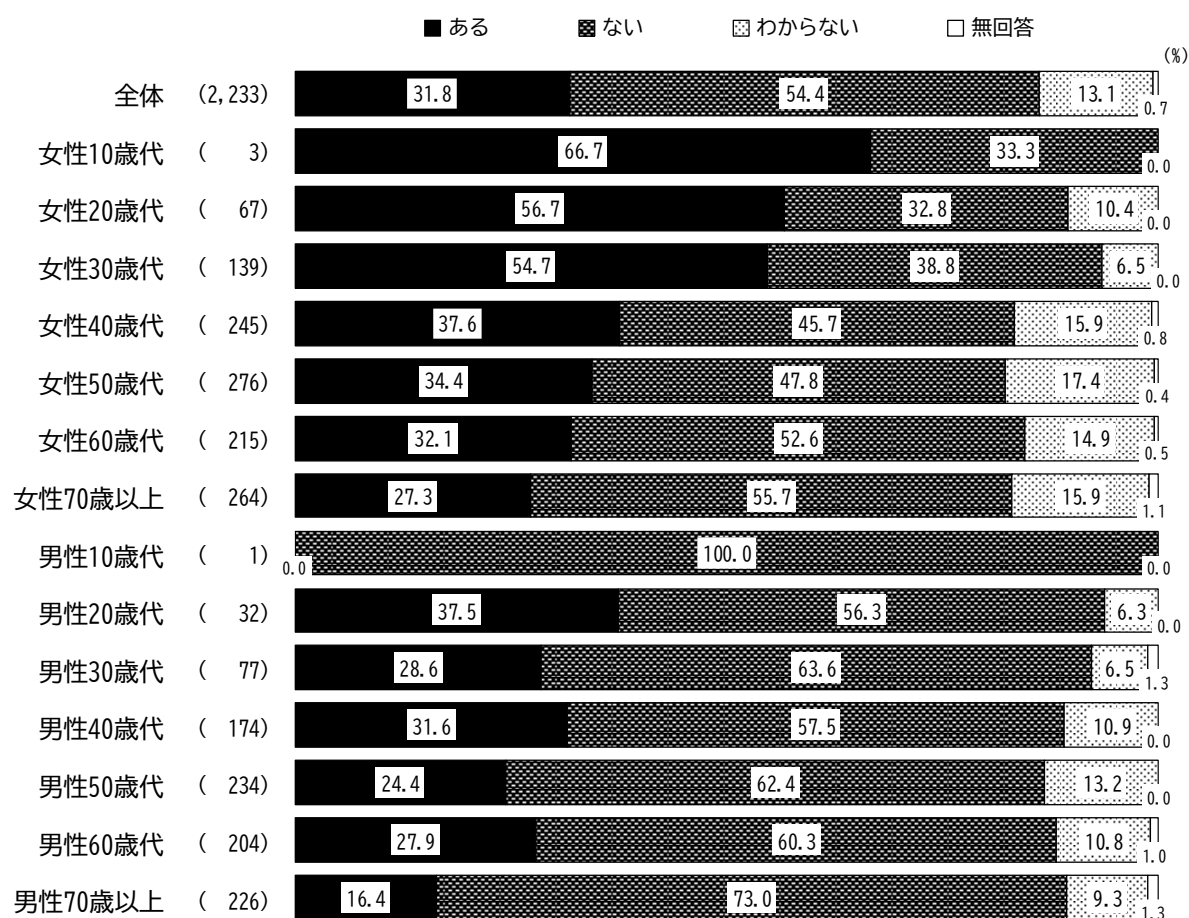


「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無について、全体でみると「ある」は31.8%、「ない」は54.4%となっている。

性別でみると、「ある」は女性(36.7%)、男性(25.3%)と、女性が男性を11.4ポイント上回っている。「ない」は女性(48.1%)、男性(63.5%)と、男性が女性を15.4ポイント上回っている。

(図表1-16)

図表 1－17 「男性らしさ」「女性らしさ」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無  
(性／年齢別)



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「ある」は女性20歳代で5割台半ばを超え、30歳代で5割台半ばと高くなっている。「ない」は男女ともに70歳以上が最も高く、特に男性（73.0%）は7割強と他の年代と比べて高くなっている。

(図表 1－17)

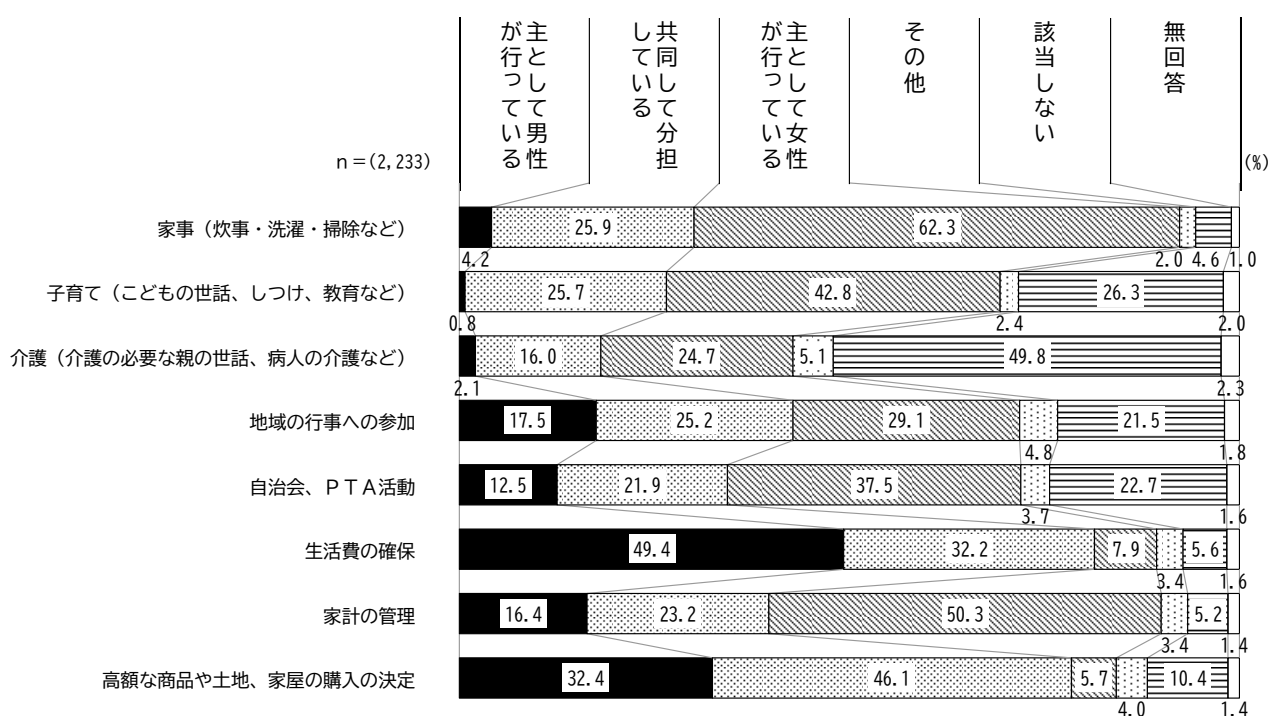
## 2. 家庭生活・子育てについて

### (1) 家庭生活での役割分担

◎【家事】【子育て】【介護】【地域の行事への参加】【自治会、PTA活動】【家計の管理】は「主として女性が行っている」

問4 あなたの家庭では、次の(1)～(8)のことについて、主に男性、女性のどちらが行なっていますか。(それぞれ1つずつに○)

図表2-1 家庭生活での役割分担

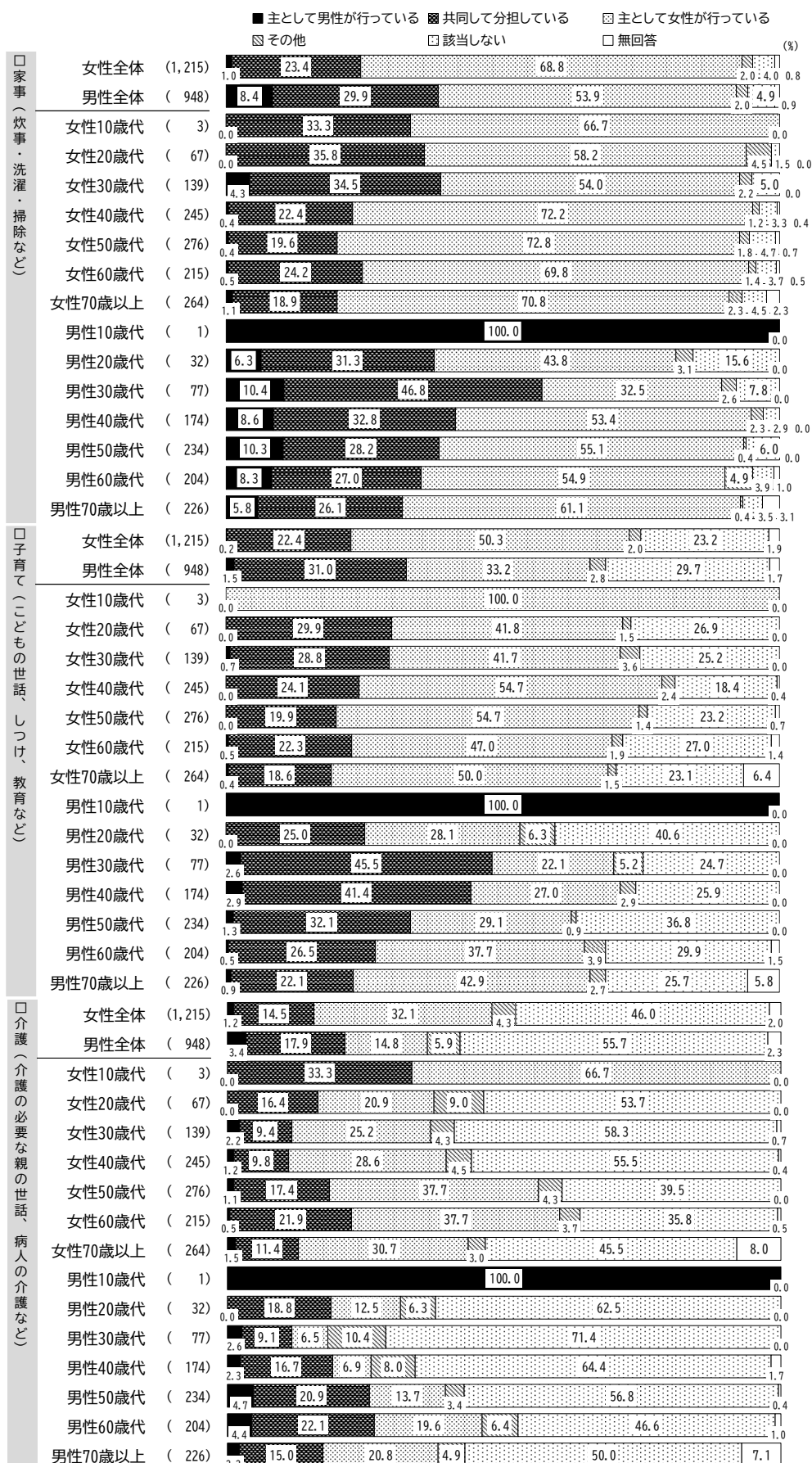


8つの分野について家庭における役割分担の状況を聞いたところ、【生活費の確保】、【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】を除いた6つの分野で「主として女性が行っている」が高くなっており、特に【家事 (炊事・洗濯・掃除など)】(62.3%)、【家計の管理】(50.3%)、【子育て (こどもの世話、しつけ、教育など)】(42.8%)で高くなっている。

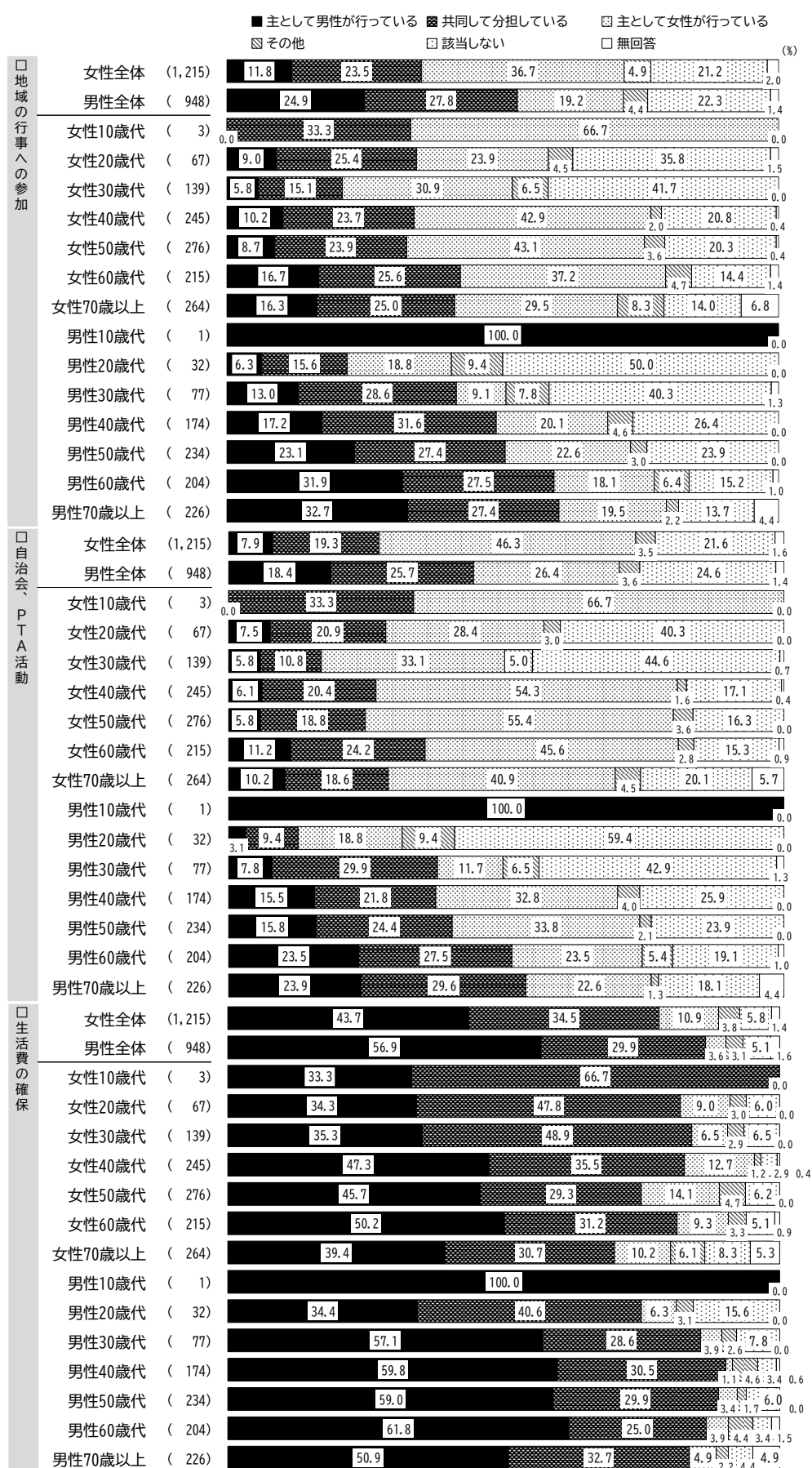
一方、【生活費の確保】では「主として男性が行っている」が49.4%で最も高くなっており、【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】は「共同して分担している」が46.1%で最も高くなっている。

(図表2-1)

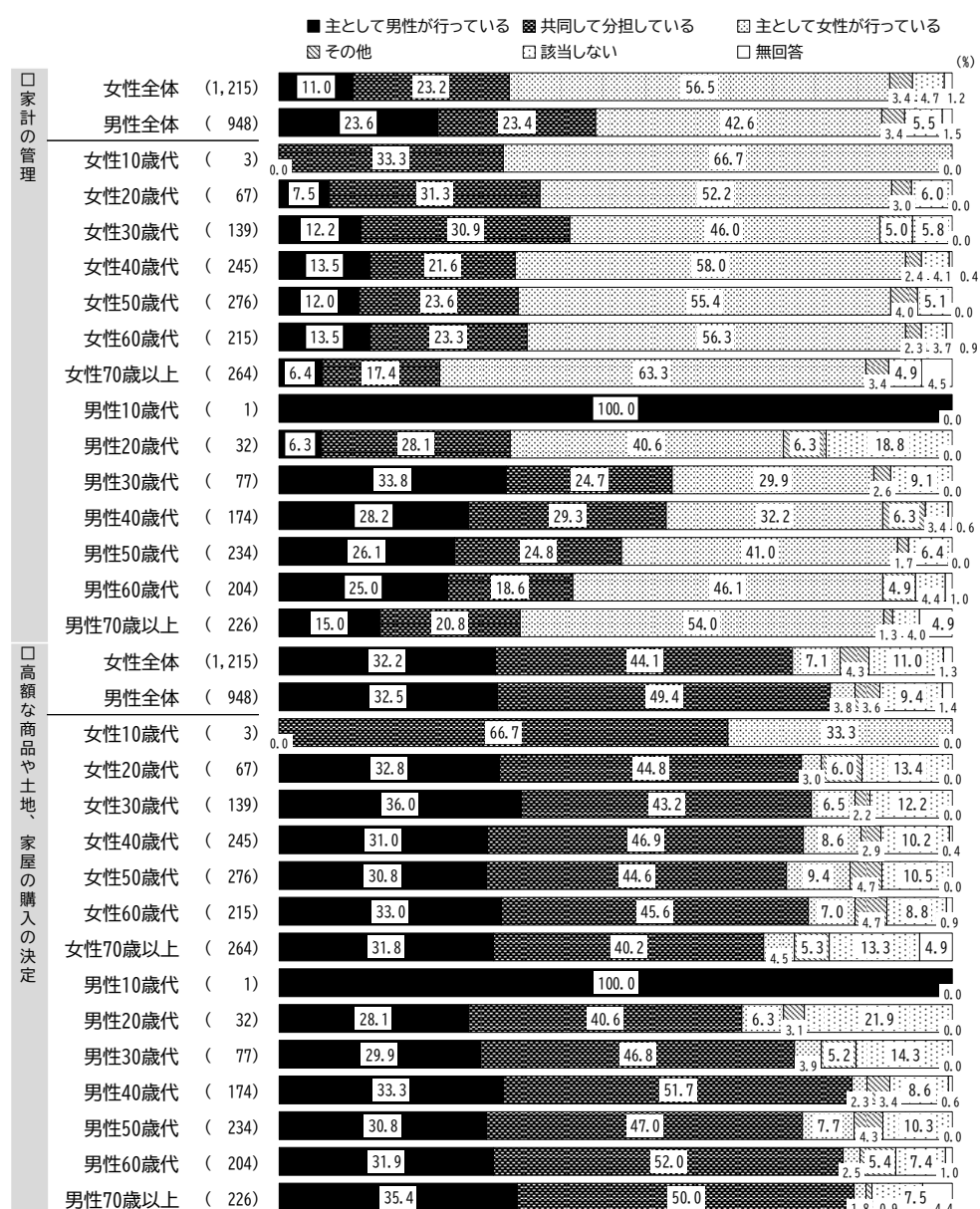
図表 2-2 家庭生活での役割分担（性別・性／年齢別）



## 第IV章 調査の結果







※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

## 第IV章 調査の結果

性別でみると、「主として女性が行っている」は、すべての分野で女性が男性を上回っており、特に【家事（炊事・洗濯・掃除など）】、【子育て（こどもの世話、しつけ、教育など）】、【介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）】、【地域の行事への参加】、【自治会、PTA活動】、【家計の管理】の6つの分野で女性が男性を10ポイント以上上回っている。

「共同して分担している」で最も高いのは、男女ともに【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】となっている。「主として男性が行っている」が最も高いのは男女ともに【生活費の確保】で女性43.7%、男性が56.9%となっている。

性／年齢別でみると、【家事（炊事・洗濯・掃除など）】について「主として女性が行っている」は、女性では40～50歳代で7割強、70歳以上で7割を超えて高くなっており、男性では70歳以上では6割強となっている。「共同して分担している」は、女性では20～30歳代で3割台半ば、男性では30歳代で4割台半ばを超え高くなっている。

【子育て（こどもの世話、しつけ、教育など）】について、女性ではすべての年代で「主として女性が行っている」が「共同して分担している」より高く、4割強～5割台半ばとなっている。男性では「主として女性が行っている」で最も高いのは70歳以上で4割強となっている。また、「共同して分担している」は20歳代を除くすべての年代で男性が女性を上回っており、最も高いのは男性30歳代で4割台半ばとなっている。

【介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）】について女性ではすべての世代で「主として女性が行っている」が「共同して分担している」を上回っており、特に50～60歳代の女性では3割台半ばを超え高くなっている。男性の20～60歳代では「主として女性が行っている」よりも「共同して分担している」の割合が高くなっている。

【地域の行事への参加】について女性は20歳代を除くすべての年代で「共同して分担している」よりも「主として女性が行っている」が上回っている。男性では年代が上がるにつれ「主として男性が行っている」の割合が増加傾向となっている。

【自治会、PTA活動】について「主として女性が行っている」が女性では20歳代を除くすべての年代で最も高く、50歳代女性で55.4%となっている。男性では年代が上がるにつれ「主として男性が行っている」の割合が増加傾向となっており、男性の70歳以上では23.9%となっている。

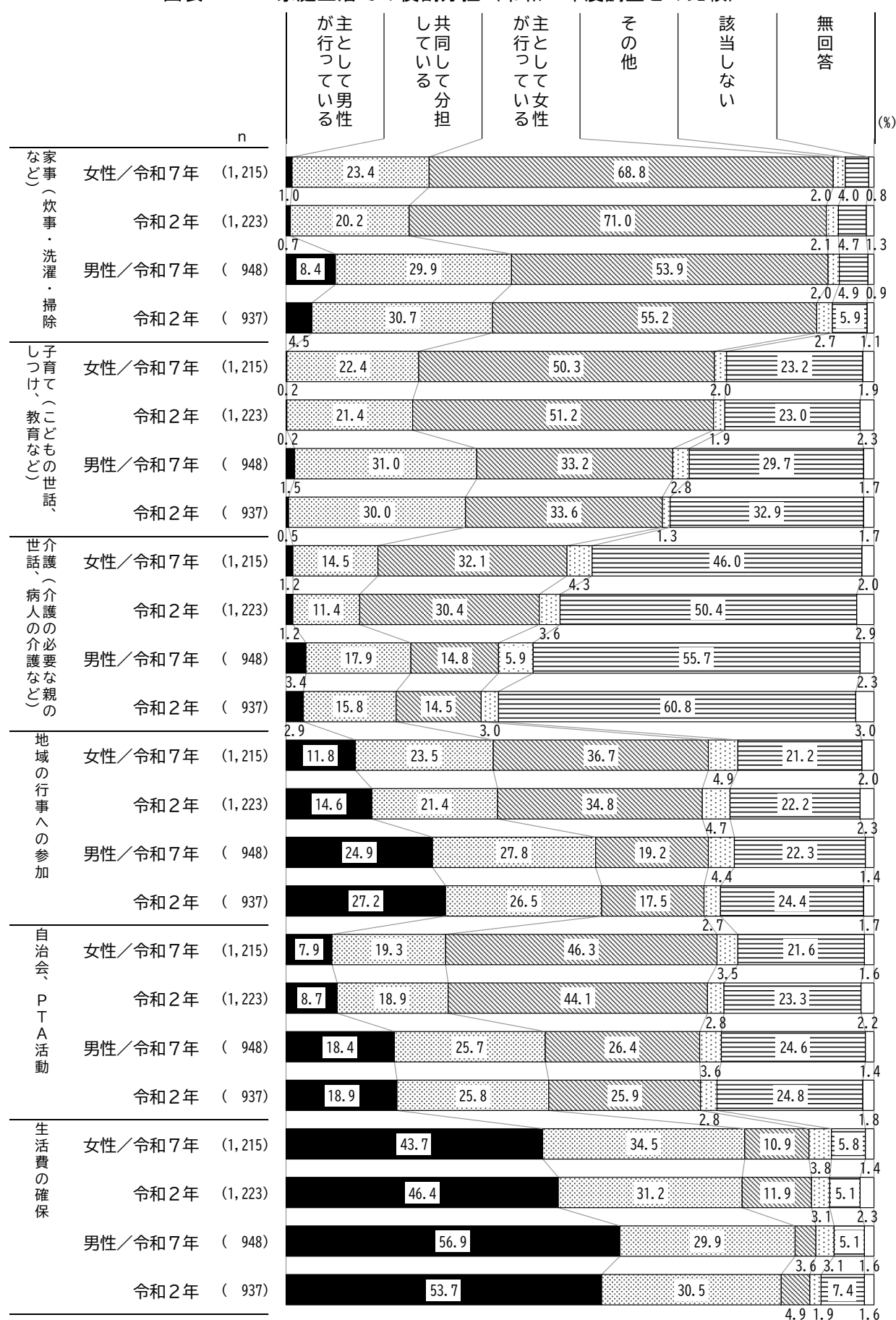
【生活費の確保】では、女性20～30歳代、男性20歳代を除くすべての年代で「主として男性が行っている」が最も高く、60歳代男性では6割強となっている。

【家計の管理】では男性30歳代を除くすべての年代で「主として女性が行っている」が最も高くなっている。特に女性の70歳以上は6割強と最も高くなっている。

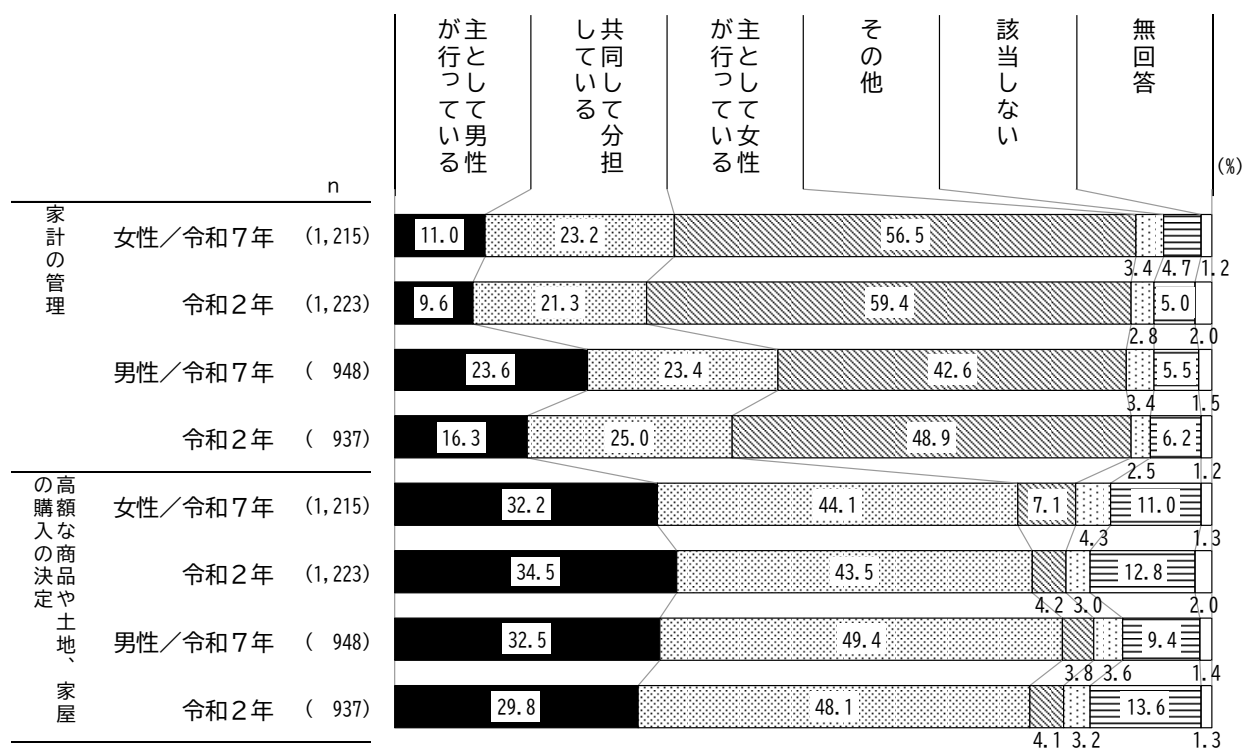
【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】では「共同して分担している」が男女ともにすべての年代で最も高くなっており、特に男性の40歳代、60歳代、70歳以上では半数以上を占めている。

（図表2－2）

図表 2-3 家庭生活での役割分担（令和2年度調査との比較）



#### 第IV章 調査の結果



令和2年度調査と比較すると、【地域の行事への参加】では「主として男性が行っている」が女性で2.8ポイント減少となっている。【生活費の確保】では「共同して分担している」が女性で3.3ポイント増加しており、「主として男性が行っている」が男性で3.2ポイント増加している。【家計の管理】では「主として女性が行っている」が女性で2.9ポイント、男性で6.3ポイントそれぞれ減少となっている。

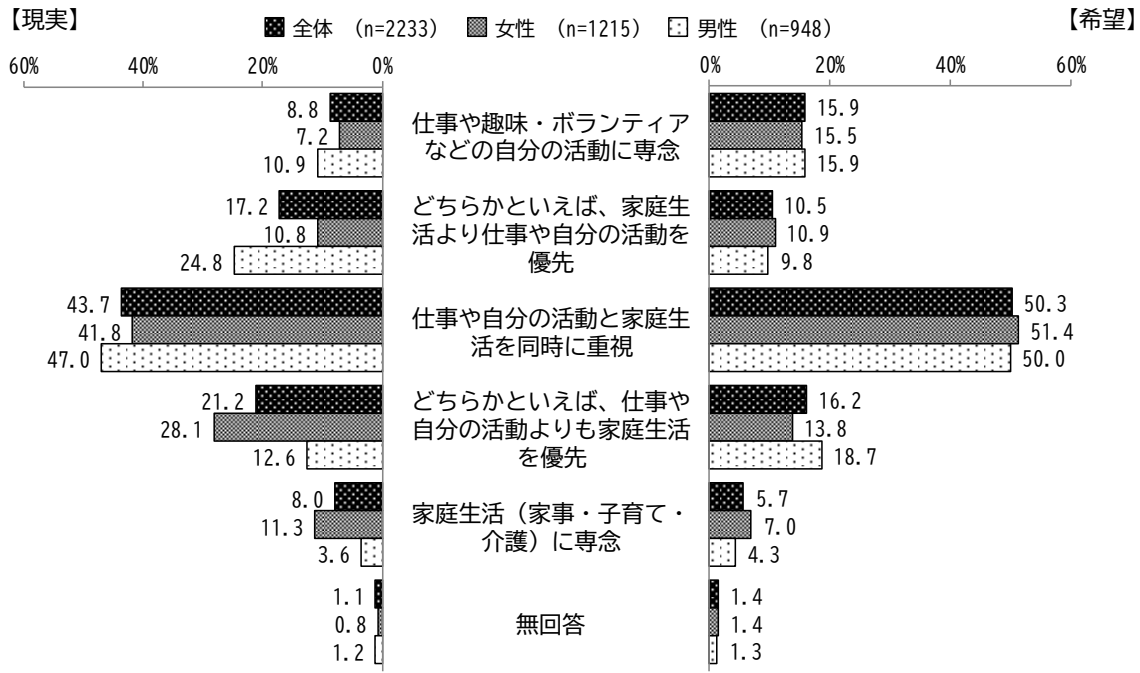
(図表2-3)

(2) 家庭生活の優先度

◎【現実】【希望】、男女ともに「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が最も高くなっている

問5 家庭生活（家事・子育て・介護）の考え方について、あなたは「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。（それぞれ1つずつに○）

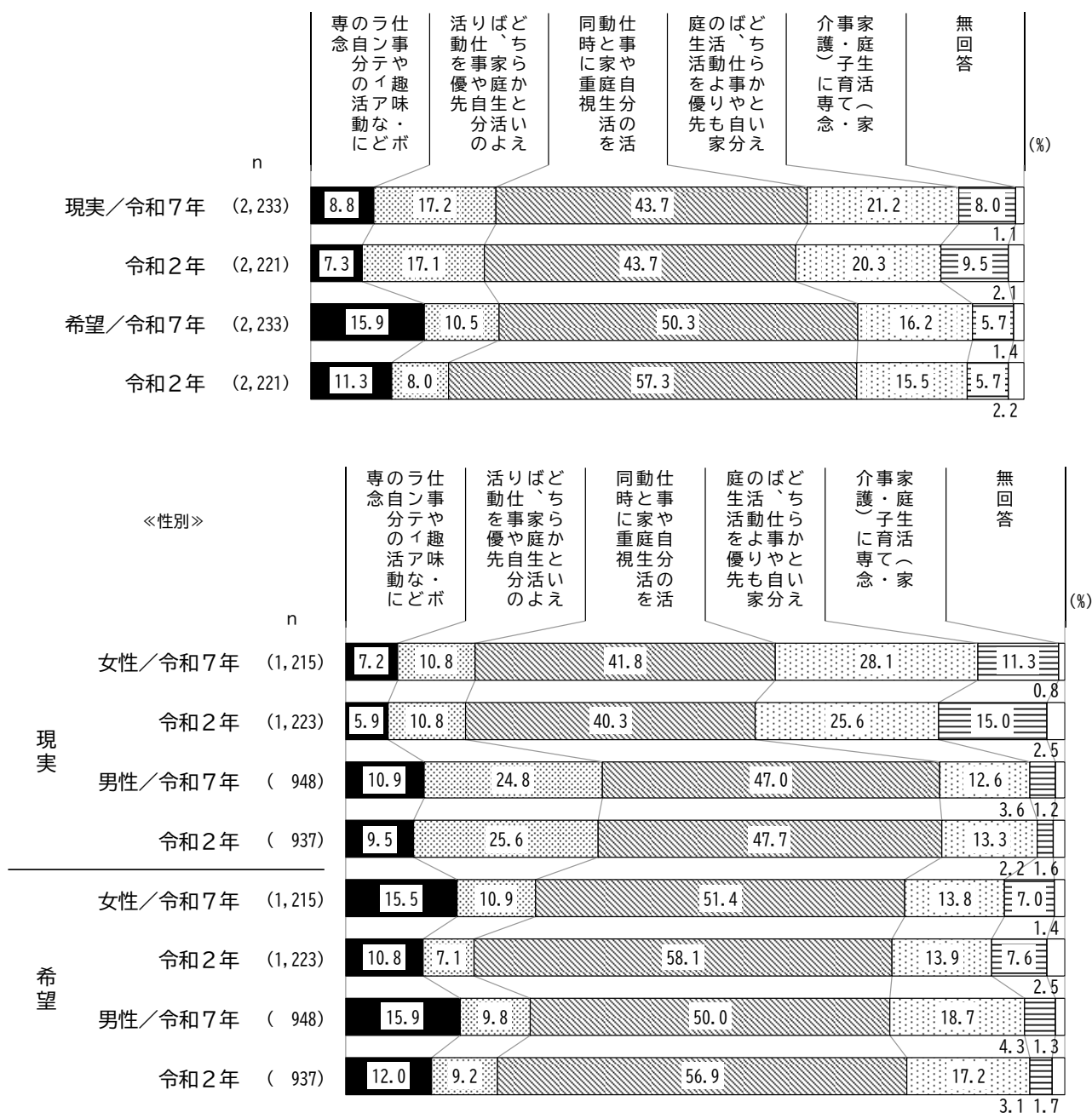
図表 2－4 家庭生活の優先度



家庭生活の優先度についての現実と希望を比較すると、【現実】では男女ともに「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が、女性が41.8%、男性が47.0%で最も高くなっている。次いで、女性では「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」が28.1%、男性では「どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先」が24.8%となっている。

一方、【希望】では男女ともに「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が過半数を占めている。（図表 2－4）

図表 2－5 家庭生活の優先度（令和2年度調査との比較）

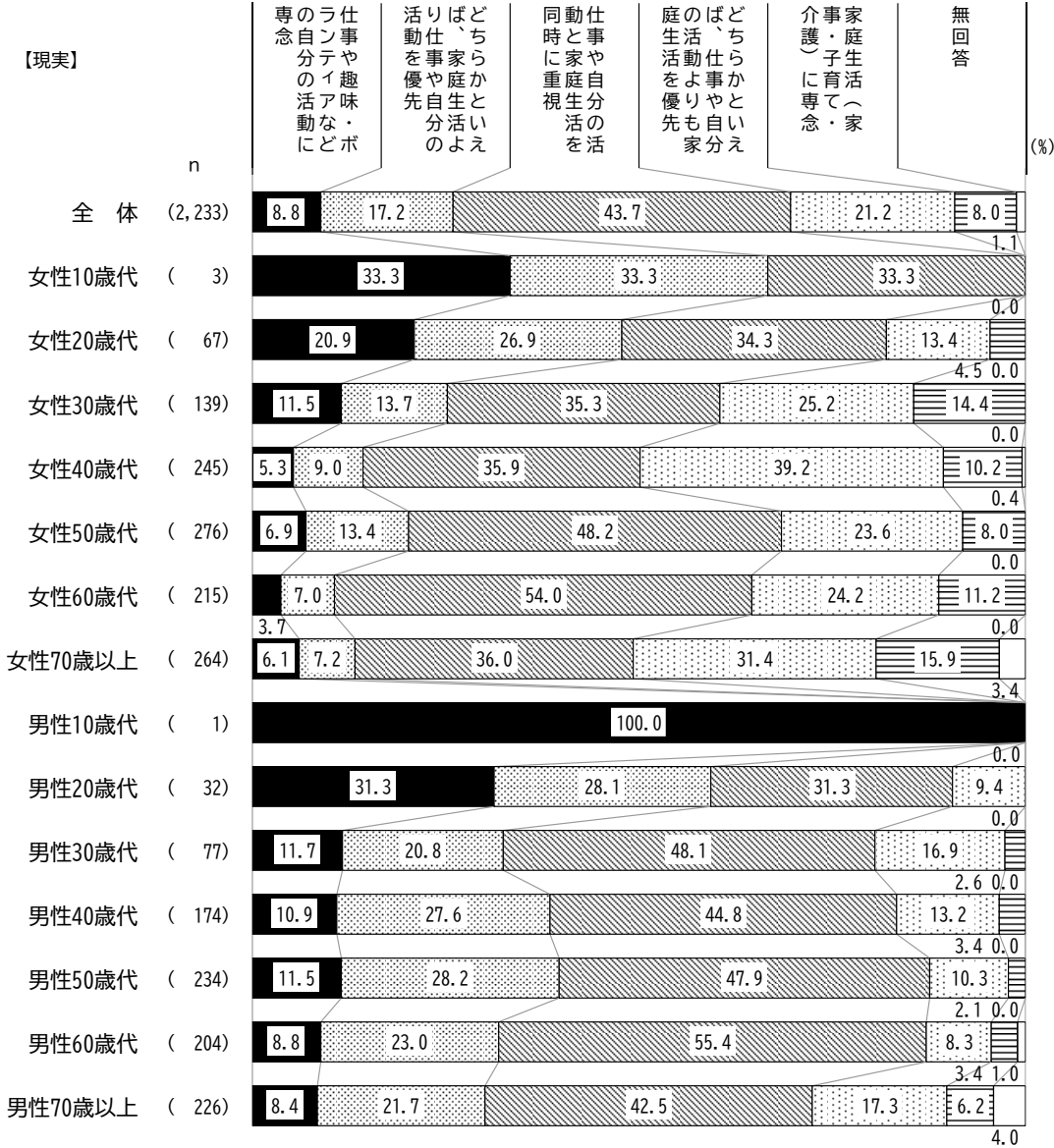


令和2年度調査と比較すると、全体でみると【現実】では「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」は令和2年度調査（7.3%）から令和7年度調査（8.8%）で1.5ポイント増加している。

【希望】では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が令和2年度調査（57.3%）から令和7年度調査（50.3%）で7.0ポイント減少している。

性別でみると【現実】では「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」は、女性で令和2年度調査（25.6%）から令和7年度調査（28.1%）で2.5ポイント増加している。【希望】では「仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念」は、女性で令和2年度調査（10.8%）から令和7年度調査（15.5%）で4.7ポイント増加、男性では令和2年度調査（12.0%）から令和7年度調査（15.9%）で3.9ポイント増加している。（図表2－5）

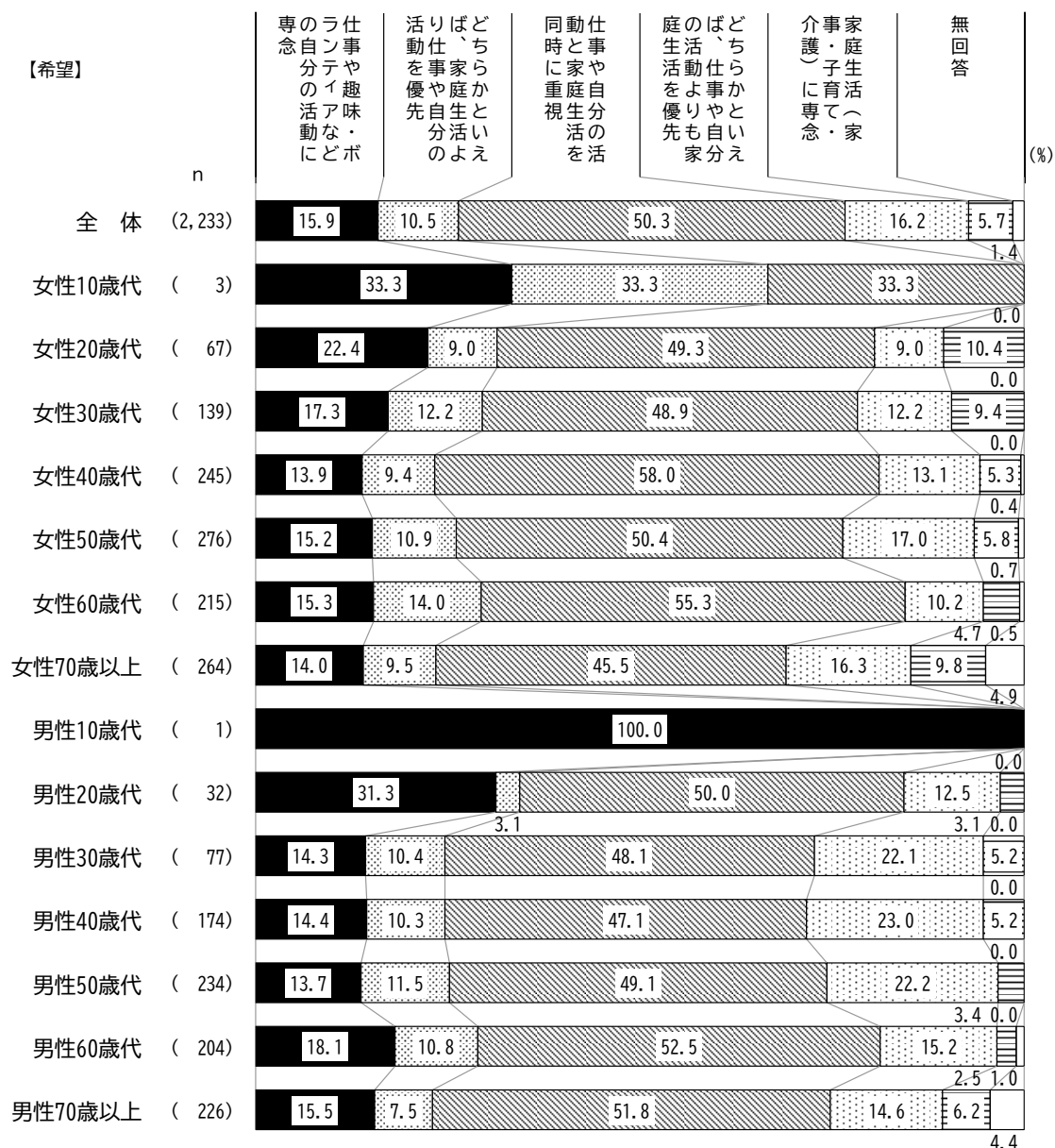
図表 2－6 家庭生活の優先度（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【現実】について、性／年齢別でみると、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」は、男女とも60歳代で5割台半ばとそれぞれ高くなっている。（図表 2－6）

図表 2-7 家庭生活の優先度（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【希望】について、性／年齢別でみると、女性40～60歳代、男性20歳代、60歳以上で「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」の割合が過半数を占めている。（図表 2-7）

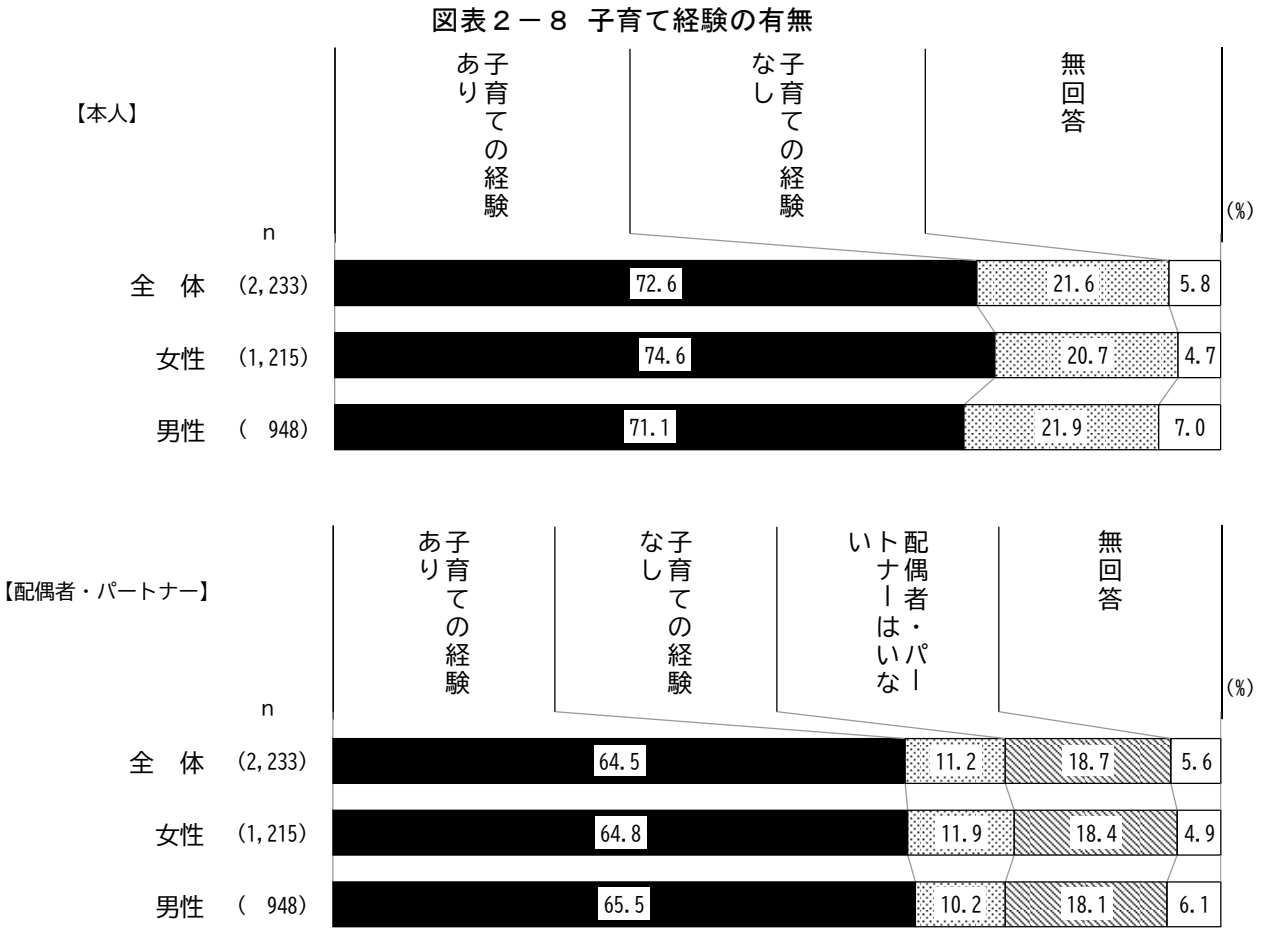


(3) 子育て経験の有無

◎「あり」は【本人】で7割強、【配偶者・パートナー】で6割台半ば

新規調査

問6 あなたと配偶者・パートナーは、今までに子育ての経験はありますか。(配偶者・パートナーがいない場合、(2)は選択肢「3」をお選びください。  
(それぞれ1つずつに○)



子育て経験の有無について性別でみると、男女とも【本人】(自分自身)は7割台、【配偶者・パートナー】は6割台半ばとなっている。(図表2-8)

(4) 子育てへのかかわり

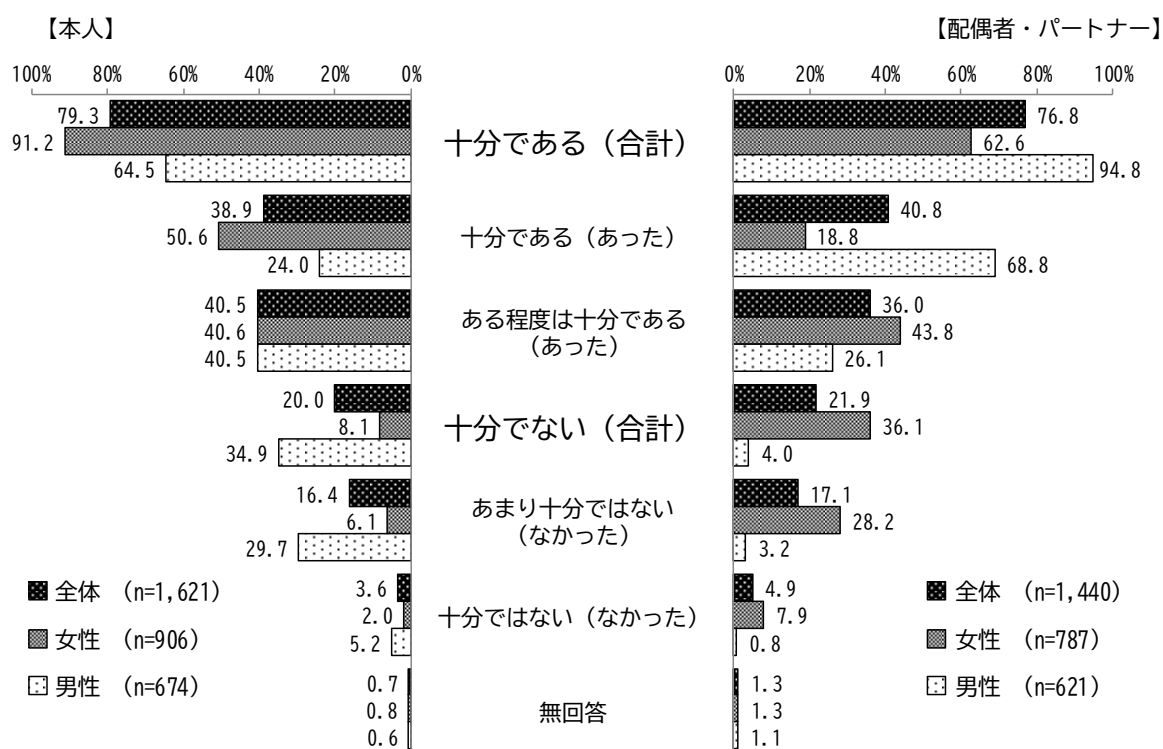
◎【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりについて、女性の36.1%が《十分でない（合計）》としている

【問6で「子育ての経験あり」に1つでも回答した方に】

問7 あなたと配偶者・パートナーの子育てのかかわりは十分だと思いますか。

(それぞれ1つずつに○)

図表2-9 子育てへのかかわり



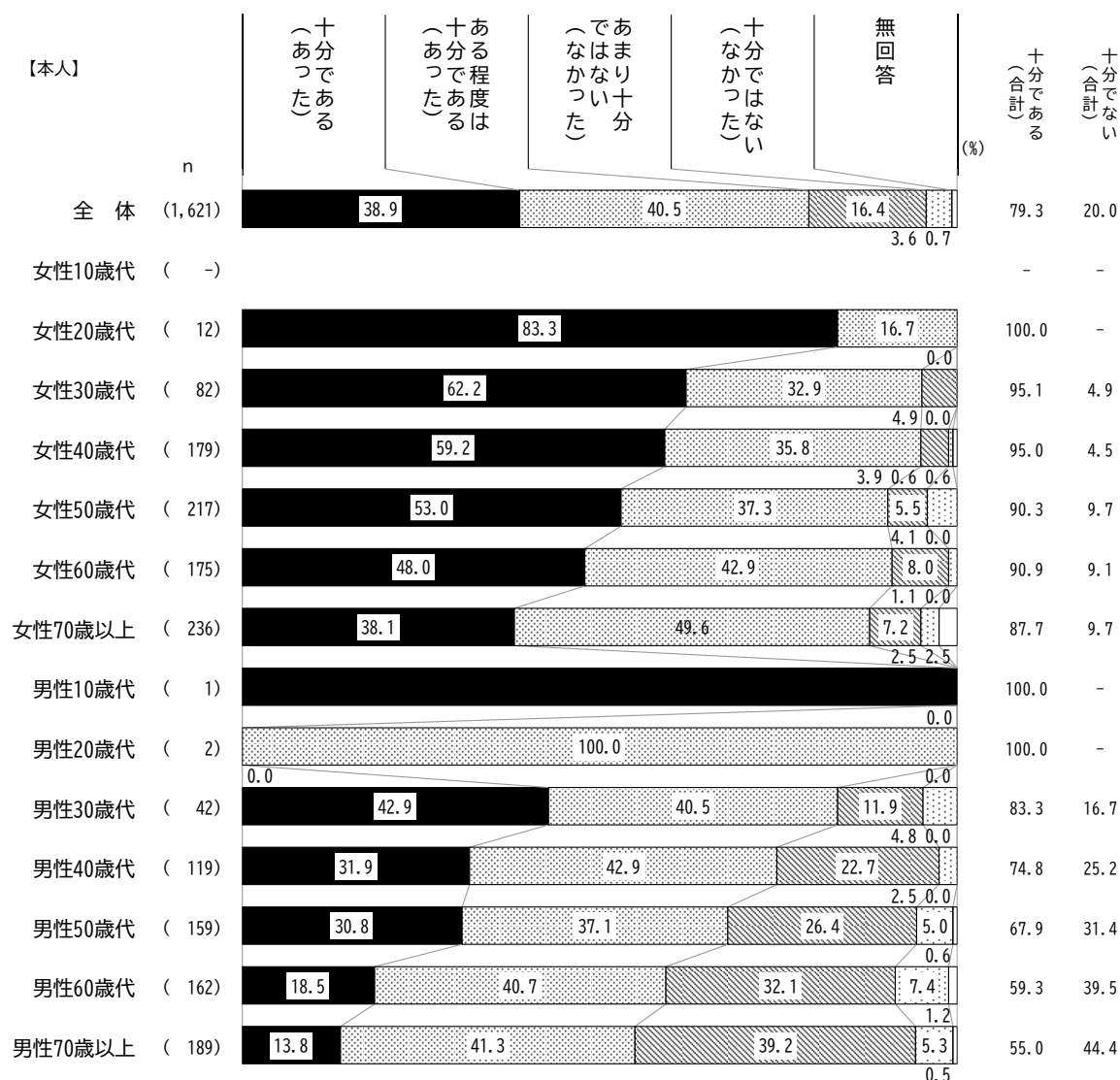
子育て経験がある方に、子育てのかかわり方について聞いたところ、全体でみると【本人】（自分自身）については《十分である（合計）》（「十分である（あった）」と「ある程度は十分である（あった）」の合計）が79.3%となっており、【配偶者・パートナー】については76.8%となっている。

性別でみると、男女とも【本人】（自分自身）、【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりについて、《十分である（合計）》が《十分でない（合計）》（「あまり十分ではない（なかった）」と「十分ではない（なかった）」の合計）を上回っている。

【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりについて、《十分でない（合計）》は女性で36.1%、男性は4.0%となっている。

また、男性の34.9%が【本人】（自分自身）の子育てのかかわりを《十分でない（合計）》と考えている。（図表2-9）

図表 2-10 子育てへのかかわり（性／年齢別）

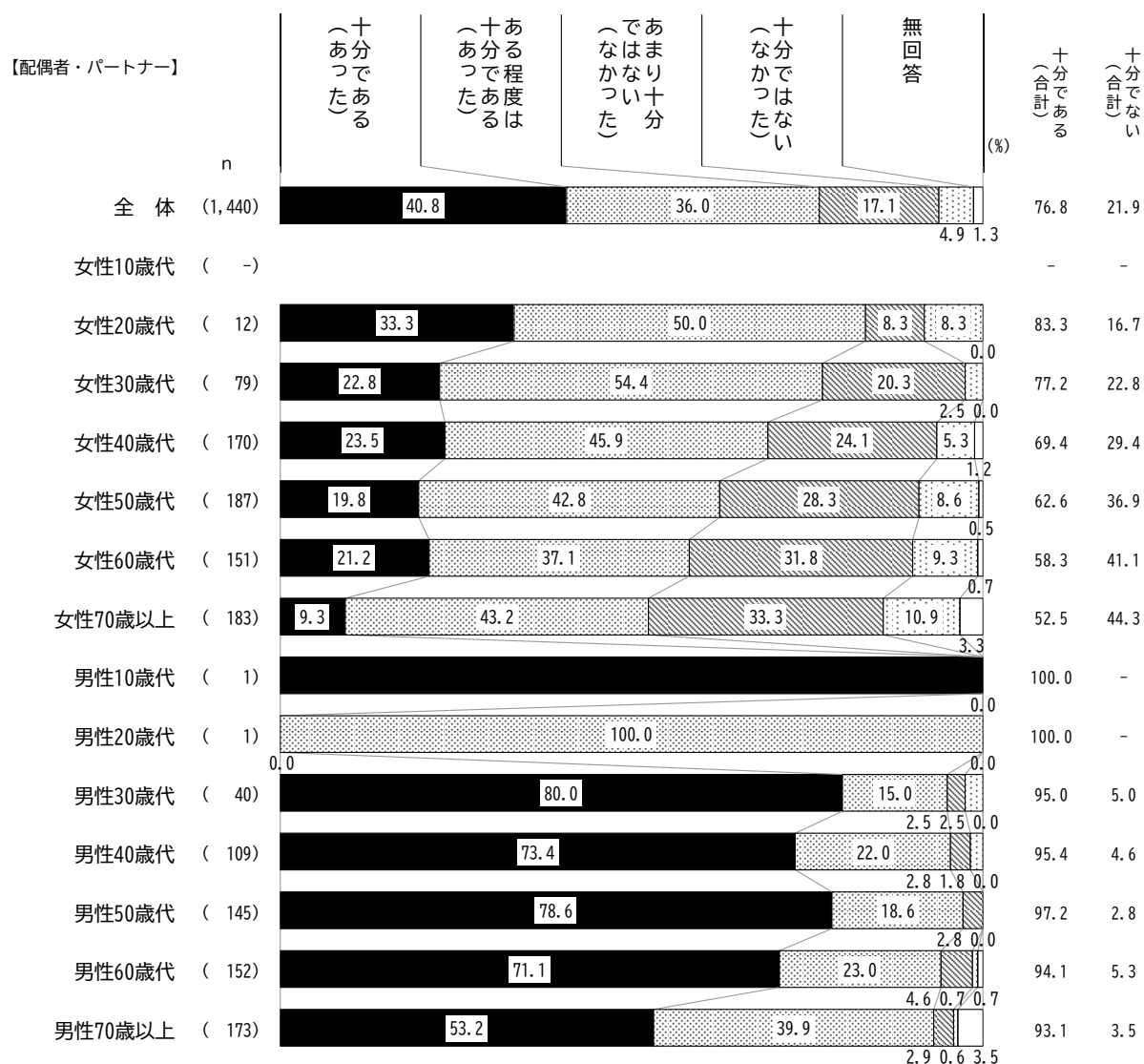


※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10～20歳代及び男性10～20歳代は参考扱いとする。

子育て経験がある方に、子育てのかかわり方について、性／年齢別でみると、【本人】（自分自身）について《十分である（合計）》は女性ではすべての年代で8割以上となっており、年代が上がるにつれて概ね減少傾向となっている。男性では30歳代が83.3%で最も高くなっている。（図表 2-10）

## 第IV章 調査の結果

図表 2-11 子育てへのかわり（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10～20歳代及び男性10～20歳代は参考扱いとする

子育て経験があると答えた方に、子育てのかかわり方について聞いたところ、性／年齢別でみると、【配偶者・パートナー】については、《十分である（合計）》は女性の30歳代が7割台半ばを超えているが、年代が上がるにつれて減少している。一方、男性はすべての年代で《十分である（合計）》が9割を超えている。（図表 2-11）

## (5) 子育てへのかかわりが十分ではない理由

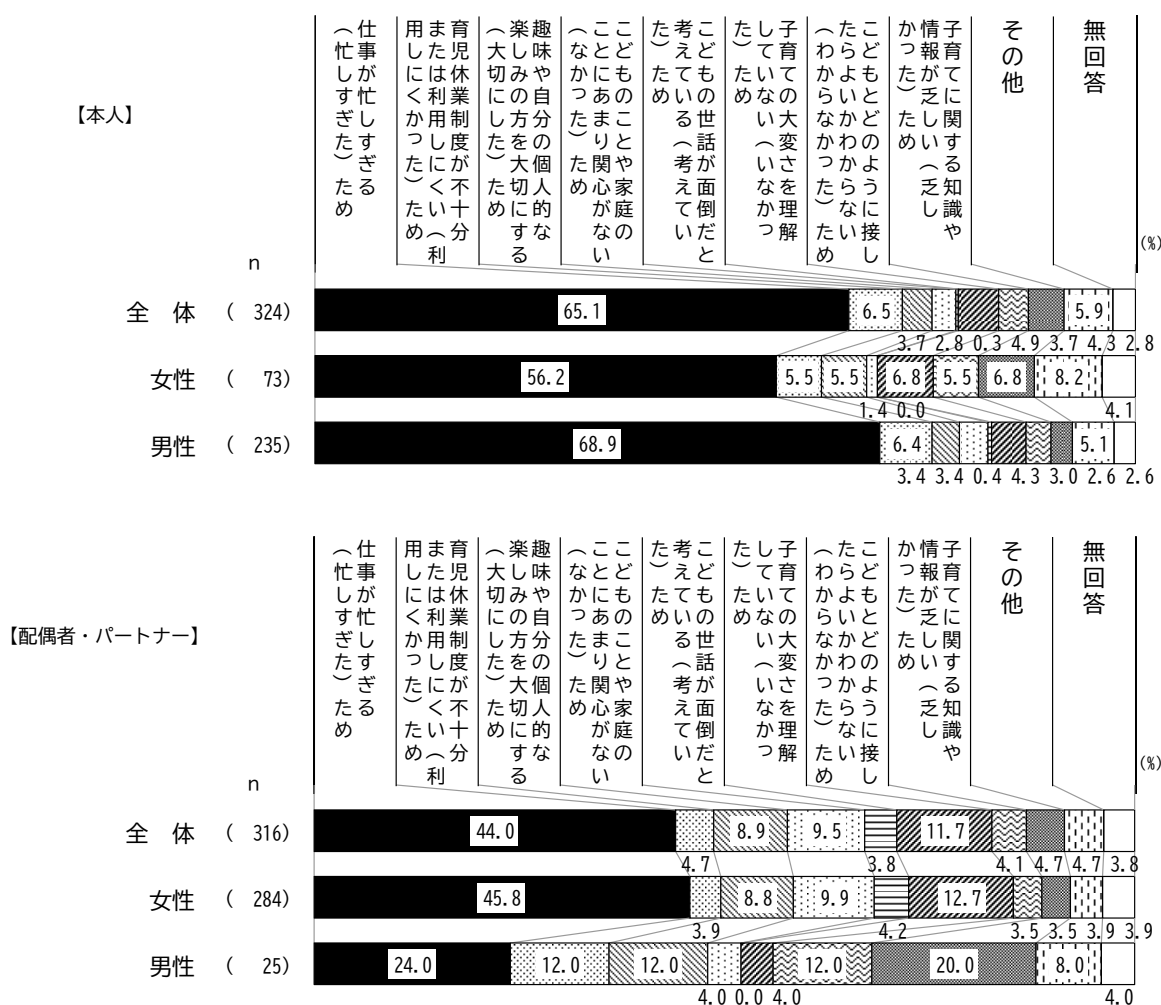
◎かかわりが十分ではない理由は、「仕事が忙しすぎる」が最も高くなっている

【問7で「3 あまり十分ではない（なかった）」または「4 十分ではない（なかった）」と回答した方に伺います】

問7-1 かかわりが十分ではない（なかった）のは何が原因であると思いますか。

(それぞれ1つずつに○)

図表2-12 子育てへのかかわりが十分ではない理由

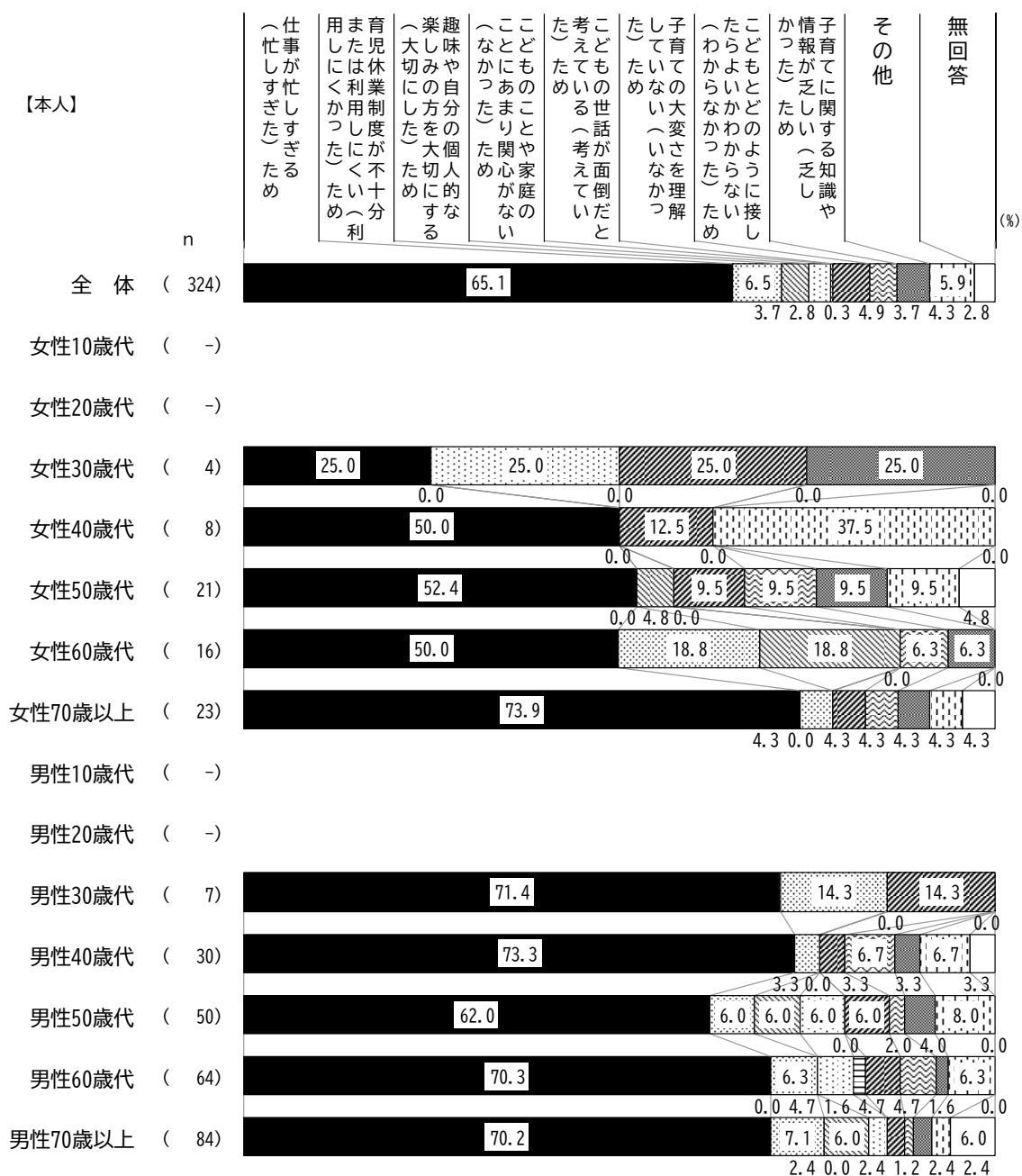


子育てへのかかわりが十分ではない（なかった）理由について聞いたところ、全体でみると「仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため」が【本人】（65.1%）、【配偶者・パートナー】（44.0%）ともに最も高くなっている。

性別でみると、【本人】では「仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため」が女性（56.2%）、男性（68.9%）と、男性が女性を12.7ポイント上回っている。【配偶者・パートナー】では「仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため」が女性（45.8%）、男性（24.0%）と、女性が男性を21.8ポイント上回っている。（図表2-12）

#### 第IV章 調査の結果

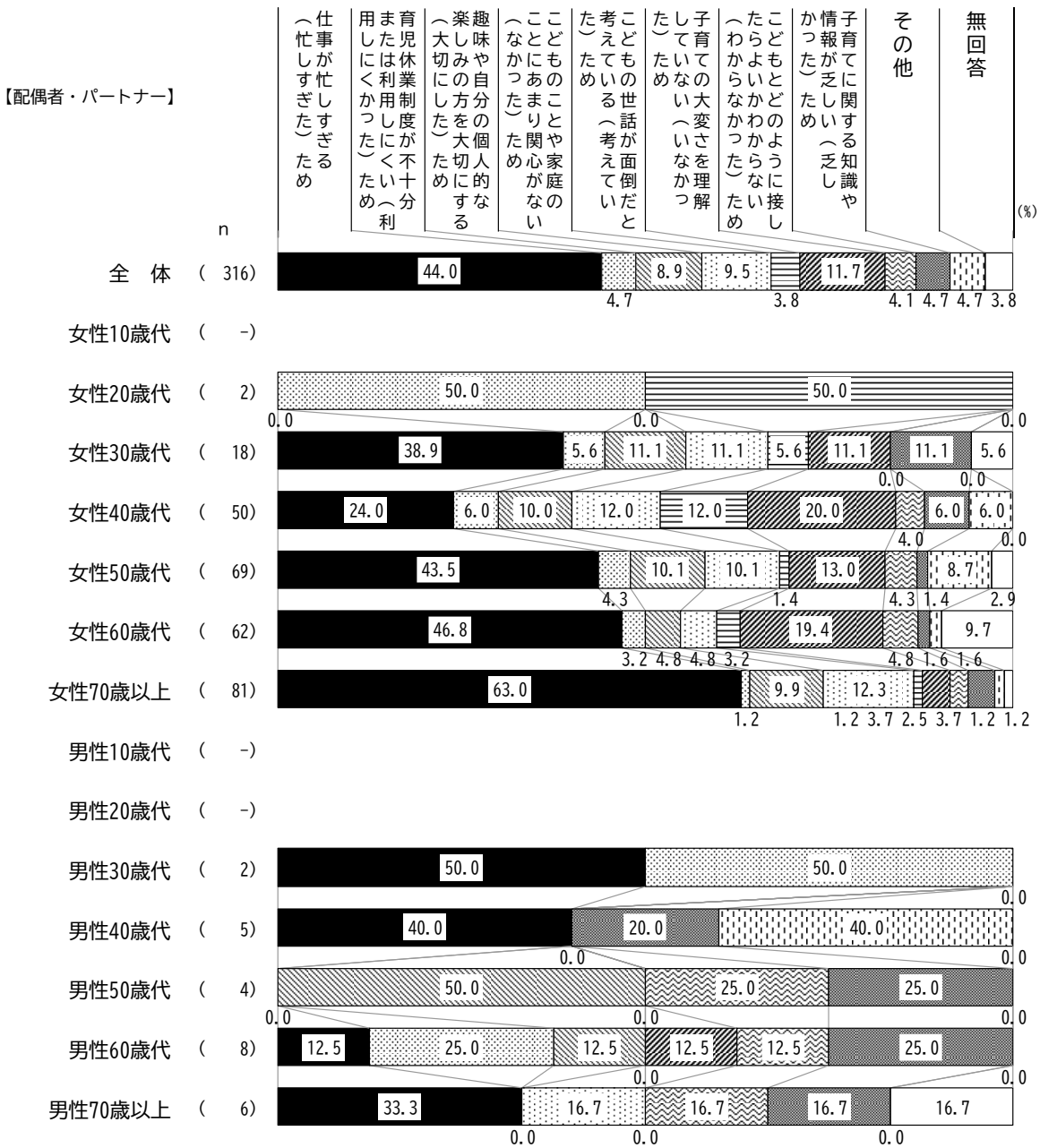
図表 2-13 子育てへのかかわりが十分ではない理由（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性のすべての年代、男性の30歳代以下は参考扱いとする。

【本人】（自分自身）の子育てへのかかわりが十分ではない理由を性／年齢別でみると、男性のすべての年代で「仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため」が最も高く、いずれも過半数を占めている。（図表 2-13）

図表 2-14 子育てへのかかわりが十分ではない理由（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性の30歳代以下、男性のすべての年代は参考扱いとする。

【配偶者・パートナー】の子育てへのかかわりが十分ではない理由を性／年齢別でみると、女性ではすべての年代で「仕事が多すぎる（忙しすぎた）ため」が最も高くなっている。（図表 2-14）

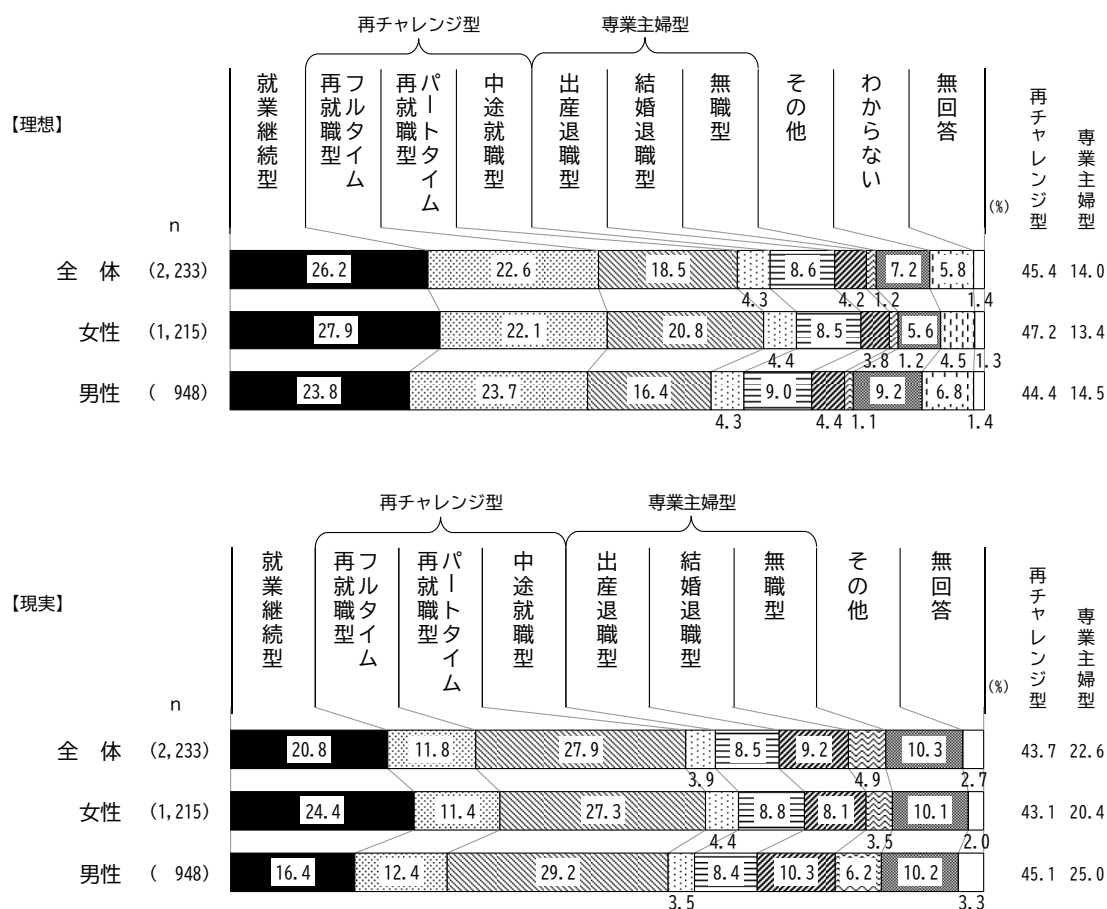
### 3. 男女の就業・仕事について

#### (1) 女性の働き方の理想と現実

◎【理想】の働き方は、《再チャレンジ型》が4割台半ばとなっており、【現実】の働き方は、《再チャレンジ型》が4割強となっている

問8 あなたは、女性の働き方について、「理想」はどうあるべきだと思いますか。また、あなた自身について（男性の場合は配偶者・パートナーについて）、「現実」にはどうですか（どうでしたか）。※結婚には事実婚を含みます。（それぞれ1つずつに○）

図表3-1 女性の働き方の理想と現実



※説明を簡略化するため、以下のように選択肢を再定義している。

再定義した選択肢	本来の選択肢
就業継続型	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
フルタイム再就職型	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
パートタイム再就職型	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
中途就職型	結婚後または子育て終了時から仕事をもつ
出産退職型	こどもができるまでは仕事をもち、こどもができた後家事や子育てに専念する
結婚退職型	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事などに専念する
無職型	仕事はもたない



分析を明確にするために、「フルタイム再就職型」、「パートタイム再就職型」、「中途就職型」の3つを《再チャレンジ型》としてまとめた。また、「出産退職型」、「結婚退職型」、「無職型」の3つを《専業主婦型》としてまとめた。

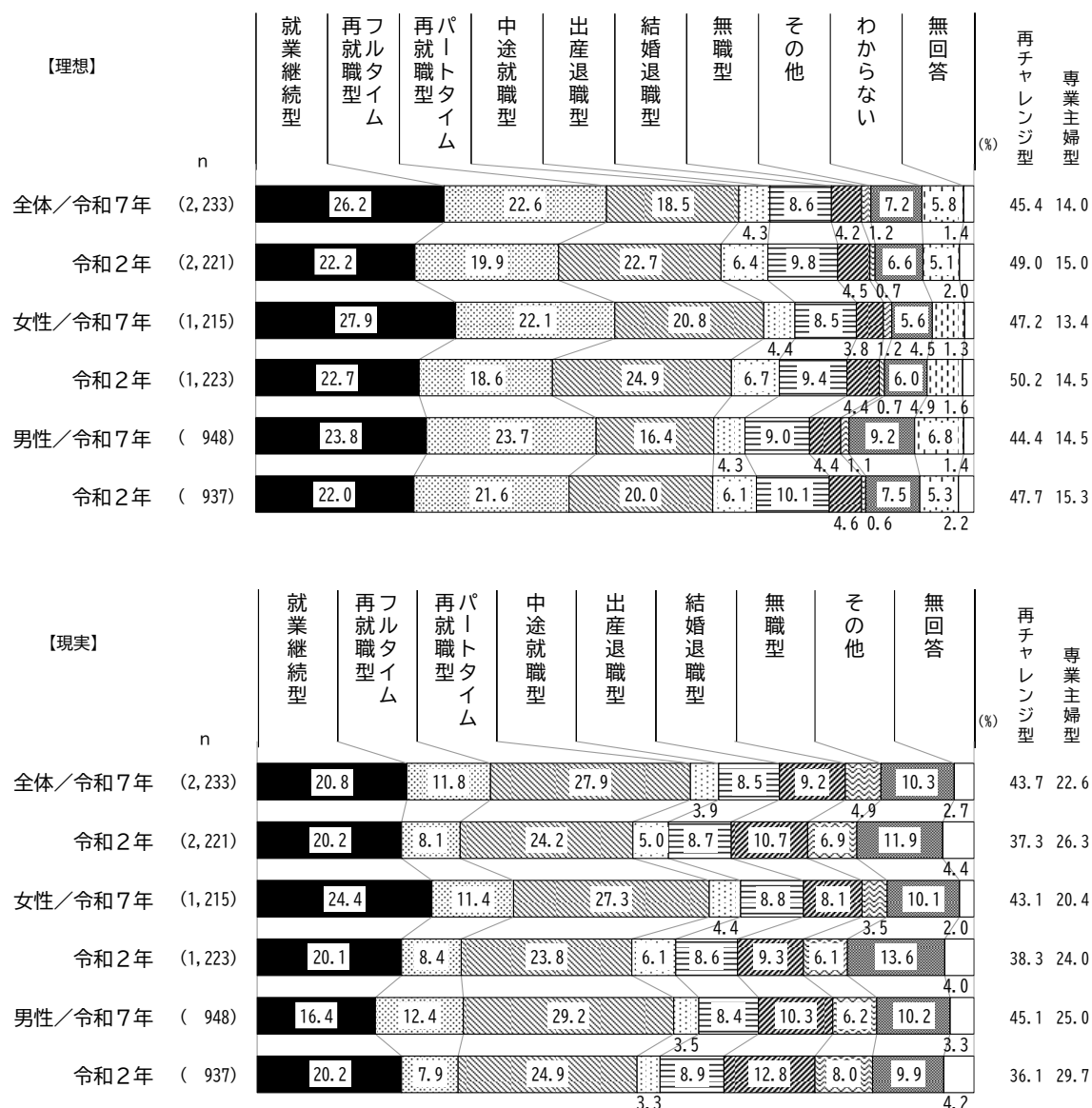
全体でみると、【理想】の働き方は「就業継続型」が26.2%で最も高く、次いで「フルタイム再就職型」が22.6%、「パートタイム再就職型」が18.5%となっている。また、《再チャレンジ型》が45.4%となっており、《専業主婦型》の14.0%を31.4ポイント上回っている。

【現実】の働き方は「パートタイム再就職型」が27.9%と最も高く、次いで「就業継続型」が20.8%、「フルタイム再就職型」が11.8%となっている。また、《再チャレンジ型》が43.7%となっており、《専業主婦型》の22.6%を21.1ポイント上回っている。

性別でみると、【理想】の働き方は「パートタイム再就職型」で女性が20.8%、男性が16.4%となっており、男性より女性が4.4ポイント上回っている。《再チャレンジ型》では女性が47.2%、男性が44.4%と、女性が男性より2.8ポイント上回っている。一方、《専業主婦型》では女性は13.4%、男性は14.5%となっている。

【現実】では「就業継続型」で女性が24.4%、男性が16.4%となっており、男性より女性が8.0ポイント上回っている。《再チャレンジ型》では女性が43.1%、男性が45.1%と、男性が女性より2.0ポイント上回っている。一方、《専業主婦型》では女性は20.4%、男性は25.0%となっている。（図表3-1）

図表3-2 女性の働き方の理想と現実（令和2年度調査との比較）

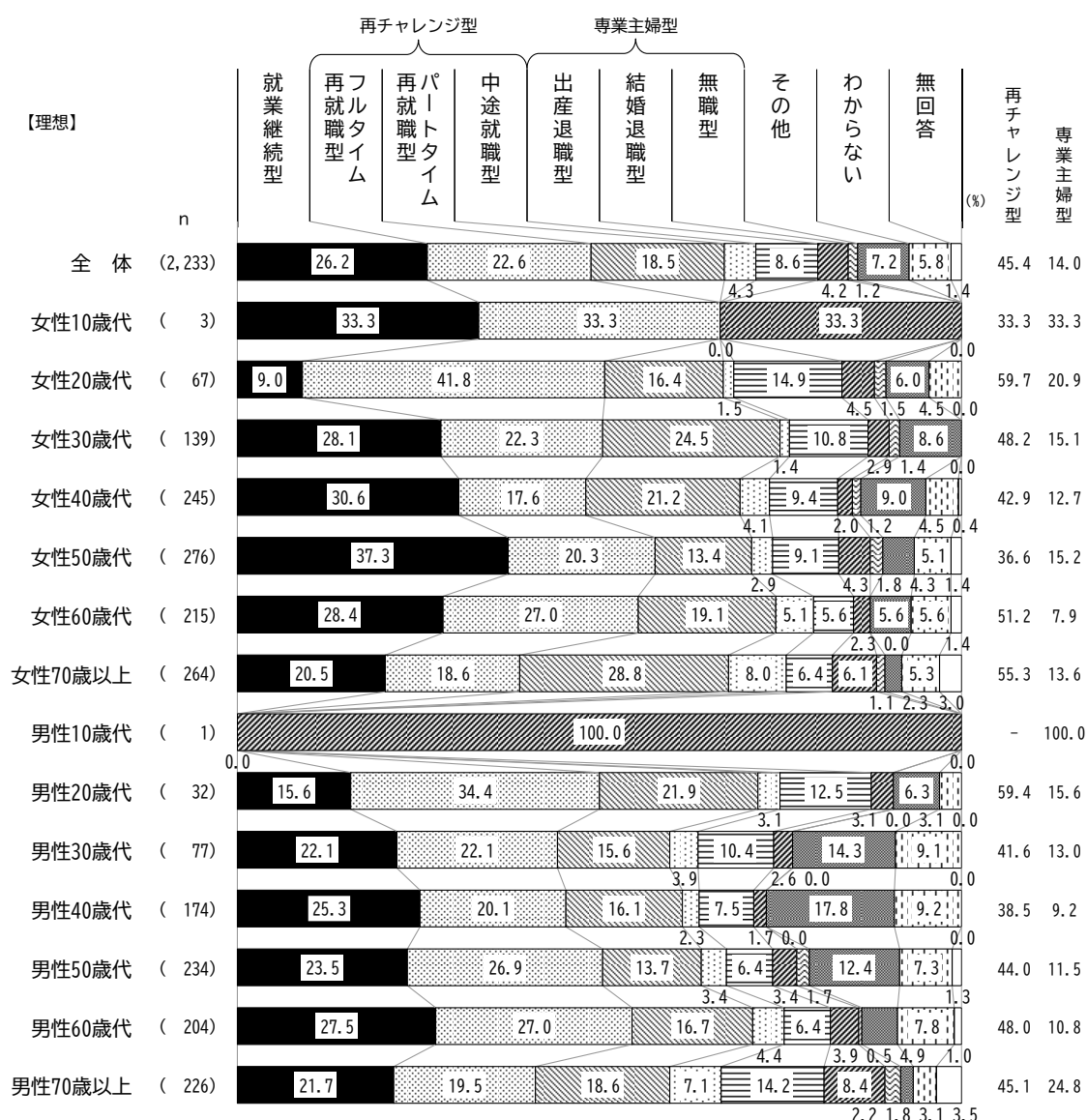


令和2年度調査と比較すると、【理想】では全体で《再チャレンジ型》が3.6ポイント減少しており、《専業主婦型》は1.0ポイント減少している。

性別でみると、男女ともに《専業主婦型》、《再チャレンジ型》のいずれも減少している。また、女性では「就業継続型」が5.2ポイント増加、「フルタイム再就職型」が3.5ポイント増加しており、男性では「パートタイム再就職型」が3.6ポイント減少、「フルタイム再就職型」が2.1ポイント増加、「就職継続型」が1.8ポイント増加している。

【現実】では「就業継続型」が全体、女性で増加、男性で減少している。《再チャレンジ型》は全体では6.4ポイント、女性では4.8ポイント、男性では9.0ポイント増加している。（図表3-2）

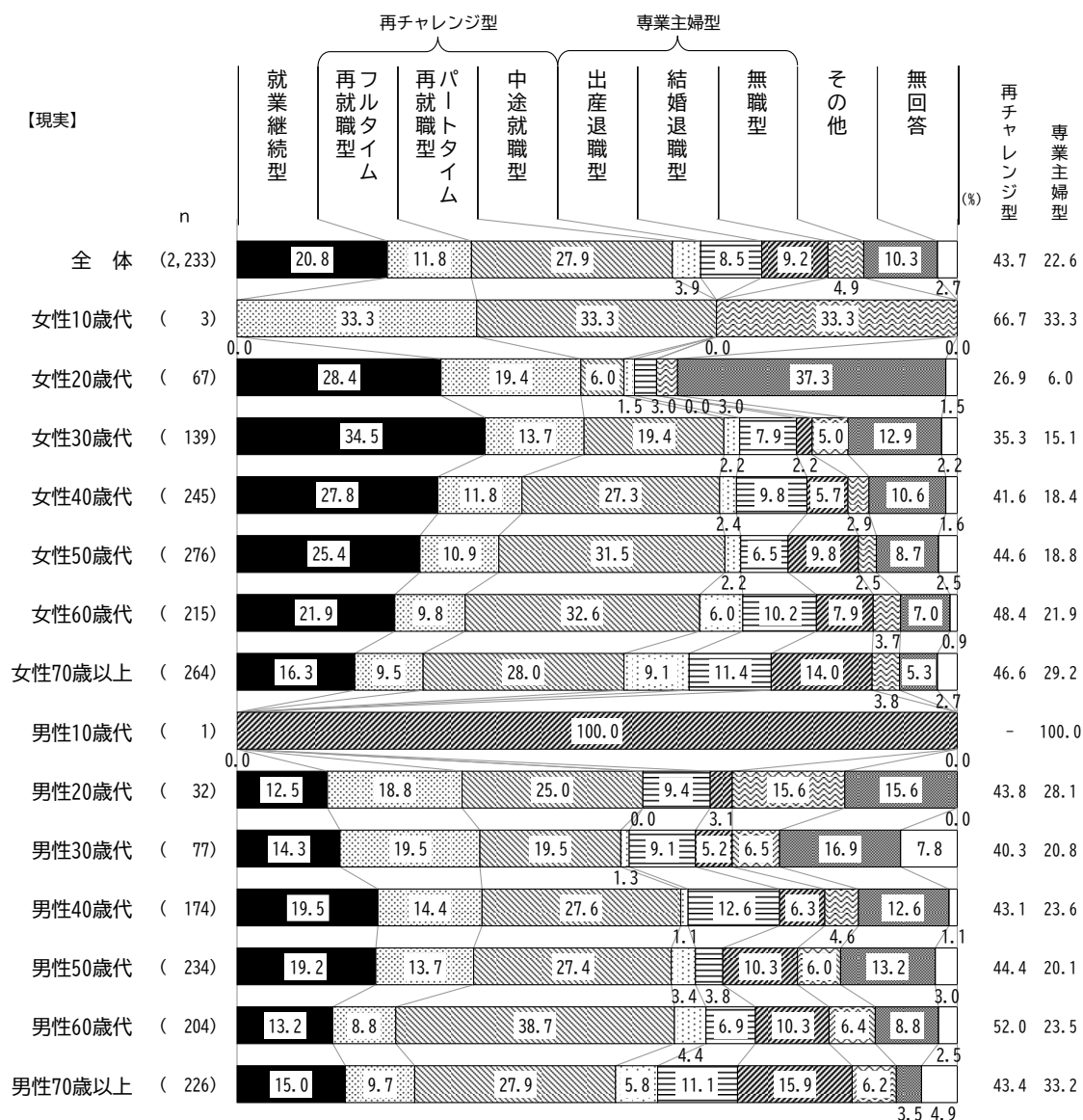
図表3-3 女性の働き方の理想と現実（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【理想】について、性／年齢別でみると、女性では《再チャレンジ型》は50歳代を除くすべての年代で4割を超えており、20歳代と60歳代以上で過半数を占めている。男性では《再チャレンジ型》が40歳代を除くすべての年代で4割を超えており、20歳代では過半数を占めている。（図表3-3）

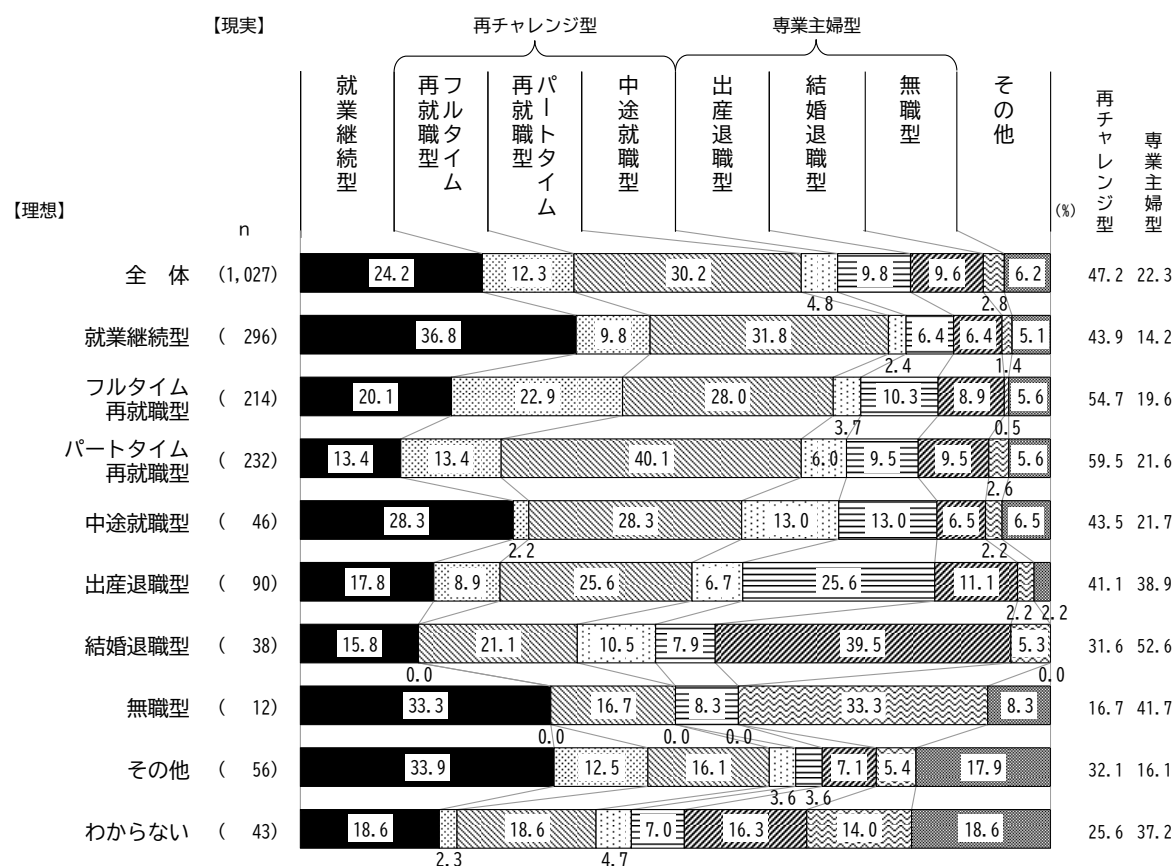
図表3-4 女性の働き方の理想と現実（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【現実】について、性／年齢別でみると、「就業継続型」は女性30歳代で3割台半ばと他の年代と比べて高くなっている。《再チャレンジ型》は女性では20歳代～60歳代で年代が上がるにつれ増加しており、最も高い60歳代で48.4%となっている。男性では60歳代（52.0%）で5割強と最も高くなっており、それ以外の年代では4割台となっている。（図表3-4）

図表 3-5 女性の働き方の理想と現実（結婚経験のある女性）



※基数が不足しているため、無職型は参考扱いとする。

【現実】の働き方を【理想】別にみて、女性がどのような働き方を理想とし、それが実現している（一致型）かどうか、また一致ではない場合、現実ではどのような働き方をしているかを分析する。

なお、ここでは分析を明確にするため、対象を《結婚経験のある》女性に限り、かつ【理想】と【現実】をどちらも回答している人に絞り込んでいる。

「就業継続型」を理想とする人の36.8%は現実も「就業継続型」と希望どおり働いており、《再チャレンジ型》が4割強、《専業主婦型》が1割台半ばとなっている。

「フルタイム再就職型」は希望どおり働いている人は22.9%で、現実では「パートタイム再就職型」が28.0%と最も高くなっている。「パートタイム再就職型」では希望どおり働いている人が40.1%で最も高く、「中途就職型」では希望どおり働いている人は「就業継続型」、「パートタイム再就職型」で働いている人がともに28.3%で最も高くなっている。

「出産退職型」は希望どおりの人は25.6%となっており、「パートタイム再就職型」で働いている人も同様に25.6%で最も高くなっている。「結婚退職型」は希望どおりの人が39.5%で最も高くなっている。（図表3-5）

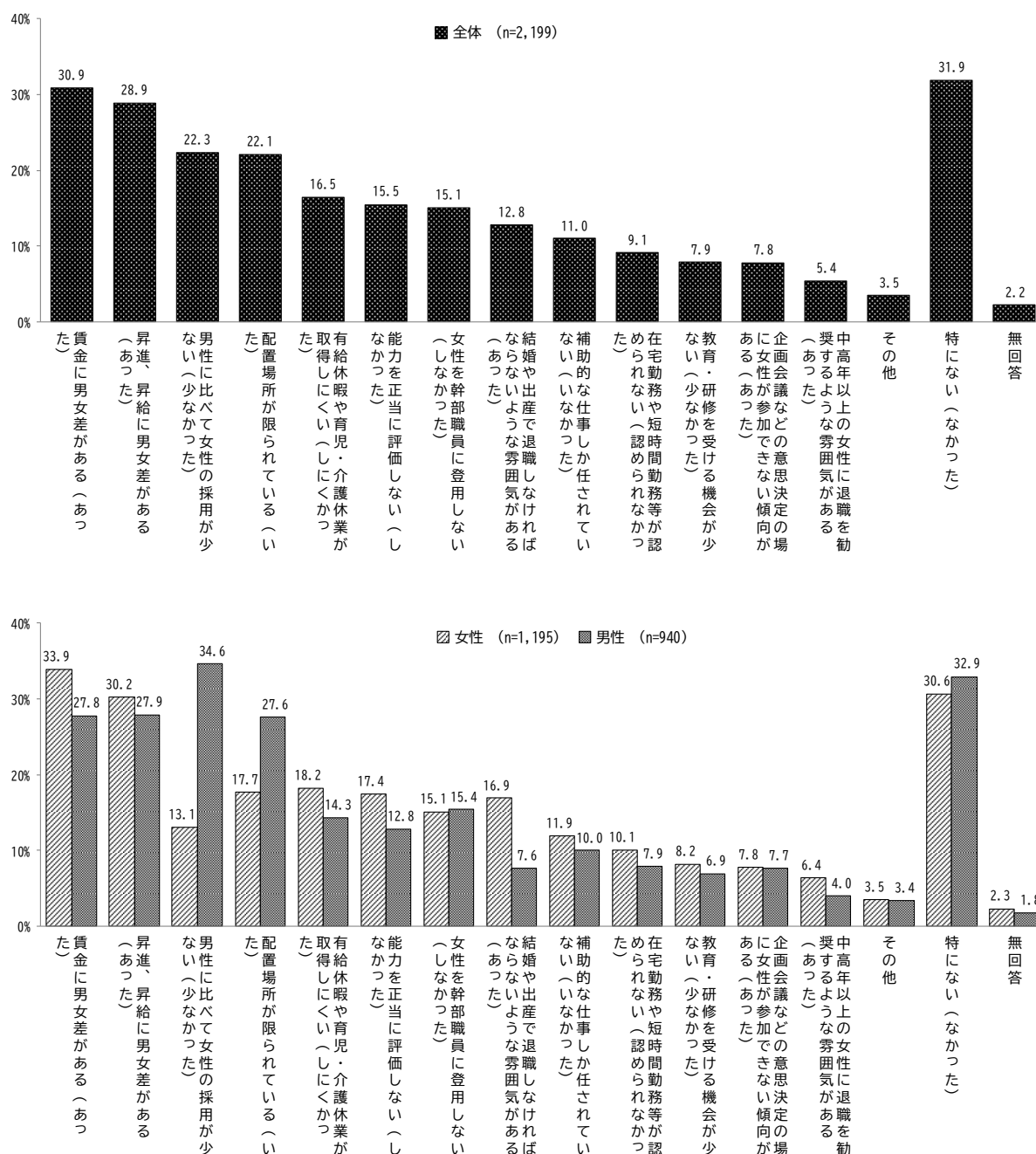
(2) 勤務先の女性の労働環境

◎「賃金に男女差がある(あった)」が最も多く3割を超えている

【就労経験のある方にうかがいます】(就労経験のない方は、問10へ)

問9 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか(ありましたか)。(あてはまるものすべてに○)

図表3-6 勤務先の女性の労働環境

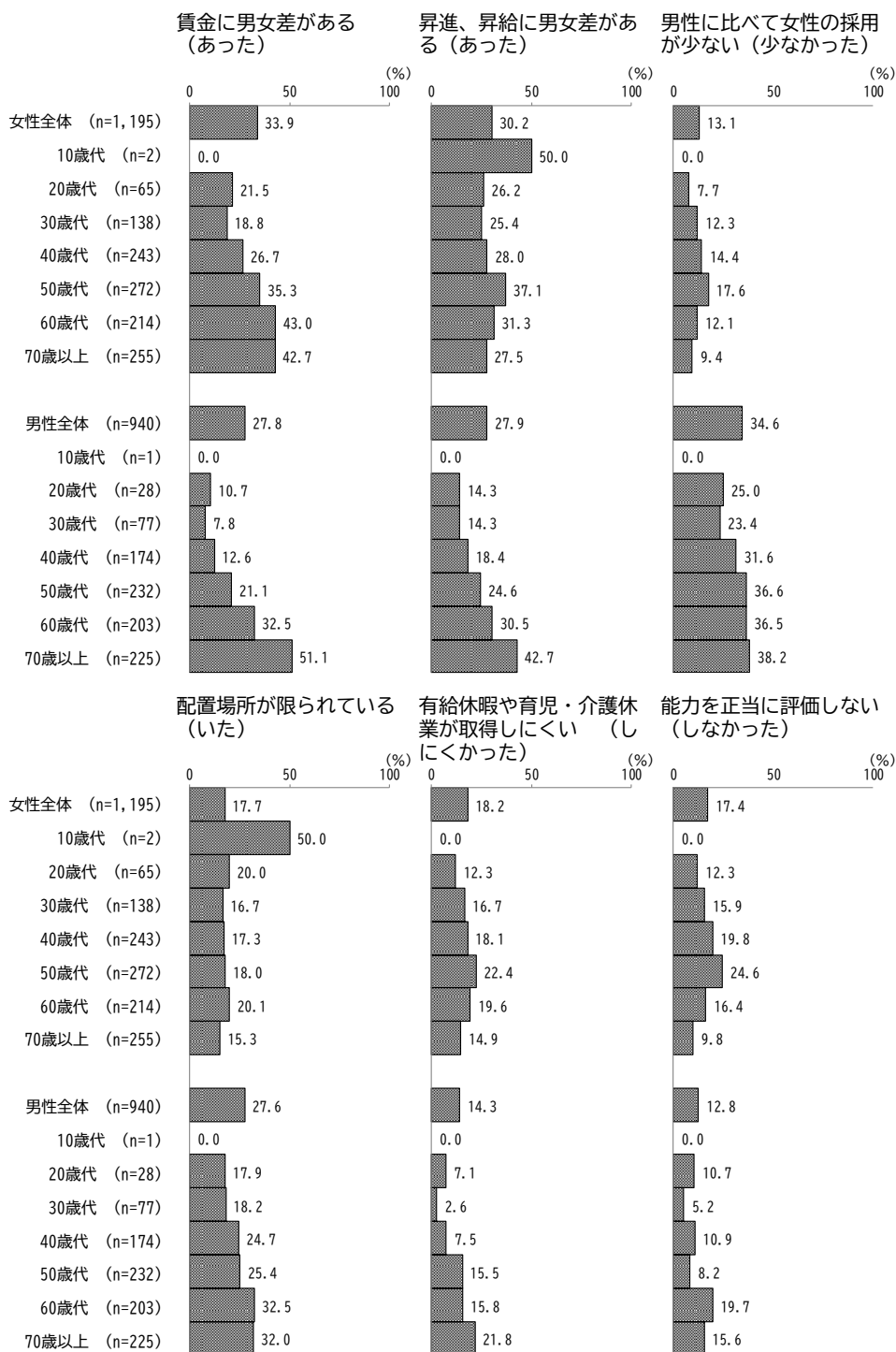


就労経験のある方に、勤務先の女性の労働環境を聞いたところ、全体でみると「特にない」を除き、「賃金に男女差がある（あった）」が30.9%で最も高く、次いで「昇進、昇給に男女差がある（あった）」（28.9%）、「男性に比べて女性の採用が少ない（少なかった）」（22.3%）となっている。

性別でみると、「特にない」を除き、女性では「賃金に男女差がある（あった）」が33.9%で最も高く、次いで「昇進、昇給に男女差がある（あった）」（30.2%）、「有給休暇や育児・介護休業が取得しにくい（しにくかった）」（18.2%）となっている。男性では「男性に比べて女性の採用が少ない（少なかった）」が34.6%で最も高く、次いで「昇進、昇給に男女差がある（あった）」（27.9%）、「賃金に男女差がある（あった）」（27.8%）となっている。（図表3－6）

## 第IV章 調査の結果

図表 3－7 勤務先の女性の労働環境（性／年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「賃金に男女差がある」は、女性では概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、60歳以上で4割強となっている。男性でも同様の傾向が見られ、70歳以上で5割強となっている。（図表 3－7）

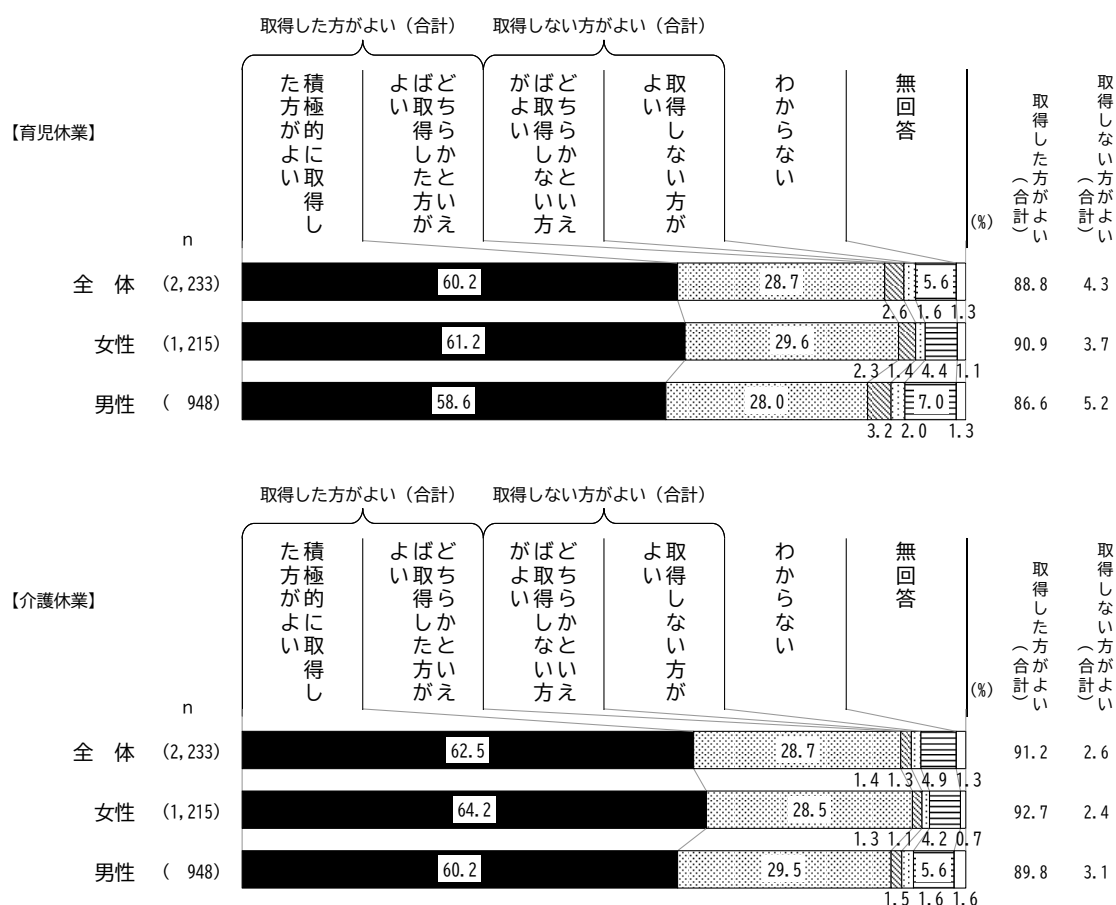


## (3) 男性が育児・介護休業を取得することについての考え

◎《取得した方がよい（合計）》が育児休業で9割弱、介護休業で9割強となっている

**問10** 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。（それぞれ1つずつに○）

図表3－8 男性が育児・介護休業を取得することについての考え

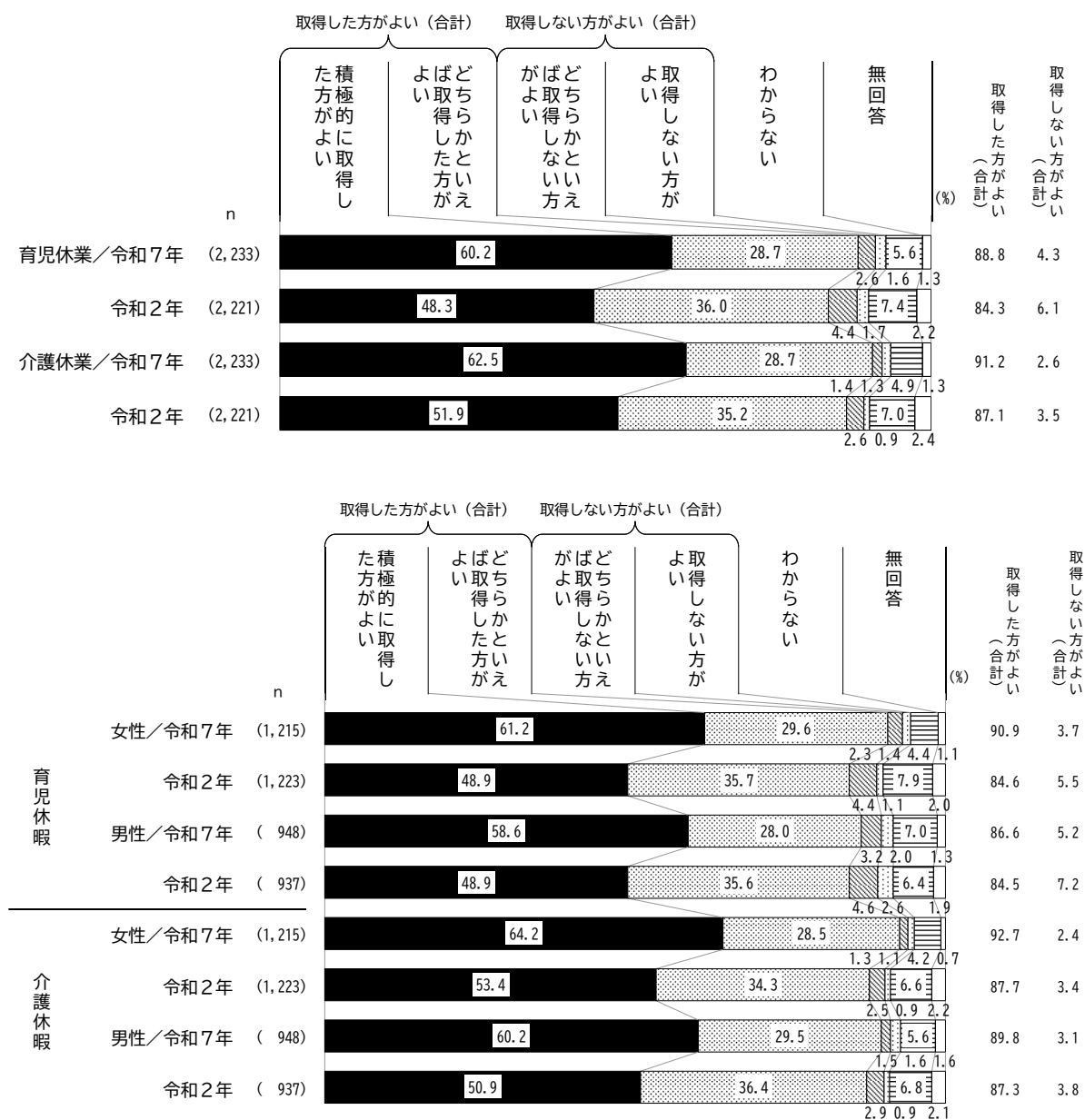


性別でみると、【育児休業】は《取得した方がよい（合計）》（「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」の合計）が女性（90.9%）、男性（86.6%）と、女性が男性を4.3ポイント上回っている。

性別でみると、【介護休業】でも《取得した方がよい（合計）》は女性（92.7%）、男性（89.8%）と、女性が男性を2.9ポイント上回っている。（図表3－8）

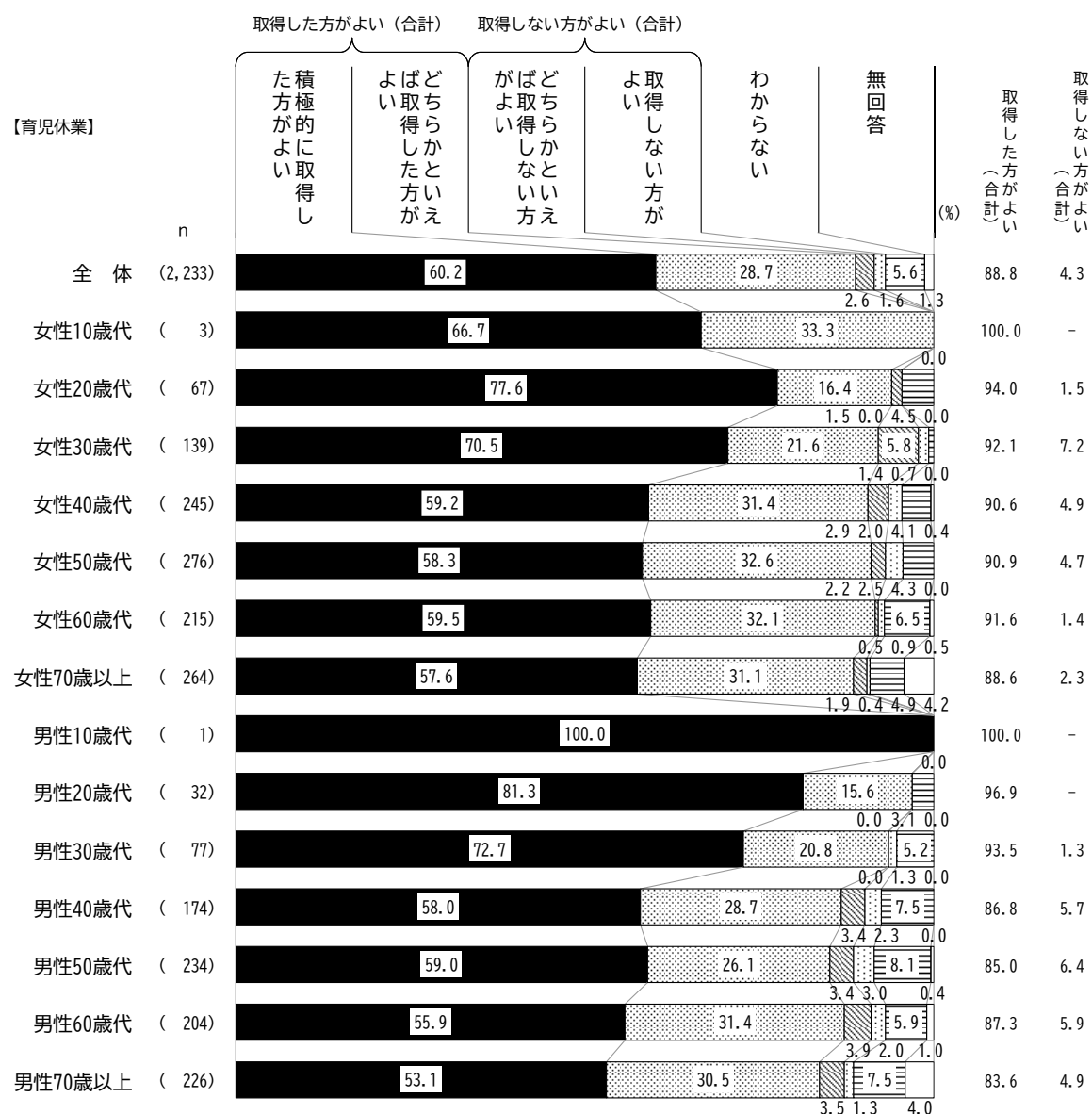
## 第IV章 調査の結果

図表 3－9 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、【育児休業】と【介護休業】は全体、男女ともに《取得した方がよい（合計）》が増加している。特に【育児休業】では女性が令和2年度調査（84.6%）から令和7年度調査（90.9%）で6.3ポイント増加している。（図表3－9）

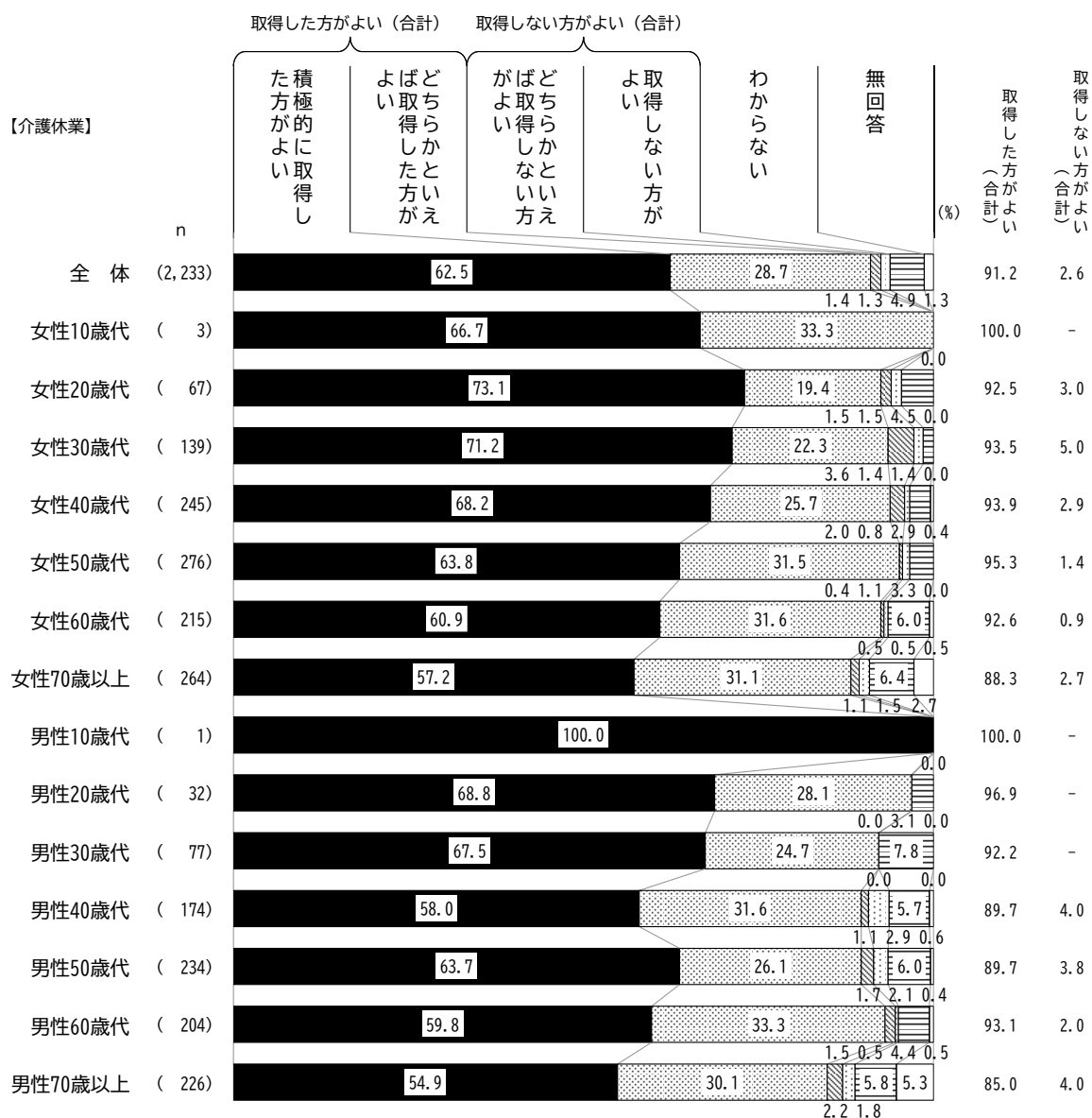
図表 3－10 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

【育児休業】について、性／年齢別でみると、《取得した方がよい（合計）》は女性では20歳代で9割半ばとなっており、男性でも20歳代で9割台半ばを超えている。（図表 3－10）

図表 3－11 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

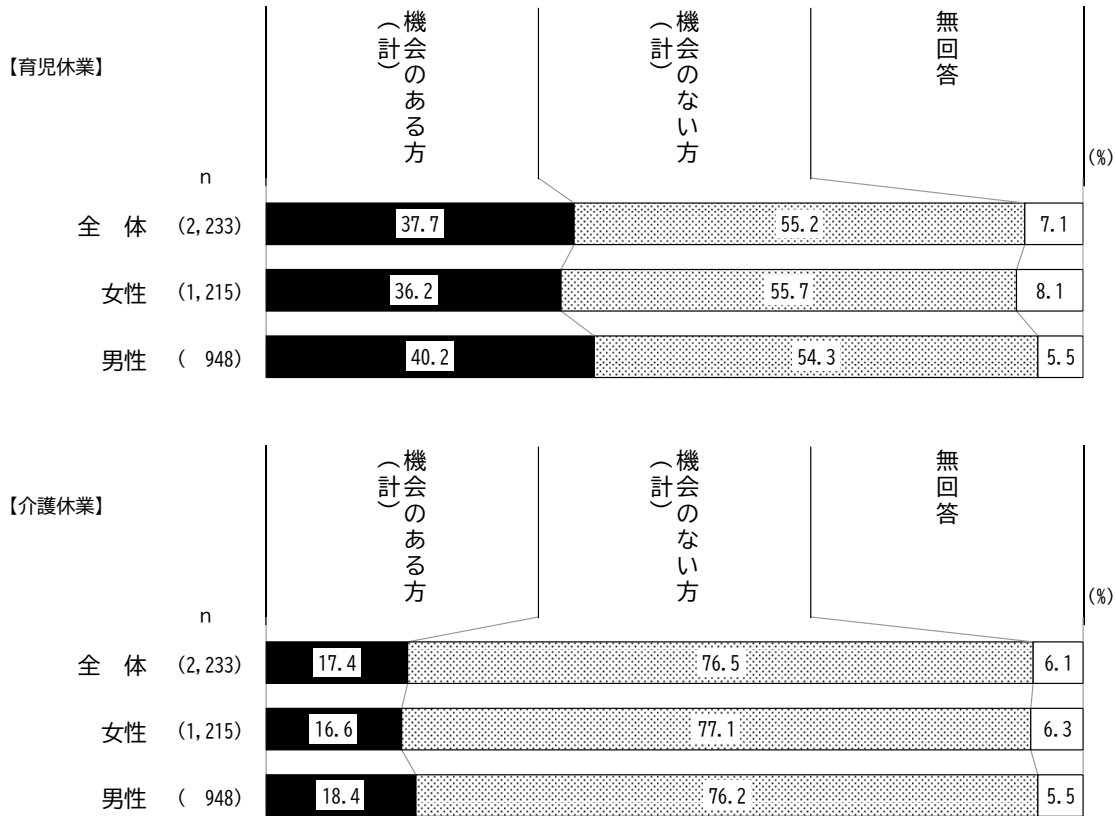
【介護休業】について、性／年齢別でみると、《取得した方がよい（合計）》は、女性では50歳代で9割台半ばとなっている。男性では20歳代で9割台半ばを超えている。（図表 3－11）

(4) 育児・介護休業の取得状況

◎【育児休業】の取得経験は37.7%、【介護休業】の取得経験は17.4%となっている

問11 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度に関連してあなたの状況を教えてください。  
(それぞれ1つずつに○)

図表3-12 育児・介護休業の取得状況

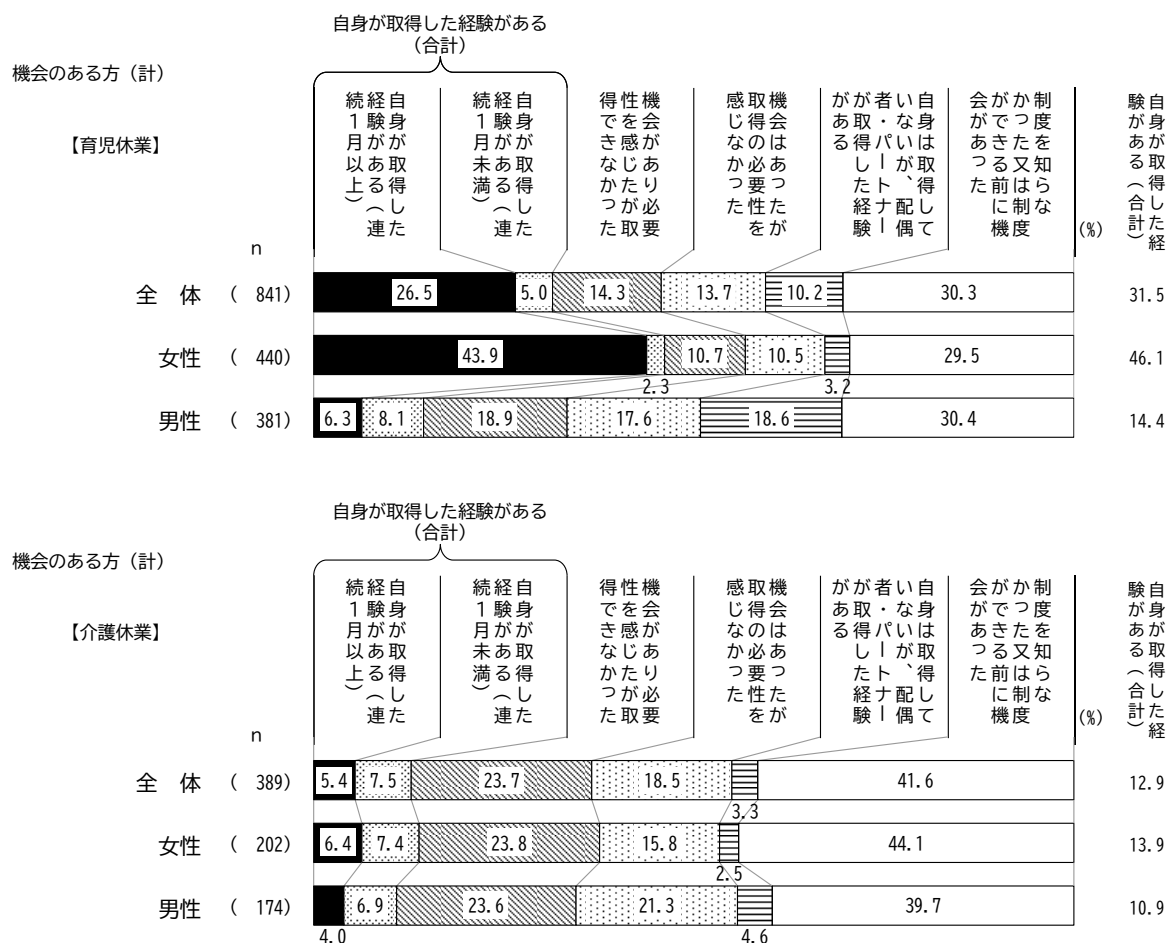


性別でみると、【育児休業】について取得する「機会有る方（計）」は、女性（36.2%）、男性（40.2%）と、男性が女性より4.0ポイント高くなっている。

性別でみると、【介護休業】について取得する「機会有る方（計）」は、女性（16.6%）、男性（18.4%）と、男性が女性より1.8ポイント高くなっている。（図表3-12）

## 第IV章 調査の結果

図表 3-13 育児・介護休業の取得状況



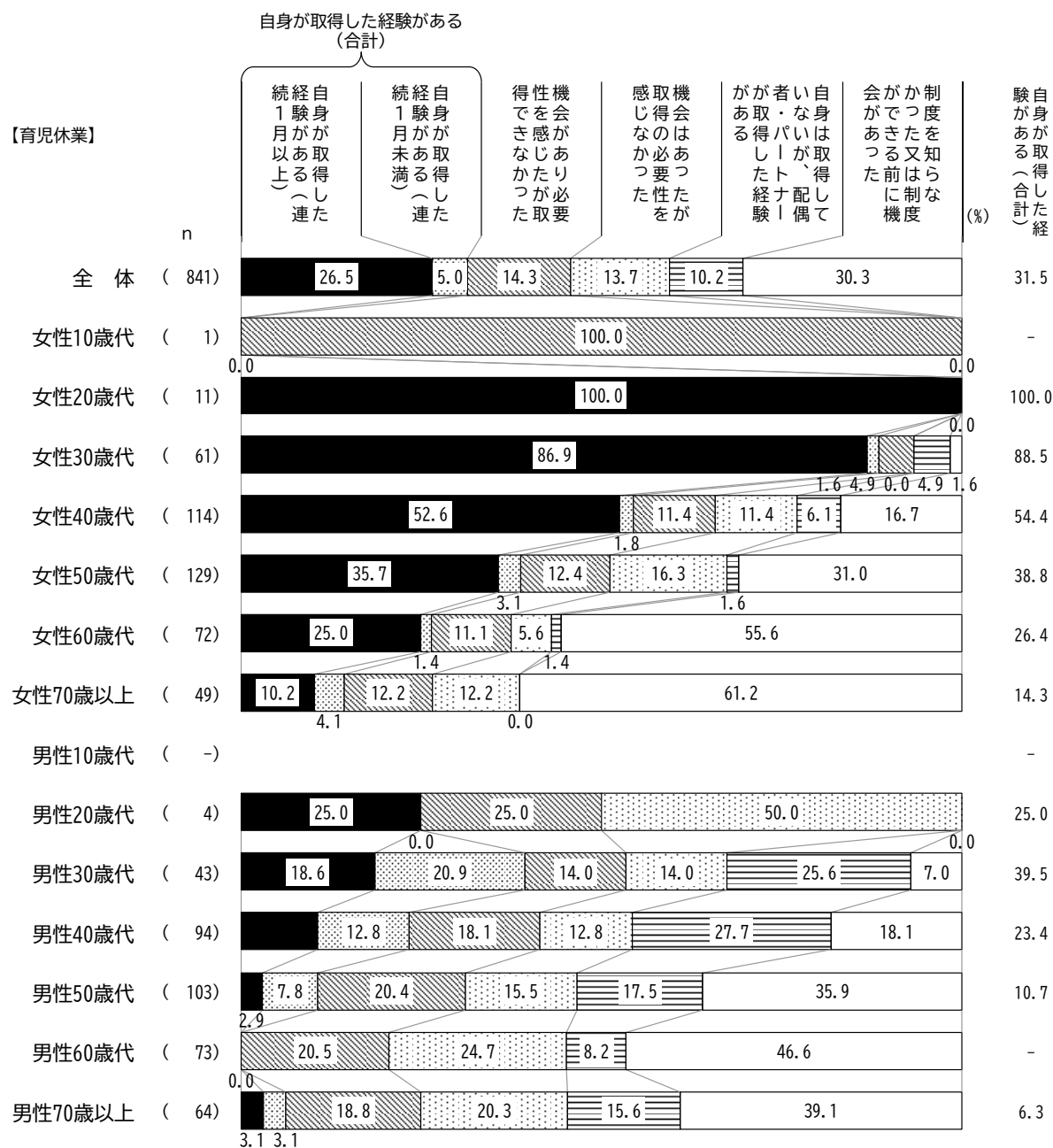
【育児休業】の取得状況について、「機会のある方」に聞いたところ、全体でみると《自身が取得した経験がある (合計)》(「自身が取得した経験がある (継続1ヶ月以上)」と「自身が取得した経験がある (継続1ヶ月未満)」の合計)は、31.5%となっている。

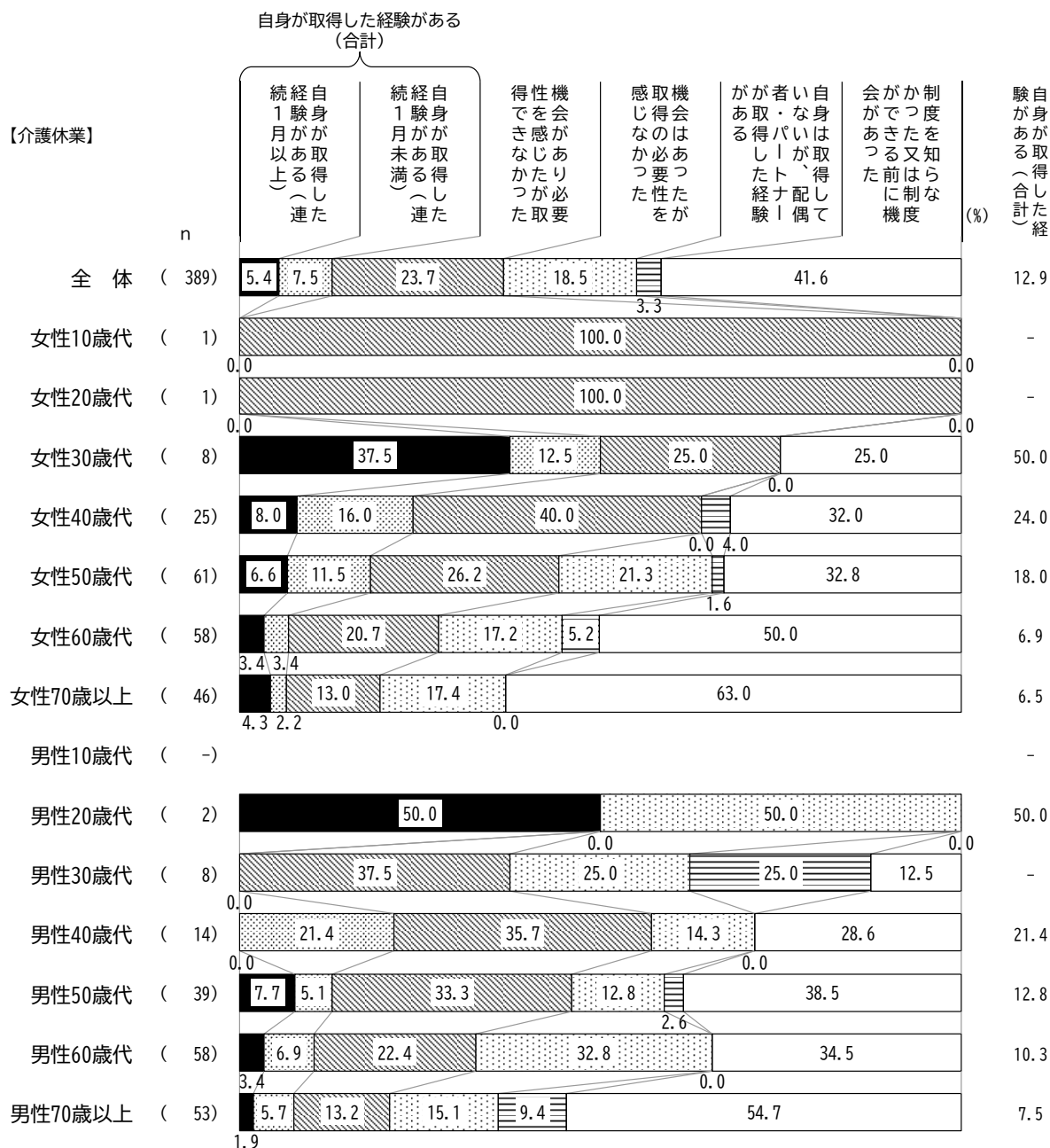
性別でみると、《自身が取得した経験がある (合計)》は、女性 (46.1%)、男性 (14.4%) と、女性が男性より31.7ポイント高くなっており、「自身は取得していないが、配偶者・パートナーが取得した経験がある」は、女性 (3.2%)、男性 (18.6%) と、男性が女性より15.4ポイント高くなっている。

【介護休業】の取得状況について、「機会のある方」に聞いたところ、全体でみると《自身が取得した経験がある (合計)》は、12.9%となっている。

性別でみると、《自身が取得した経験がある (合計)》は、女性 (13.9%)、男性 (10.9%) と、女性が男性より3.0ポイント高くなっている。(図表 3-13)

図表3-14 育児・介護休業の取得状況





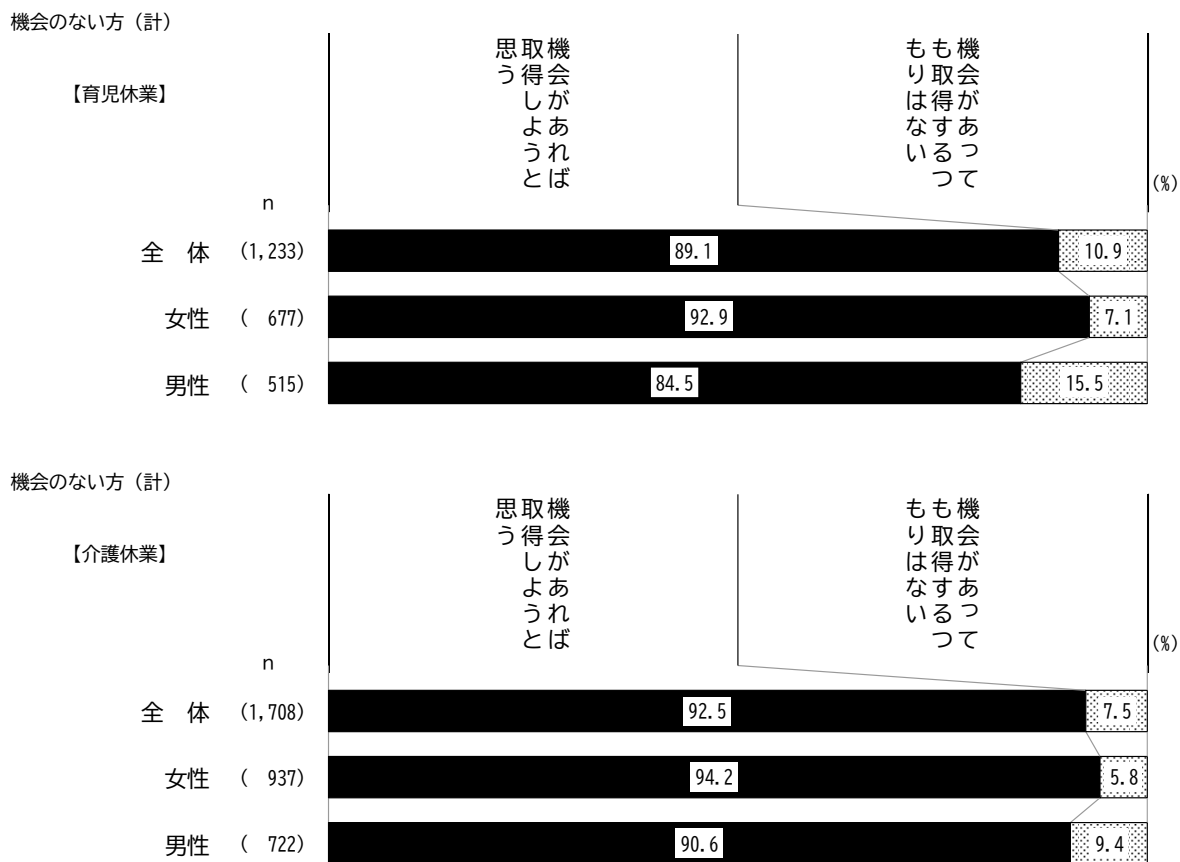
※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10～20歳代、男性10～20歳代は参考扱いとする。

【育児休業】の取得状況について、「機会のある方」に聞いたところ、性／年齢別でみると、《自身が取得した経験がある（合計）》は、女性で最も高い30歳代で88.5%であるのに対し、男性で最も高い30歳代では39.5%に留まっている。

「取得経験がある」について、男女間で最も大きな差があるのは30歳代で、《連続1月以上の休業》は女性が86.9%であるのに対して男性は18.6%で、《連続1月未満の休業》では女性が1.6%、男性が20.9%となっている。（図表3-14）



図表 3－15 育児・介護休業の取得状況



【育児休業】の取得意向について、「機会のない方」に聞いたところ、全体でみると「機会があれば取得しようと思う」は、89.1%となっている。

性別でみると、「機会があれば取得しようと思う」は、女性（92.9%）、男性（84.5%）と、女性が男性より8.4ポイント高くなっている。

【介護休業】の取得意向について、「機会のない方」に聞いたところ、全体でみると「機会があれば取得しようと思う」は、92.5%となっている。

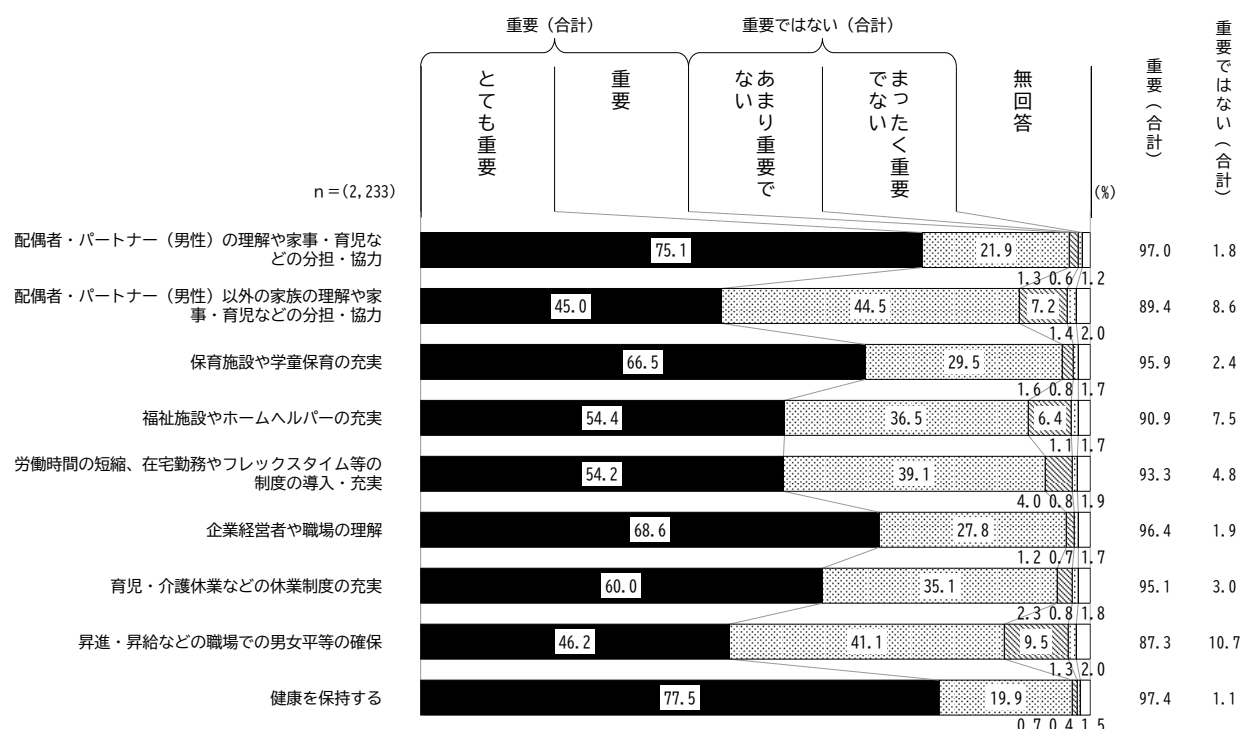
性別でみると、「機会があれば取得しようと思う」は、女性（94.2%）、男性（90.6%）と、女性が男性より3.6ポイント高くなっている。（図表 3－15）

(5) 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

◎「健康を保持する」が9割台半ばを超え、最も高くなっている

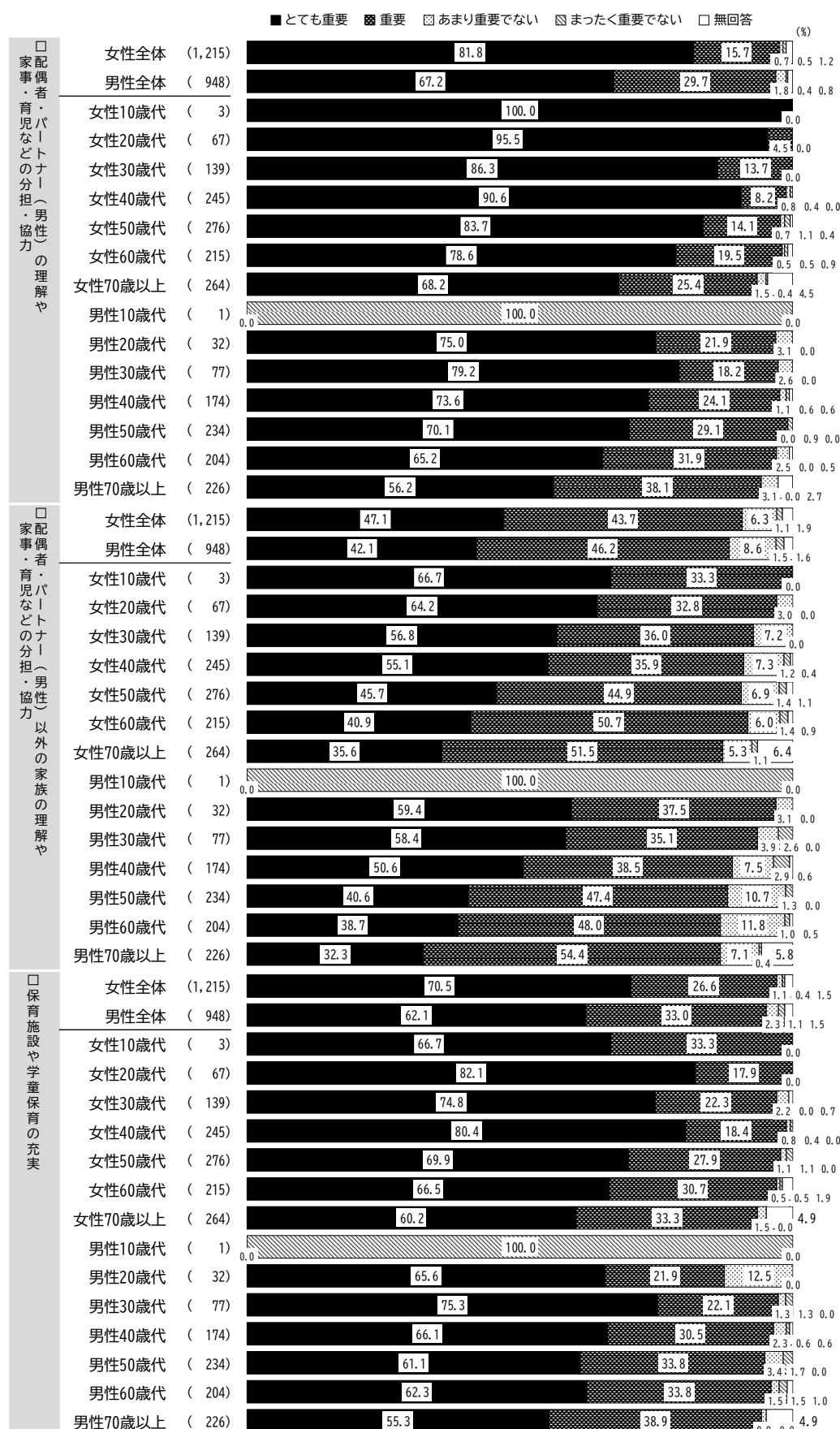
**問12** あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(9)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

図表3-16 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

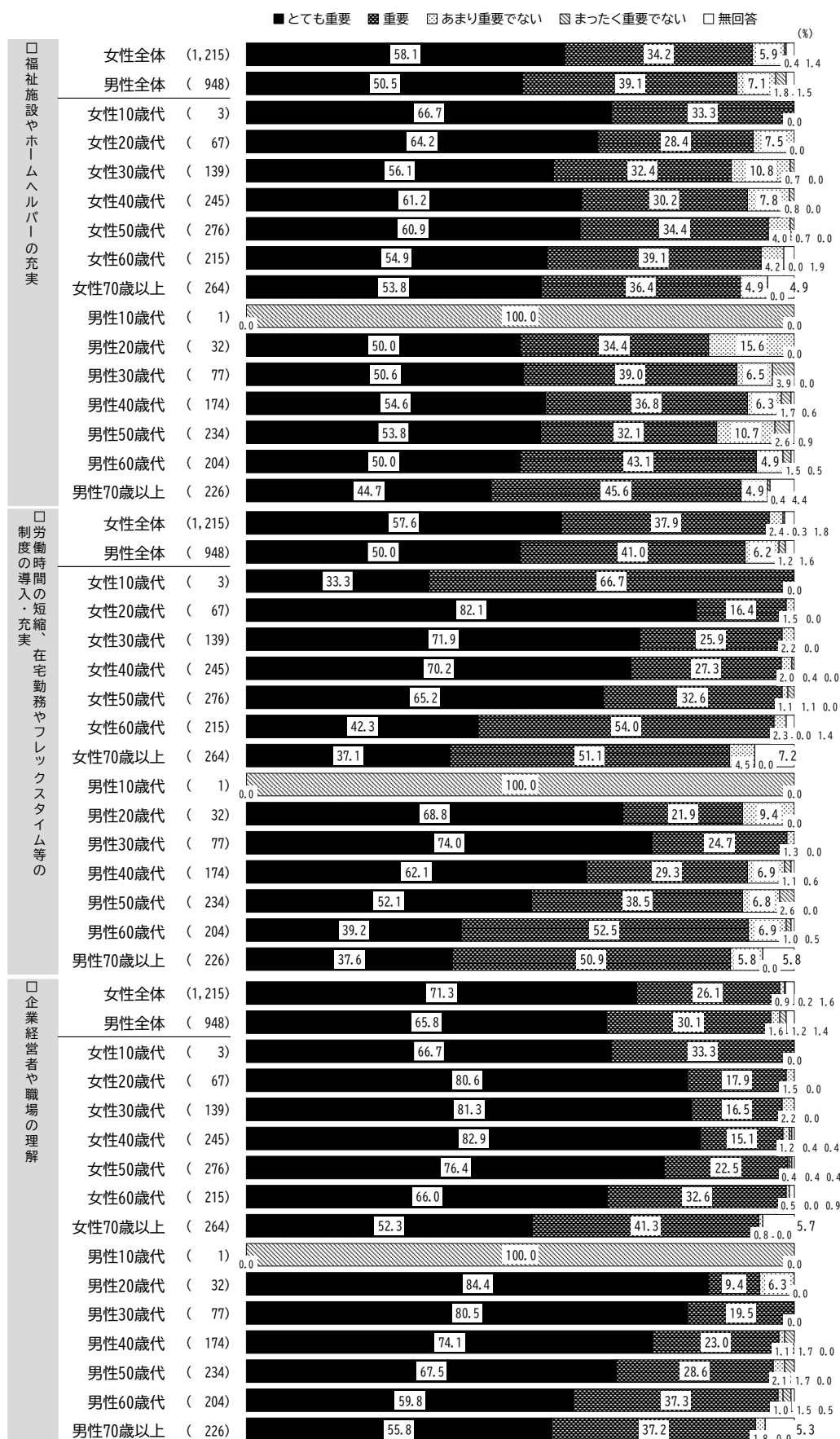


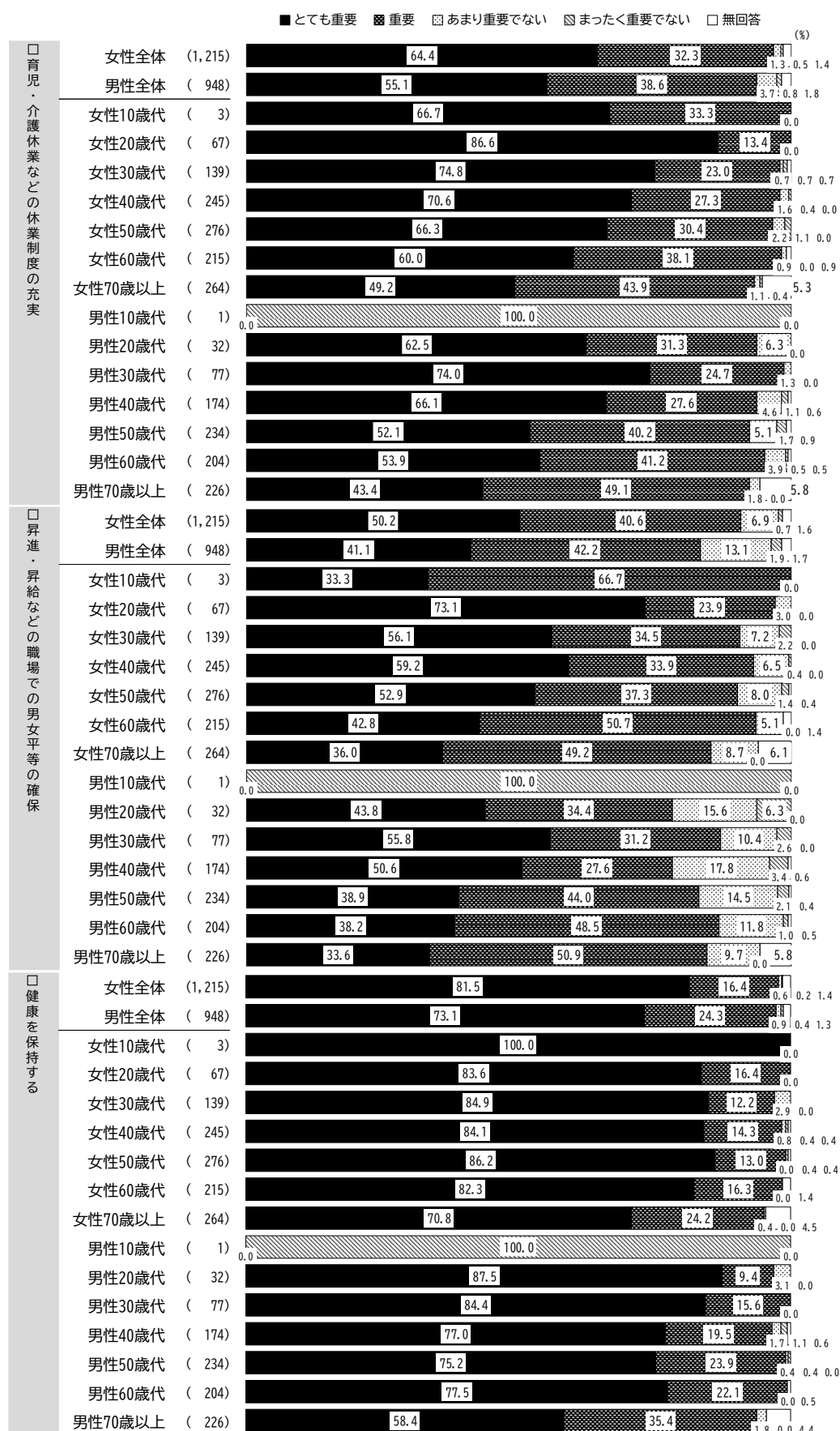
女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要だと思うことについて聞いたところ、《重要(合計)》(「とても重要」と「重要」の合計)では「健康を保持する」が97.4%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー(男性)の理解や家事・育児などの分担・協力」(97.0%)、「企業経営者や職場の理解」(96.4%)、「保育施設や学童保育の充実」(95.9%)となっており、いずれも9割台半ば以上となっている。(図表3-16)

図表3-17 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと（性／年齢別）



## 第IV章 調査の結果





※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

## 第IV章 調査の結果

性別でみると、《重要（合計）》は女性・男性ともに【健康を保持する】が最も高くなっている。

また、《重要（合計）》のうち「とても重要」で、男女差が大きいものを見ると、【配偶者・パートナー（男性）の理解や家事・育児などの分担・協力】では14.6ポイント（女性81.8%、男性67.2%）、【育児・介護休業などの休業制度の充実】では9.3ポイント（女性64.4%、男性55.1%）、【昇進・昇給などの職場での男女平等の確保】では9.1ポイント（女性50.2%、男性41.1%）と女性が男性を上回っている。

性／年齢別でみると、【配偶者・パートナー（男性）の理解や家事・育児などの分担・協力】、【企業経営者や職場の理解】、【育児・介護休業などの休業制度の充実】【健康を保持する】の《重要（合計）》は男女ともにすべての年代で9割以上となっている。

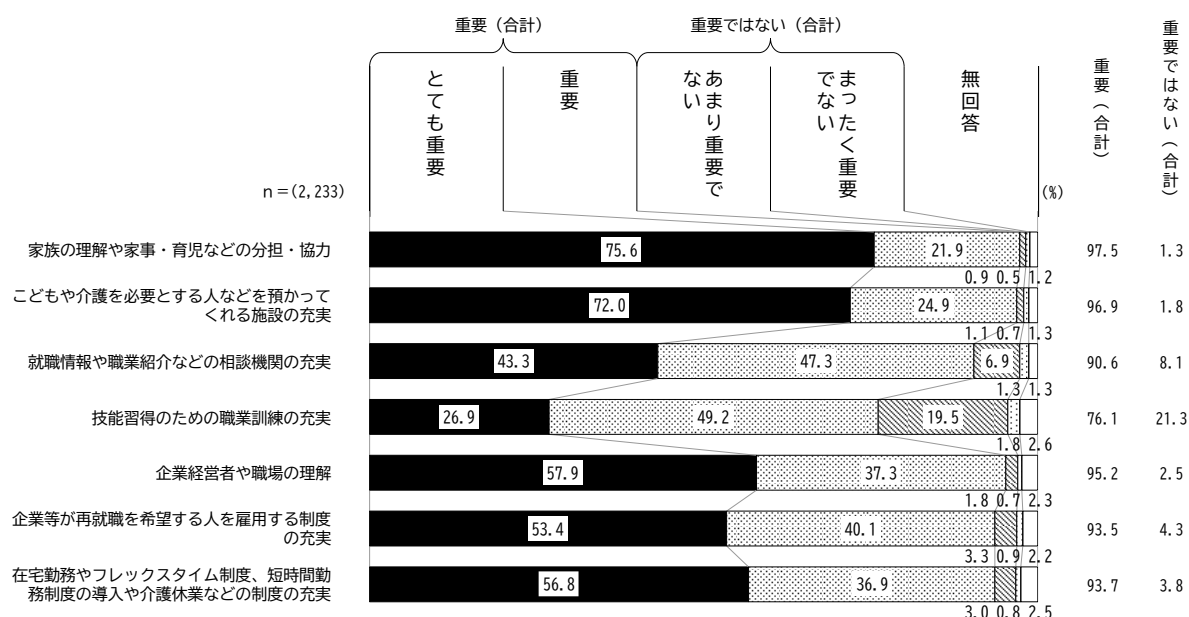
また、【昇進・昇給などの職場での男女平等の確保】の《重要ではない（合計）》は男性の40歳代で2割強となっている。（図表3-17）

(6) 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと

◎「家族の理解や家事・育児などの分担・協力」の重要度が最も高く、次いで「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」となっている

**問13** あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

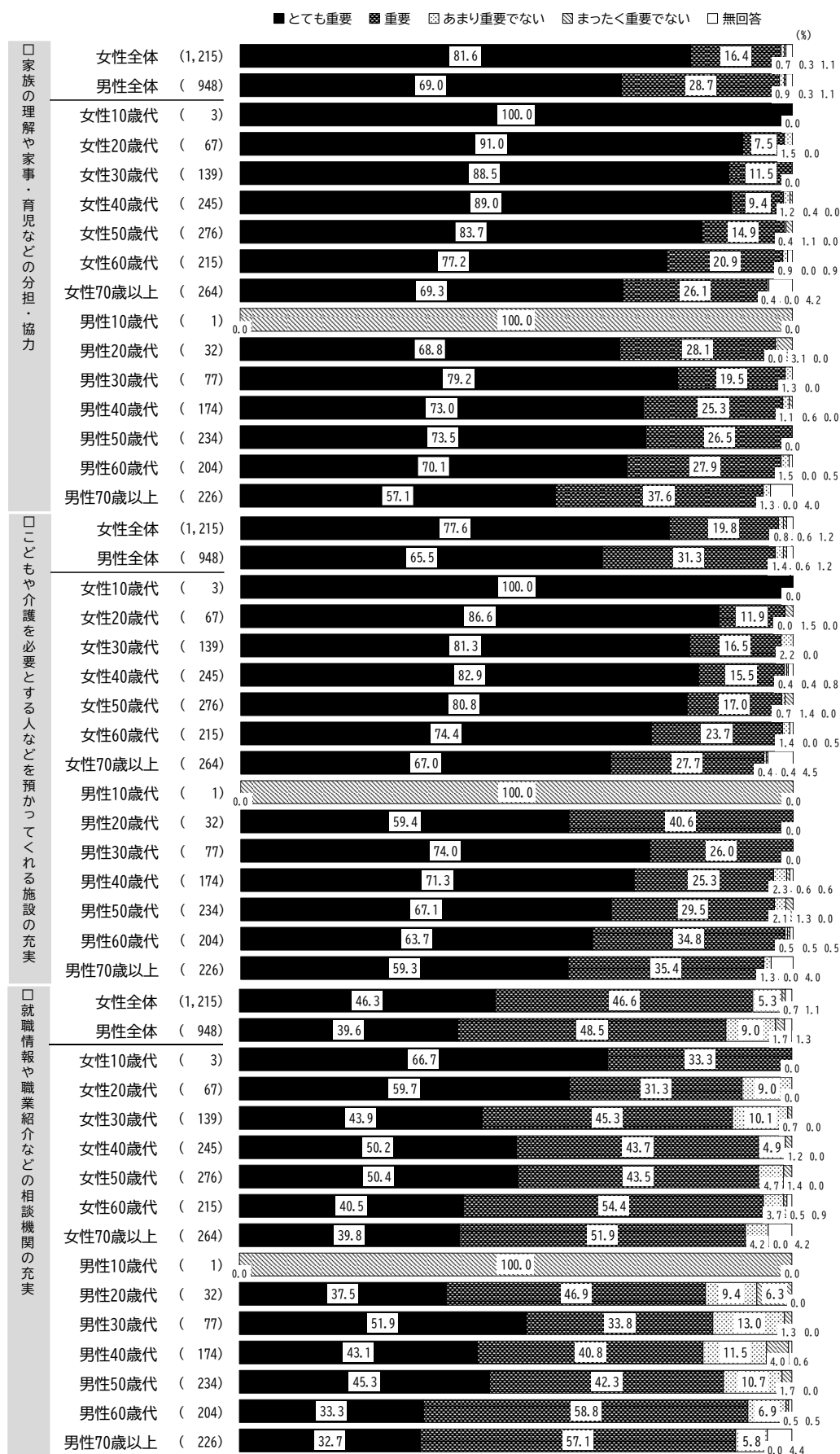
図表3-18 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと



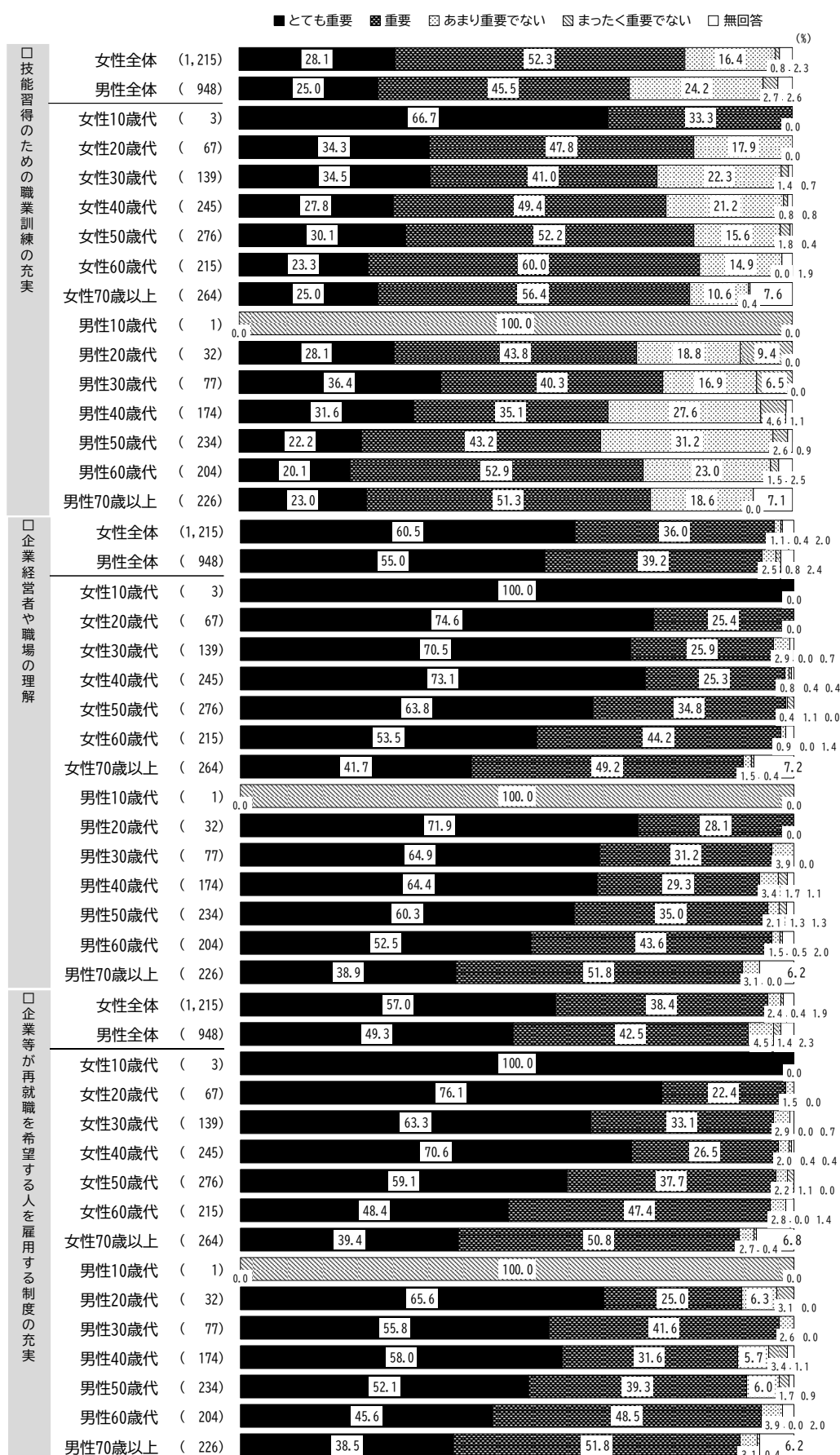
女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要だと思うことについて《重要(合計)》(「とても重要」と「重要」の合計)は、「家族の理解や家事・育児などの分担・協力」(97.5%)が最も高く、次いで「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」(96.9%)が9割台半ばを超え、「企業経営者や職場の理解」(95.2%)は9割台半ばとなっている。(図表3-18)

## 第IV章 調査の結果

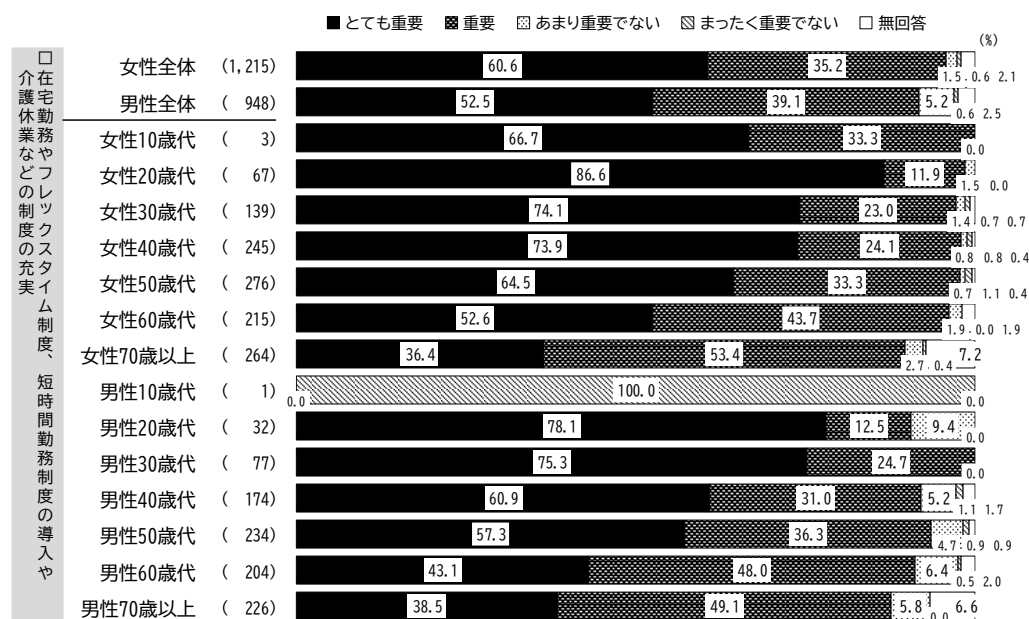
図表3-19 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと（性／年齢別）







## 第IV章 調査の結果



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性別でみると、7項目すべてについて、《重要（合計）》は女性が男性を上回っている。

《重要（合計）》と《重要ではない（合計）》（「あまり重要でない」と「まったく重要でない」の合計）で男女の意識の差が大きいものを分野別でみると、【技能習得のための職業訓練の充実】の《重要（合計）》は女性（80.4%）、男性（70.5%）と、女性が男性を9.9ポイント上回っており、《重要ではない（合計）》は女性（17.2%）、男性（26.9%）と、男性が女性を9.7ポイント上回っている。【就職情報や職業紹介などの相談機関の充実】の《重要（合計）》は女性（92.9%）、男性（88.1%）と、女性が男性を4.8ポイント上回っており、《重要ではない（合計）》は女性（6.0%）、男性（10.7%）と、男性が女性を4.7ポイント上回っている。

《重要（合計）》のうち、「とても重要」で男女の差が大きいものを見ると、【家族の理解や家事・育児などの分担・協力】では12.6ポイント（女性81.6%、男性69.0%）、【こどもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実】では12.1ポイント（女性77.6%、男性65.5%）、【在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度の導入や介護休業などの制度の充実】では8.1ポイント（女性60.6%、男性52.5%）女性が男性を上回っている。

性／年齢別でみると、【家族の理解や家事・育児などの分担・協力】、【こどもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実】の《重要（合計）》は男女ともに概ねすべての年代で9割台後半となっている。

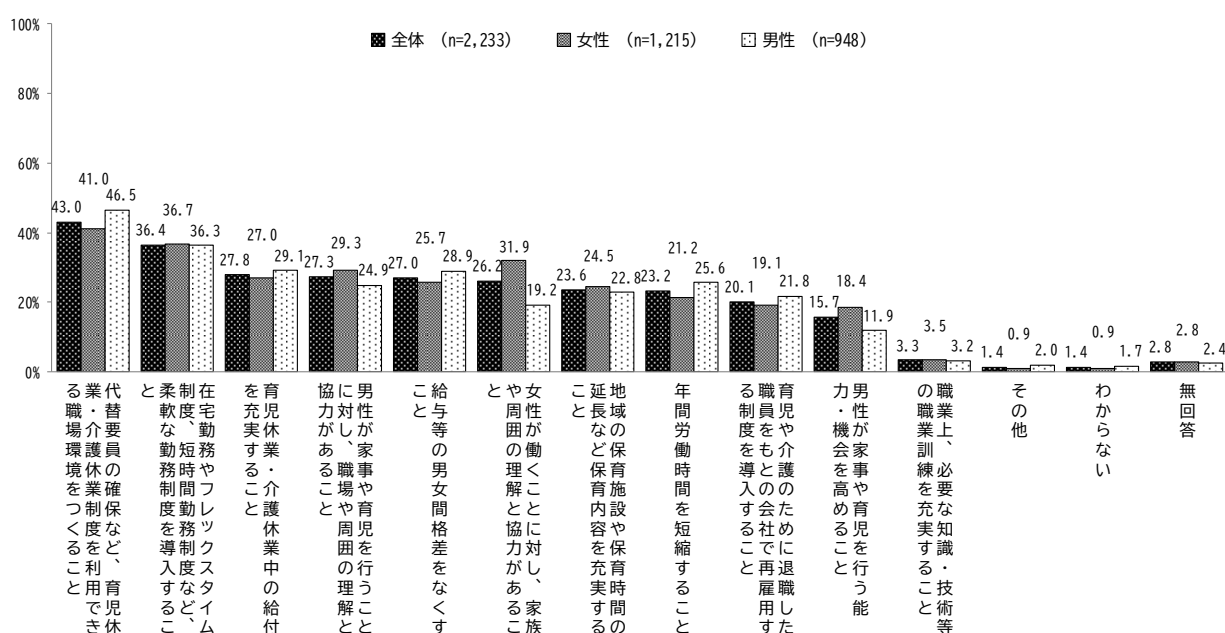
また、【技能習得のための職業訓練の充実】の《重要ではない（合計）》は男性の40～50歳代で3割強と高くなっている。（図表3-19）

## (7) 仕事と家庭の両立に必要なこと

◎「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が最も高く4割強となっている

問14 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。  
(3つまでに○)

図表3-20 仕事と家庭の両立に必要なこと

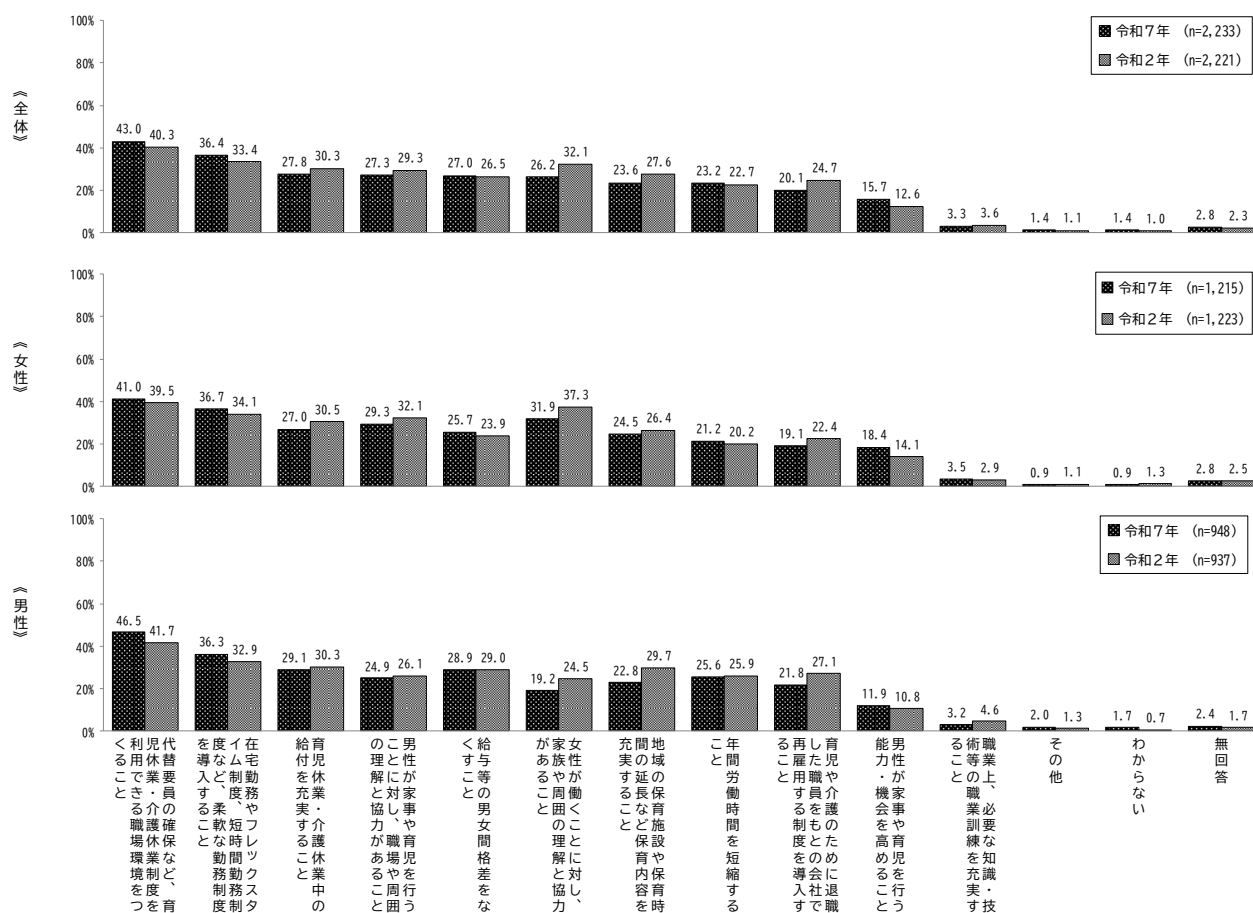


仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件は、全体でみると「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が43.0%で最も高く、次いで「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(36.4%)、「育児休業・介護休業中の給付を充実すること」(27.8%)となっている。

性別でみると、女性と男性で意識の差が大きいものは「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」で女性(31.9%)、男性(19.2%)と、女性が男性を12.7ポイント、「男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること」で女性(18.4%)、男性(11.9%)と、女性が男性を6.5ポイント、それぞれ上回っている。(図表3-20)

## 第Ⅳ章 調査の結果

図表 3-21 仕事と家庭の両立に必要なこと（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、全体でみると「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が5.9ポイント減少している。性別で見ると、女性で前回と差が大きいものは「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」で5.4ポイント減少している。男性で前回と差が大きいものは「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」が6.9ポイント減少している。（図表 3-21）

図表 3-22 仕事と家庭の両立に必要なこと（令和2年度調査との比較、上位6項目）

【全体】					
	令和7年 (n=2,233)			令和2年 (n=2,221)	
第1位	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	↑ (43.0)	←	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	(40.3)
第2位	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	↑ (36.4)	←	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	(33.4)
第3位	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	↓ (27.8)	←	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	(32.1)
第4位	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	↓ (27.3)	←	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	(30.3)
第5位	給与等の男女間格差をなくすこと	↑ (27.0)	←	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	(29.3)
第6位	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	↓ (26.2)	←	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	(27.6)

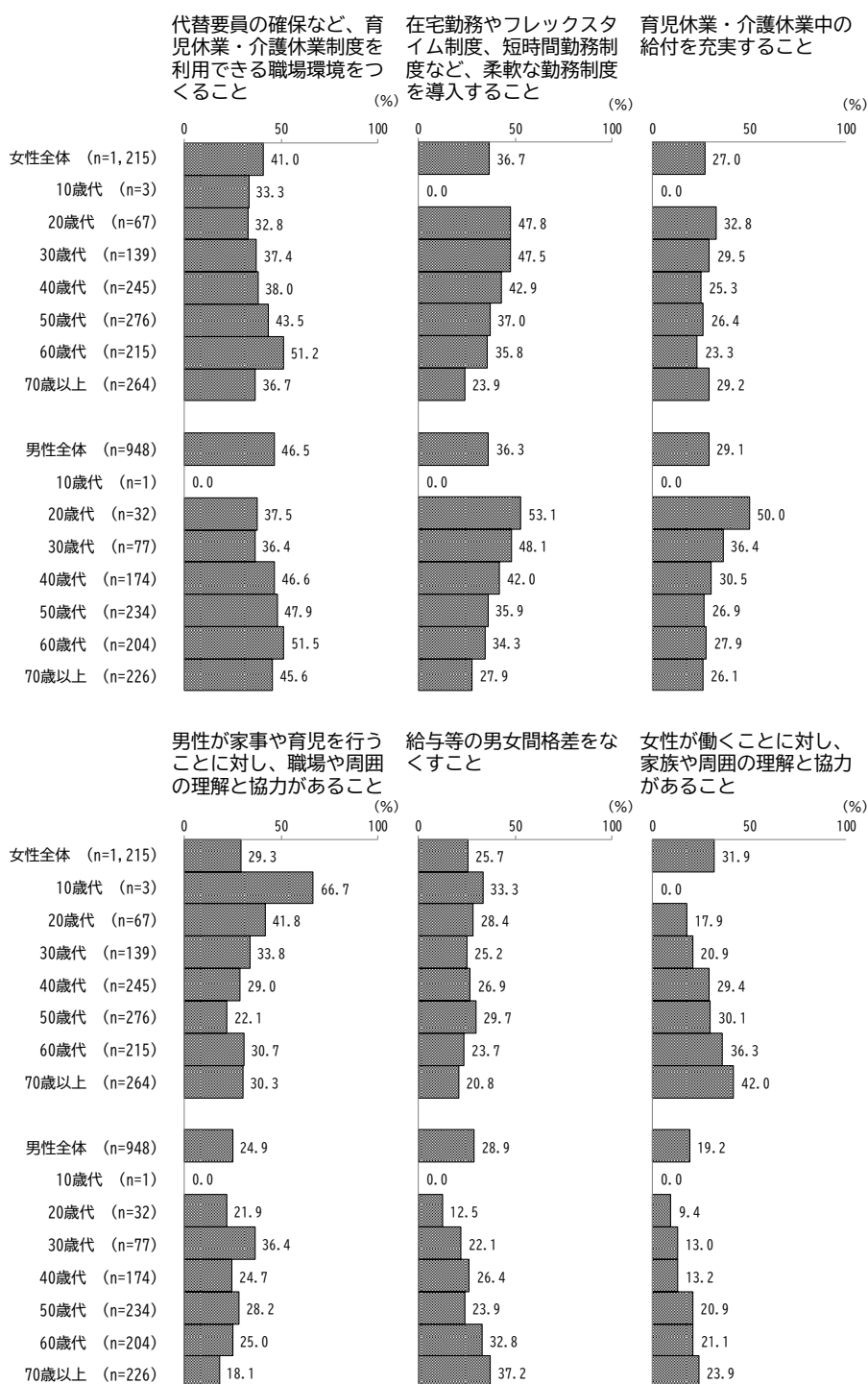
【女性】					
	令和7年 (n=1,215)			令和2年 (n=1,223)	
第1位	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	↑ (41.0)	←	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	(39.5)
第2位	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	↑ (36.7)	←	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	(37.3)
第3位	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	↓ (31.9)	←	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	(34.1)
第4位	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	↓ (29.3)	←	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	(32.1)
第5位	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	↓ (27.0)	←	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	(30.5)
第6位	給与等の男女間格差をなくすこと	↑ (25.7)	←	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	(26.4)

【男性】					
	令和7年 (n=948)			令和2年 (n=937)	
第1位	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	↑ (46.5)	←	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	(41.7)
第2位	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	↑ (36.3)	←	在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	(32.9)
第3位	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	↓ (29.1)	←	育児休業・介護休業中の給付を充実すること	(30.3)
第4位	給与等の男女間格差をなくすこと	↓ (28.9)	←	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	(29.7)
第5位	年間労働時間を短縮すること	↑ (25.6)	←	給与等の男女間格差をなくすこと	(29.0)
第6位	男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること	↑ (24.9)	←	育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	(27.1)

令和2年度調査との比較を順位表（上位6項目）として、全体でみると「育児休業・介護休業中の給付を充実すること」、「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」の順位が上昇している。また、新たに「給与等の男女間格差をなくすこと」が第5位に入っている。性別で見ると、女性では「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」の順位が前回第3位から第2位に上昇しており、男性では「給与等の男女間格差をなくすこと」の順位が前回第5位から第4位に上昇している。（図表3-22）

図表 3-23 仕事と家庭の両立に必要なこと（性／年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」は男女ともに60歳代で5割強、「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は男性の20歳代で5割強と高くなっている。

また、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」ではすべての年代で女性が男性を上回っており、女性の70歳以上で4割強と高くなっている。(図表 3-23)

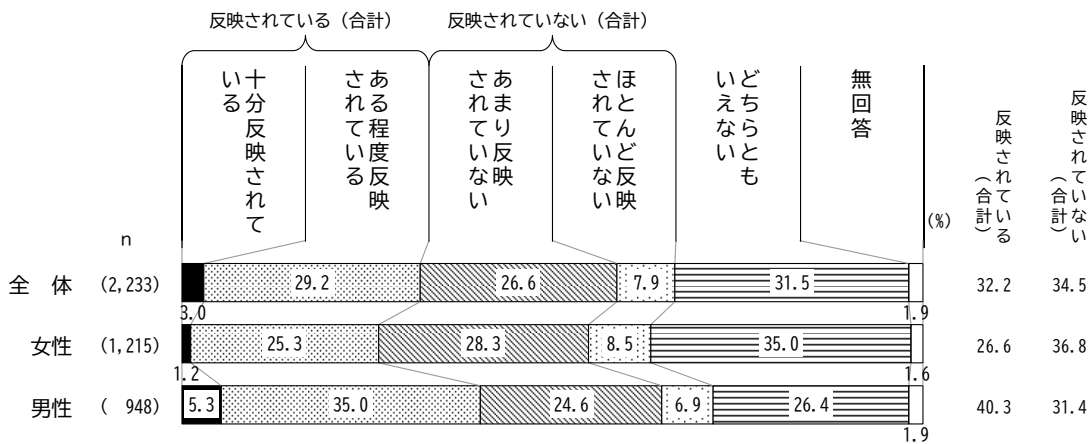
4. 男女の社会参画について

(1) 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度

◎女性の意見が《反映されている（合計）》は3割強となっている

問15 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。（1つだけに○）

図表4-1 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度

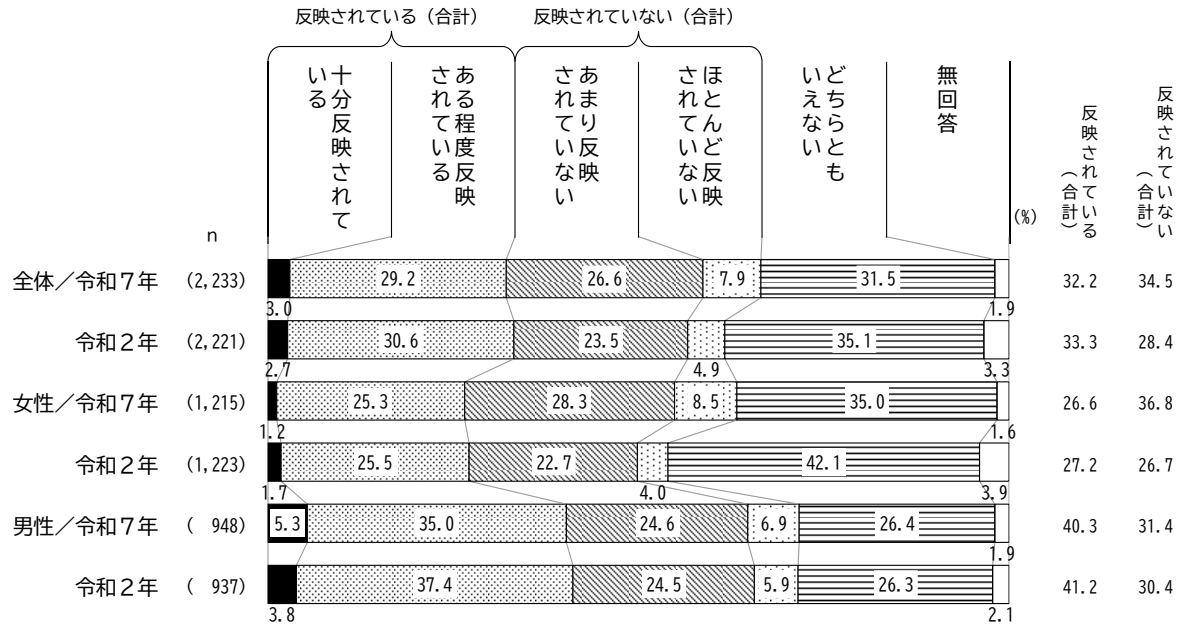


地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度を聞いたところ、全体でみると《反映されている（合計）》（「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計）は32.2%となっている。一方、《反映されていない（合計）》（「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」の合計）は34.5%となっている。

性別でみると、《反映されている（合計）》は、女性（26.6%）、男性（40.3%）と、男性が女性を13.7ポイント上回っている。（図表4-1）

# 第Ⅳ章 調査の結果

図表 4－2 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度（令和２年度調査との比較）

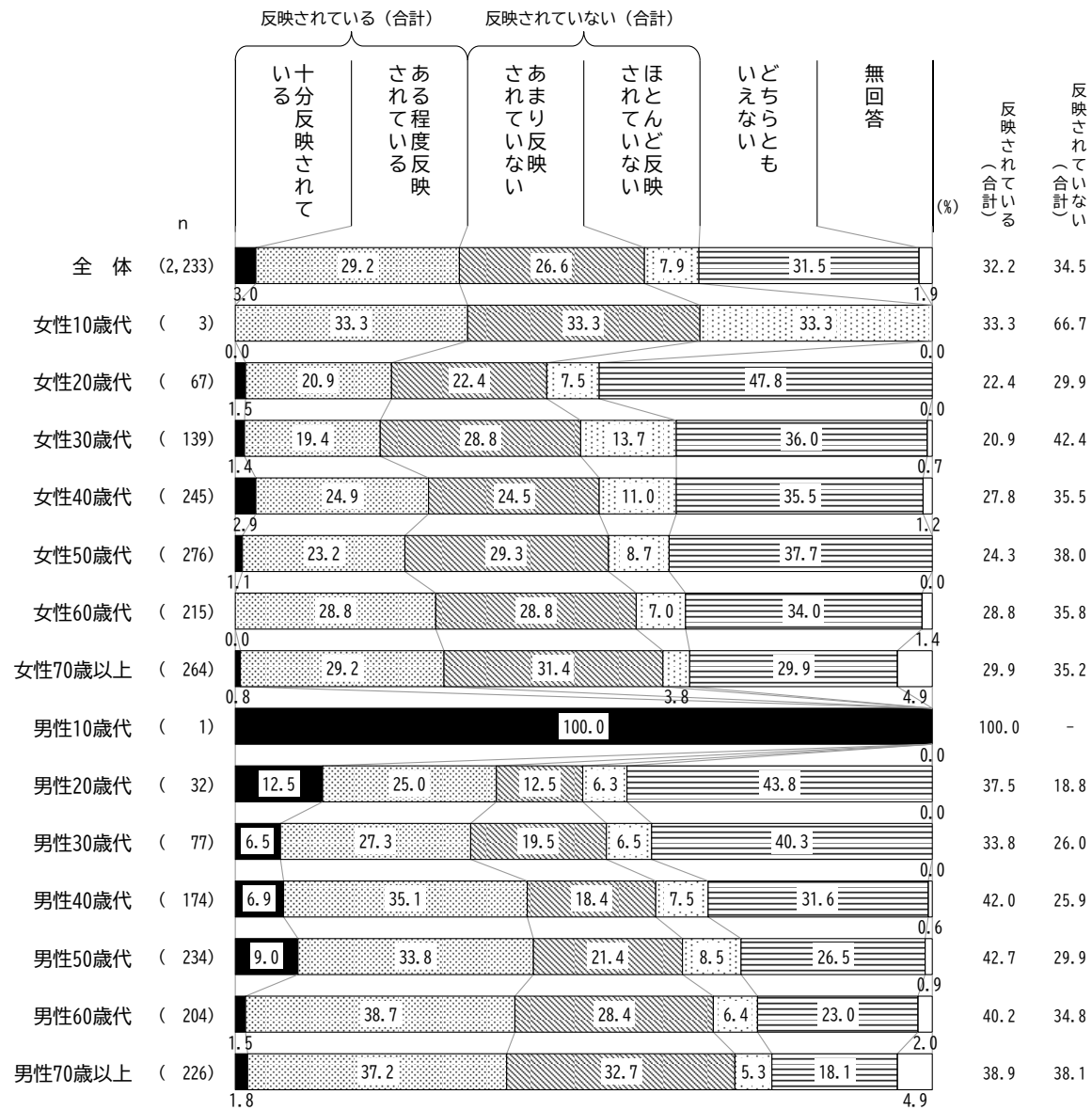


令和２年度調査と比較すると、全体では《反映されている（合計）》が前回より1.1ポイント減少し、《反映されていない（合計）》が前回より6.1ポイント増加している。

性別でみると、女性では《反映されていない（合計）》が前回より10.1ポイント増加し、「どちらともいえない」が前回より7.1ポイント減少している。（図表４－２）



図表 4－3 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、《反映されている（合計）》は、女性では70歳以上で約3割となっており、男性では40～50歳代で4割強となっている。一方、《反映されていない（合計）》は、女性では30歳代で4割強となっており、男性では70歳以上で4割弱となっている。また、「どちらともいえない」は、女性の20歳代で4割台半ばを超えている。（図表 4－3）

#### 第IV章 調査の結果

図表 4－4 地方自治体などの施策への女性の意見・考え方の反映度（居住地域別）

		n	反映されている (合計)		反映されていない (合計)		(%)		反映されている (合計)	反映されていない (合計)
			十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	どちらともいえない	無回答		
居住地域別	全 体	2,233	3.0	29.2	26.6	7.9	31.5	1.9	32.2	34.5
	南部地域	221	2.7	25.8	28.1	5.4	36.7	1.4	28.5	33.5
	南西部地域	221	5.9	31.2	24.9	6.3	30.8	0.9	37.1	31.2
	東部地域	320	2.2	25.3	25.9	11.9	32.8	1.9	27.5	37.8
	さいたま地域	398	2.3	29.9	25.1	9.5	31.4	1.8	32.2	34.7
	県央地域	173	3.5	30.6	26.6	5.2	33.5	0.6	34.1	31.8
	川越比企地域	216	4.2	29.6	29.2	6.0	29.2	1.9	33.8	35.2
	西部地域	266	2.3	27.8	28.9	6.4	32.3	2.3	30.1	35.3
	利根地域	206	2.9	33.0	22.8	8.3	31.1	1.9	35.9	31.1
	北部地域	177	2.3	31.6	28.2	9.6	25.4	2.8	33.9	37.9
	秩父地域	26	-	34.6	30.8	3.8	19.2	11.5	34.6	34.6

居住地域別でみると、《反映されている（合計）》は南西部地域が37.1%で最も高く、次いで利根地域が35.9%となっており、他の地域では2割台後半～3割台半ばとなっている。

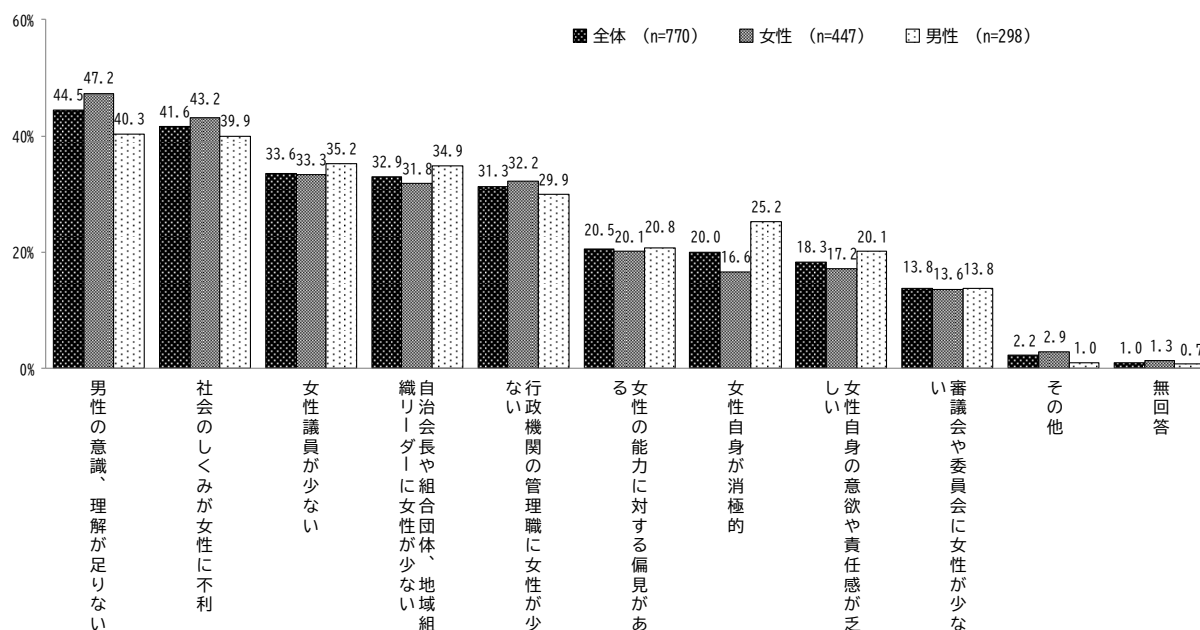
一方、《反映されていない（合計）》は北部地域が37.9%で最も高くなっている。（図表 4－4）

## (2) 女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由

## ◎「男性の意識、理解が足りない」が4割台半ば

問15-1-1 反映されていないと回答した方は、反映されていないと思う理由を選んでください。  
(3つまでに○)

図表4-5 女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由

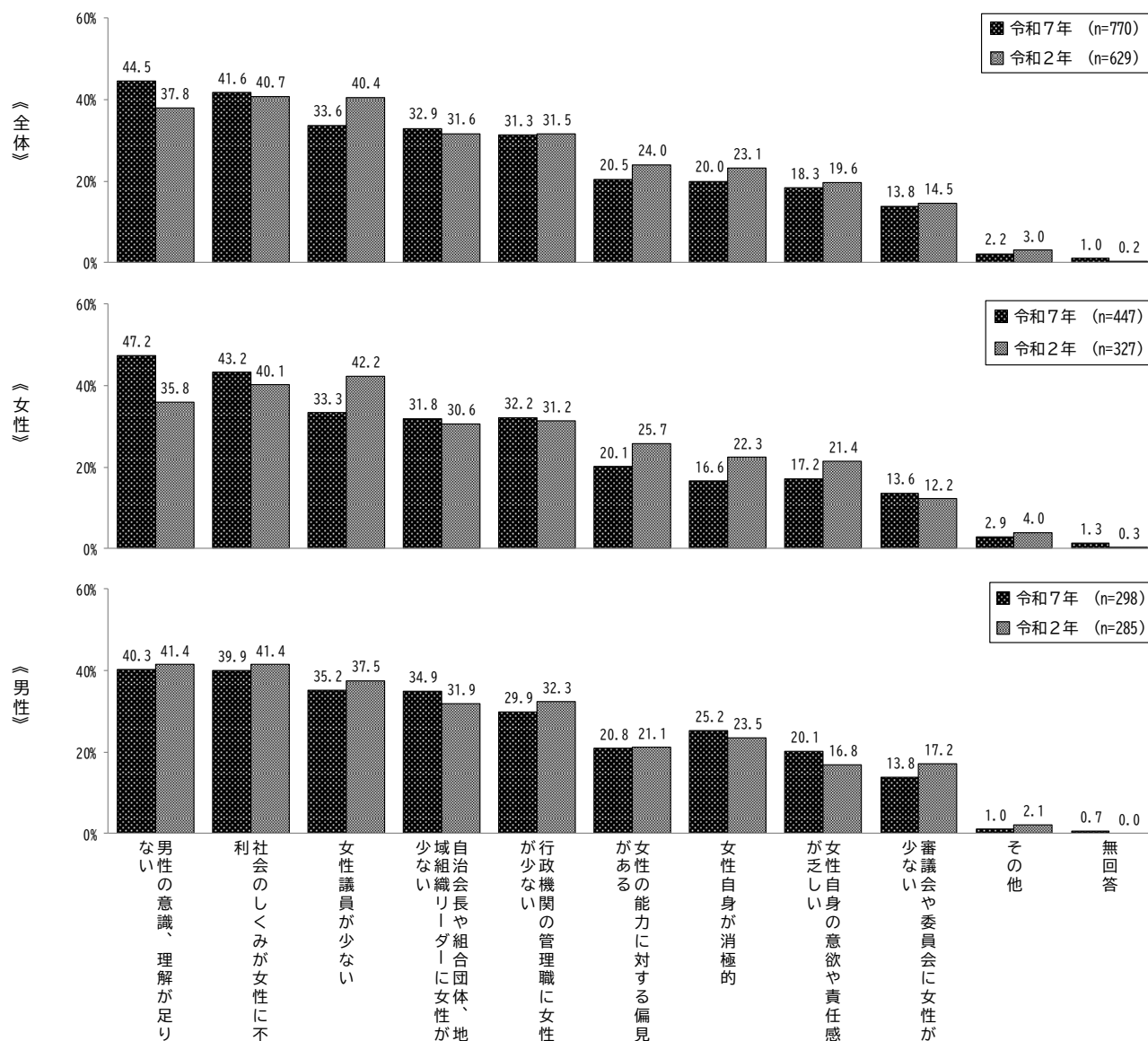


女性の意見や考え方が反映されていない理由を、全体でみると「男性の意識、理解が足りない」が44.5%で最も高く、次いで「社会のしくみが女性に不利」(41.6%)、「女性議員が少ない」(33.6%)となっている。

性別でみると、「男性の意識、理解が足りない」は女性(47.2%)、男性(40.3%)と、女性が男性を6.9ポイント上回っている。「女性自身が消極的」は女性(16.6%)、男性(25.2%)と、男性が女性を8.6ポイント上回っている。(図表4-5)

## 第IV章 調査の結果

図表 4－6 女性の意見や考え方が反映されていない理由（令和２年度調査との比較）



令和２年度調査と比較すると、全体で見ると「女性議員が少ない」は前回より6.8ポイント減少し、「男性の意識、理解が足りない」は前回より6.7ポイント増加している。

性別で見ると、女性では、「男性の意識、理解が足りない」は前回より11.4ポイント増加している一方で、「女性議員が少ない」が前回より8.9ポイント減少している。男性では「審議会や委員会に女性が少ない」は前回より3.4ポイント減少している一方で、「女性自身の意欲や責任感が乏しい」が3.3ポイント増加している。（図表 4－6）

図表 4－7 女性の意見や考え方が反映されていない理由（令和２年度調査との比較、上位６項目）

【全体】		令和 7 年 (n=770)		令和 2 年 (n=629)	
第1位	男性の意識、理解が足りない	↑	(44.5)	社会のしくみが女性に不利	(40.7)
第2位	社会のしくみが女性に不利	↑	(41.6)	女性議員が少ない	(40.4)
第3位	女性議員が少ない	↓	(33.6)	男性の意識、理解が足りない	(37.8)
第4位	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	↑	(32.9)	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	(31.6)
第5位	行政機関の管理職に女性が少ない	↓	(31.3)	行政機関の管理職に女性が少ない	(31.5)
第6位	女性の能力に対する偏見がある	↓	(20.5)	女性の能力に対する偏見がある	(24.0)

【女性】		令和 7 年 (n=447)		令和 2 年 (n=327)	
第1位	男性の意識、理解が足りない	↑	(47.2)	女性議員が少ない	(42.2)
第2位	社会のしくみが女性に不利	↑	(43.2)	社会のしくみが女性に不利	(40.1)
第3位	女性議員が少ない	↓	(33.3)	男性の意識、理解が足りない	(35.8)
第4位	行政機関の管理職に女性が少ない	↑	(32.2)	行政機関の管理職に女性が少ない	(31.2)
第5位	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	↑	(31.8)	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	(30.6)
第6位	女性の能力に対する偏見がある	↓	(20.1)	女性の能力に対する偏見がある	(25.7)

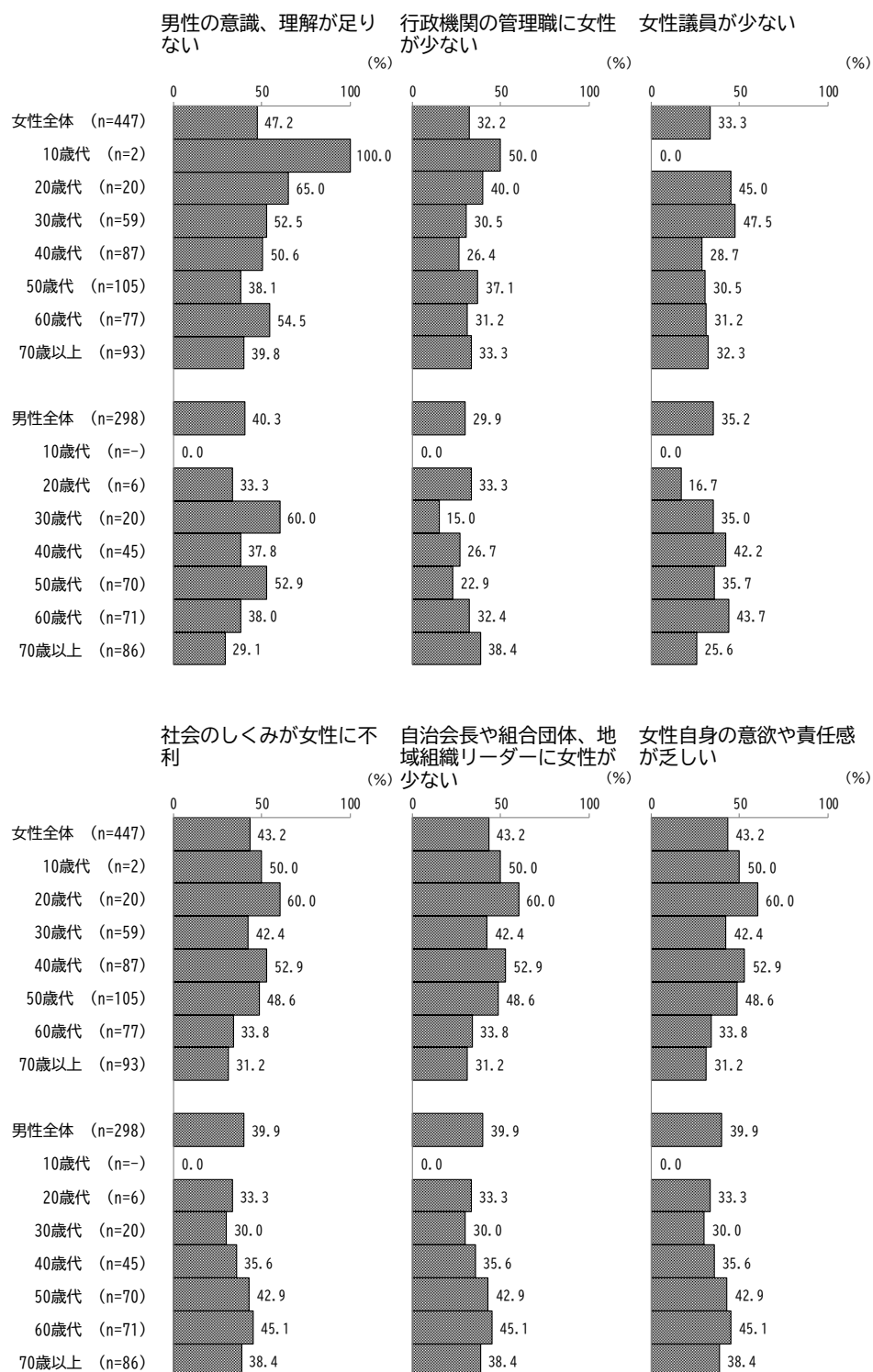
【男性】		令和 7 年 (n=298)		令和 2 年 (n=285)	
第1位	男性の意識、理解が足りない	↓	(40.3)	男性の意識、理解が足りない	(41.4)
第2位	社会のしくみが女性に不利	↓	(39.9)	社会のしくみが女性に不利	(41.4)
第3位	女性議員が少ない	↓	(35.2)	女性議員が少ない	(37.5)
第4位	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	↑	(34.9)	行政機関の管理職に女性が少ない	(32.3)
第5位	行政機関の管理職に女性が少ない	↓	(29.9)	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	(31.9)
第6位	女性自身が消極的	↑	(25.2)	女性自身が消極的	(23.5)

令和２年度調査との比較を順位表（上位６項目）としてみると、全体でみると上位６項目の内訳に変化は無いものの、「男性の意識、理解が足りない」が第３位から第１位へ上昇している。

性別でみると、女性では「男性の意識、理解が足りない」が第３位から第１位へ上昇している。男性では上位６項目の内訳に変化はないものの、「自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない」が第５位から第４位へ上昇している。（図表４－７）

## 第IV章 調査の結果

図表 4－8 女性の意見や考え方が反映されていない理由（性／年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性の20歳代以下、男性の30歳代以下は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、女性では「女性議員が少ない」が30歳代で4割半ばを超え最も高くなっている。男性では「自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない」が50歳代を除く年代で概ね4割前半となっている。（図表 4－8）

図表４－９ 女性の意見や考え方が反映されていない理由（居住地域別、上位６項目）

(%)

		n	男性の意識、理解が足りない	社会のしくみが女性に不利	女性議員が少ない	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	行政機関の管理職に女性が少ない	女性の能力に対する偏見がある
居住地域別	全 体	770	44.5	41.6	33.6	32.9	31.3	20.5
	南部地域	74	50.0	37.8	35.1	39.2	33.8	17.6
	南西部地域	69	44.9	40.6	30.4	29.0	27.5	20.3
	東部地域	121	47.1	42.1	32.2	33.9	30.6	22.3
	さいたま地域	138	52.2	51.4	38.4	24.6	33.3	23.2
	県央地域	55	32.7	50.9	34.5	29.1	34.5	7.3
	川越比企地域	76	42.1	38.2	34.2	32.9	31.6	25.0
	西部地域	94	40.4	30.9	30.9	28.7	35.1	23.4
	利根地域	64	48.4	40.6	29.7	40.6	31.3	20.3
	北部地域	67	34.3	41.8	31.3	46.3	23.9	17.9
	秩父地域	9	33.3	11.1	55.6	44.4	11.1	11.1

※基数が不足しているため、居住地域での秩父地域は参考扱いとする。

居住地域別でみると、「男性の意識、理解が足りない」、「社会のしくみが女性に不利」、「女性議員が少ない」の上位３項目ではさいたま地域で最も高くなっている。（図表４－９）

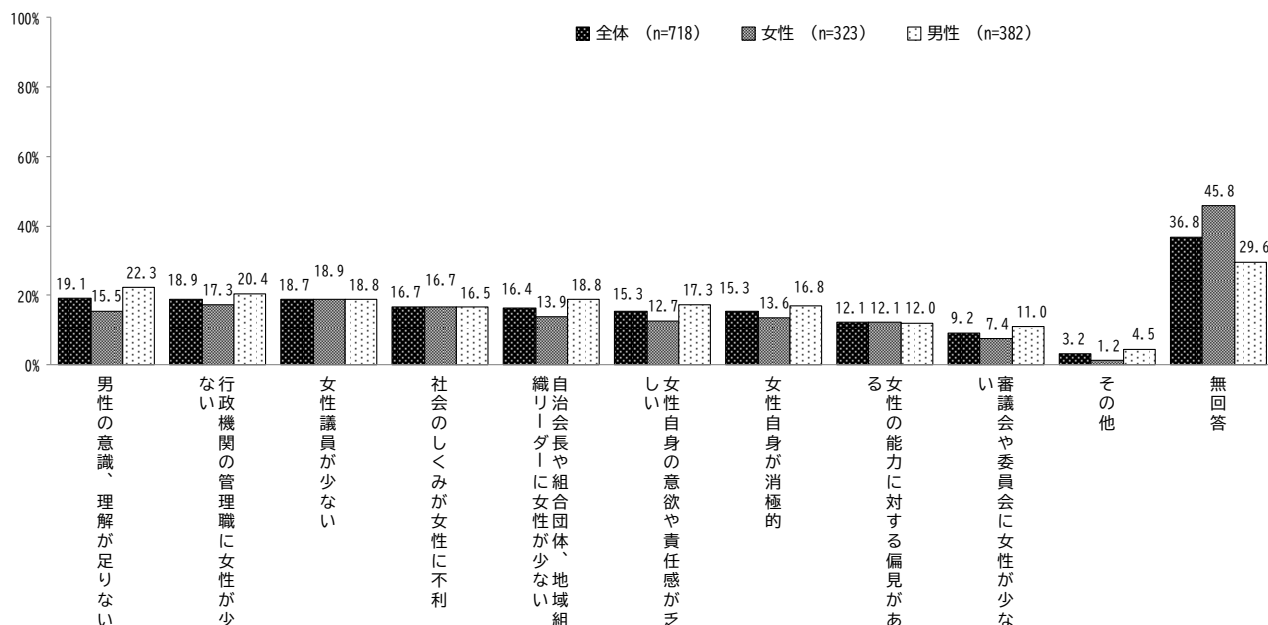
(3) 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの

◎「男性の意識、理解が足りない」が約2割

**新規調査**

問15-1-2 反映されていると回答した方は、より反映させるために、改善する必要があると思うものを選んでください。(3つまでに○)

図表4-10 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの

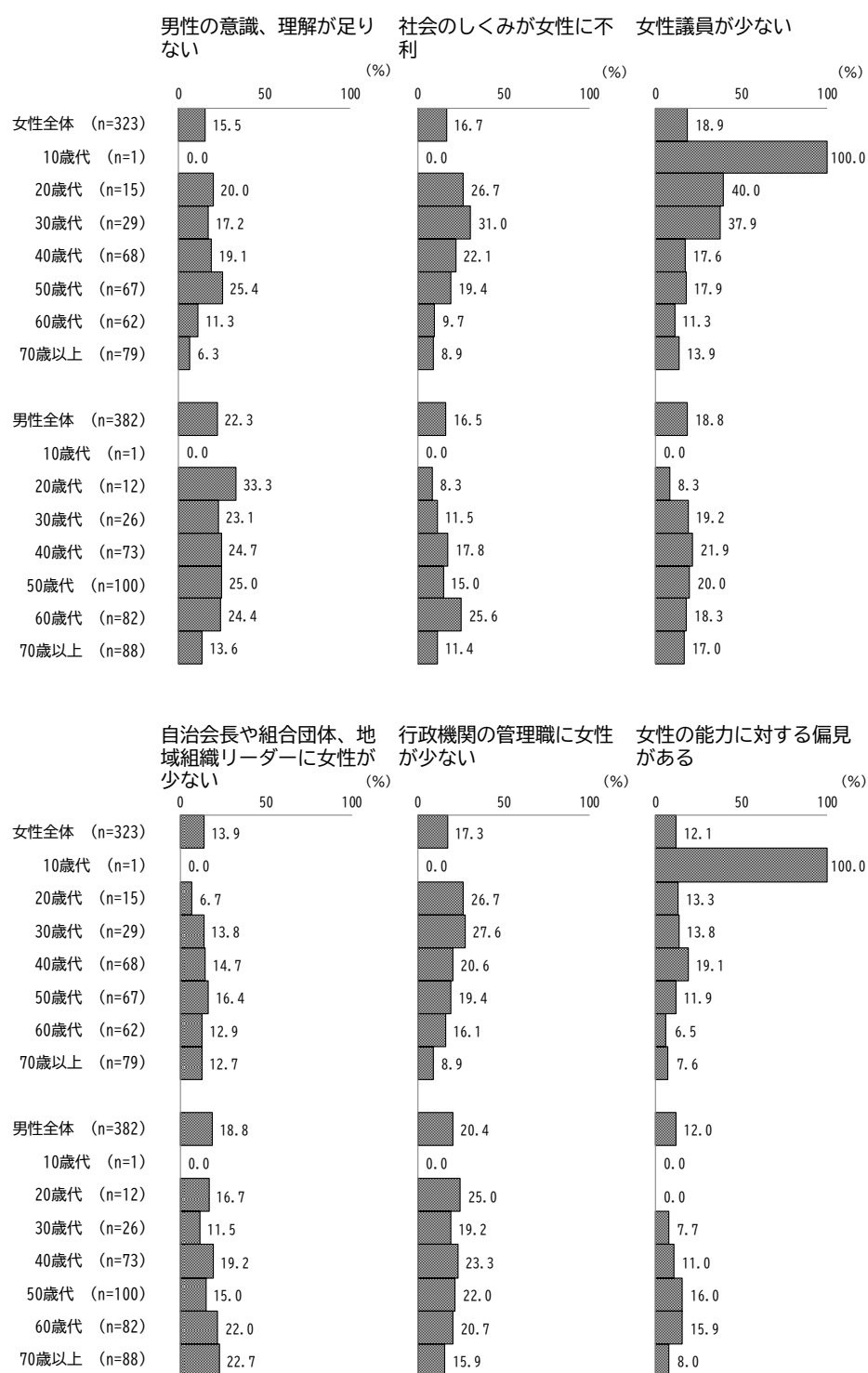


女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うものを、全体でみると「男性の意識、理解が足りない」が19.1%で最も高く、次いで「行政機関の管理職に女性が少ない」(18.9%)、「女性議員が少ない」(18.7%)となっている。

性別でみると、「男性の意識、理解が足りない」は女性(15.5%)、男性(22.3%)と、男性が女性を6.8ポイント上回っている。(図表4-10)



図表 4－11 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの  
(性／年齢別、上位6項目)



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性の30歳代以下、男性の30歳代以下は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「社会のしくみが女性に不利」は女性では40歳代で2割強と最も高く、男性では60歳代で2割台半ばと最も高くなっている。「女性議員が少ない」では男性の40歳代で2割強と最も高くなっている。(図表4－11)

#### 第IV章 調査の結果

図表 4－12 女性の意見や考え方をより反映させるために改善する必要があると思うもの  
(居住地域別、上位 6 項目)

			(%)					
		n	男性の意識、理解が足りない	行政機関の管理職に女性が少ない	女性議員が少ない	社会のしくみが女性に不利	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	女性自身の意欲や責任感が乏しい
居住地域別	全 体	718	19.1	18.9	18.7	16.7	16.4	15.3
	南部地域	63	27.0	17.5	12.7	14.3	22.2	22.2
	南西部地域	82	31.7	8.5	15.9	23.2	7.3	13.4
	東部地域	88	14.8	22.7	19.3	19.3	17.0	18.2
	さいたま地域	128	14.8	18.8	20.3	12.5	12.5	15.6
	県央地域	59	13.6	11.9	23.7	11.9	20.3	13.6
	川越比企地域	73	12.3	24.7	6.8	23.3	12.3	16.4
	西部地域	80	20.0	17.5	20.0	17.5	13.8	12.5
	利根地域	74	21.6	23.0	28.4	17.6	27.0	12.2
	北部地域	60	20.0	25.0	18.3	11.7	20.0	11.7
	秩父地域	9	11.1	33.3	22.2	11.1	33.3	33.3

※基数が不足しているため、居住地域での秩父地域は参考扱いとする。

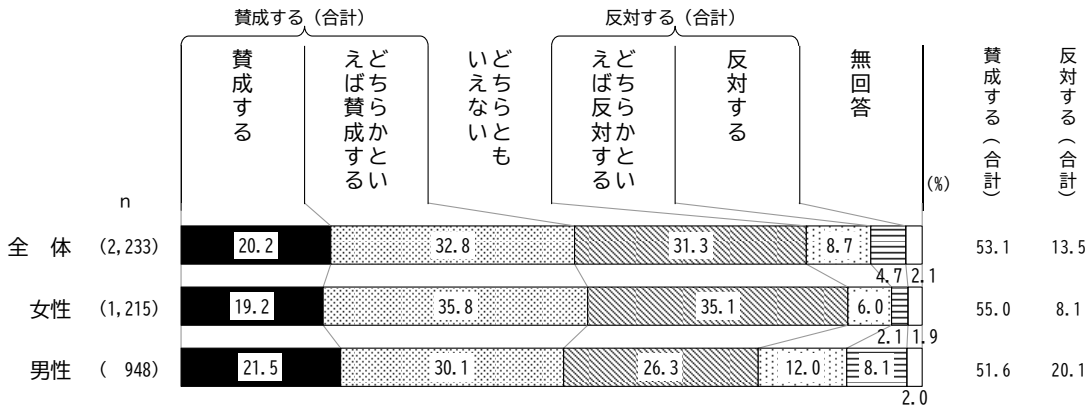
居住地域別でみると、「男性の意識、理解が足りない」では南西部地域で31.7%と最も高くなっている。「行政機関の管理職に女性が少ない」では北部地域で25.0%と最も高くなっている。「女性議員が少ない」では利根地域で28.4%と最も高くなっている。(図表 4－12)

(4) ポジティブアクションに対する考え方

◎ 《賛成する（合計）》が過半数を占めている

**問 1 6** 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」（＝ポジティブアクション）という考え方について、あなたはどのように思いますか。  
(1つだけに○)

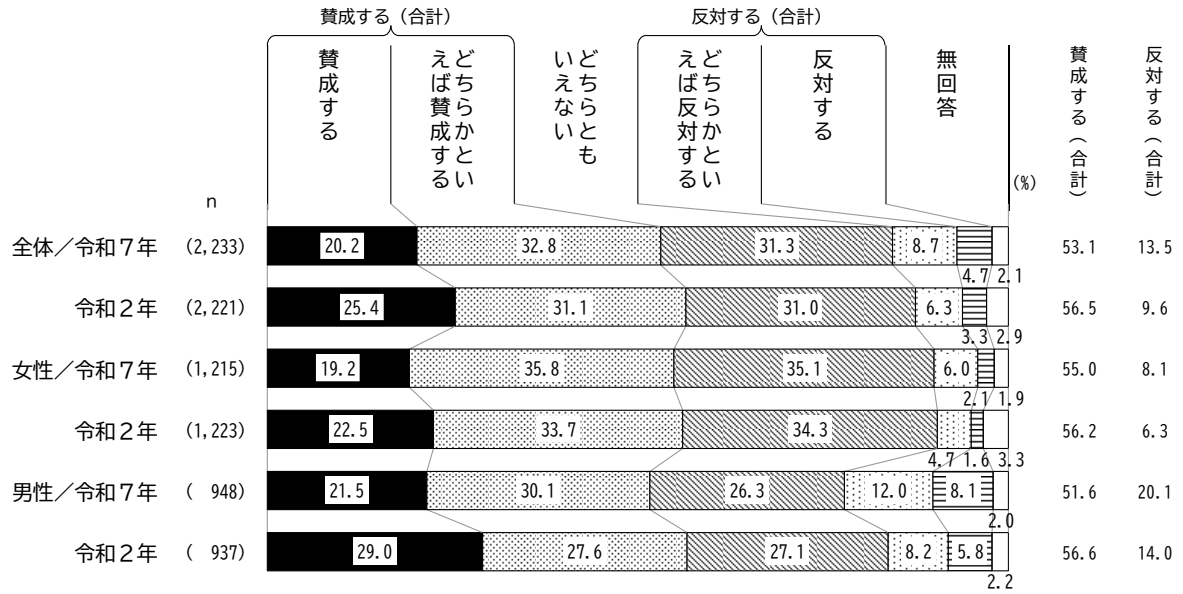
図表 4-13 ポジティブアクションに対する考え方



ポジティブアクションに対する考え方を聞いたところ、全体でみると「賛成する」(20.2%)と「どちらかといえば賛成する」(32.8%)を合わせた《賛成する(合計)》は53.1%と過半数を占めている。一方、「どちらかといえば反対する」(8.7%)と「反対する」(4.7%)を合わせた《反対する(合計)》は13.5%となっている。

性別でみると、《賛成する(合計)》は男女ともに過半数を占めている。また、《賛成する(合計)》は女性(55.0%)、男性(51.6%)と、女性が男性を3.4ポイント上回っている。一方、《反対する(合計)》は女性(8.1%)、男性(20.1%)と、男性が女性を12.0ポイント上回っている。(図表4-13)

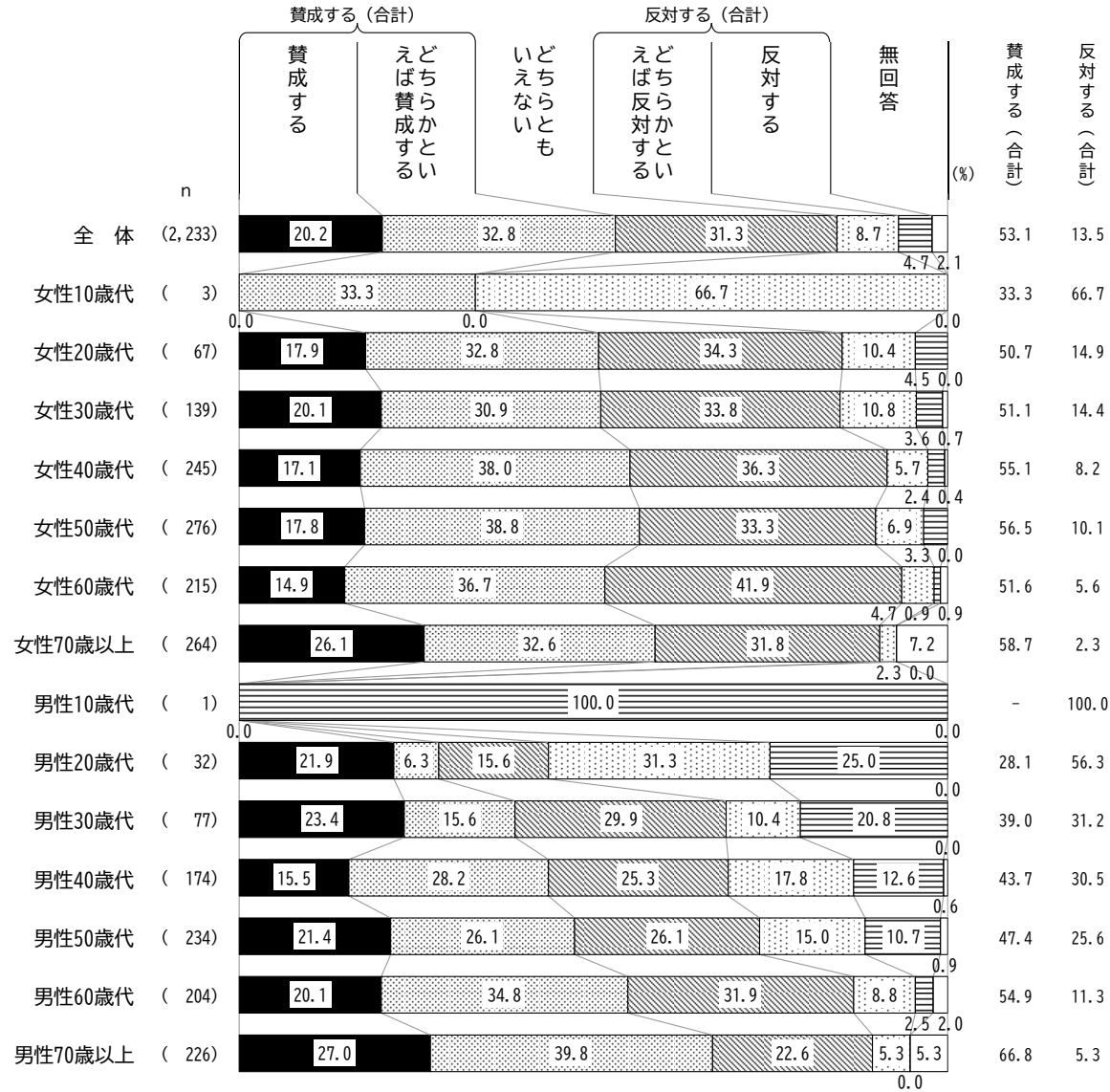
図表 4－14 ポジティブアクションに対する考え方（令和２年度調査との比較）



令和２年度調査と比較すると、全体では《賛成する（合計）》は前回より3.4ポイントの減少が見られ、《反対する（合計）》は前回より3.9ポイントの増加が見られる。

性別でみると、女性では大きな変化はみられないが、男性では《賛成する（合計）》は前回より5.0ポイント減少し、《反対する（合計）》は前回より6.1ポイント増加している。（図表 4－14）

図表 4－15 ポジティブアクションに対する考え方（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、女性では《賛成する（合計）》はすべての年代で過半数を占めている。一方、《反対する（合計）》は、男性の20歳代で5割台半ばを超えて高くなっている。（図表 4－15）

(5) 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ

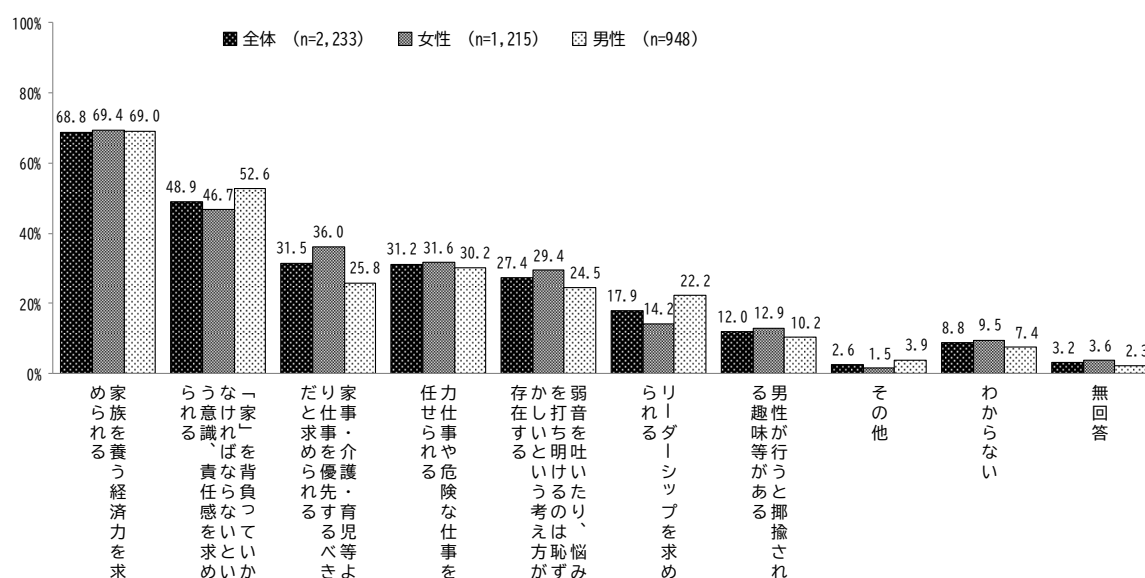
◎「家族を養う経済力を求められる」が7割弱

**新規調査**

**問17** 日本社会において「男性である」がゆえに生じる、男性特有の負担感や生きづらさについて、次のうちどれが強く存在すると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

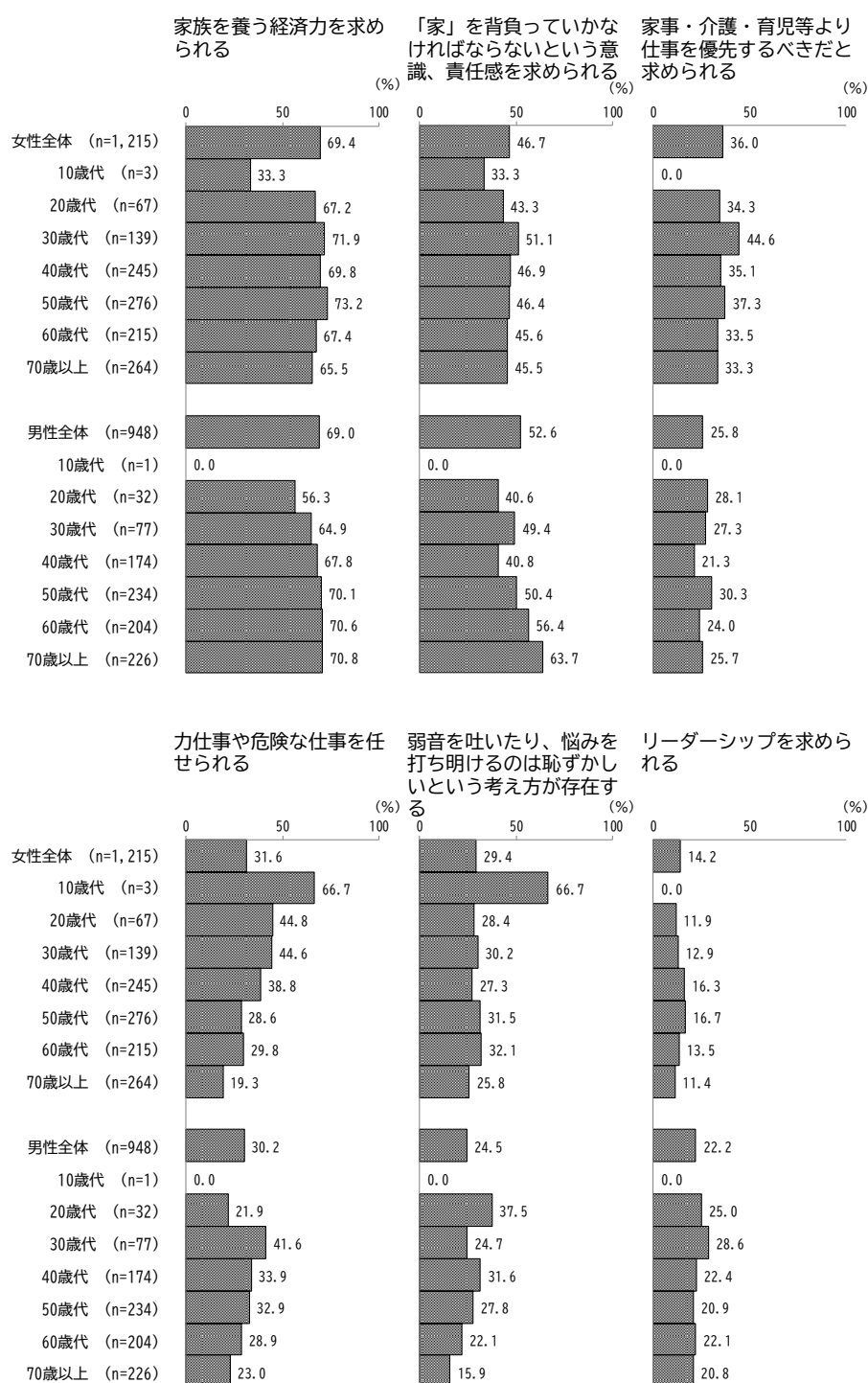
図表4-16 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ



強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさを聞いたところ、全体でみると「家族を養う経済力を求められる」が68.8%で最も高く、次いで「「家」を背負っていかねばならないという意識、責任感を求められる」(48.9%)、「家事・介護・育児等より仕事を優先するべきだと求められる」(31.5%)となっている。

性別でみると、「家事・介護・育児等より仕事を優先するべきだと求められる」は女性(36.0%)、男性(25.8%)と、女性が男性を10.2ポイント上回っている。「リーダーシップを求められる」は女性(14.2%)、男性(22.2%)と、男性が女性を8.0ポイント上回っている。(図表4-16)

図表 4-17 強く存在すると思う男性特有の負担感や生きづらさ（性／年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、女性では「家族を養う経済力を求められる」が30歳代と50歳代で7割強と高くなっている。男性では「家族を養う経済力を求められる」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、50歳以上では7割を超えている。（図表 4-17）

(6) 男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面

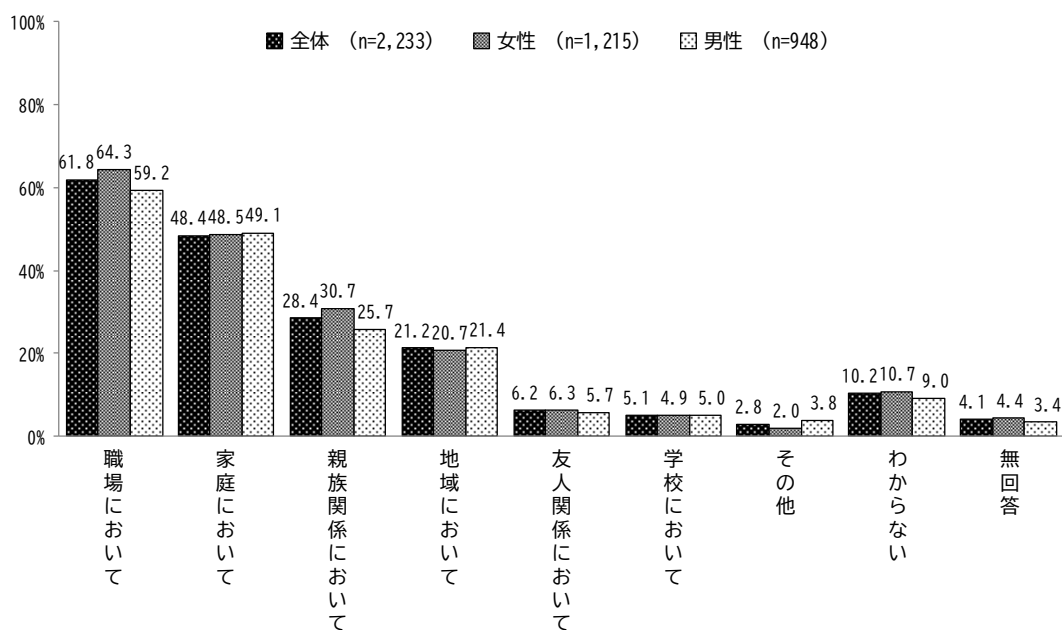
◎「職場において」が6割強

**新規調査**

問18 それは、どのような場面において強く現れていると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

図表4-18 男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面

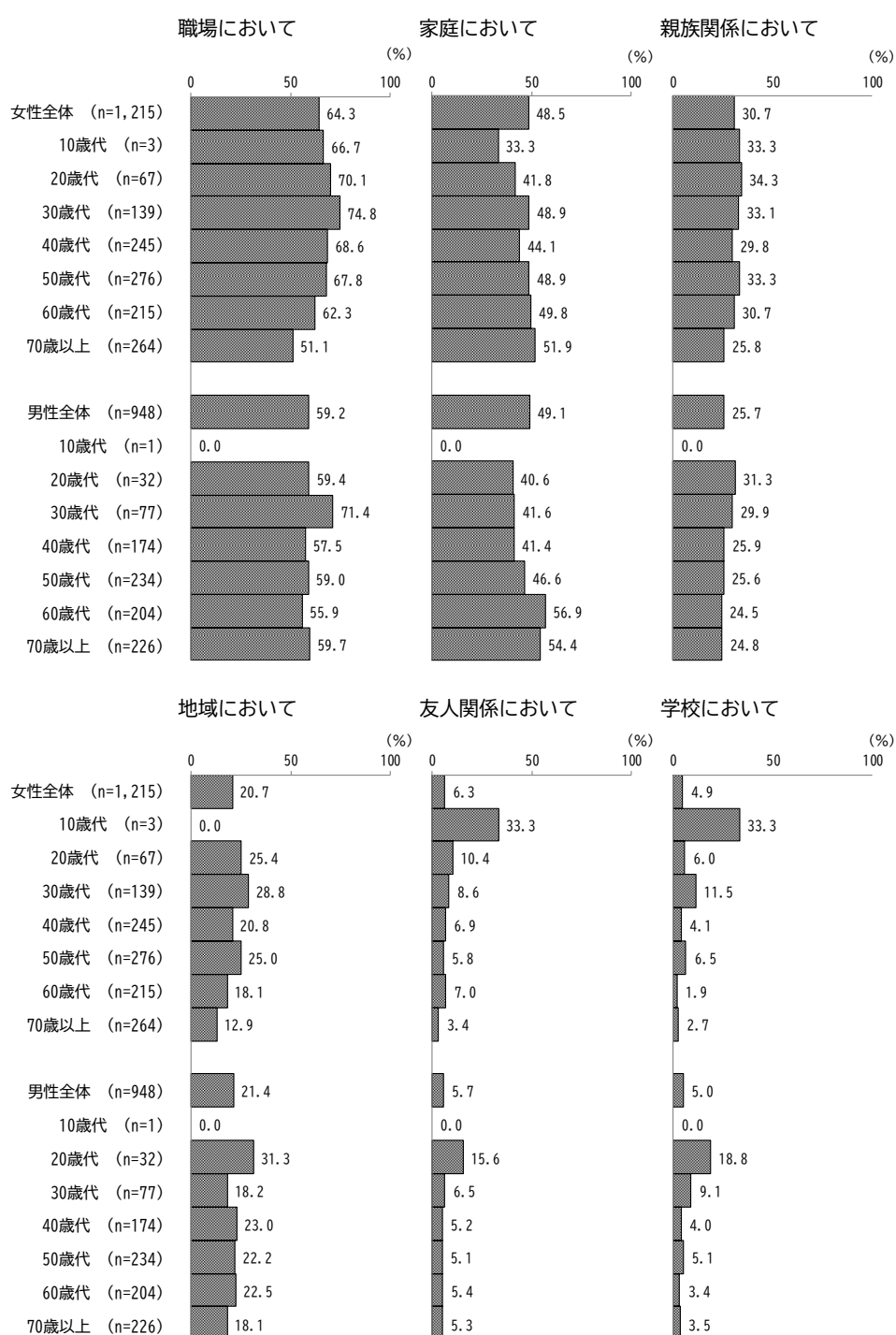


男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面を聞いたところ、全体でみると「職場において」が61.8%で最も高く、次いで「家庭において」(48.4%)、「親族関係において」(28.4%)となっている。

性別でみると、「職場においては」は女性(64.3%)、男性(59.2%)と、女性が男性を5.1ポイント上回っている。(図表4-18)



図表 4－19 男性特有の負担感や生きづらさが強く現れていると思う場面  
(性／年齢別、上位 6 項目)



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、男女ともに「職場において」が30歳代で最も高く、女性で74.8%、男性で71.4%となっている。男性では「家庭において」は概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、60歳代で5割台半ばを超えている。(図表 4－19)

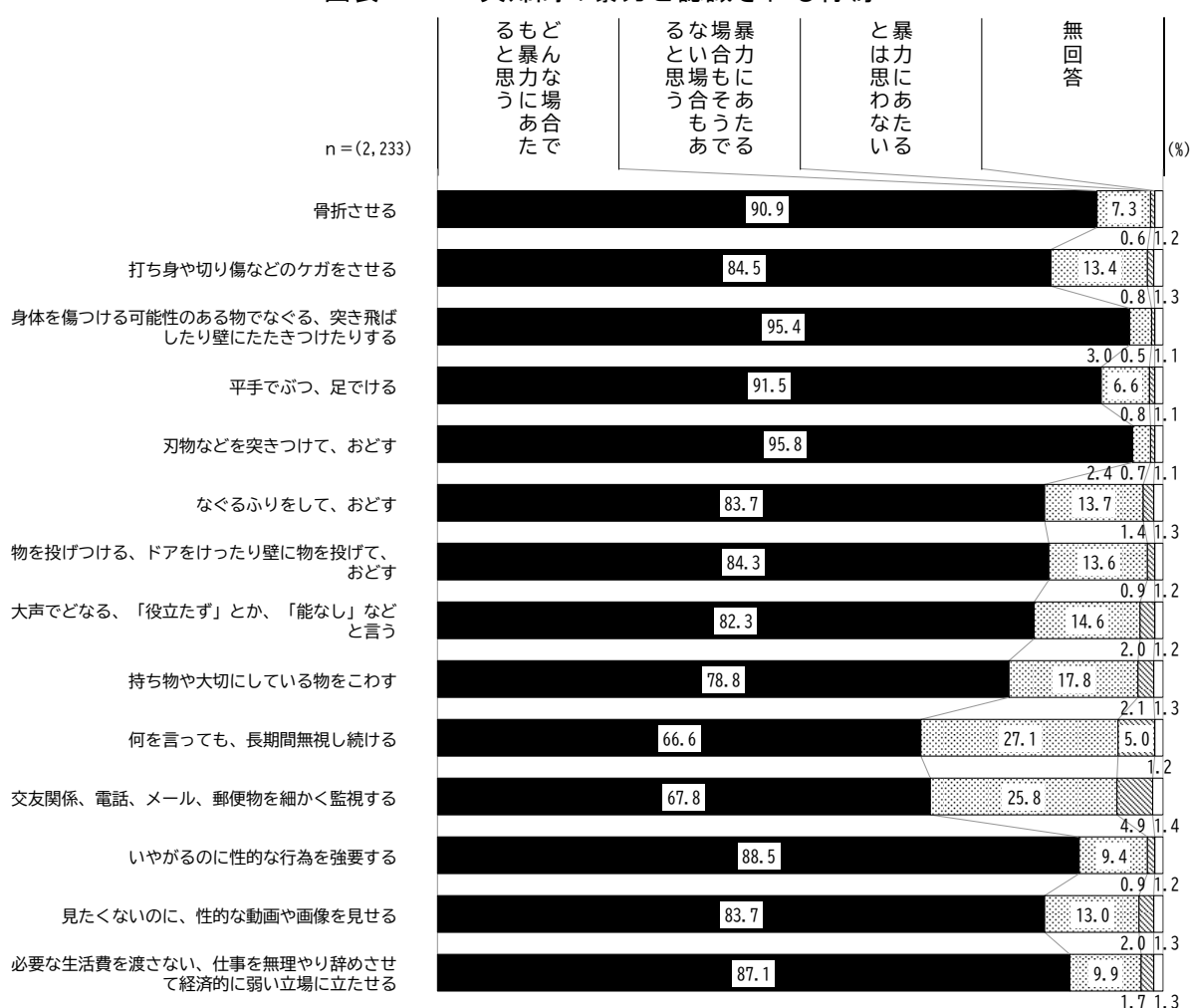
## 5. 男女間における暴力について

### (1) 夫婦間の暴力と認識される行為

◎【刃物などを突きつけて、おどす】【身体を傷つける可能性のある物でなぐる、突き飛ばしたり壁にたたきつけたりする】【平手でぶつ、足でける】が上位3項目となっている

**問19** あなたは、次の(1)～(14)のようなことが夫婦(事実婚や別居中を含む)の間で行われた場合、それをどのように感じますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

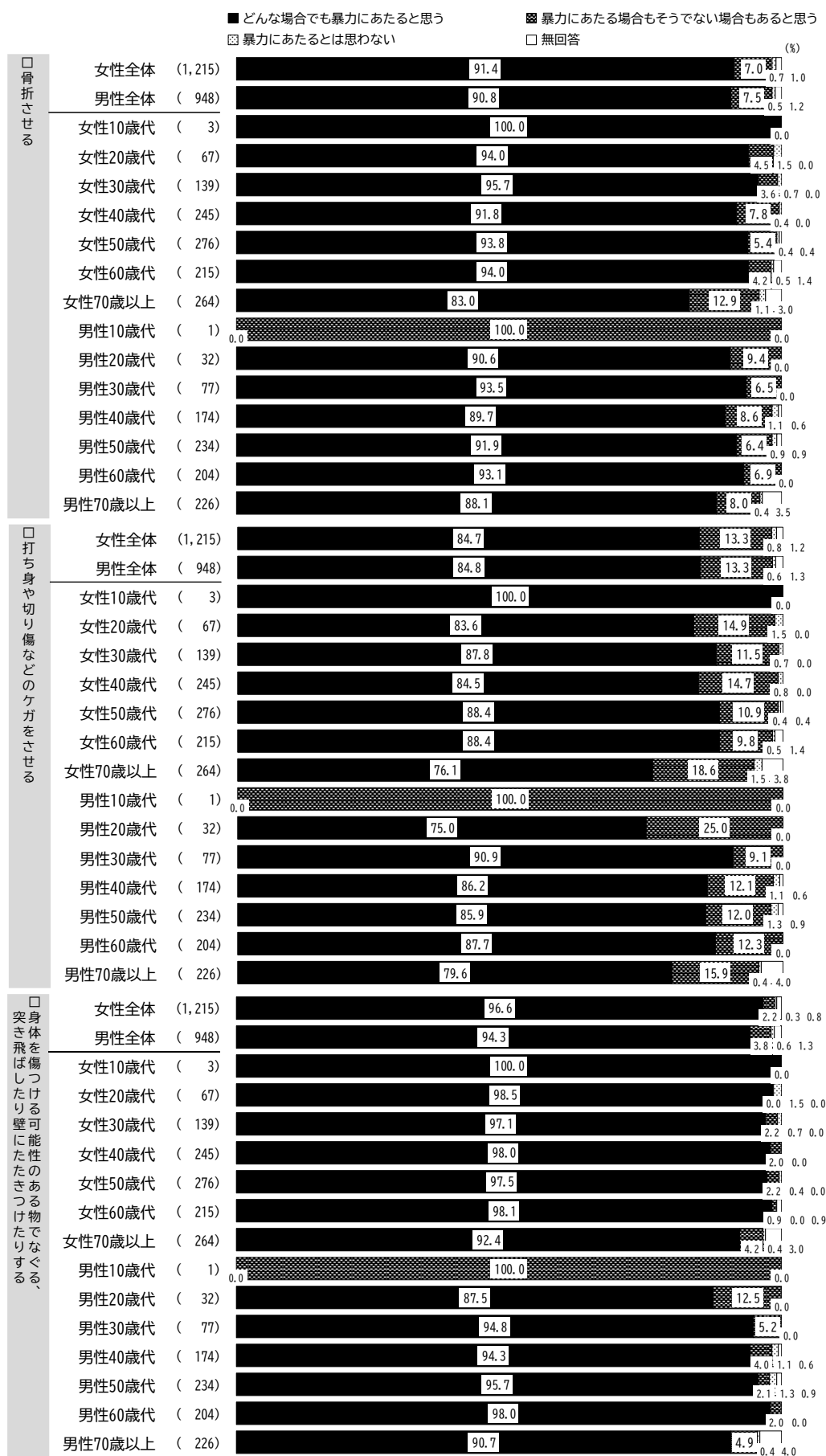
図表5-1 夫婦間の暴力と認識される行為



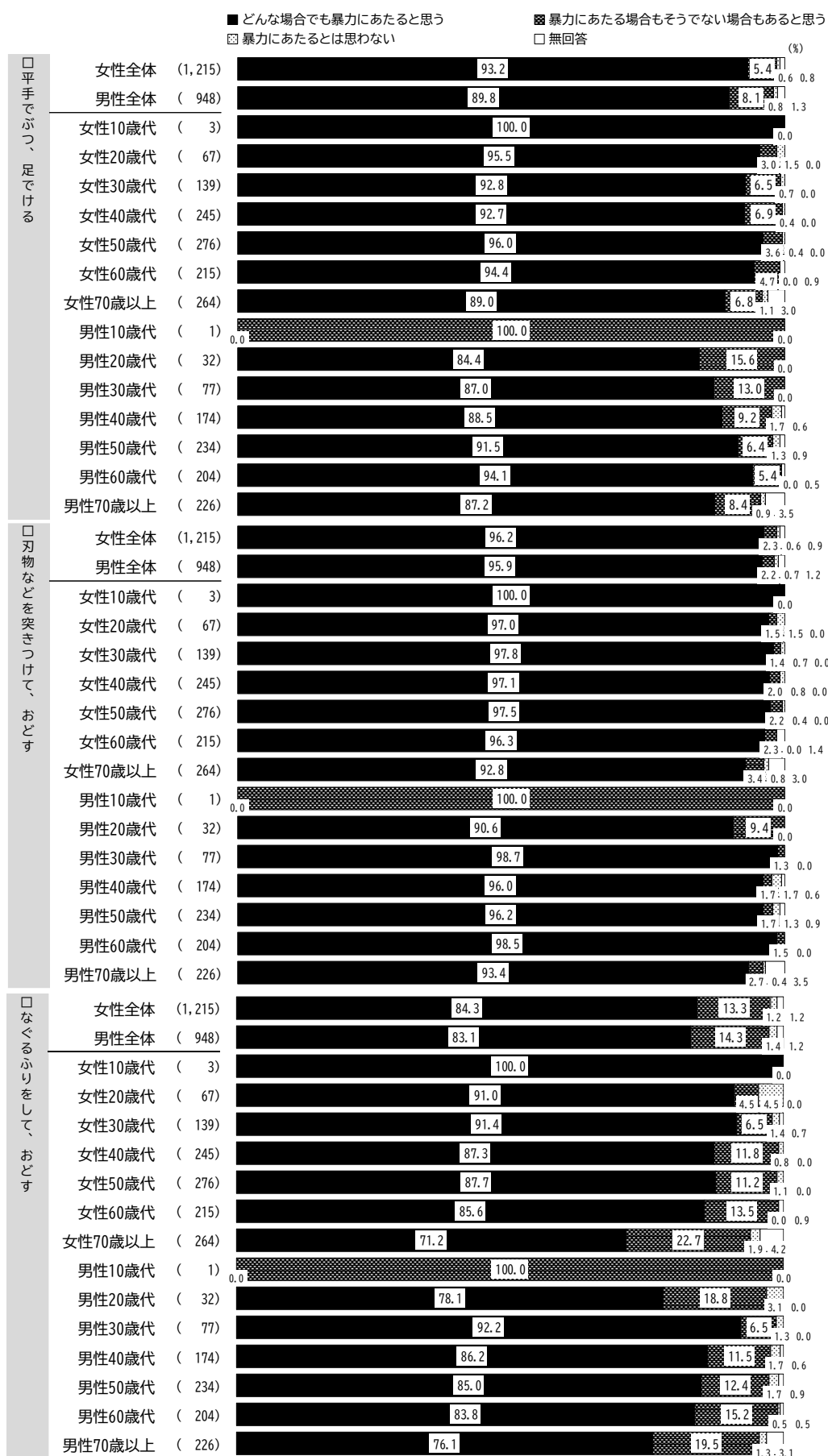
14項目の行為が夫婦(事実婚や別居中を含む)の間で行われた場合、「どんな場合でも暴力にあたる」と考える人が多いのは、【刃物などを突きつけて、おどす】が95.8%で最も高く、次いで【身体を傷つける可能性のある物でなぐる、突き飛ばしたり壁にたたきつけたりする】(95.4%)、【平手でぶつ、足でける】(91.5%)となっており、9割強～9割台半ばが「暴力にあたる」と認識している。

一方、「暴力にあたるとは思わない」と考える人が多いのは、【何を言っても、長期間無視し続ける】(5.0%)、【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】(4.9%)の2項目で、他の項目に比べて「暴力にあたる」という認識が低くなっている。(図表5-1)

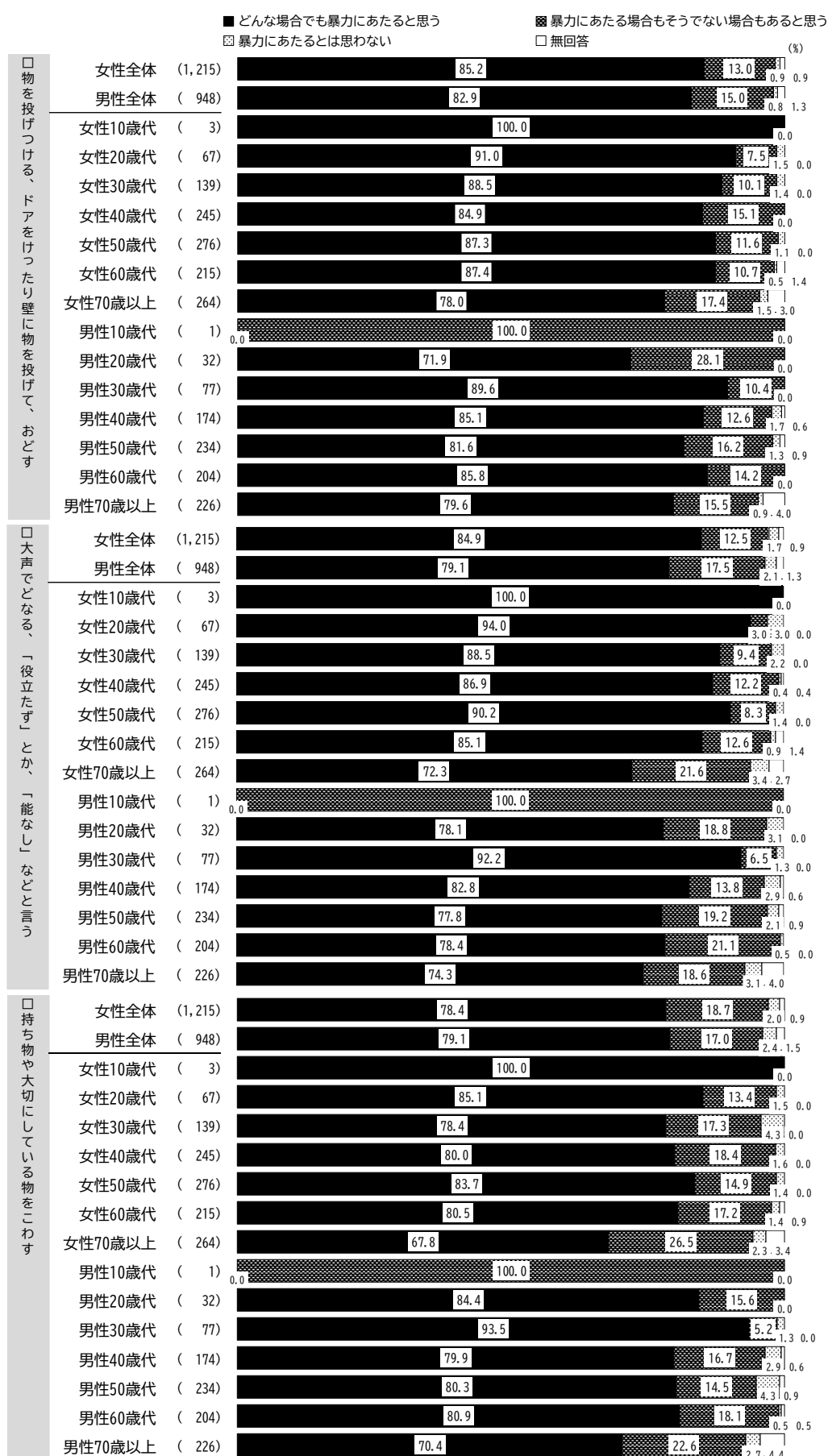
図表5-2 夫婦間の暴力と認識される行為（性別・性／年齢別）



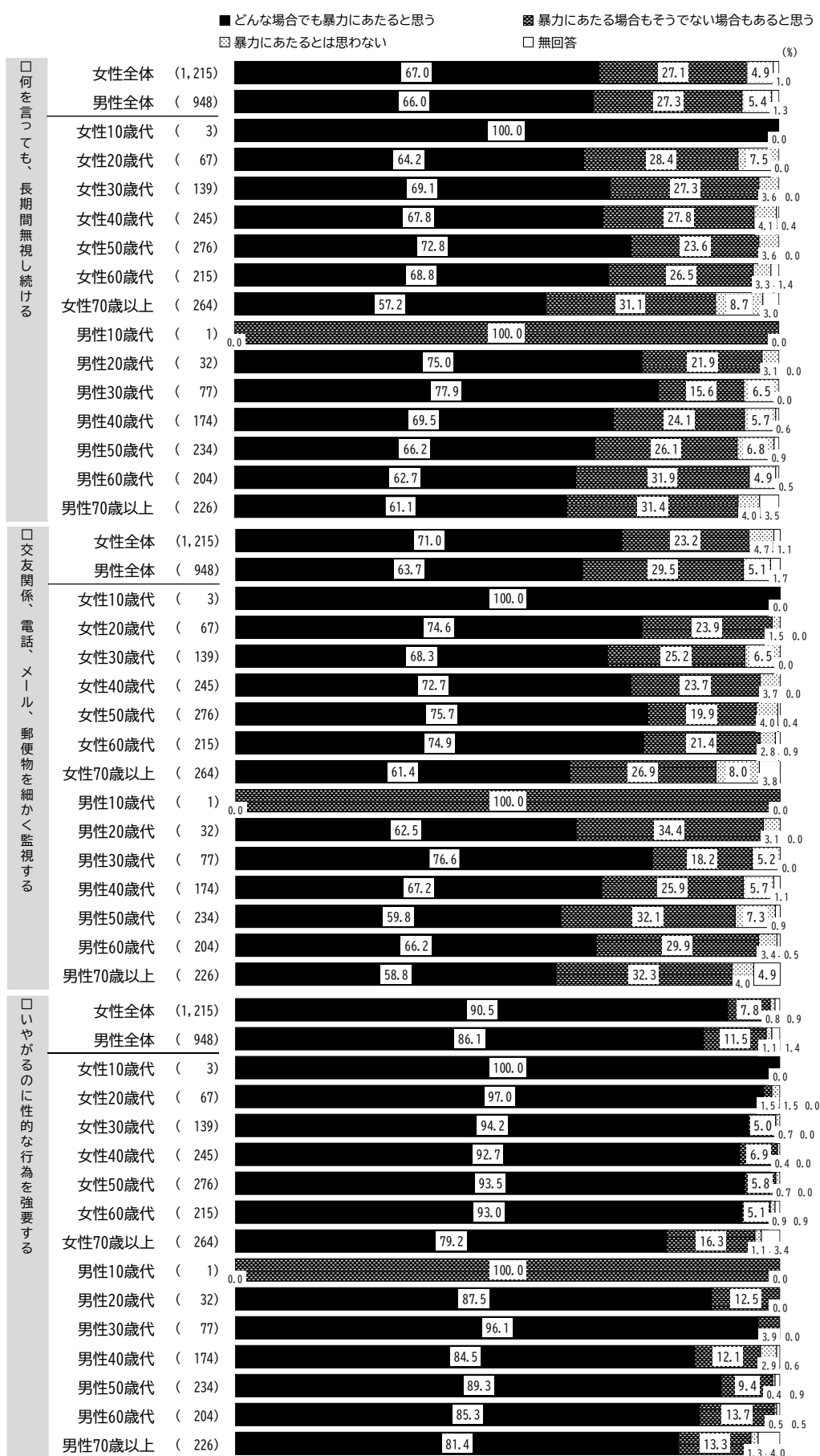
## 第IV章 調査の結果

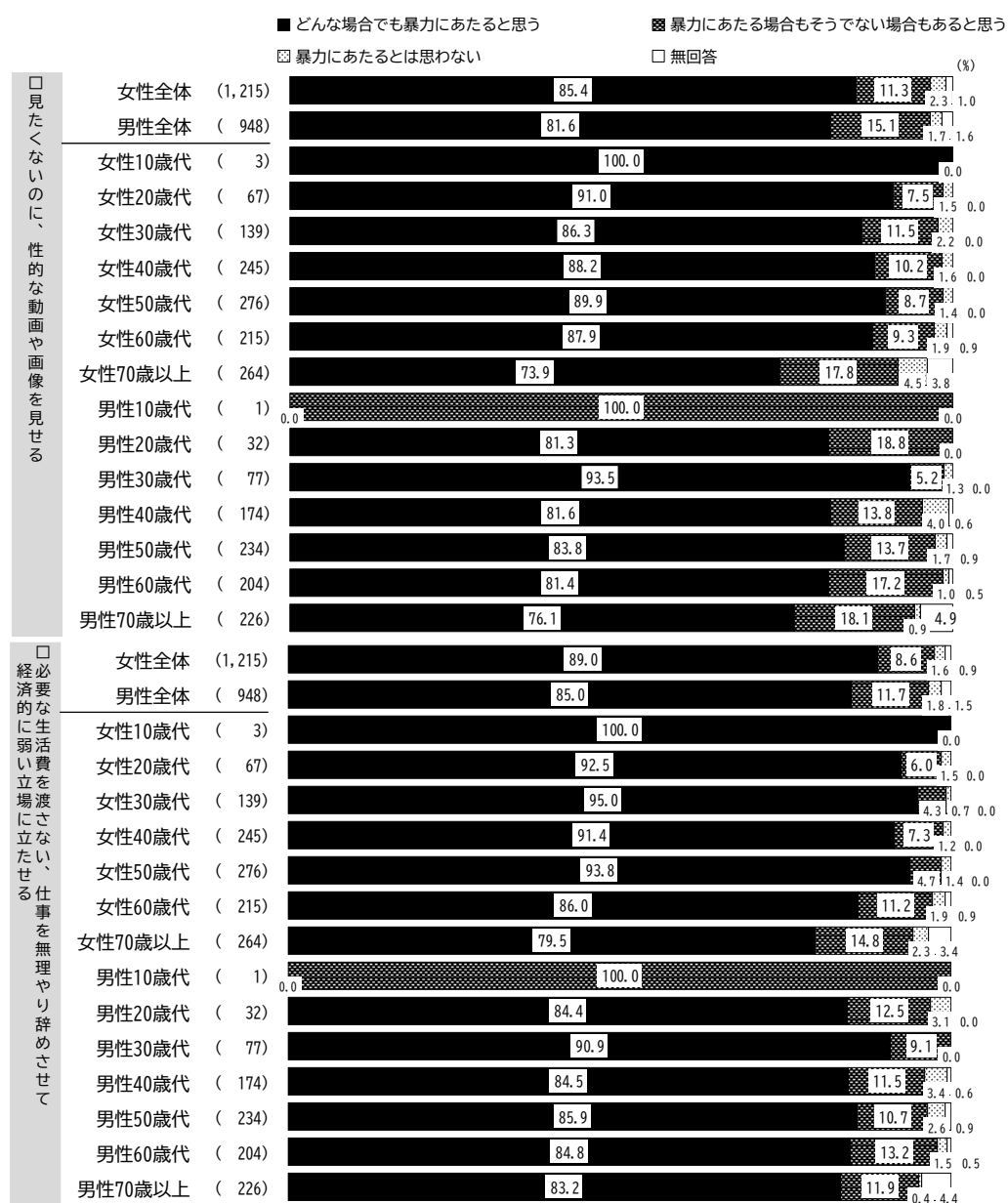


## 第IV章 調査の結果



## 第IV章 調査の結果





※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

## 第IV章 調査の結果

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】では7.3ポイント（女性71.0%、男性63.7%）、【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】では5.8ポイント（女性84.9%、男性79.1%）、【いやがるのに性的な行為を強要する】では4.4ポイント（女性90.5%、男性86.1%）それぞれ女性が男性を上回っている。また、【持ち物や大切にしている物をこわす】では0.7ポイント（女性78.4%、男性79.1%）、それぞれ男性が女性を上回っており、男女で意識に差が出ている。

性／年齢別でみると、【骨折させる】で「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね9割弱～9割台半ばだが、女性の70歳以上で83.0%と他の年代に比べて低くなっている。

【打ち身や切り傷などのケガをさせる】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね約8割～9割弱だが、女性の70歳以上で76.1%、男性の20歳代で75.0%と他の年代に比べて低くなっている。

【身体を傷つける可能性のある物でなぐる、突き飛ばしたり壁にたたきつけたりする】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね9割以上だが、男性の20歳代で87.5%と他の年代に比べて低くなっている。

【平手でぶつ、足でける】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね8割台後半～9割台後半だが、男性の20歳代で84.4%と他の年代に比べて低くなっている。

【刃物などを突きつけて、おどす】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね9割強～10割弱だが、男性の20歳代で90.6%と他の年代に比べて低くなっている。

【なぐるふりをして、おどす】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね7割台後半～9割強だが、女性の70歳以上で71.2%と他の年代に比べて低くなっている。

【物を投げつける、ドアをけったり壁に物を投げて、おどす】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね8割弱～9割強だが、男性の20歳代で71.9%と他の年代に比べて低くなっている。

【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね7割台後半～9割台半ばだが、男性の70歳以上で74.3%、女性の70歳以上で72.3%と他の年代に比べて低くなっている。

【持ち物や大切にしている物をこわす】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね6割台後半～8割台半ばだが、男性の30歳代で93.5%と他の年代に比べて高くなっている。

【何を言っても、長期間無視し続ける】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね6割強～7割台後半だが、女性の70歳以上で57.2%と他の年代に比べて低くなっている。

【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね6割弱～7割台後半となっている。

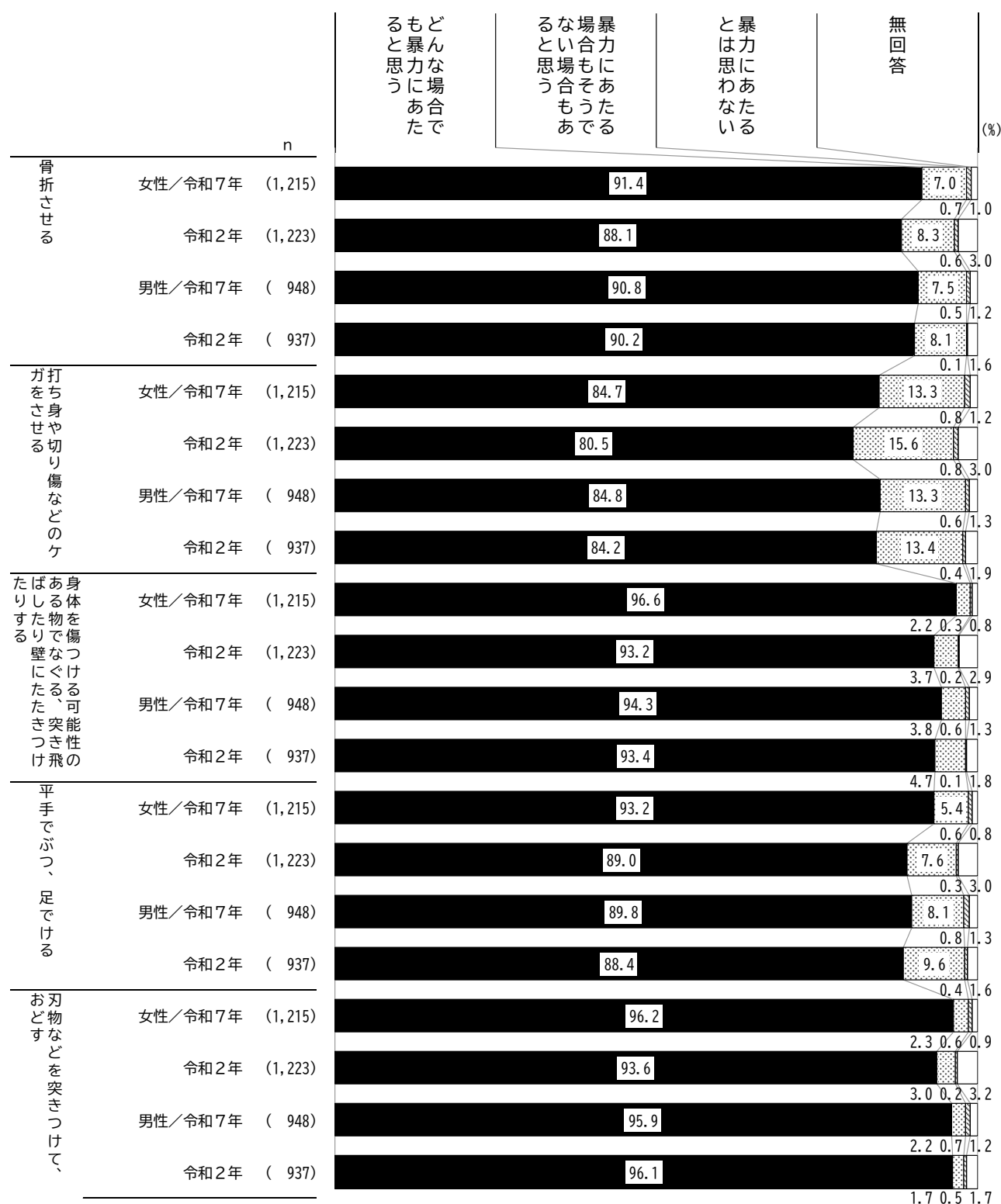
【いやがるのに性的な行為を強要する】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね約8割～9割台後半だが、女性の70歳以上で79.2%と他の年代に比べて低くなっている。

【見たくないのに、性的な動画や画像を見せる】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね7割強～9割強だが、男性の30歳代で93.5%と他の年代に比べて高くなっている。

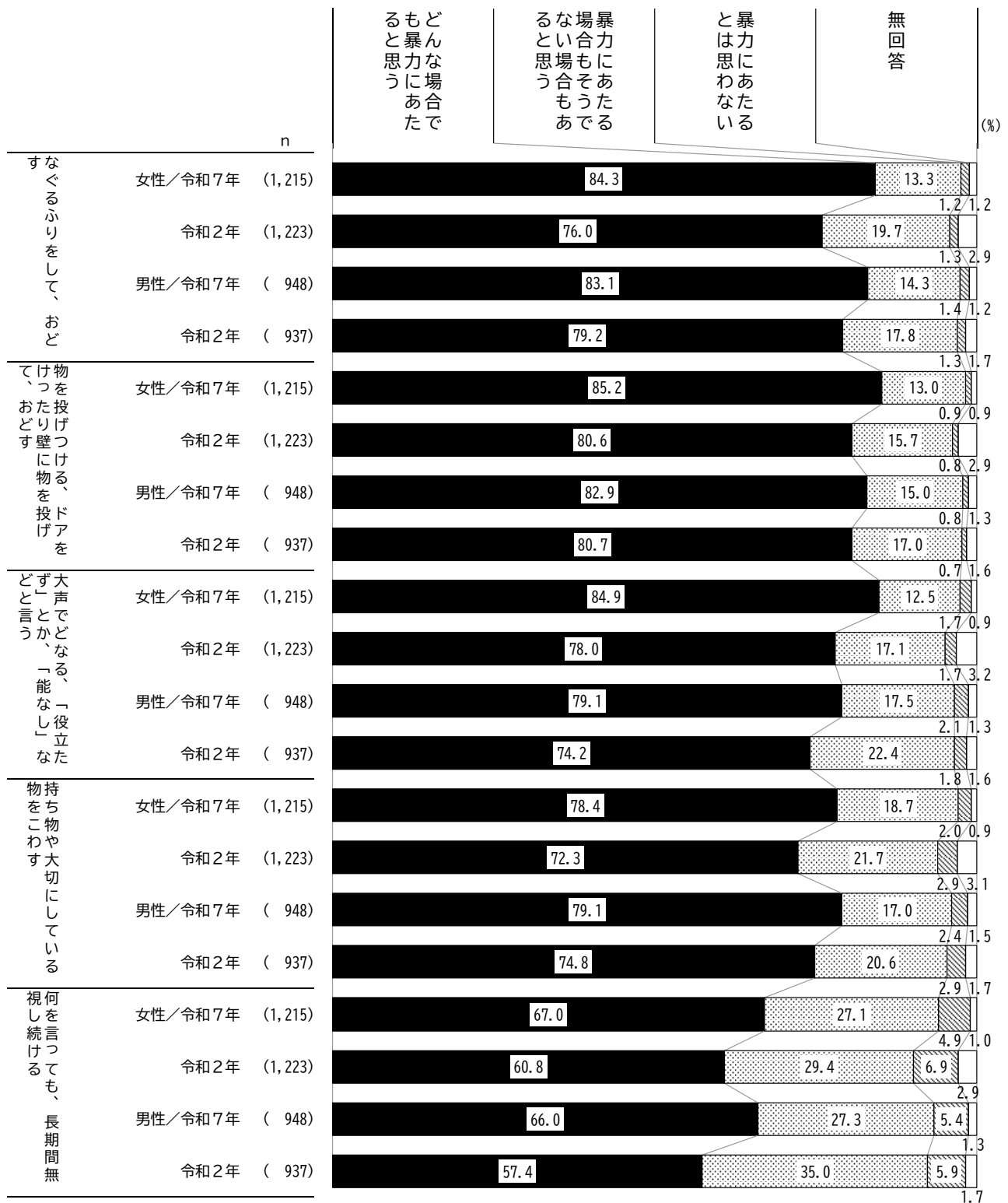
【必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる】では「どんな場合でも暴力にあたる」としているのは、男女とも概ね8割強～9割台半ばだが、女性の70歳以上で79.5%と他の年代に比べて低くなっている。（図表5－2）

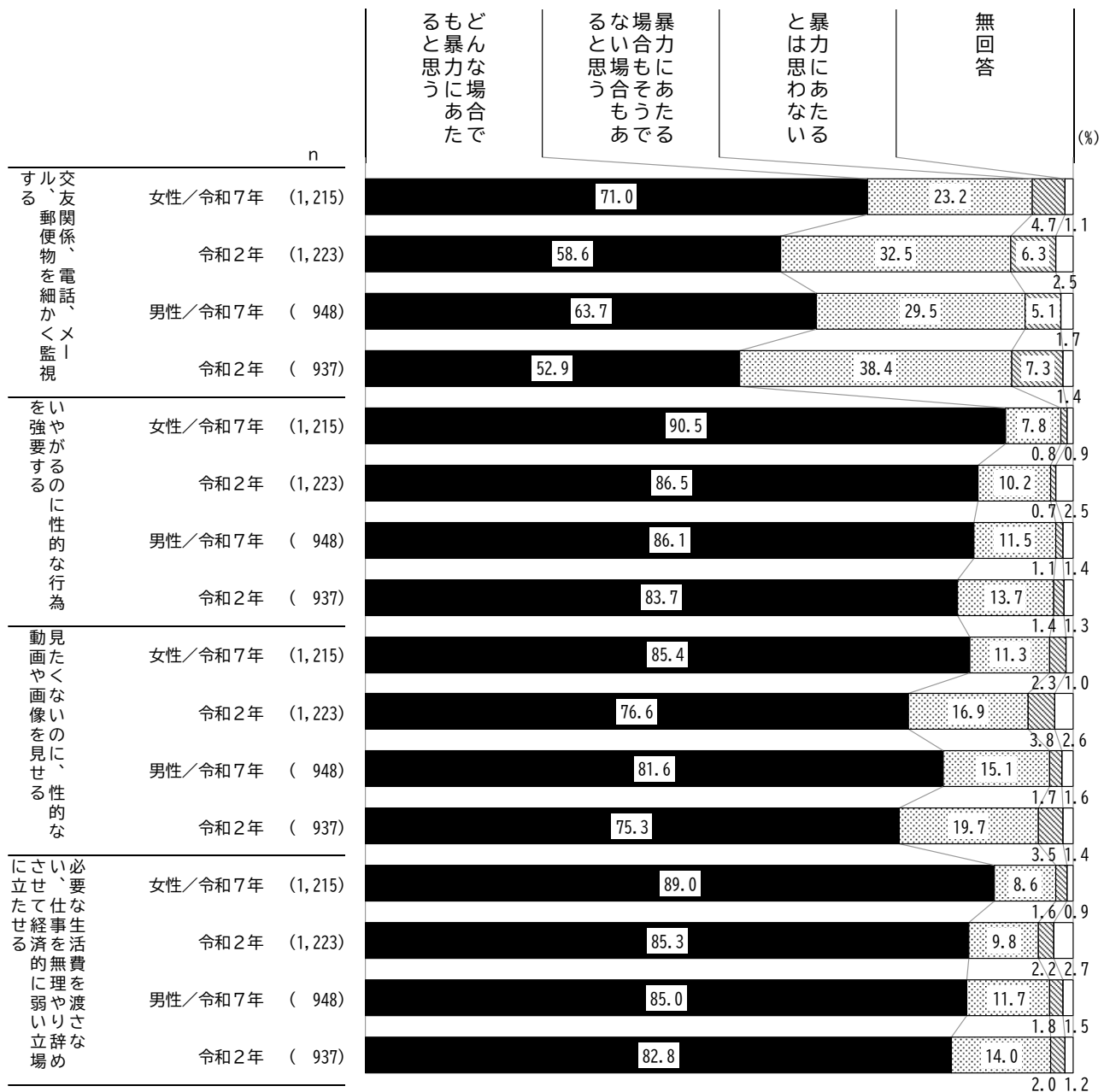


図表5-3 夫婦間の暴力と認識される行為（令和2年度調査との比較）



# 第Ⅳ章 調査の結果

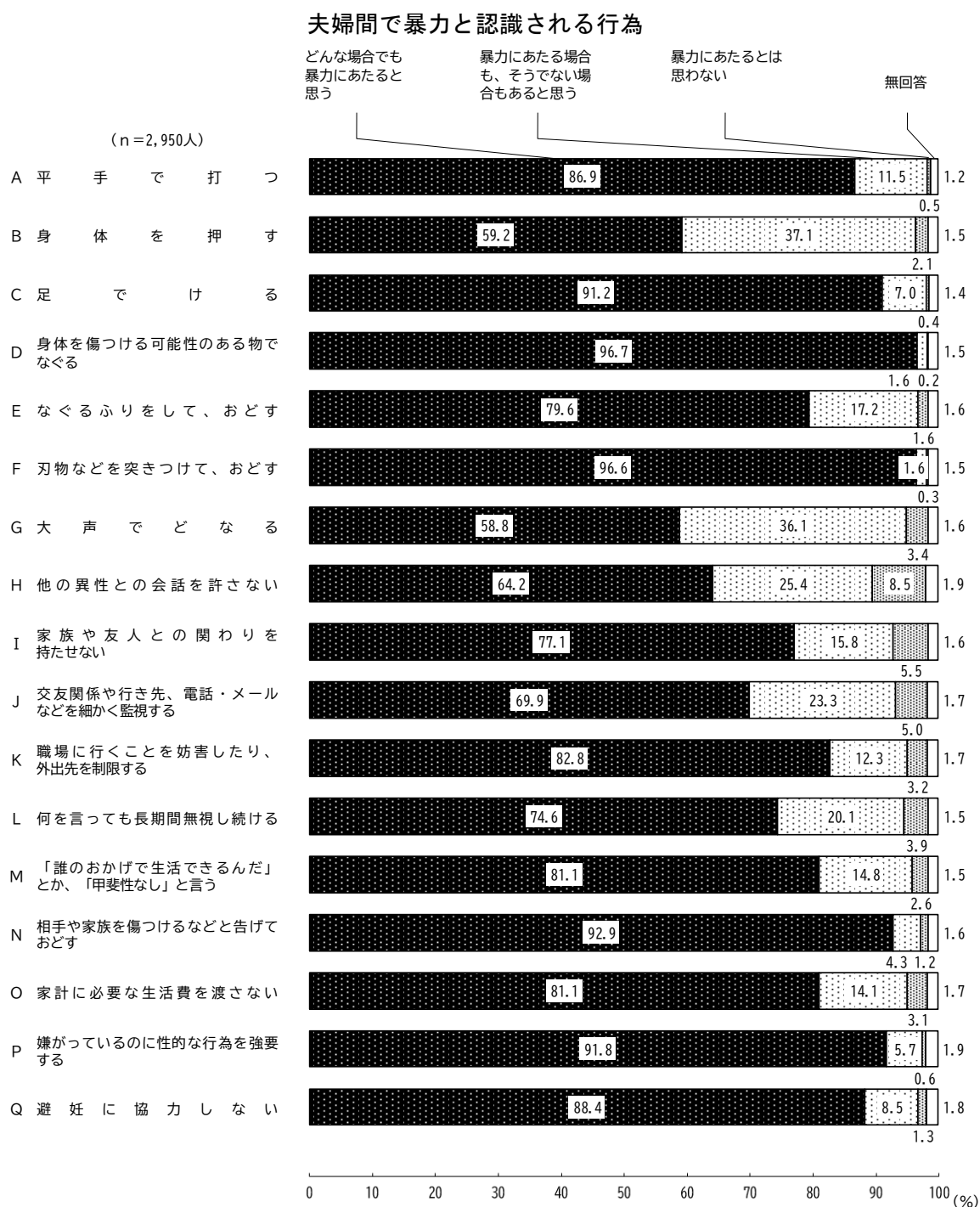




## 第IV章 調査の結果

令和2年度調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は女性ではすべての項目で増加しており、特に【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】、【見たくないのに、性的な動画や画像を見せる】、【なぐるふりをして、おどす】、【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】、【何を言っても、長期間無視し続ける】、【持ち物や大切にしている物をこわす】の6項目が前回に比べ6ポイント以上増加している。男性では【刃物などを突きつけて、おどす】を除くすべての項目で増加しており、【交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する】は10.8ポイント、【何を言っても、長期間無視し続ける】は8.6ポイント、それぞれ前回に比べ増加している。（図表5-3）

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」（令和6年3月）



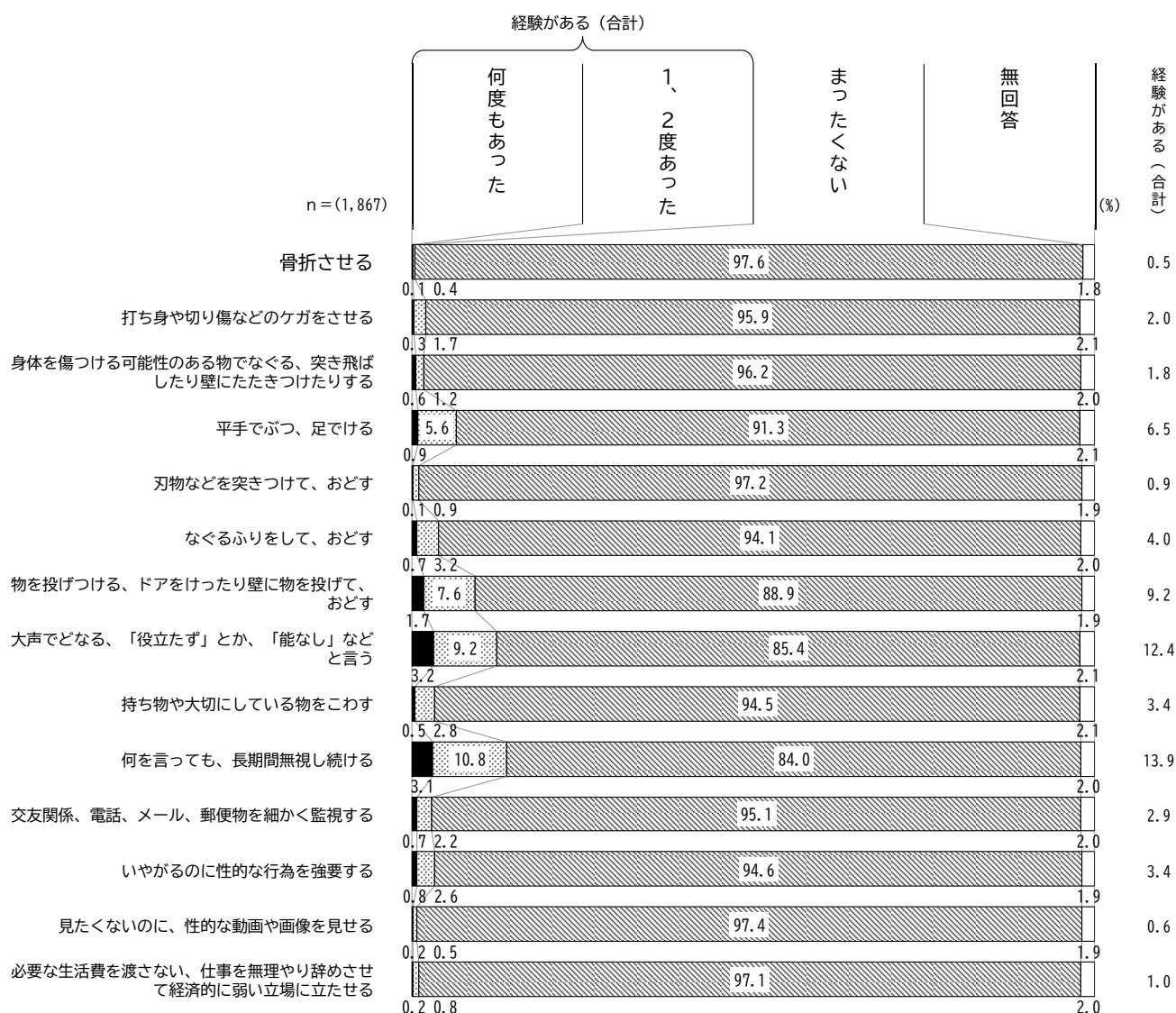
## (2) 配偶者等への暴力の加害経験

◎《経験がある（合計）》は「何を言っても、長期間無視し続ける」が1割強で最も高くなっている

【問20から問21-7は、配偶者がいる方、または過去に配偶者がいた方にうかがいます】  
（該当されない場合は問22へ）

問20 あなたはこれまでに、あなたの配偶者に対して（1）～（14）のような行為をした  
ことがありますか。（それぞれ1つずつに○）

図表5-4 配偶者等への暴力の加害経験



※この設問は「F4 配偶者の有無で『配偶者がいる』、『配偶者がいたことがあるが、離別・死別した』と回答した人」を対象とした。

なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

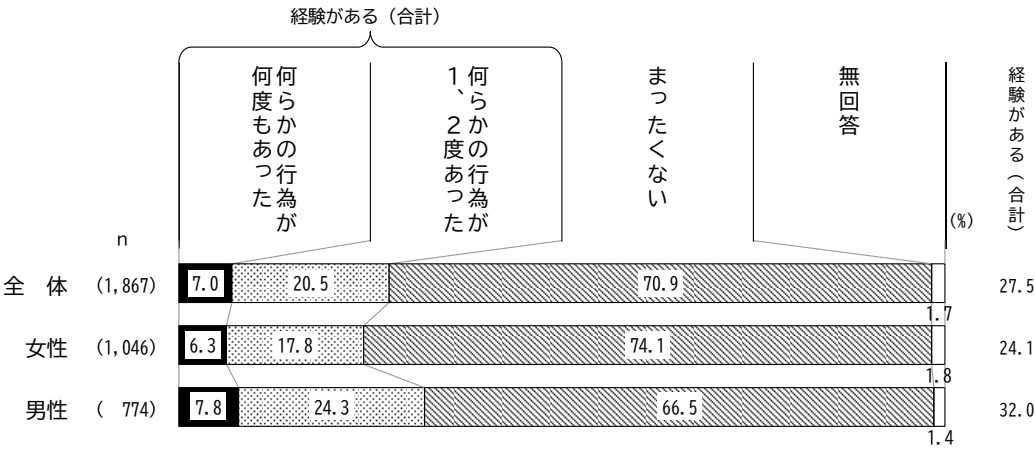
#### 第Ⅳ章 調査の結果

配偶者・パートナーがいる（いた）人について14項目の加害行為をした経験を聞いたところ、《経験がある（合計）》（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計）では、【何を言っても、長期間無視し続ける】が13.9%で最も高く、次いで【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】

（12.4%）、【物を投げつける、ドアをけったり壁に物を投げて、おどす】（9.2%）となっている。

（図表5－4）

図表 5－5 配偶者等への暴力の加害経験（性別）

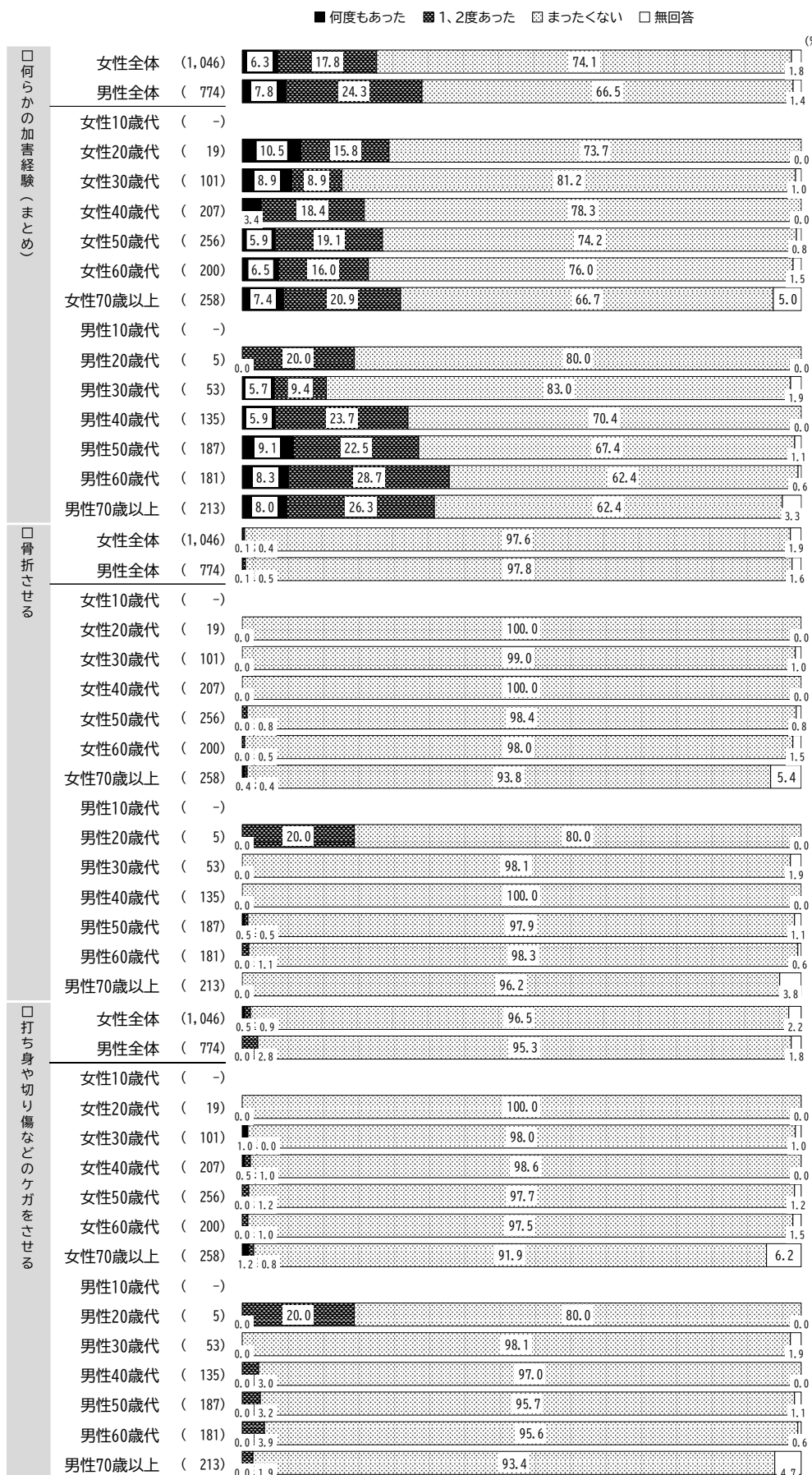


配偶者等への何らかの加害経験がある人をまとめたところ、全体でみると《経験がある（合計）》で2割台半ばを超えている。

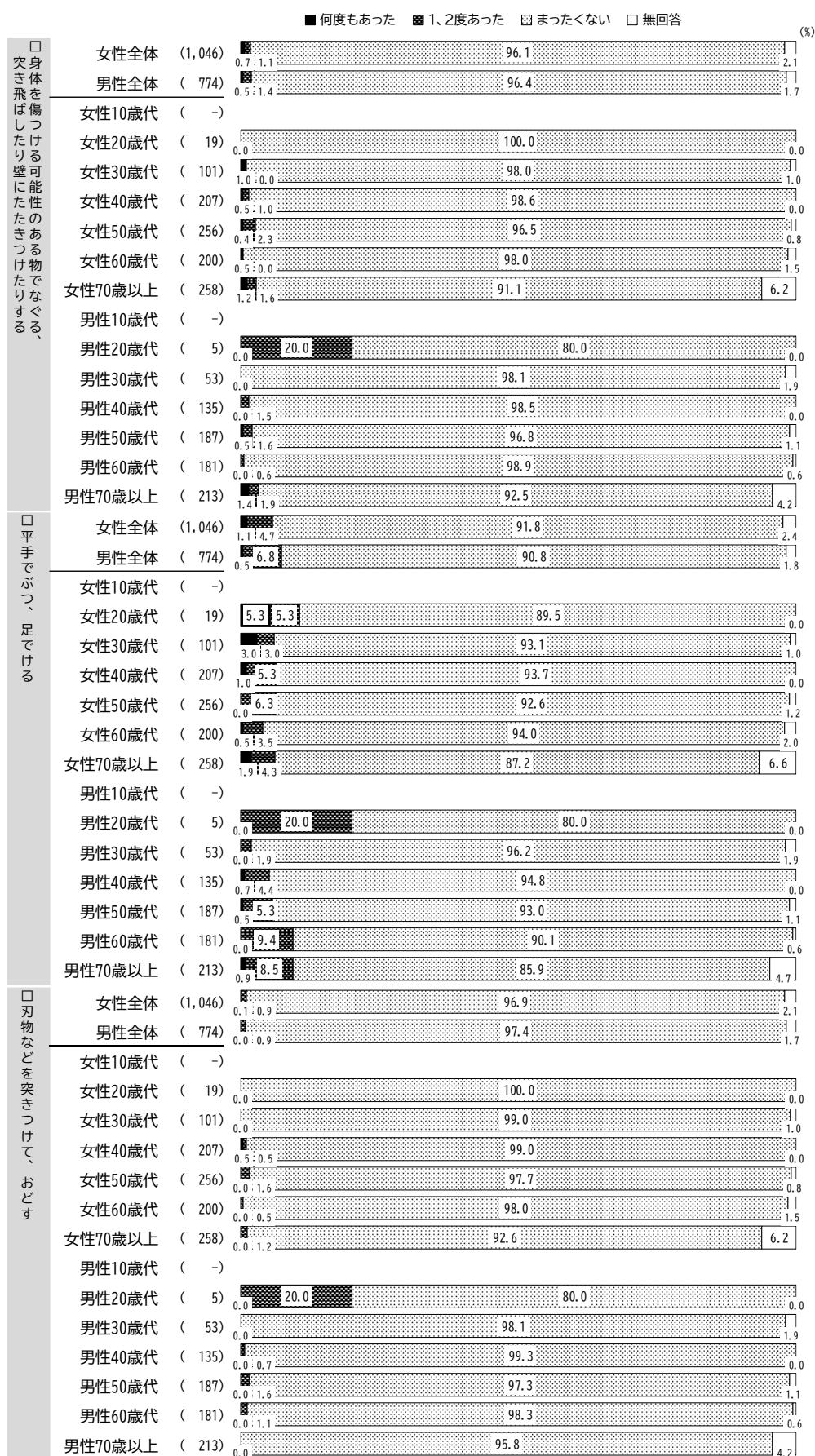
性別でみると、《経験がある（合計）》は女性（24.1%）、男性（32.0%）と、男性が女性より7.9ポイント上回っている。（図表 5－5）

## 第IV章 調査の結果

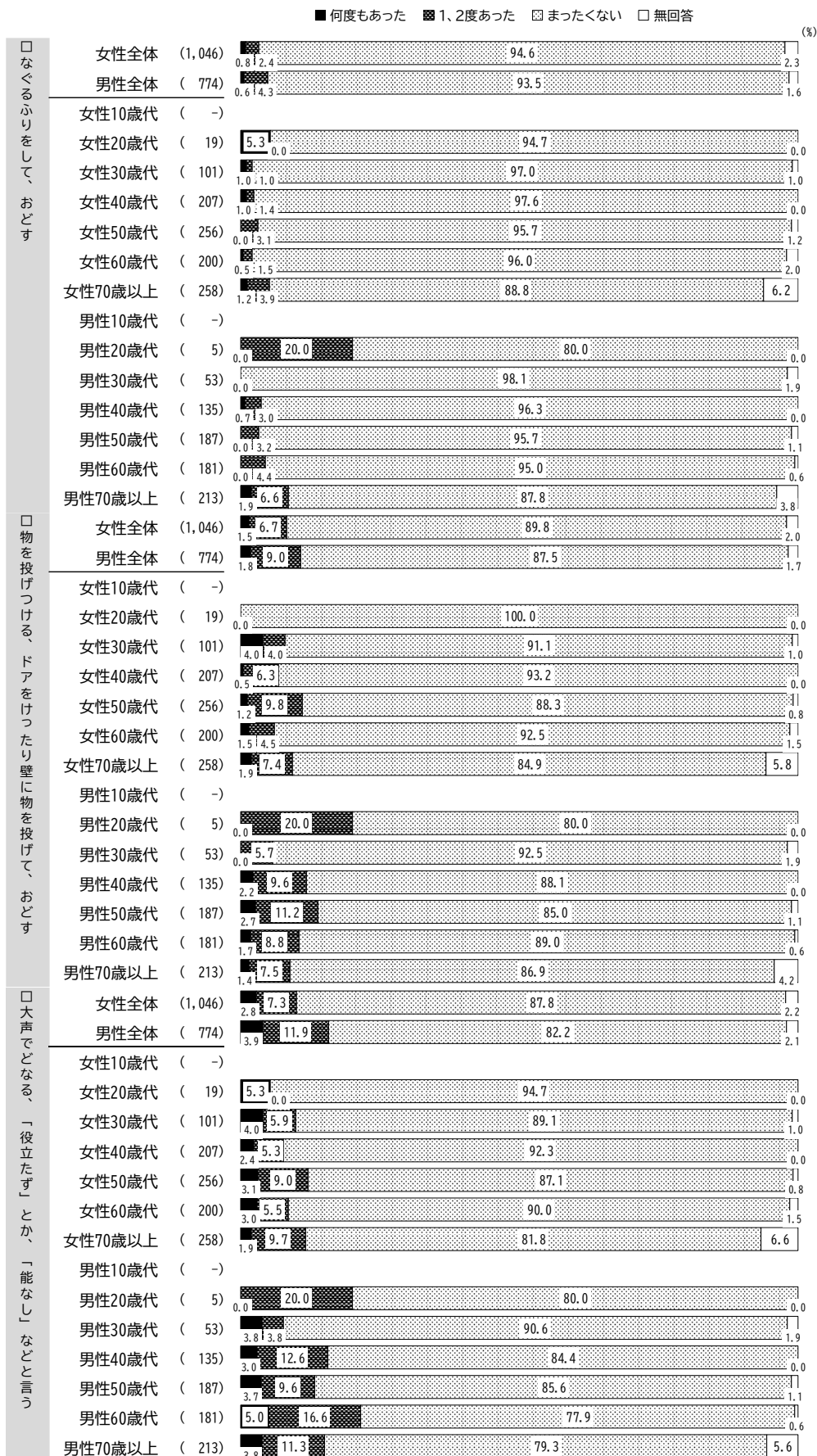
図表5－6 配偶者等への暴力の加害経験（性別・性／年齢別）

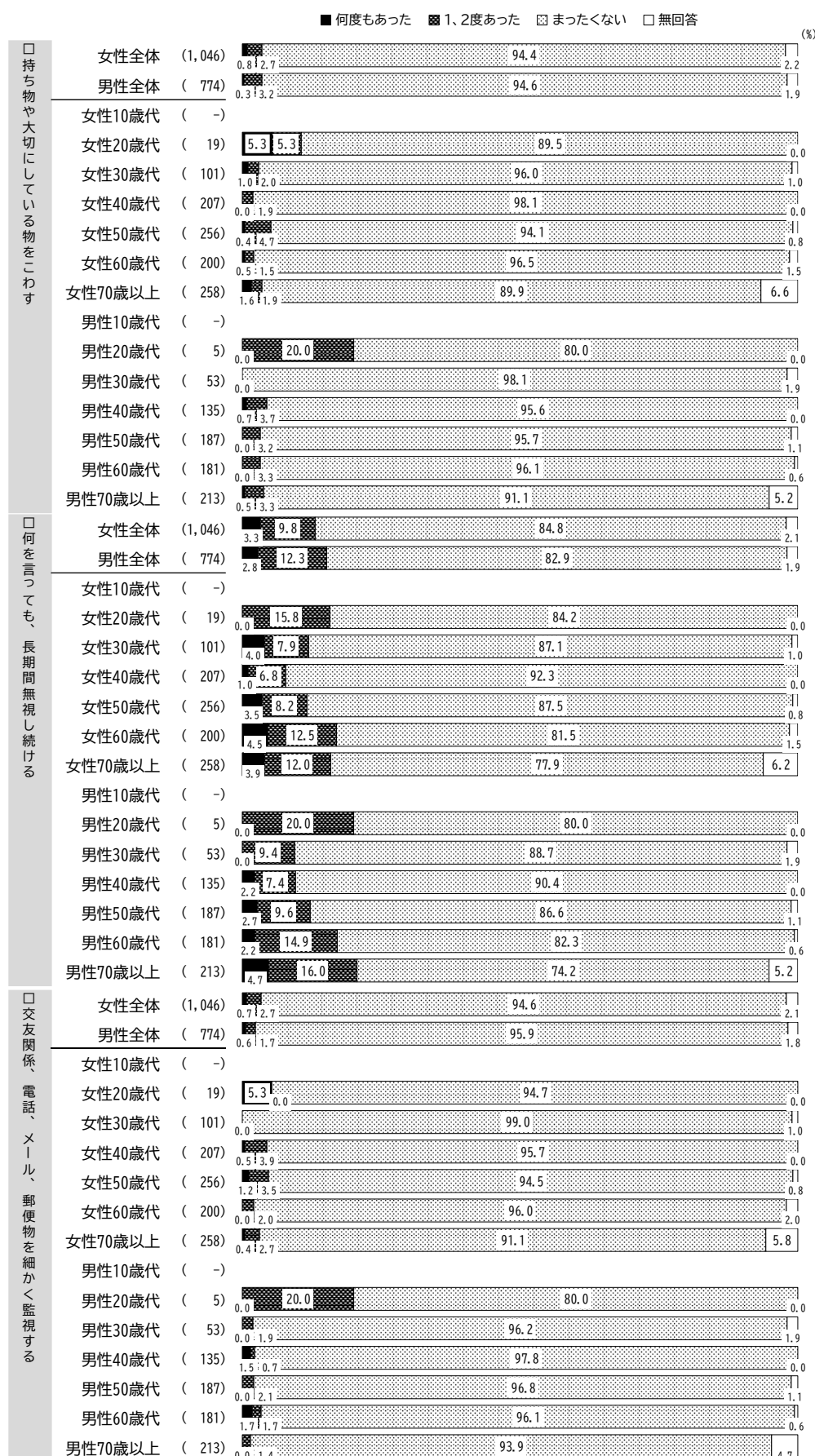




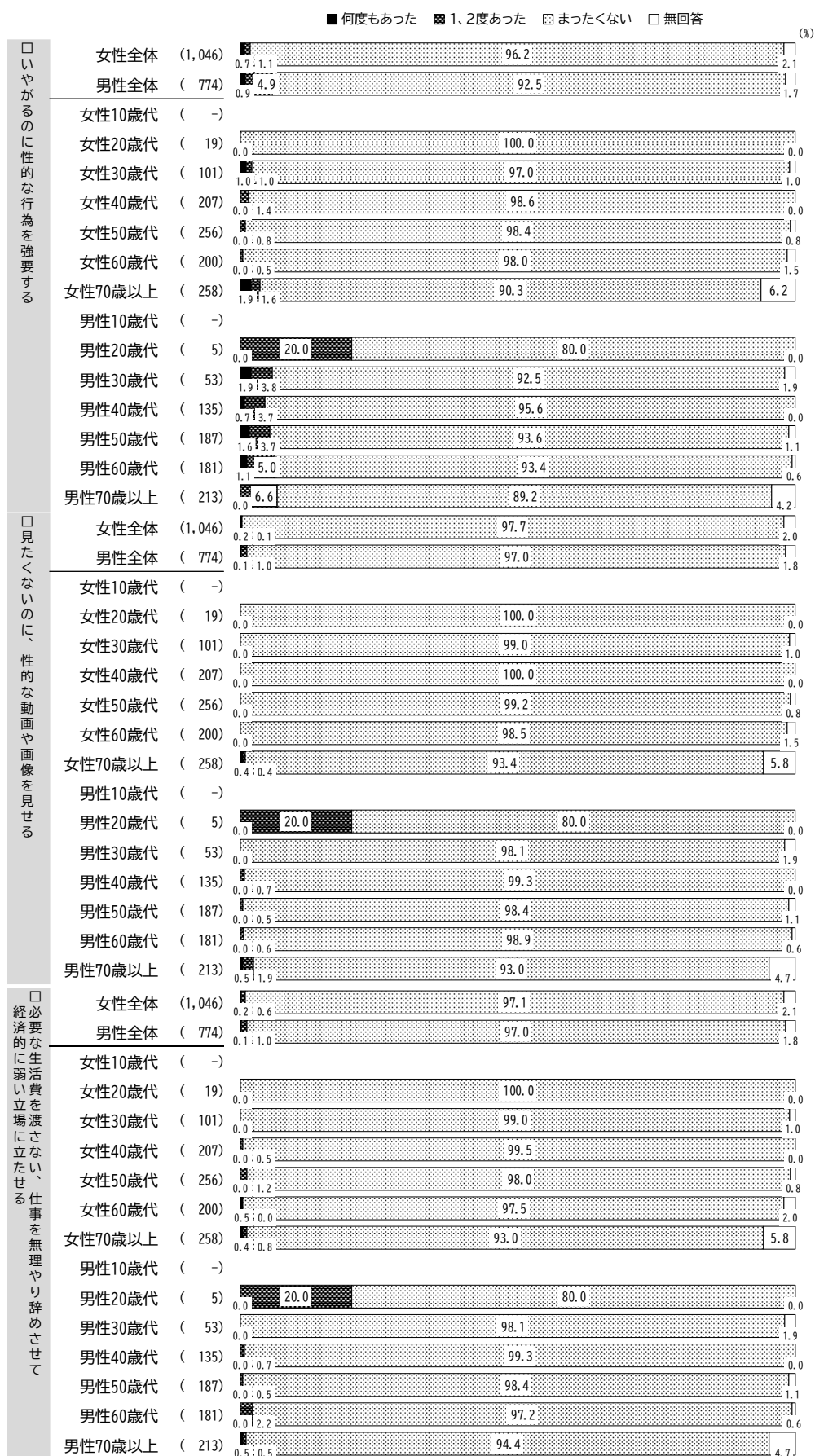


## 第IV章 調査の結果





## 第IV章 調査の結果



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性別でみると、《経験がある（合計）》で女性と男性の差が大きいのは【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】で女性（10.1%）、男性（15.8%）と、男性が女性を5.7ポイント上回っている。また、【何らかの加害経験（まとめ）】では女性（24.1%）、男性（32.1%）と、男性が女性を8ポイント上回っている。

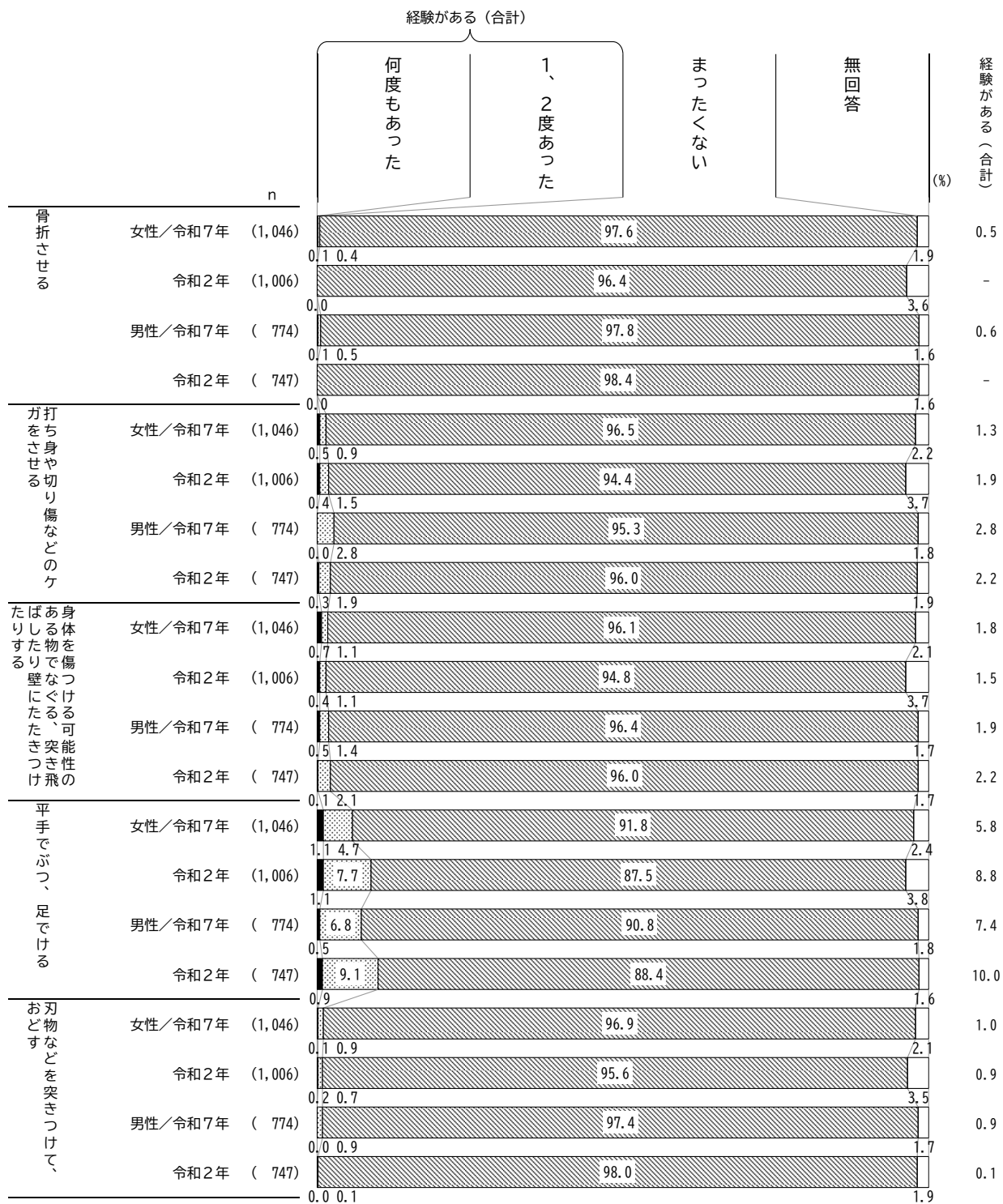
性／年齢別でみると、【何らかの加害経験（まとめ）】では《経験がある（合計）》は男性の60歳代で3割台半ばを超え他の年代に比べて高くなっている。

【大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う】では《経験がある（合計）》は男性の60歳代（21.6%）が2割強となっている。

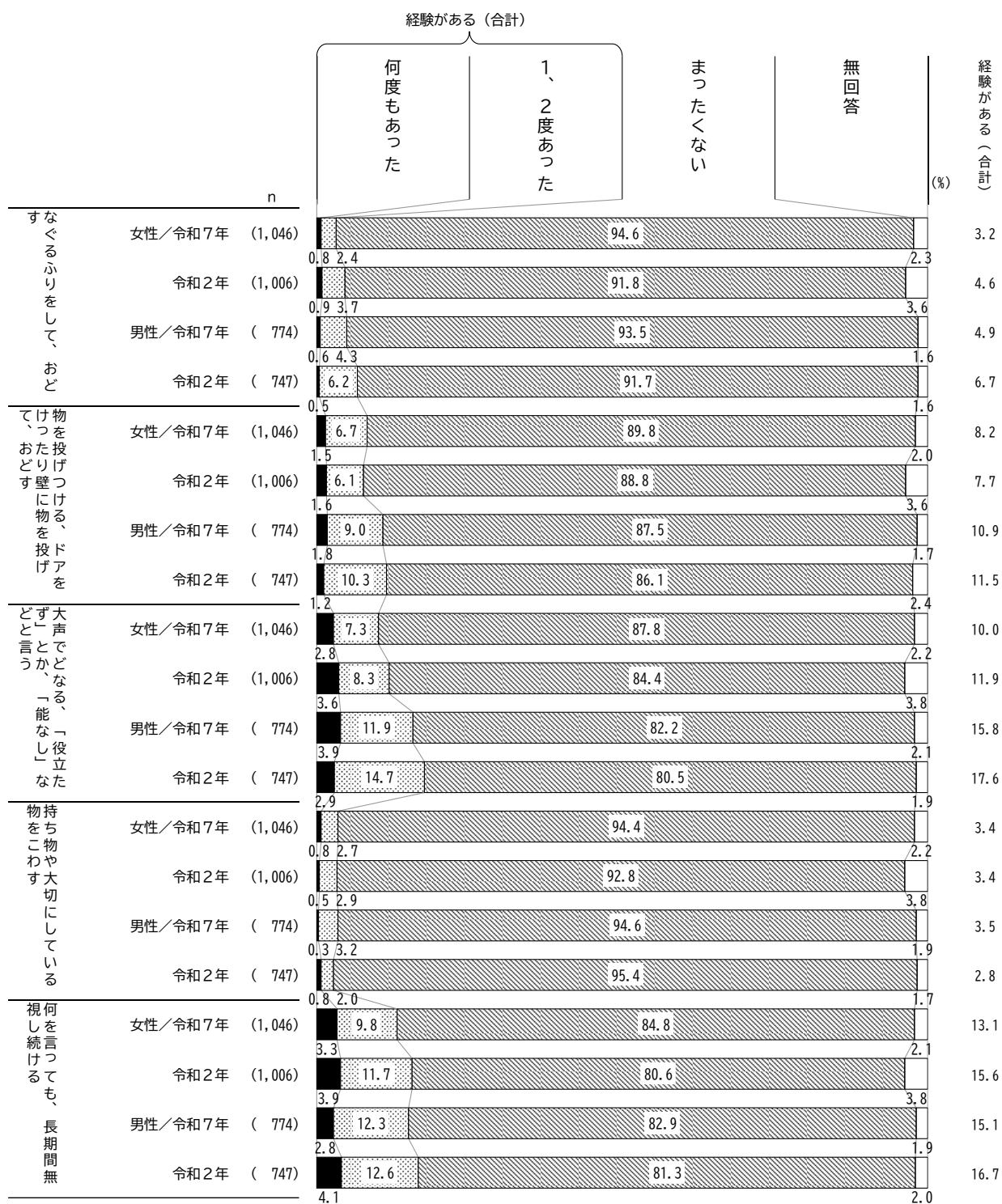
【何を言っても、長期間無視し続ける】では《経験がある（合計）》は男性の70歳以上（20.7%）が2割を超えている。（図表5－6）

# 第IV章 調査の結果

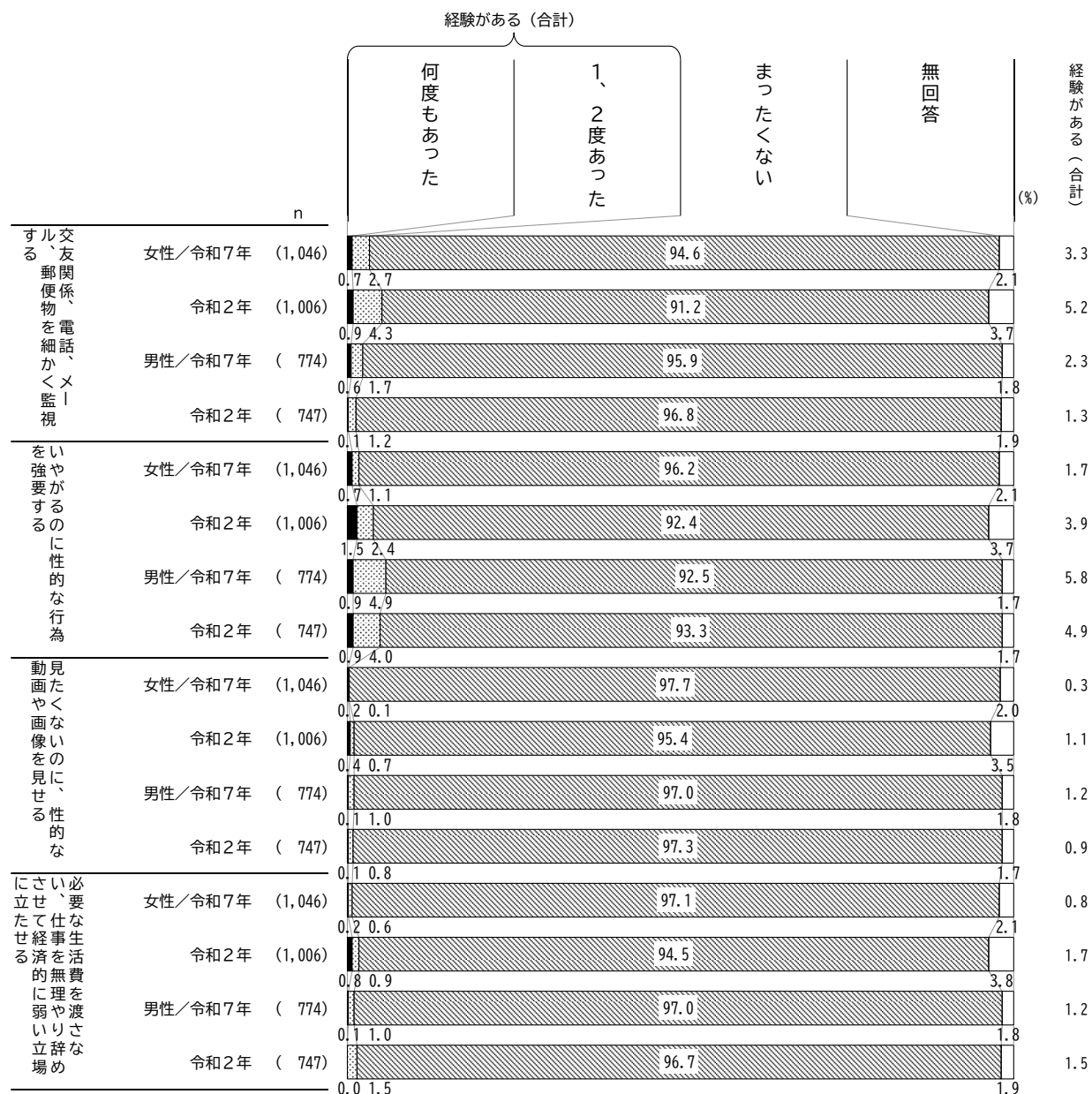
図表5－7 配偶者等への暴力の加害経験（令和2年度調査との比較）



# 第IV章 調査の結果



## 第IV章 調査の結果



令和2年度調査と比較すると、《経験がある（合計）》は、女性では【平手ですつ、足でける】、【何を言っても、長期間無視し続ける】、【いやがるのに性的な行為を強要する】の3つの項目で2ポイント以上の減少となっている。男性では【平手ですつ、足でける】で2.6ポイントの減少となったが、他に大幅な増減が見られた項目はなかった。（図表5－7）



## (3) 加害行為に至ったきっかけ

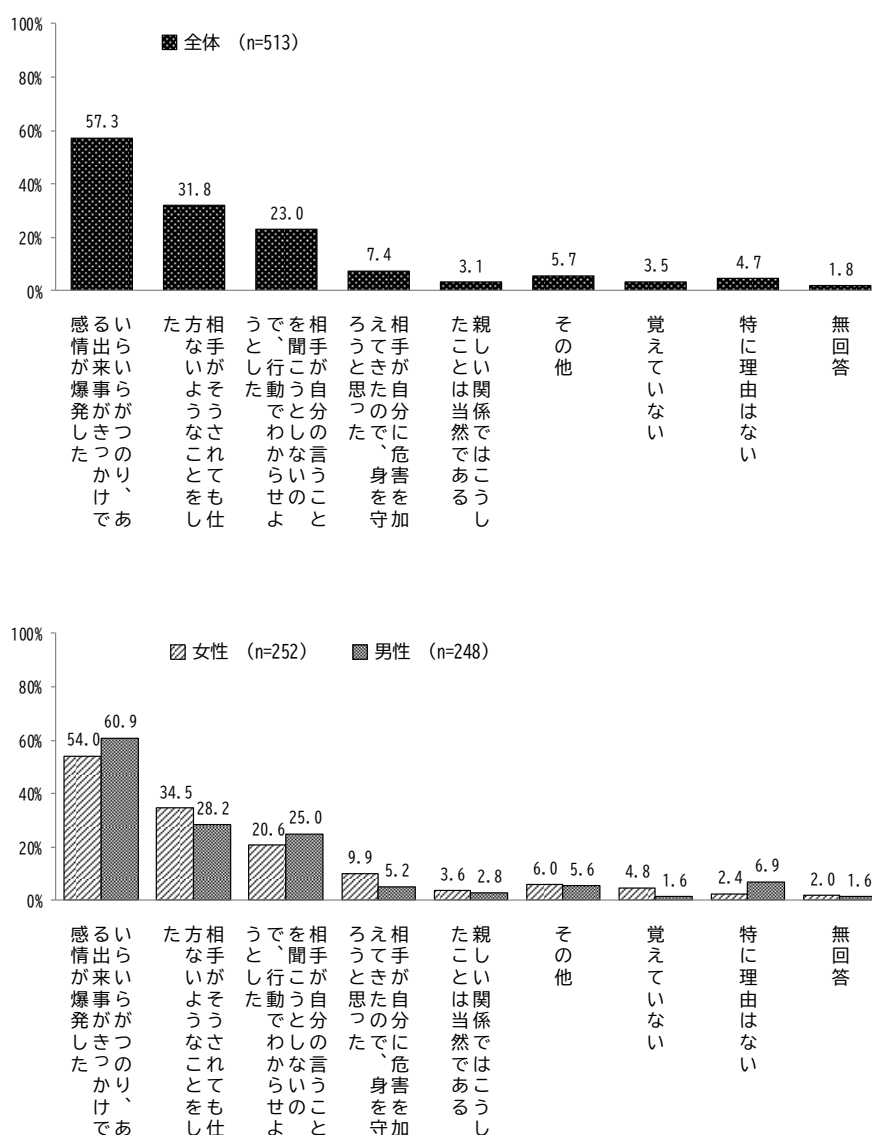
◎「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が最も高く、5割台半ばを超えている

【問20で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】

問20-1 あなたがそのような行為をするに至ったきっかけは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

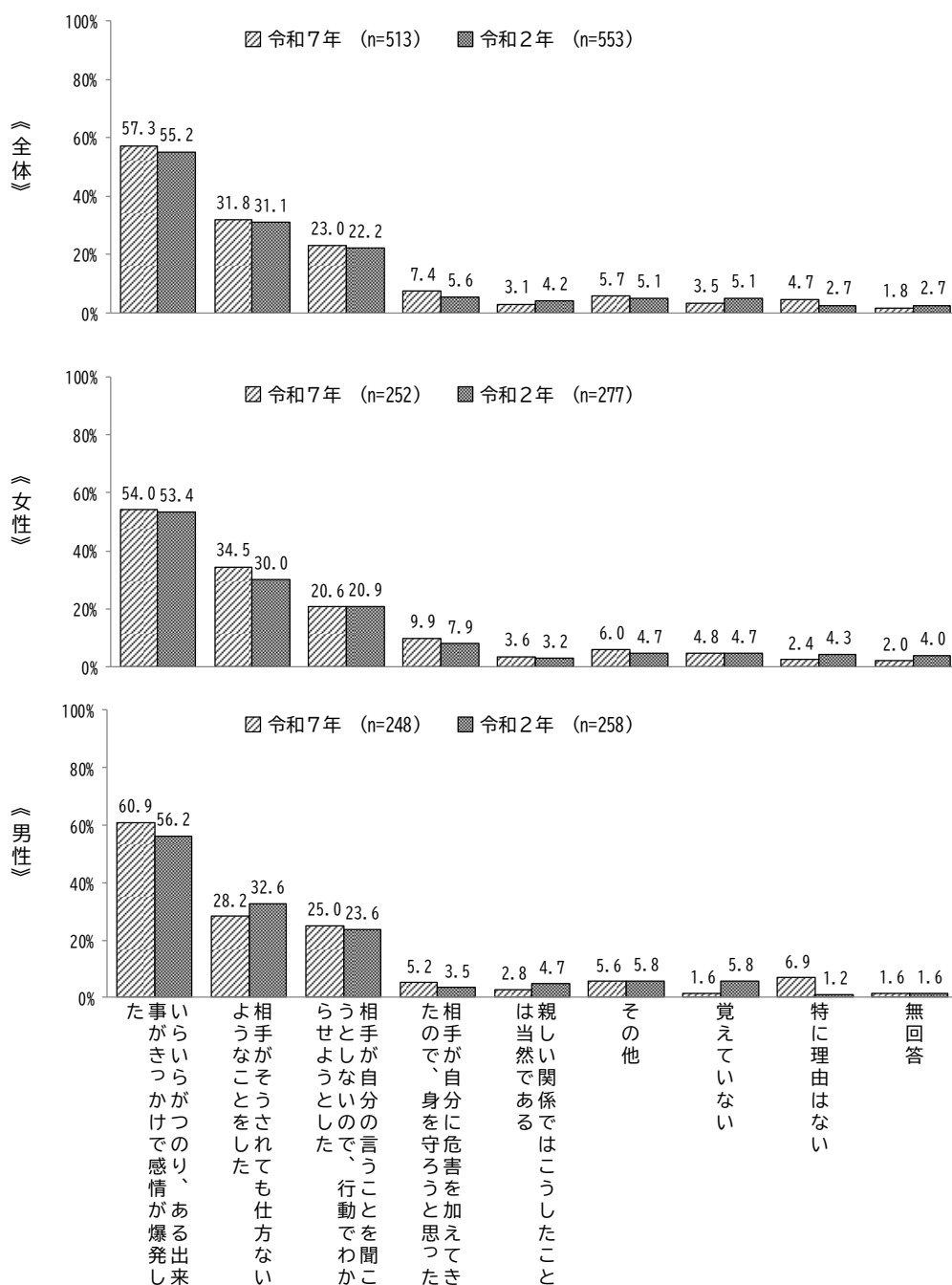
図表5-8 加害行為に至ったきっかけ



いずれかの加害行為をするに至ったきっかけは、全体でみると「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が57.3%で最も高く、次いで「相手がそうされても仕方ないようなことをした」(31.8%)、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」(23.0%)となっている。

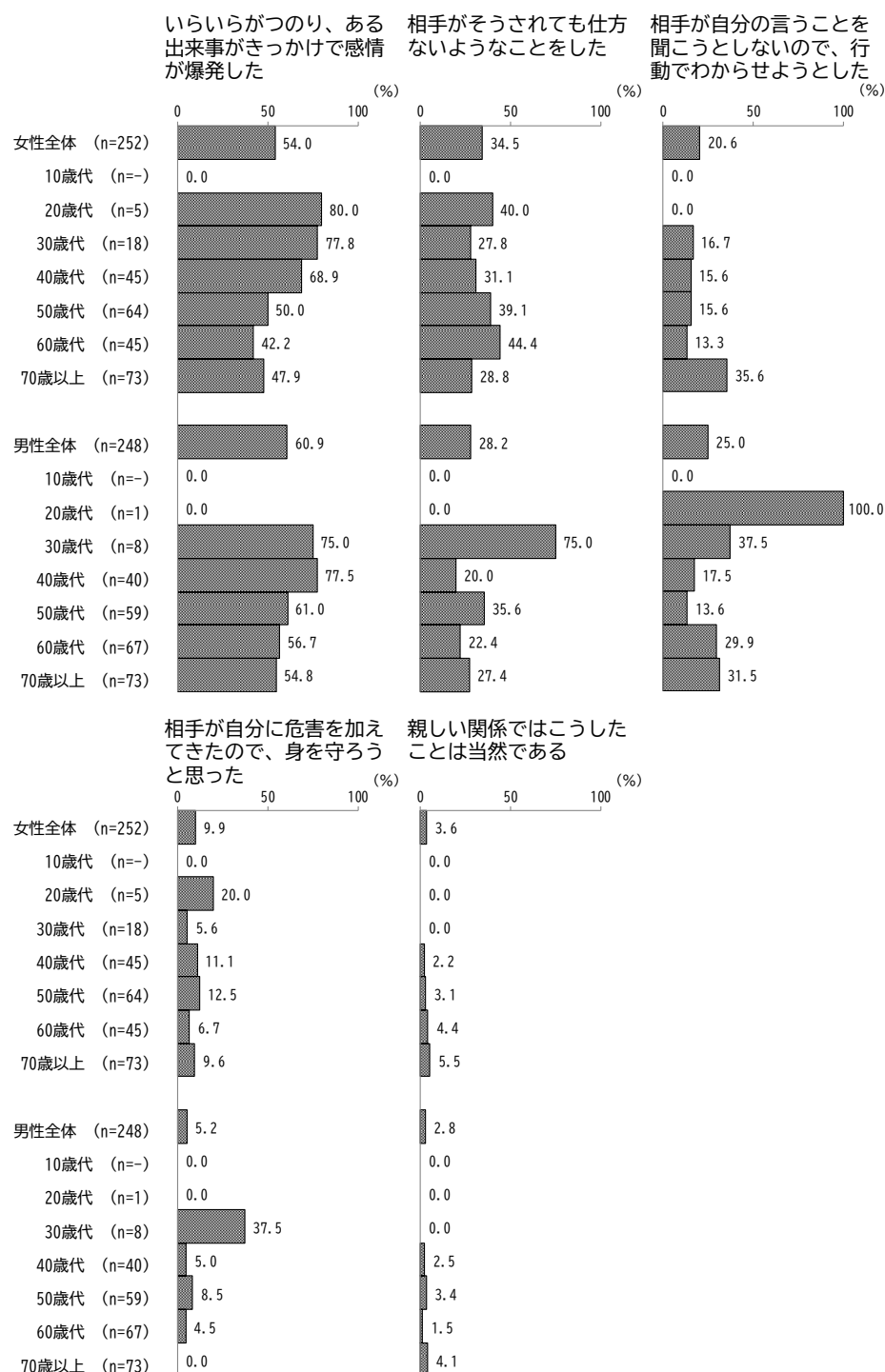
性別でみると、「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」では女性(54.0%)が5割台半ば、男性(60.9%)が6割を超えてそれぞれ最も高くなっている。(図表5-8)

図表 5－9 加害行為に至ったきっかけ（令和２年度調査との比較）



令和２年度調査と比較すると、全体でみると「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」は、前回より2.1ポイント増加している。女性では「相手がそうされても仕方ないようなことをした」で前回より4.5ポイント増加している。男性では「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」で前回より4.7ポイント増加している。（図表 5－9）

図表 5-10 加害行為に至ったきっかけ（性／年齢別、上位5項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10～30歳代、男性10～30歳代は参考扱いとする。

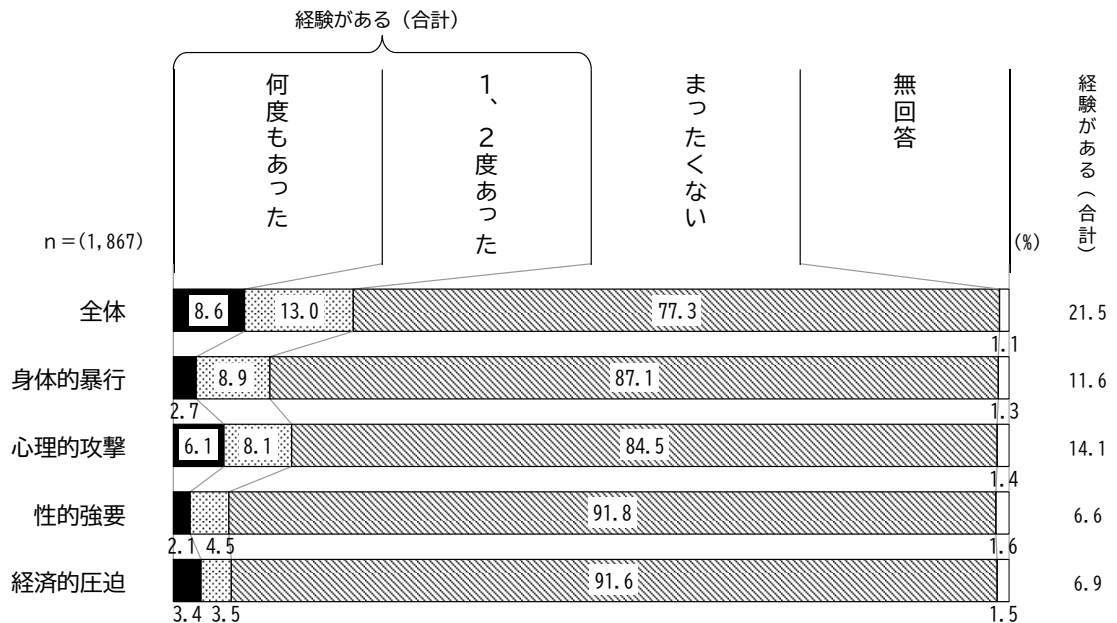
性／年齢別でみると、「いろいろがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」は女性では40歳代が68.9%、男性では40歳代が77.5%でそれぞれ最も高くなっている。「相手がそうされても仕方がないようなことをした」は女性では60歳代が44.4%、男性の50歳代が35.6%でそれぞれ最も高くなっている。（図表 5-10）

(4) 配偶者等からの暴力の被害経験

◎《経験がある（合計）》は、【心理的攻撃】が1割台半ばで最も高く、次いで【身体的暴行】が1割強となっている

問21 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から（1）～（4）のような行為をされたことがありますか。  
（それぞれ1つずつに○）

図表5-11 配偶者等からの暴力の被害経験

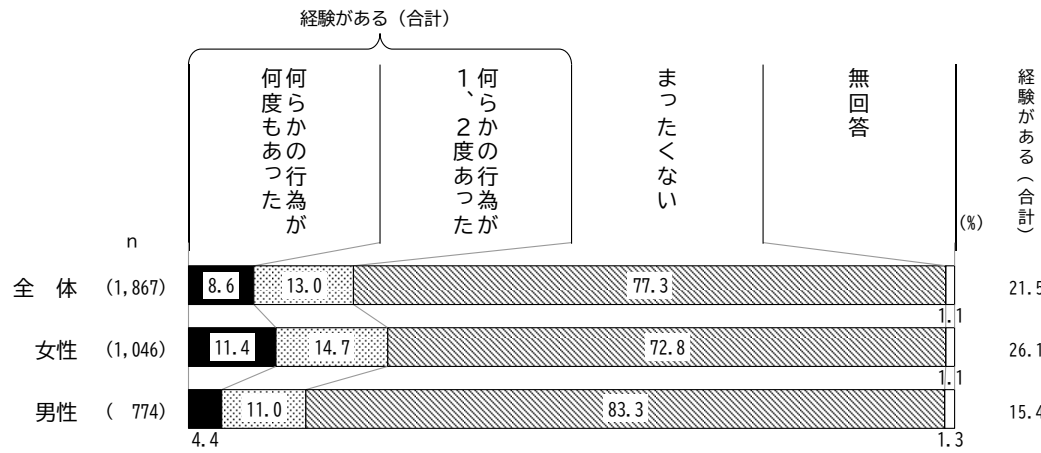


※この設問は「F4 配偶者の有無で『配偶者がいる』、『配偶者がいたことがあるが、離別・死別した』と回答した人」を対象とした。

選択肢	行為の内容
身体的暴行	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行
心理的攻撃	人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じさせるような脅迫
性的強要	いやがっているのに、性的な行為を強要する、見たくないのに性的な映像等を見せる、避妊に協力しないなど
経済的圧迫	生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど

被害経験について、《経験がある（合計）》（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計）は、【身体的暴行】（11.6%）、【心理的攻撃】（14.2%）、【性的強要】（6.6%）、【経済的圧迫】（6.9%）となっている。（図表5-11）

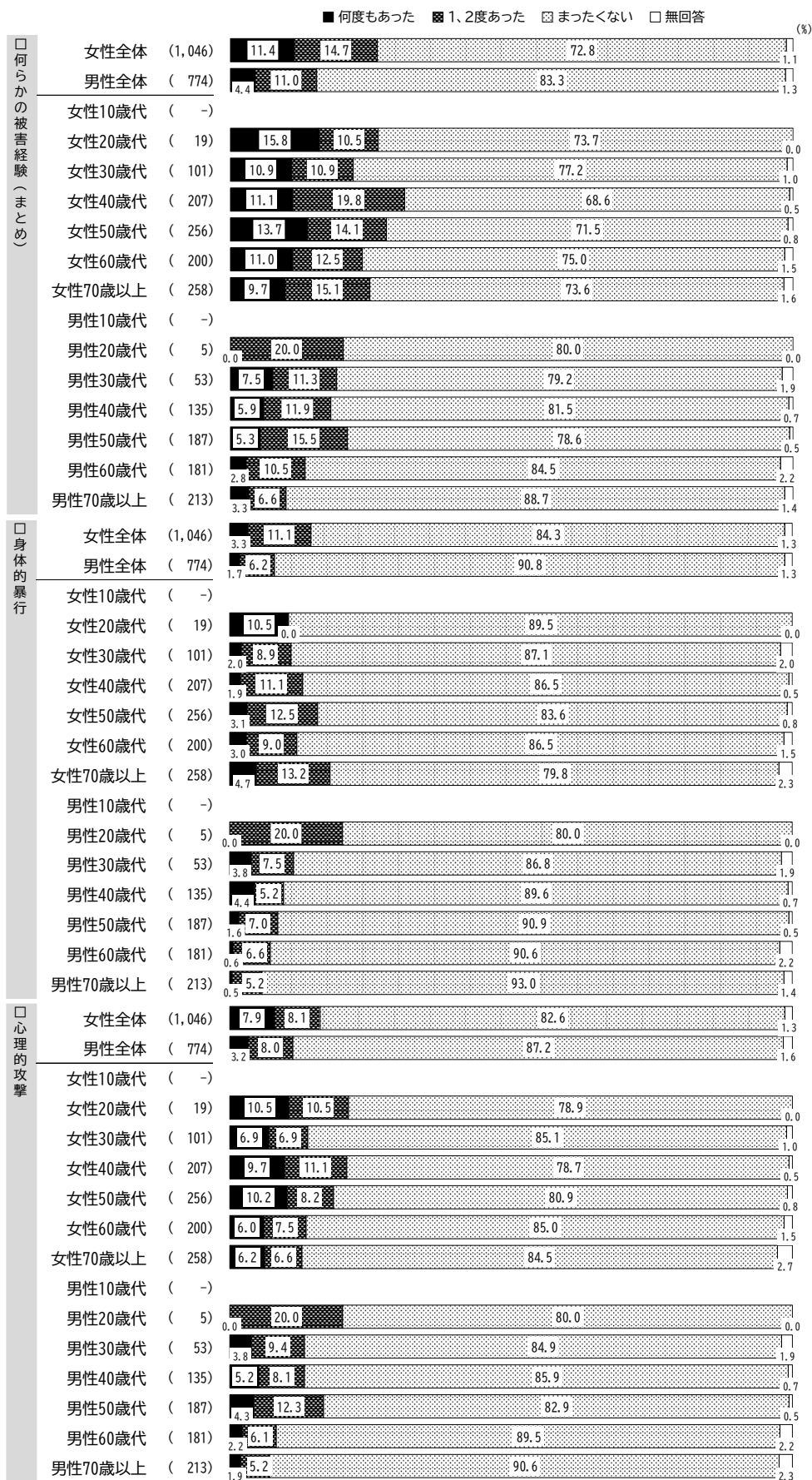
図表 5－12 配偶者等からの暴力の被害経験（性別）

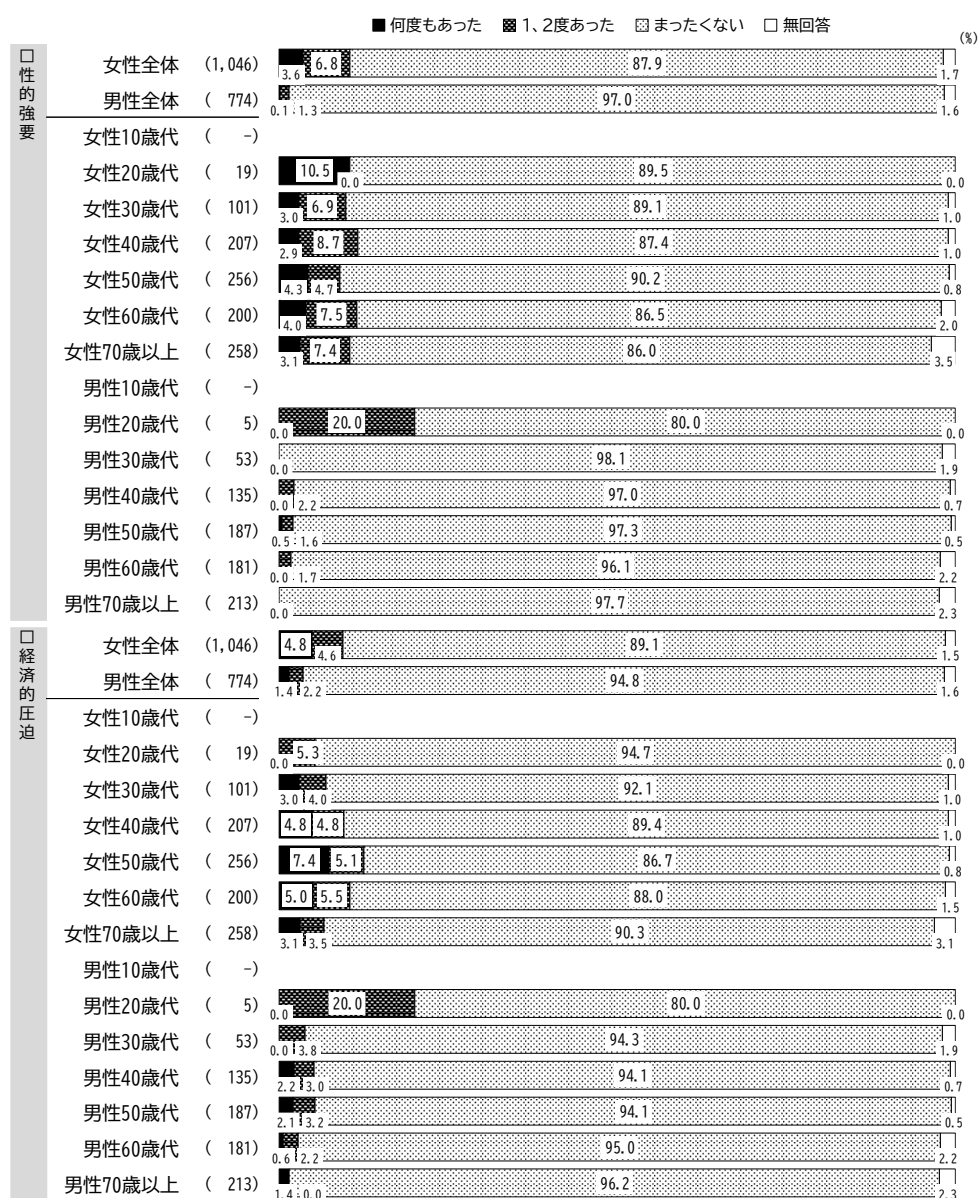


4つの行為のうち、何らかの被害経験がある人をまとめたところ、《経験がある（合計）》は、全体で21.5%となっている。

性別でみると、《経験がある（合計）》は女性（26.1%）、男性（15.4%）と、女性が男性を10.7ポイント上回っている。（図表 5－12）

図表5-13 配偶者等からの暴力の被害経験（性別・性／年齢別）





※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10～20歳代と男性10～20歳代は参考扱いとする。

#### 第IV章 調査の結果

4つの行為の被害経験について、性別でみると、《経験がある（合計）》は【身体的暴行】では女性（14.4%）、男性（7.9%）と6.5ポイント、【心理的攻撃】では女性（16.0%）、男性（11.2%）と4.8ポイント、【性的強要】では女性（10.4%）、男性（1.4%）と9.0ポイント、【経済的圧迫】では女性（9.4%）、男性（3.6%）と5.8ポイント、それぞれ女性が男性を上回っている。

性／年齢別でみると、【何らかの被害経験（まとめ）】について《経験がある（合計）》は女性ではすべての年代で男性を上回っており、男性では50歳代が20.8%と最も高くなっている。

【身体的暴行】について《経験がある（合計）》は女性の70歳以上で17.9%、男性の30歳代で11.3%と最も高くなっている。

【心理的攻撃】について《経験がある（合計）》は女性の40歳代で20.8%、男性の50歳代で16.6%と最も高くなっている。

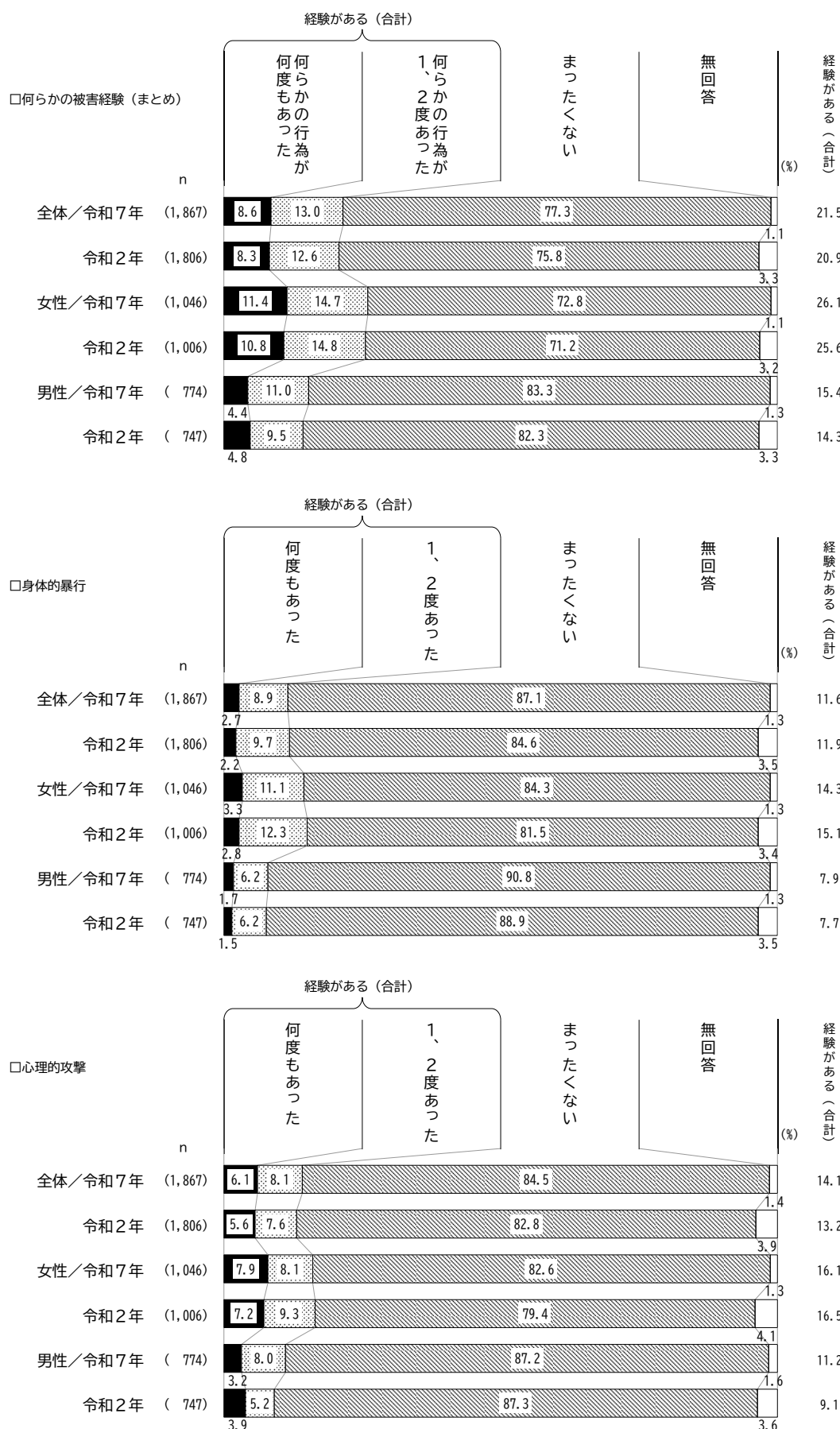
【性的強要】について《経験がある（合計）》は女性の40歳代と60歳代で1割強となっている。

【経済的圧迫】について《経験がある（合計）》は女性の50～60歳代で1割を超えている。

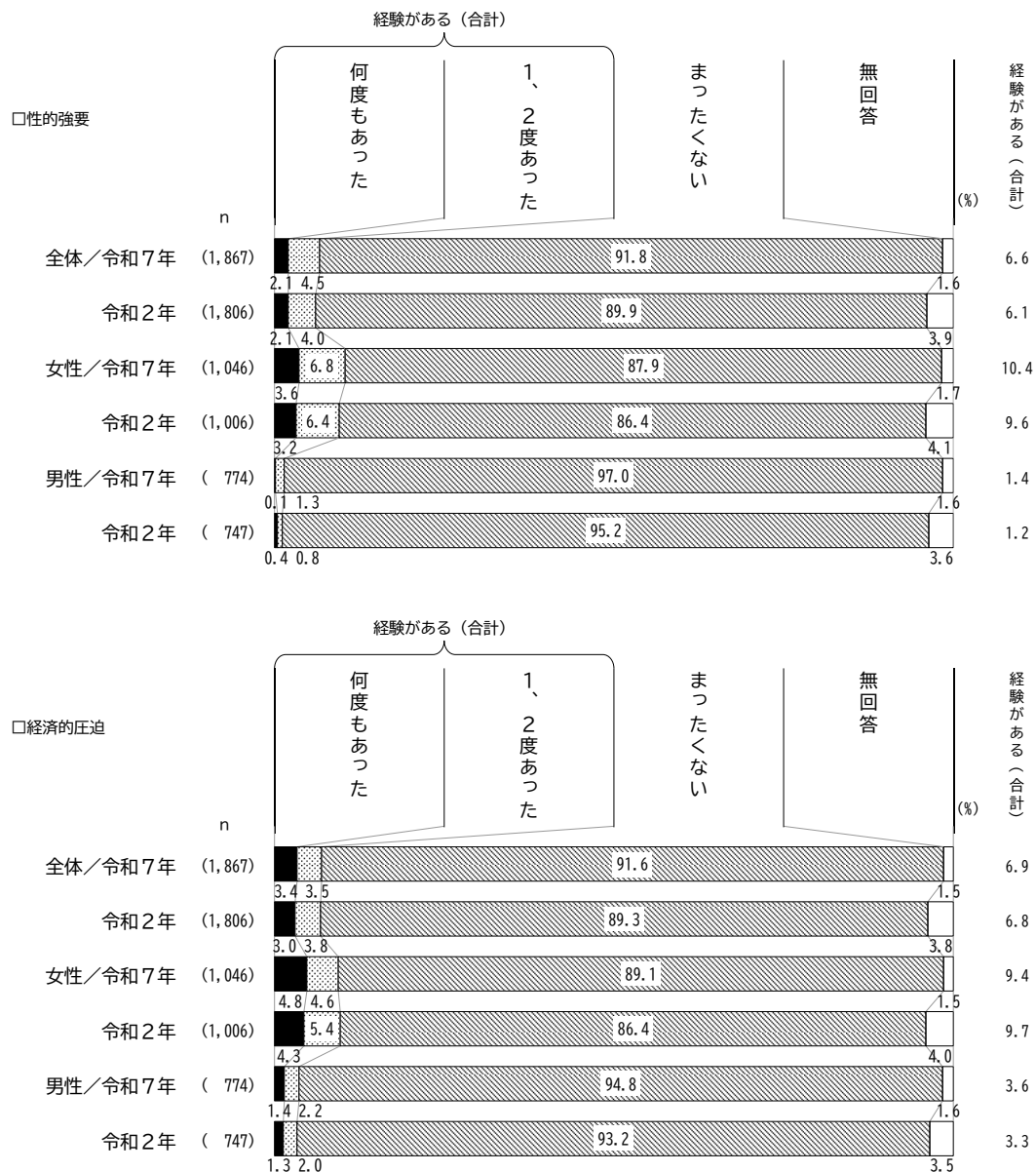
（図表5－13）



図表5-14 配偶者等からの暴力の被害経験（令和2年度調査との比較）



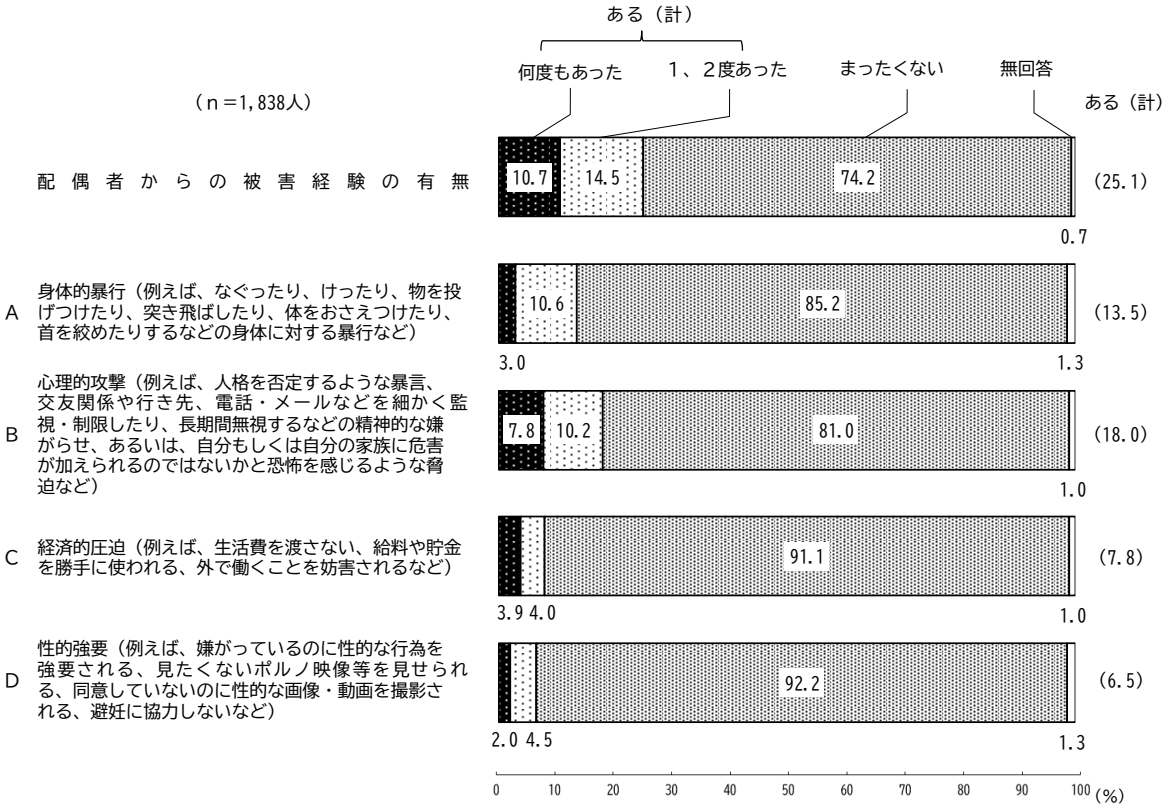
## 第IV章 調査の結果



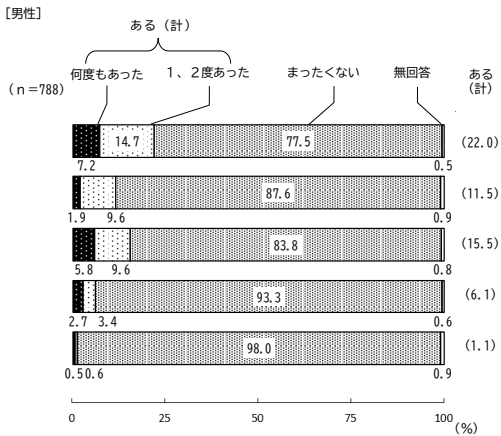
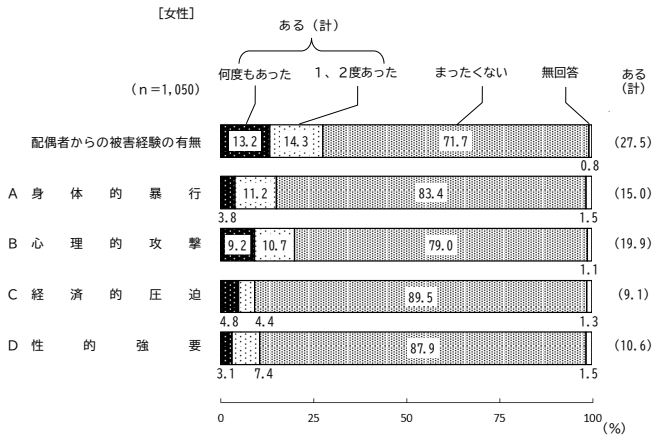
令和2年度調査と比較すると、《経験がある（合計）》は【何らかの被害経験（まとめ）】では前回より男性が1.1ポイント増加している。【心理的攻撃】では前回より男性が2.1ポイント増加している。【身体的暴行】、【性的強要】、【経済的圧迫】では男女とも大きな差異は見られない。（図表5-14）

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

配偶者からの被害経験の有無



配偶者からの被害経験の有無(性別)



(5) 配偶者等からの暴力の被害経験の時期

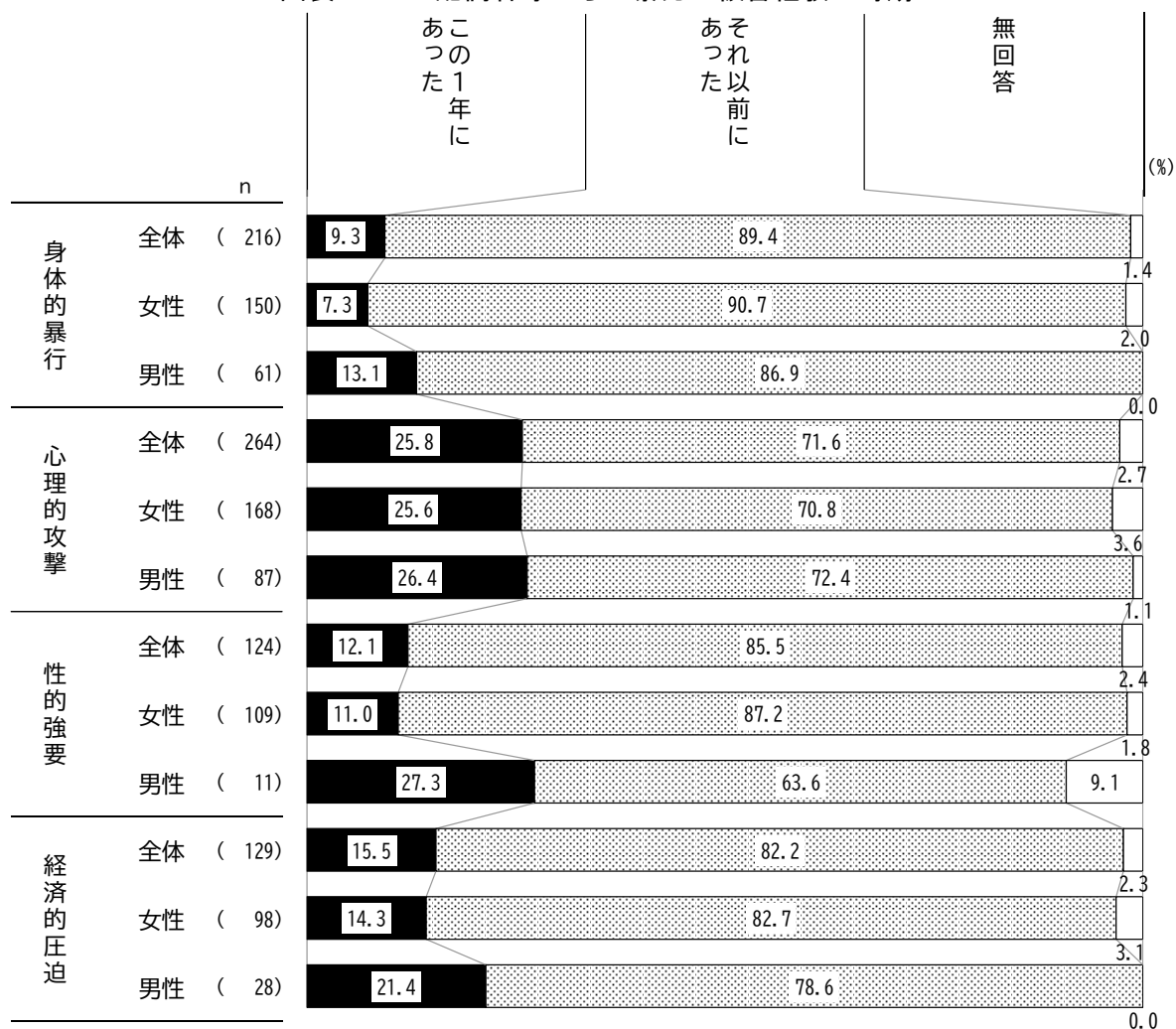
◎【心理的攻撃】で「この1年にあった」が2割台半ばとなっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】

問21-1 あなたが、その相手の行為を受けたのはいつごろですか。

(それぞれ1つずつに○)

図表5-15 配偶者等からの暴力の被害経験の時期



※基数が不足しているため、【性的強要】の男性、【経済的圧迫】の男性は参考扱いとする。

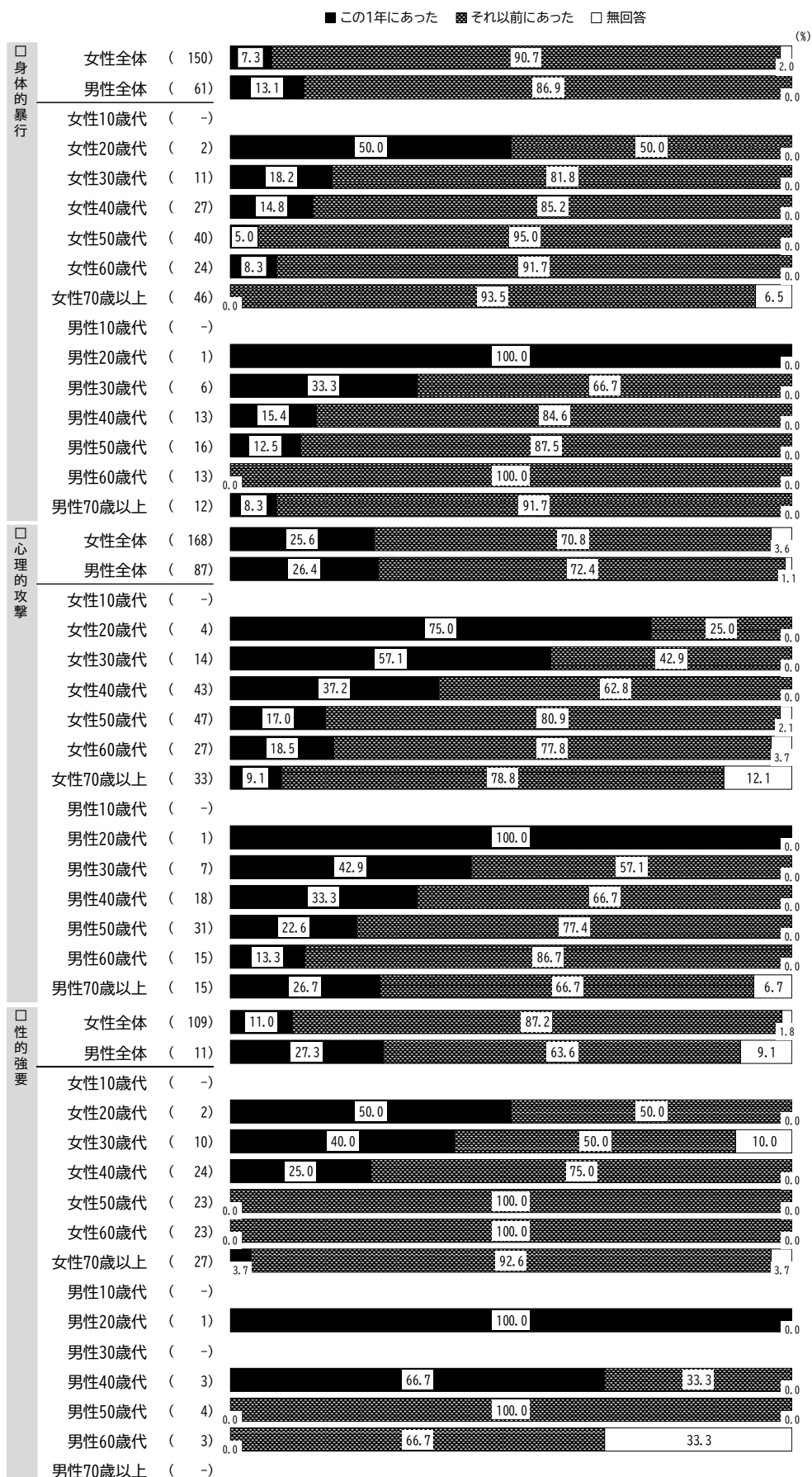
選択肢	行為の内容
身体的暴行	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなどの身体に対する暴行
心理的攻撃	人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じさせるような脅迫
性的強要	いやがっているのに、性的な行為を強要する、見たくないのに性的な映像等を見せる、避妊に協力しないなど
経済的圧迫	生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど

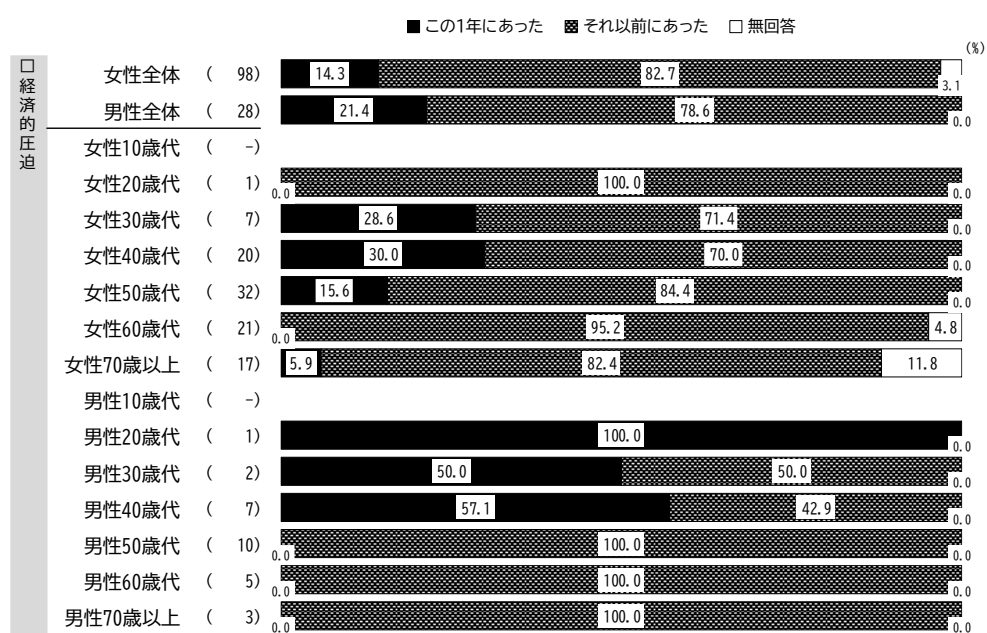
被害を受けた時期を聞いたところ、全体でみると「この１年にあった」は【身体的暴行】（9.3%）、【心理的攻撃】（25.8%）、【性的強要】（12.1%）、【経済的圧迫】（15.5%）となっている。

性別でみると、「この１年にあった」は【身体的暴行】で男性（13.1%）、女性（7.3%）と、女性が男性を5.8ポイント上回っている。（図表５－15）

# 第IV章 調査の結果

図表5-16 配偶者等からの暴力の被害経験の時期（性別・性／年齢別）

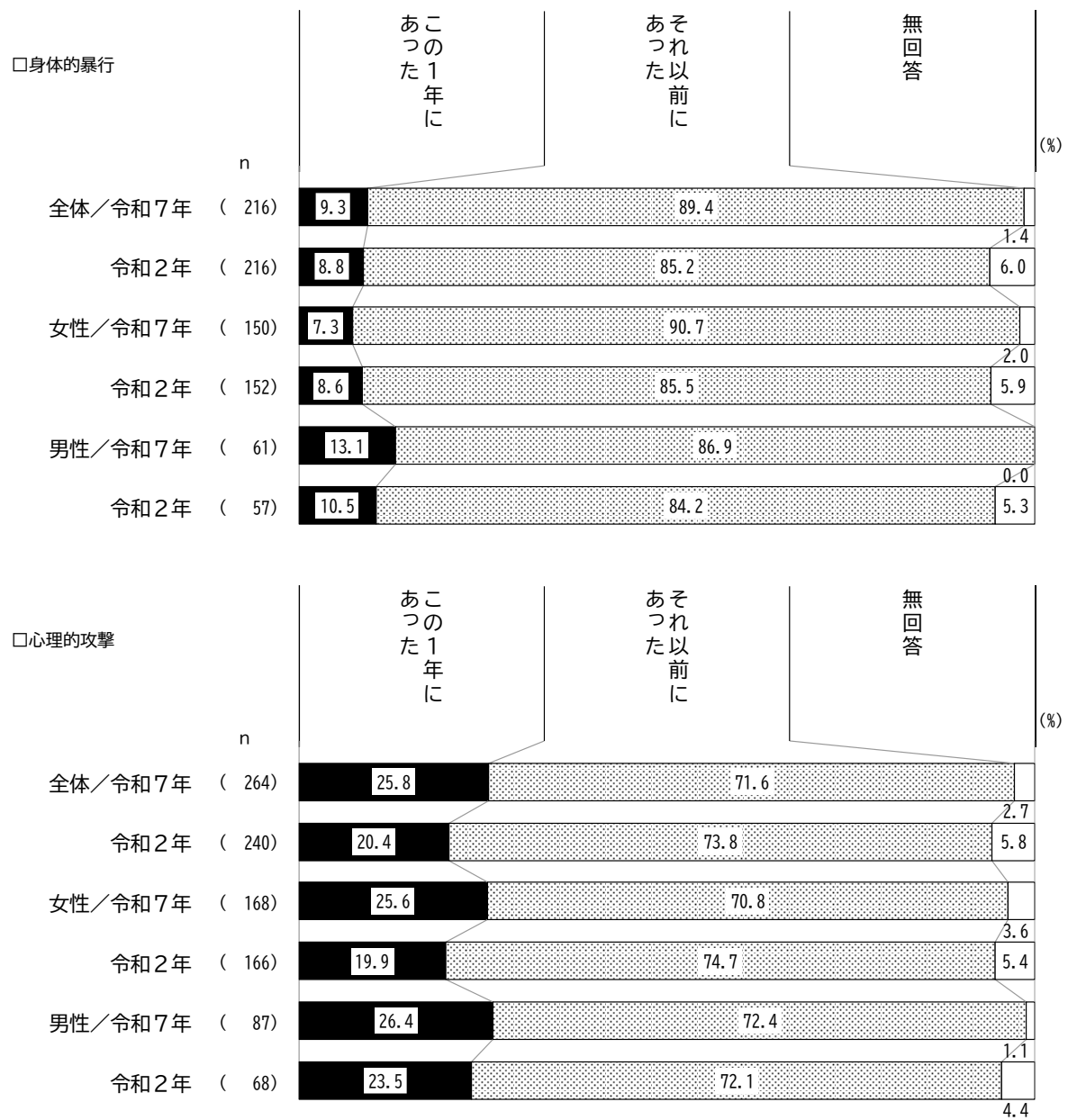




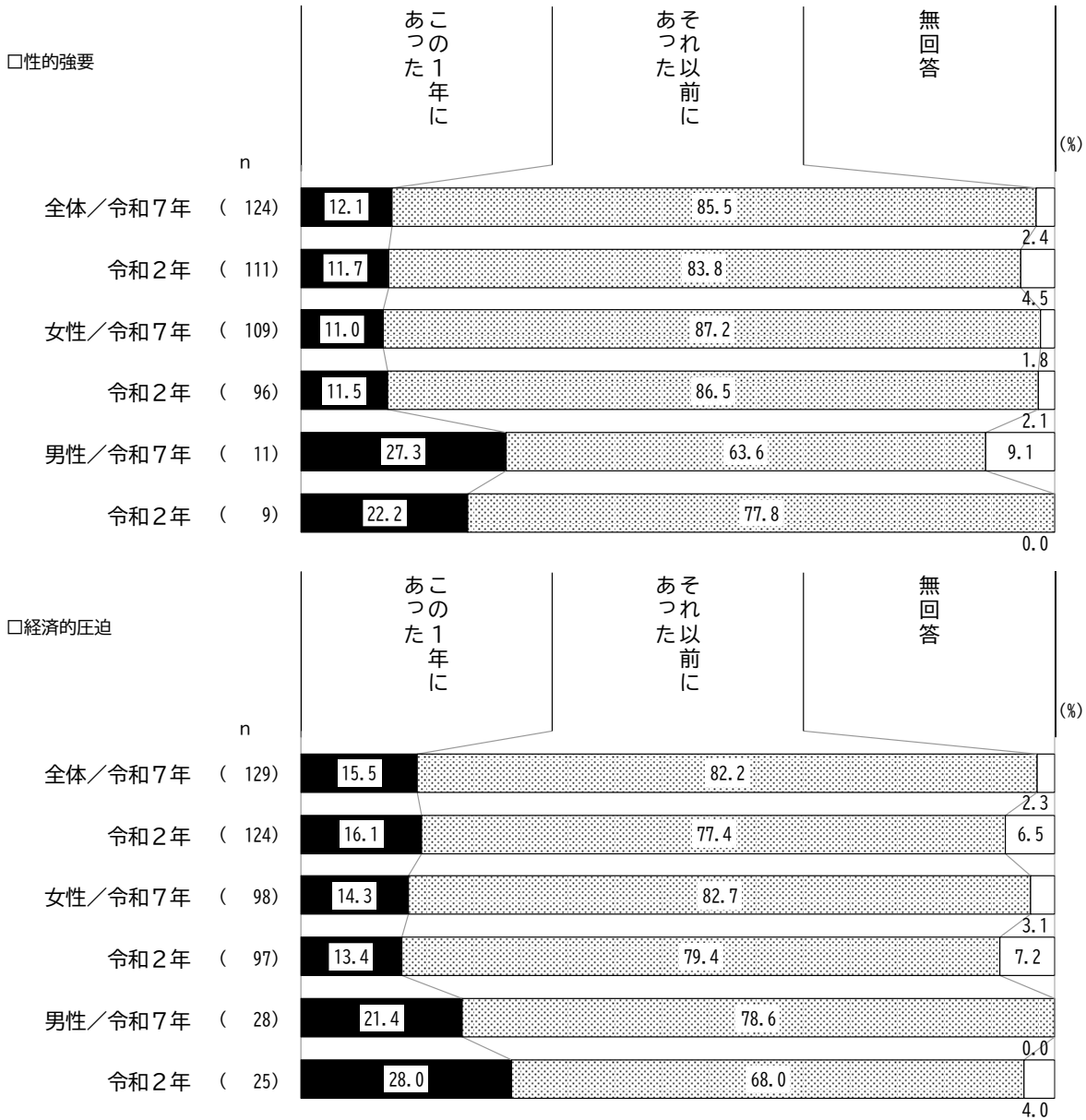
※基数が30人に満たない層は参考扱いとする。

#### 第IV章 調査の結果

図表5-17 配偶者等からの暴力の被害経験の時期（令和2年度調査との比較）







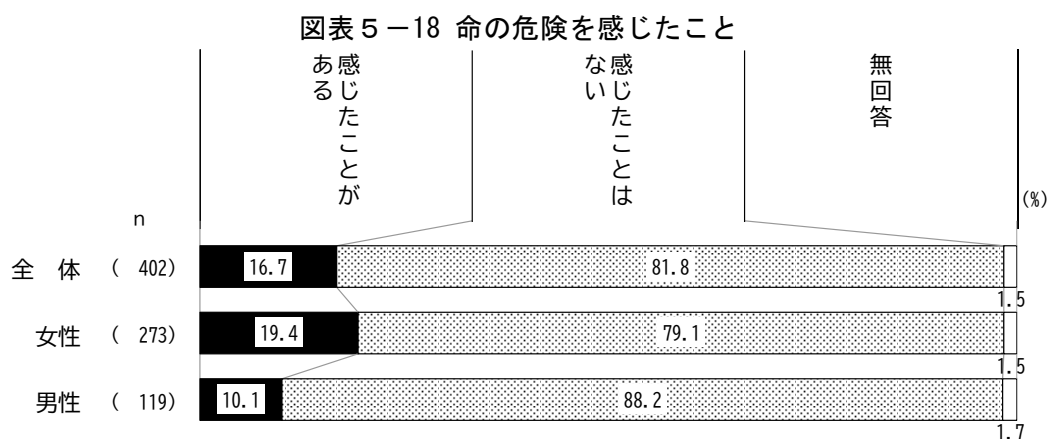
※基数が不足しているため、【性的強要】の男性、【経済的圧迫】の男性は参考扱いとする。

令和2年度調査と比較すると、【身体的暴行】では「この1年にあった」が前回より男性が2.6ポイント増加している。令和2年度調査と比較すると【心理的攻撃】では「この1年にあった」が前回より女性が5.7ポイント増加している。(図表5-17)

(6) 配偶者等からの暴力により命の危険を感じたこと

◎「感じたことがある」が1割台半ばを超えている

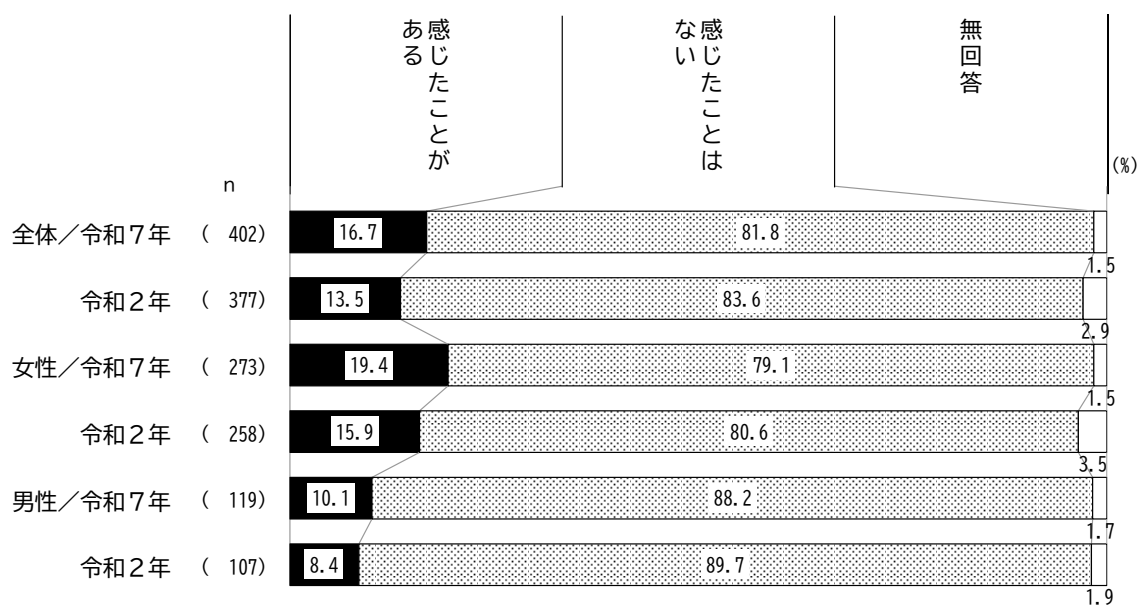
【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】  
**問21-2 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことはありますか。**  
 (1つだけに○)



相手の行為により、命の危険を感じたことがあるかどうかでは、全体でみると「感じたことがある」が16.7%、「感じたことはない」が81.8%となっている。

性別でみると「感じたことがある」は女性（19.4%）、男性（10.1%）と、女性が男性を9.3ポイント上回っている。（図表5-18）

**図表5-19 命の危険を感じたこと（令和2年度調査との比較）**



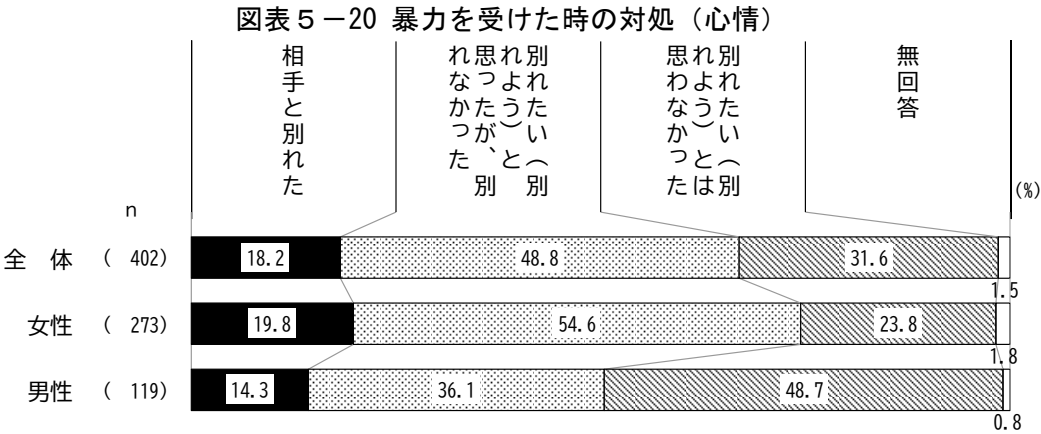
令和2年度調査と比較すると、全体でみると「感じたことがある」は3.2ポイント増加している。

性別でみると、「感じたことがある」が女性では前回より3.5ポイント、男性では前回より1.7ポイント増加している。（図表5-19）

(7) 配偶者等から暴力を受けた時の対処（心情）

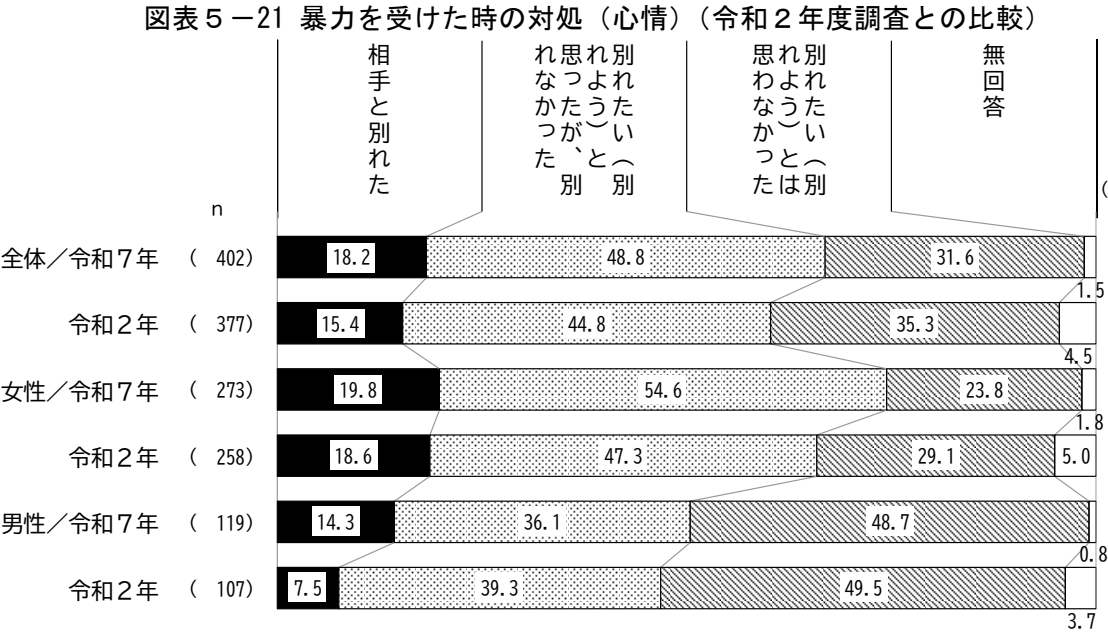
◎「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が5割弱となっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】  
問21-3 あなたは、その相手の行為を受けたとき、どうしましたか。（1つだけに○）



暴力を受けた時の対処（心情）は、全体でみると「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が48.8%となっている。

性別でみると、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が女性（54.6%）、男性（36.1%）と女性が男性を18.5ポイント上回っている。（図表5-20）



令和2年度調査と比較すると、全体でみると「相手と別れた」が前回より2.8ポイント増加し、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が3.7ポイント減少している。性別でみると、女性では「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が4.0ポイント増加、男性では3.2ポイント減少している。（図表5-21）

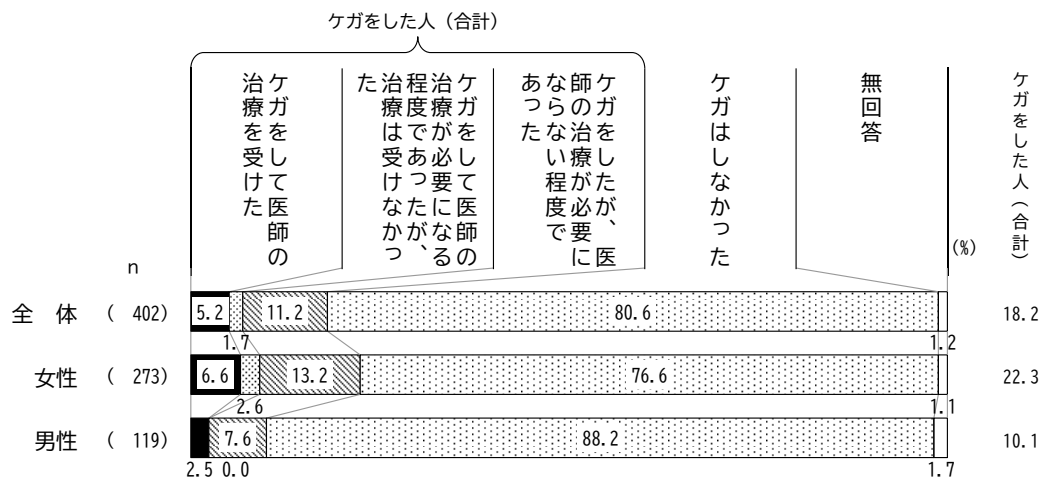
(8) 暴力行為によるケガや医師の治療

◎相手の行為によって《ケガをした人（合計）》は2割弱となっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】

問21-4 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、ケガをしたり、医師の治療を受けたことがありますか。(1つだけに○)

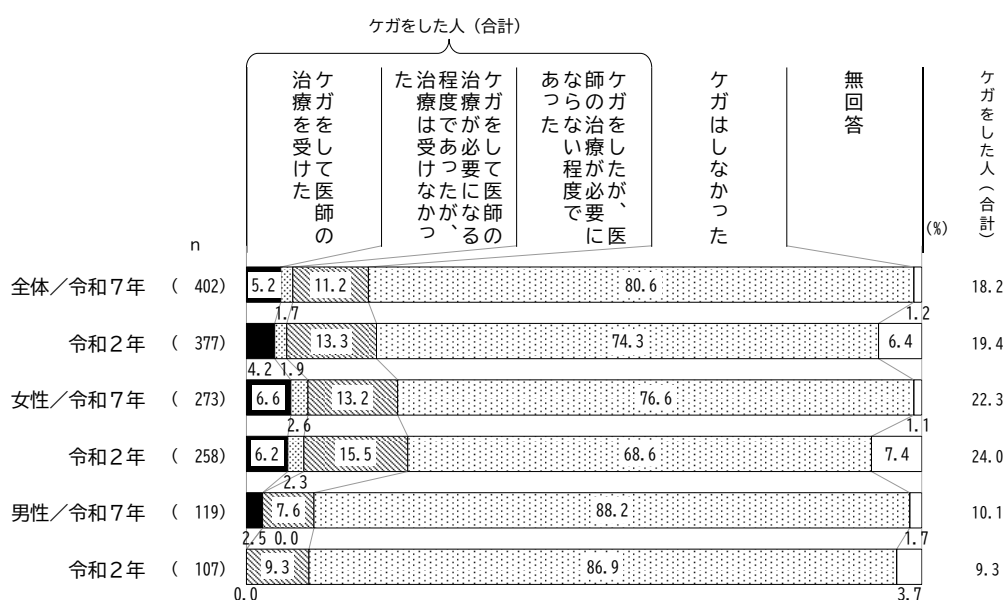
図表5-22 暴力行為によるケガや医師の治療



相手の行為によってケガをした人は、全体でみると《ケガをした人（合計）》で18.2%となっている。

(図表5-22)

図表5-23 暴力行為によるケガや医師の治療（令和2年度調査との比較）



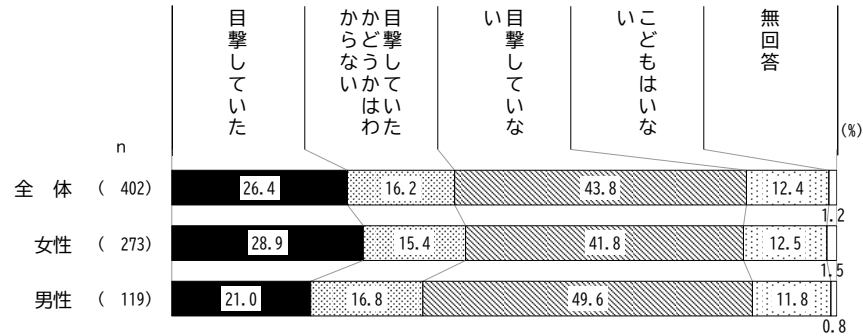
令和2年度調査と比較すると、《ケガをした人（合計）》は、全体では1.2ポイントの減少となっている。女性は前回より1.7ポイント減少している。(図表5-23)

(9) こどもによる暴力被害の目撃

◎親の被害をこどもが「目撃していた」ケースは2割台後半となっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】  
問21-5 あなたが、その行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。  
(1つだけに○)

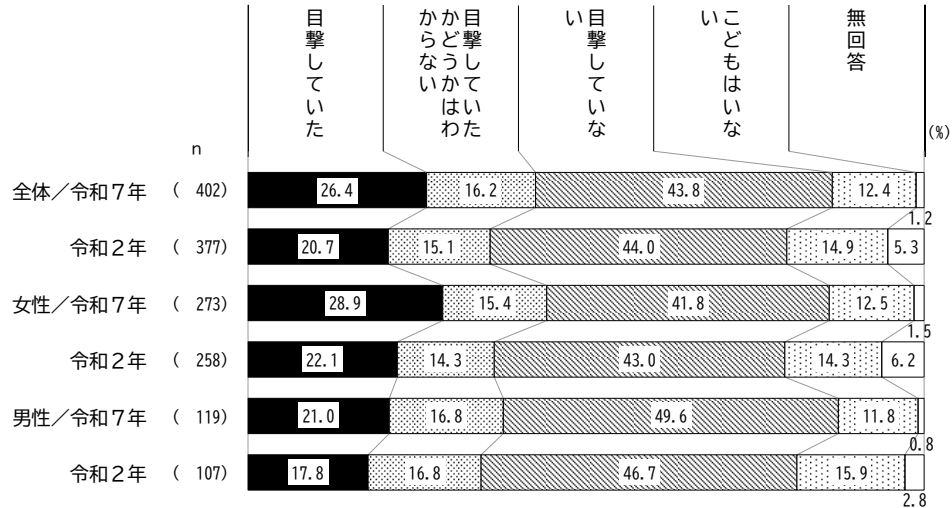
図表5-24 こどもの目撃



相手の行為を受けた時に、こどもがその様子を目撃したかどうかを聞いたところ、全体でみると「目撃していた」が26.4%、「目撃していない」が43.8%となっている。

性別でみると、「目撃していた」は女性が28.9%、男性が21.0%と、女性が男性を7.9ポイント上回っている。(図表5-24)

図表5-25 こどもの目撃（令和2年度調査との比較）



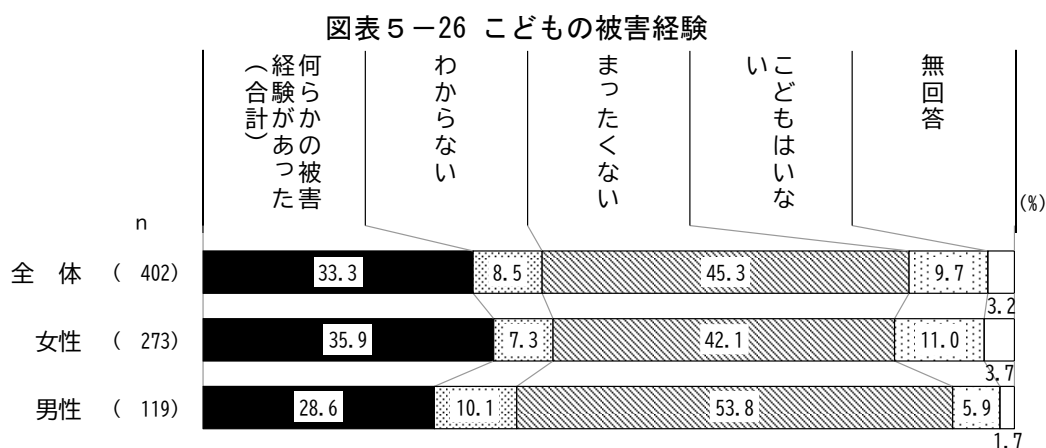
令和2年度調査との比較では全体でみると「目撃していた」は前回より5.7ポイントの増加となっている。性別でみると、女性では「目撃していた」は前回より6.8ポイントの増加となっている。

(図表5-25)

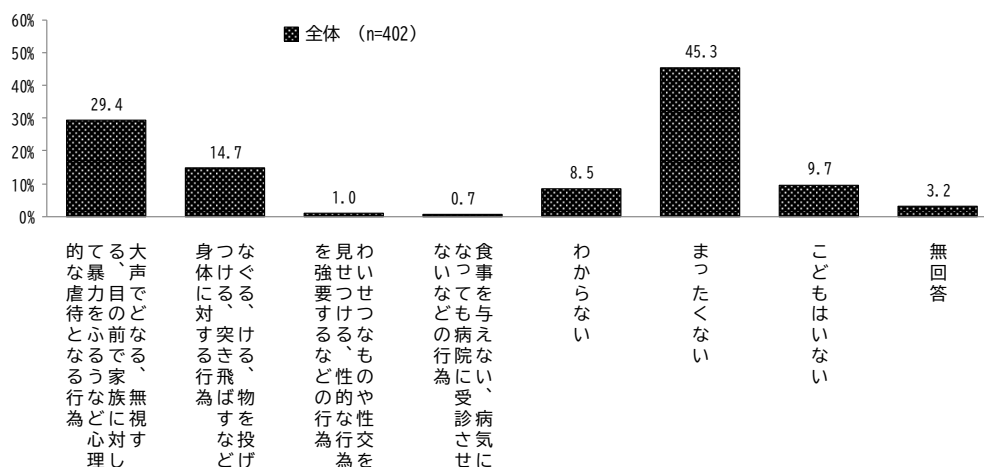
(10) こどもの被害経験

◎「心理的な虐待となる行為」が約3割で最も高くなっている

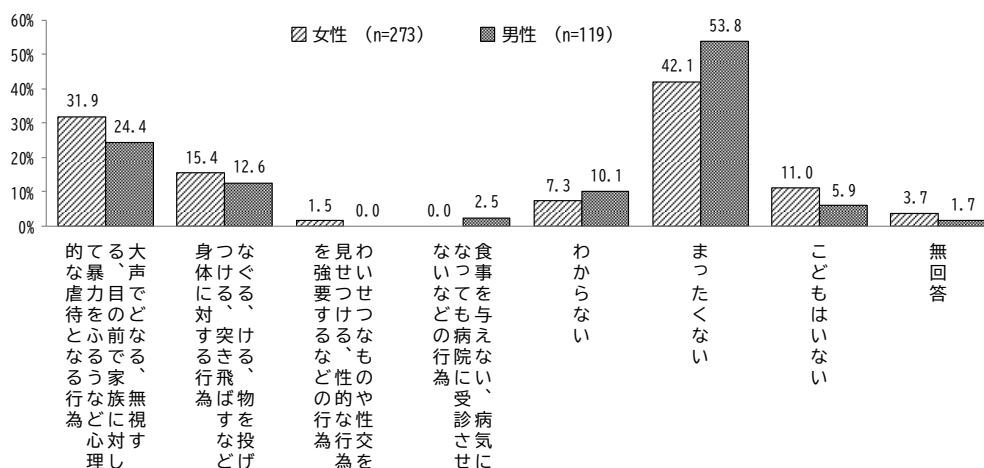
【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】  
**問21-6** あなたのお子さんは、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。  
 (あてはまるものすべてに○)



【被害内容(全体)】



【被害内容(性別)】



※「大声でどなる～」から「食事をあたえない～」までの4つの選択肢が複数回答。

配偶者がこどもに対してした行為によって、こどもに「何らかの被害経験があった（合計）」は全体で3割強となっており、性別でみると、女性（35.9%）、男性（28.6%）と、女性が男性より7.3ポイント上回っている。

配偶者がこどもに対してした行為について、全体でみると「まったくない」を除いて、「大声でどなる、無視する、目の前で家族に対して暴力をふるうなど心理的な虐待となる行為」が29.4%で最も高く、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど身体に対する行為」（14.7%）となっている。

また、性別でみると、「大声でどなる、無視する、目の前で家族に対して暴力をふるうなど心理的な虐待となる行為」は女性（31.9%）、男性（24.4%）と、女性が男性より7.5ポイント上回っている。

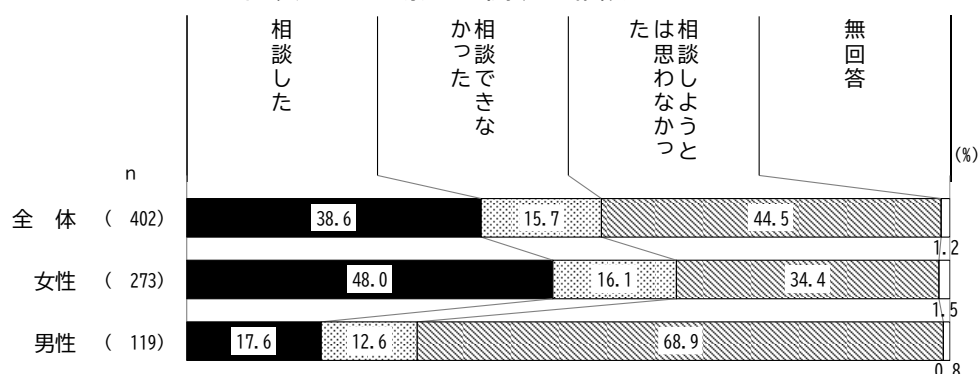
（図表5-26）

(11) 配偶者等からの暴力に関する相談

◎「相談した」は4割弱となっている

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】  
**問21-7** あなたは、相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
 (1つだけに○)

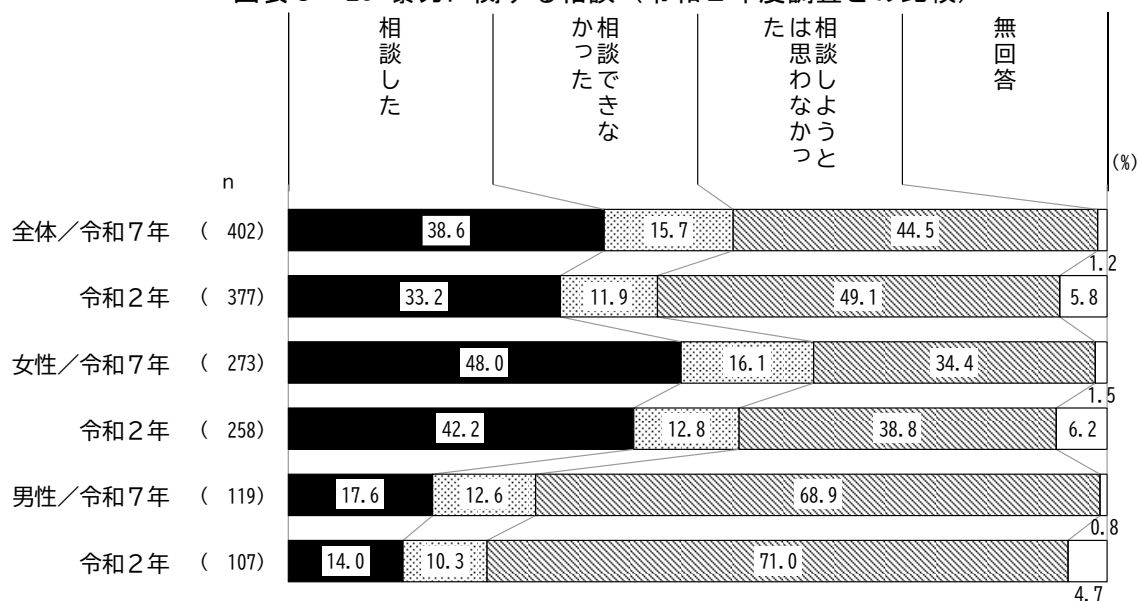
図表5-27 暴力に関する相談



相手から受けた行為について、性別でみると「相談した」は女性（48.0%）、男性（17.6%）と、女性が男性を30.4ポイント上回っている。

一方、「相談しようとは思わなかった」は女性（34.4%）、男性（68.9%）と、男性が女性を34.5ポイント上回っている。（図表5-27）

図表5-28 暴力に関する相談（令和2年度調査との比較）



令和2年度調査と比較すると、全体でみると「相談した」が前回より5.4ポイント増加している。性別でみると、前回より女性は5.8ポイント、男性は3.6ポイント増加している。（図表5-28）

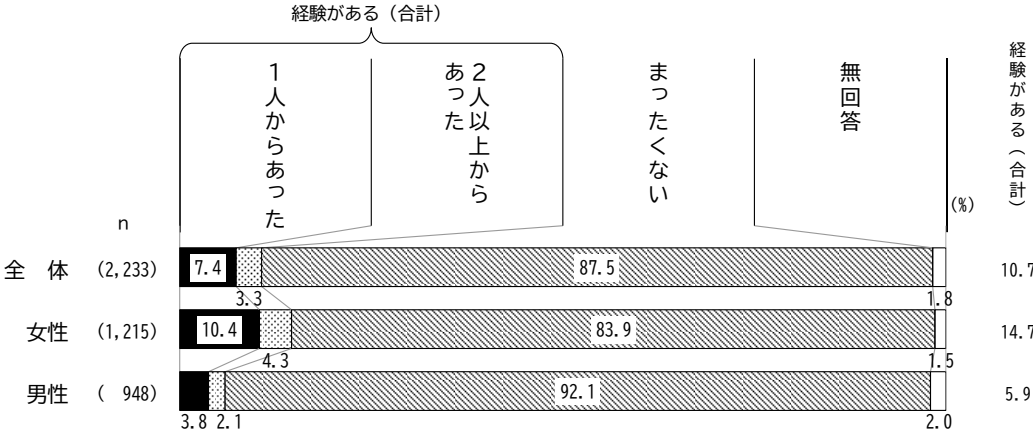


(12) 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験

◎被害経験がある人は1割を超えている

問22 あなたはこれまでに、ある特定の異性から、執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・メールなどの被害にあったことがありますか。  
(1つだけに○)

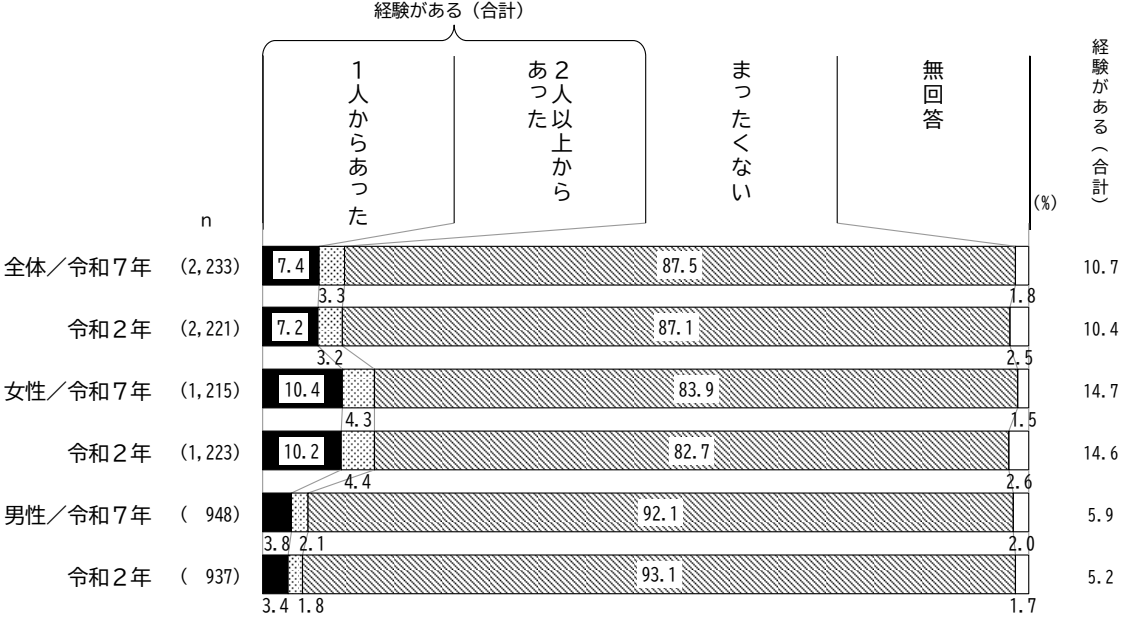
図表5-29 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験



これまでに特定の異性から受けた被害経験の有無について、全体でみると《経験がある（合計）》（「1人からあった」と「2人以上からあった」の合計）は10.7%となっている。

性別でみると、《経験がある（合計）》は女性（14.7%）、男性（5.9%）と、女性が男性を8.8ポイント上回っている。（図表5-29）

図表5-30 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験（令和2年度調査との比較）

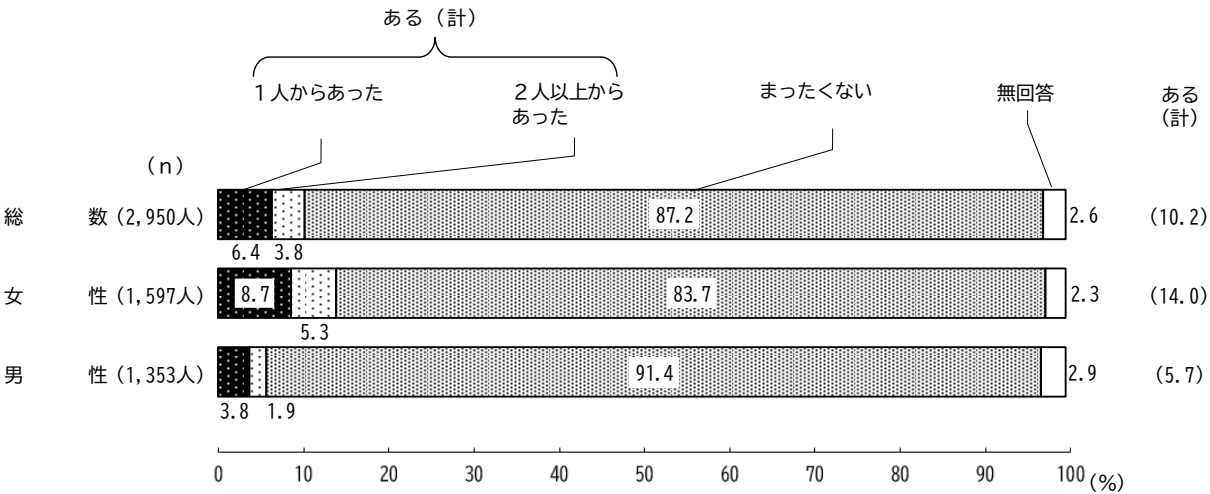


令和2年度調査と比較すると、《経験がある（合計）》は前回と大きな差異は見られない。

(図表5-30)

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無

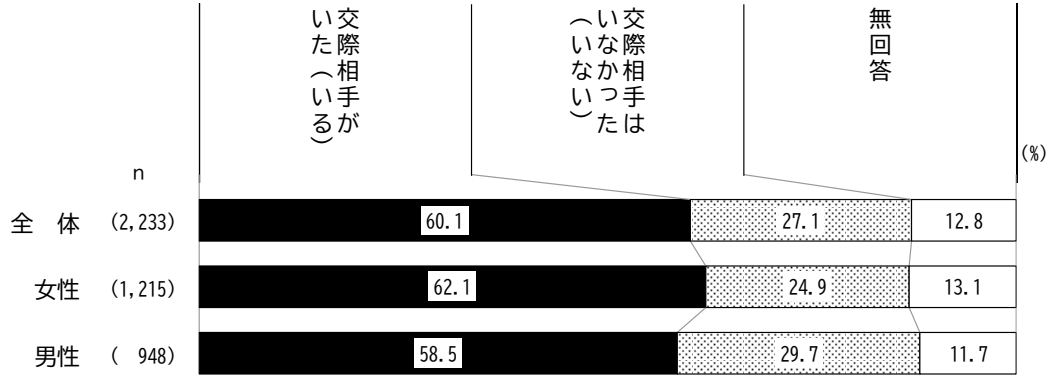


(13) 交際相手の有無

◎「交際相手がいた（いる）」は6割を超えている

【問23は、あなたの交際相手からの暴力の被害経験について伺います。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。】  
問23 あなたには、これまでに交際相手がいましたか。結婚している方、結婚したことのある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。  
(1つだけに○)

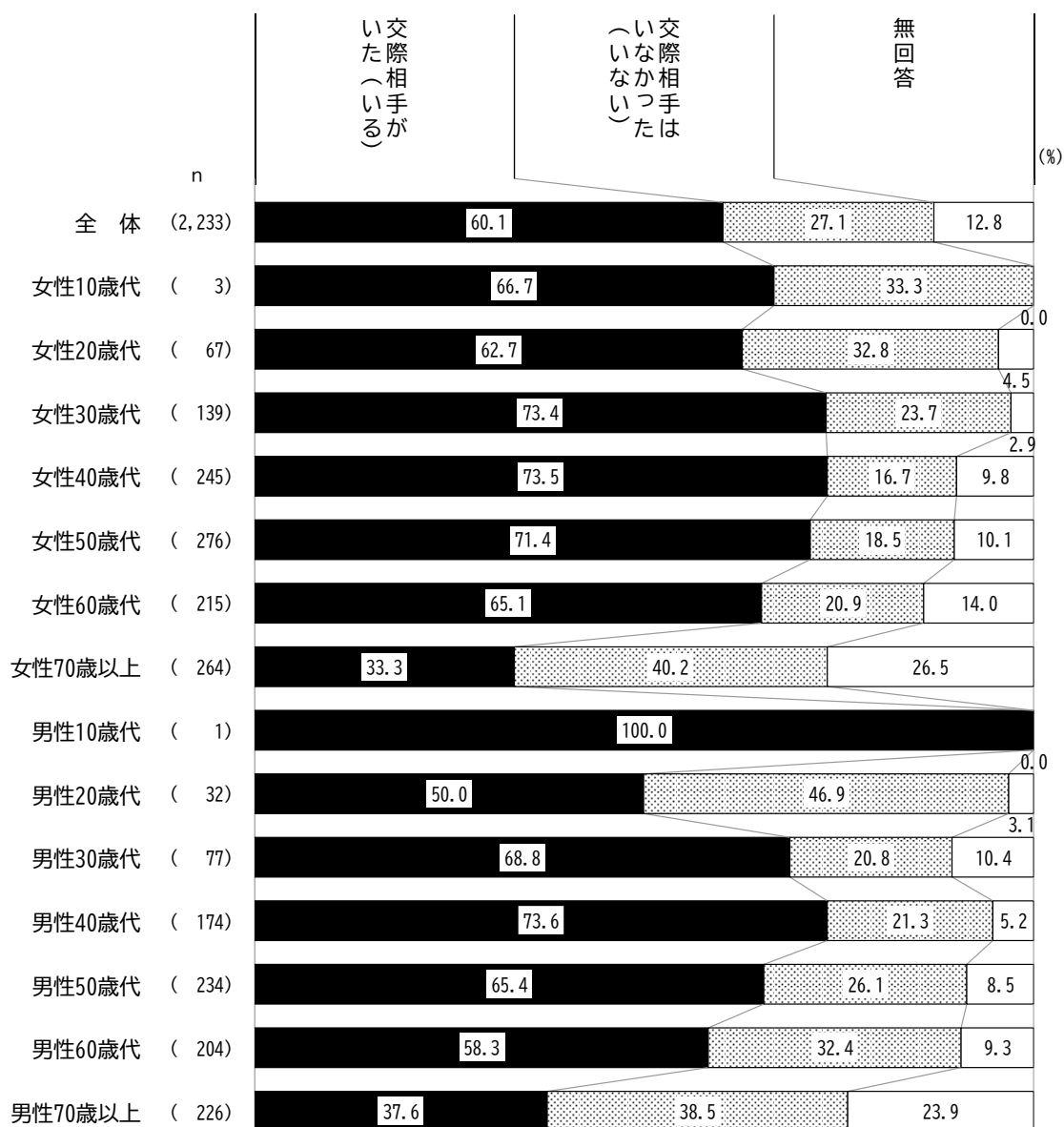
図表5-31 交際相手の有無



交際相手がいたかどうかについて、全体でみると「交際相手がいた（いる）」は60.1%となっている。

性別でみると、「交際相手がいた（いる）」では女性（62.1%）、男性（58.5%）と、女性が男性を3.6ポイント上回っている。（図表5-31）

図表 5－32 交際相手の有無（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「交際相手がいる（いる）」は女性では30～50歳代が7割強と高く、男性では40歳代が73.6%と最も高く、男女ともに50歳代以上では年代が上がるにつれて低くなっている。

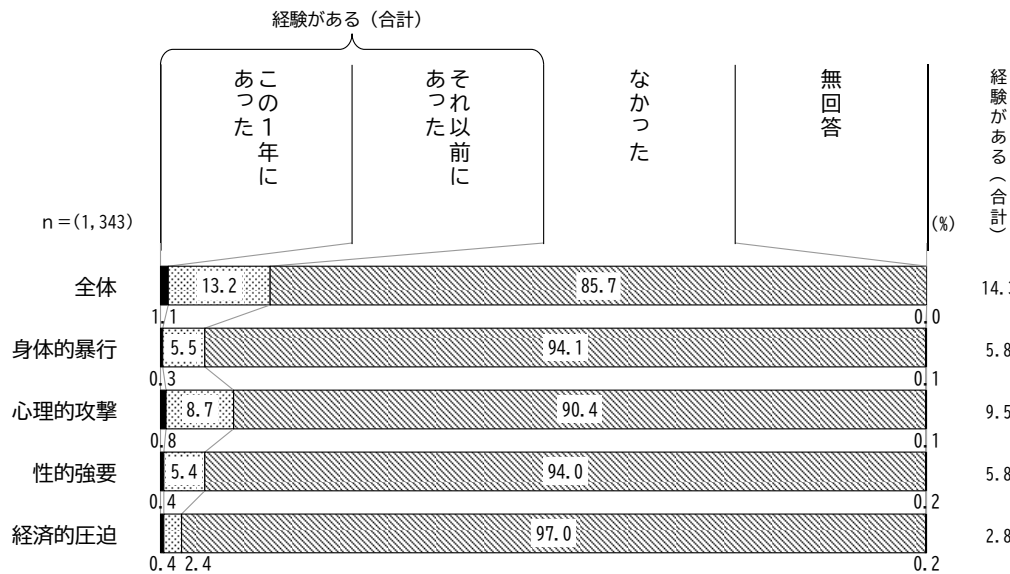
(図表 5－32)

(14) 交際相手からの暴力の被害経験

◎被害を受けた「経験がある」人は１割台半ばとなっている

【問２３で、「１ 交際相手がいた（いる）」と回答した方に】  
問２３-１ あなたは、これまでに交際相手から（１）～（４）のような行為をされたことがありますか。（それぞれ１つずつに○）

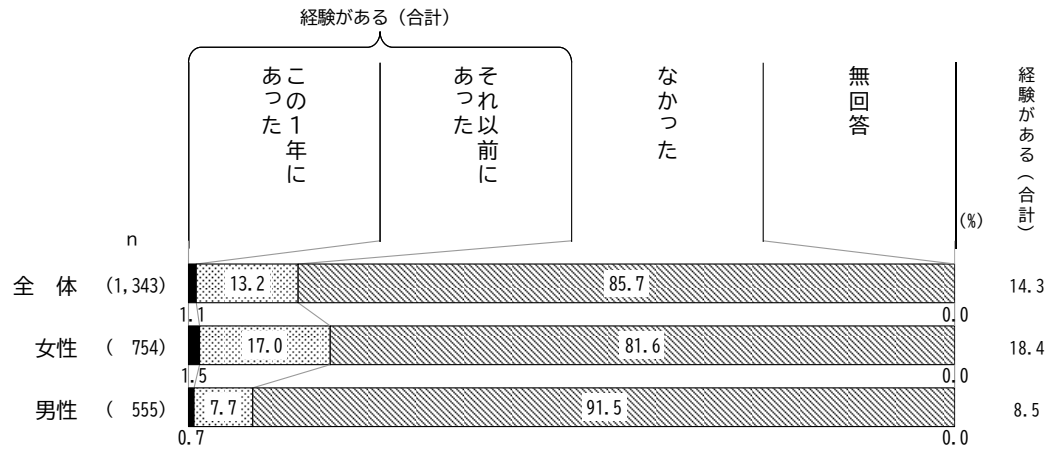
図表５－33 交際相手からの暴力の被害経験



選択肢	行為の内容
身体的暴行	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行
心理的攻撃	人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じさせるような脅迫
性的強要	いやがっているのに、性的な行為を強要する、見たくないのに性的な映像等を見せる、避妊に協力しないなど
経済的圧迫	生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど

交際相手から被害を受けたかどうかについて、全体でみると《経験がある（合計）》（「この１年にあった」と「それ以前にあった」の合計）は【身体的暴行】（5.8%）、【心理的攻撃】（9.5%）、【性的強要】（5.8%）、【経済的圧迫】（2.8%）となっている。（図表５－33）

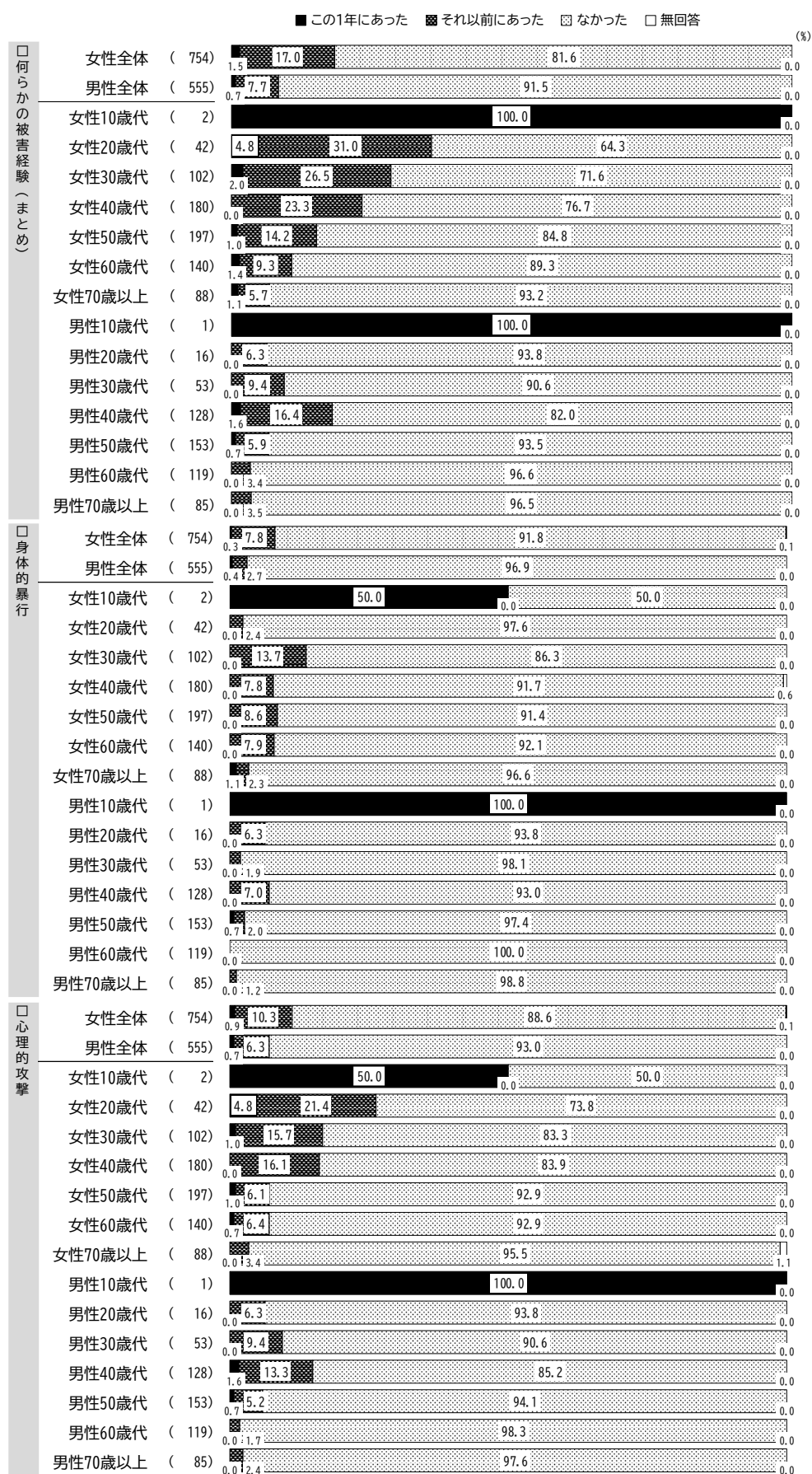
図表 5－34 交際相手からの暴力の被害経験(性別)



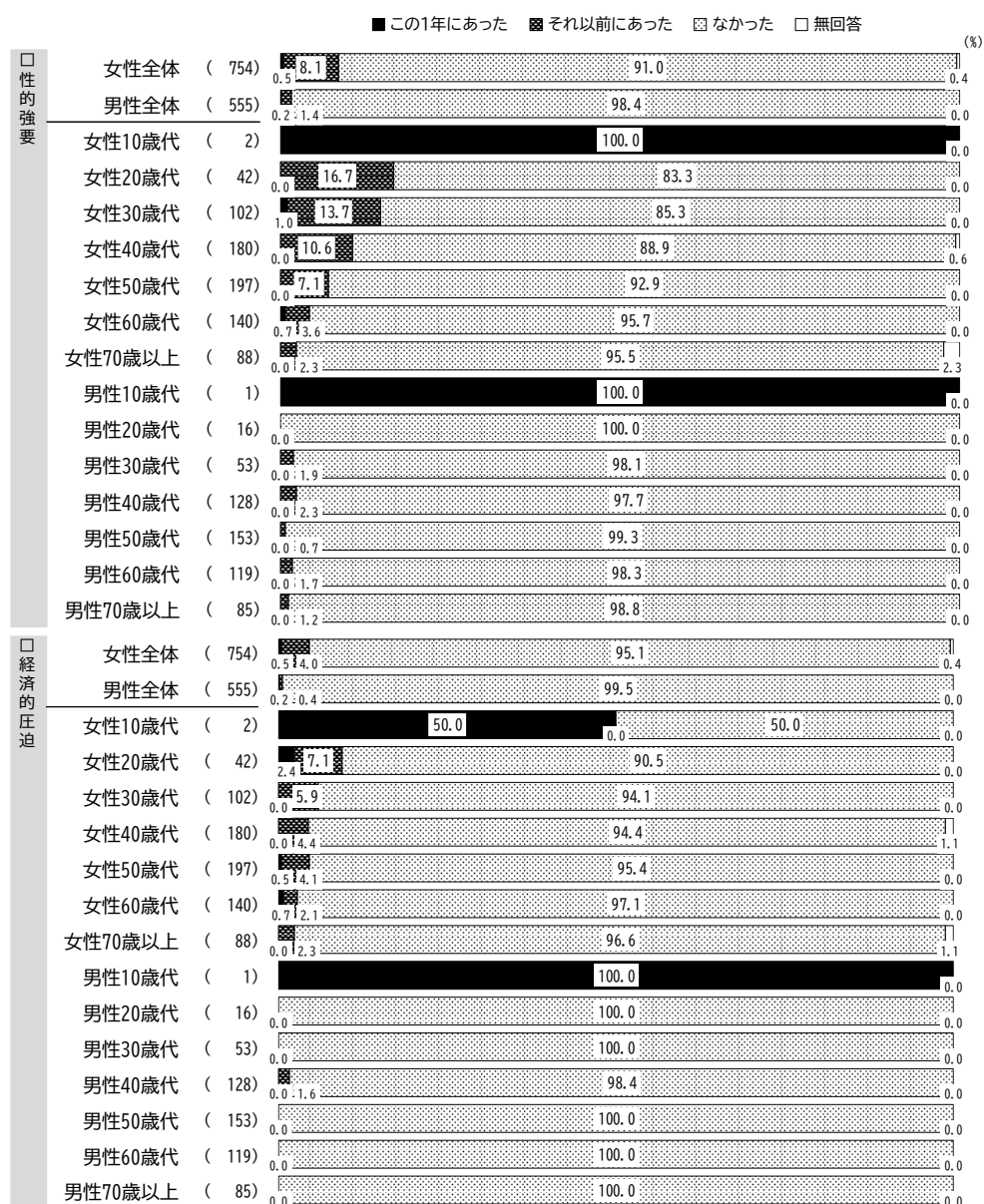
交際相手から、何らかの被害経験を受けたかを聞いたところ、《経験がある（合計）》は14.3%となっている。

性別でみると、《経験がある（合計）》は女性（18.4%）、男性（8.5%）と、女性が男性を9.9ポイント上回っている。（図表 5－34）

図表5-35 交際相手からの暴力の被害経験（性別・性／年齢別）



## 第IV章 調査の結果



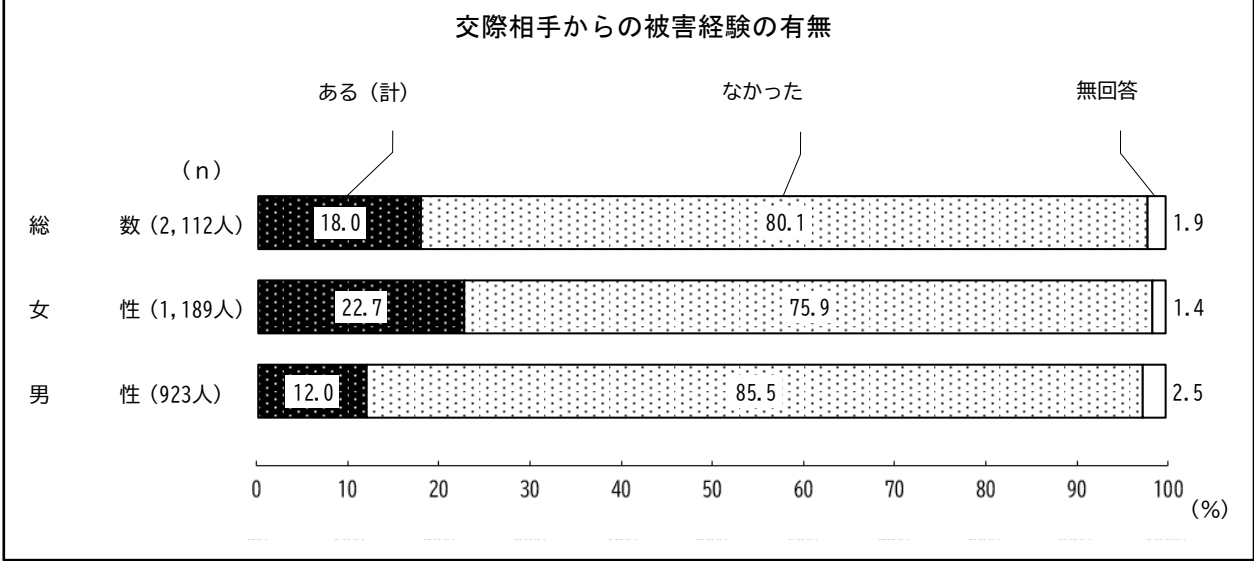
※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10～20歳代については参考扱いとする。

交際相手からの暴力被害について、《経験がある（合計）》は【身体的暴行】では女性（8.1%）、男性（3.1%）と、女性が男性を5.0ポイント上回っている。【心理的攻撃】では女性（11.2%）、男性（7.0%）と、女性が男性を4.2ポイント上回っている。【性的強要】では女性（8.6%）、男性（1.6%）と、女性が男性を7.0ポイント上回っている。【経済的圧迫】では女性（4.5%）、男性（0.6%）と、女性が男性を3.9ポイント上回っている。すべての暴力に関して、女性が男性を上回っている。

性／年齢別でみると、【何らかの被害経験（まとめ）】では《経験がある（合計）》は女性の20歳代が35.8%と最も高く、年齢が上がるにつれて減少している。【身体的暴行】では《経験がある（合計）》は女性の30歳代が13.7%と最も高くなっている。【心理的攻撃】では《経験がある（合計）》は女性の20歳代が26.2%と最も高くなっている。【性的強要】では《経験がある（合計）》は女性の20歳代が16.7%と最も高くなっている。【経済的圧迫】では《経験がある（合計）》が女性の20歳代で9.5%と最も高くなっている。（図表5-35）



参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)



## 第IV章 調査の結果

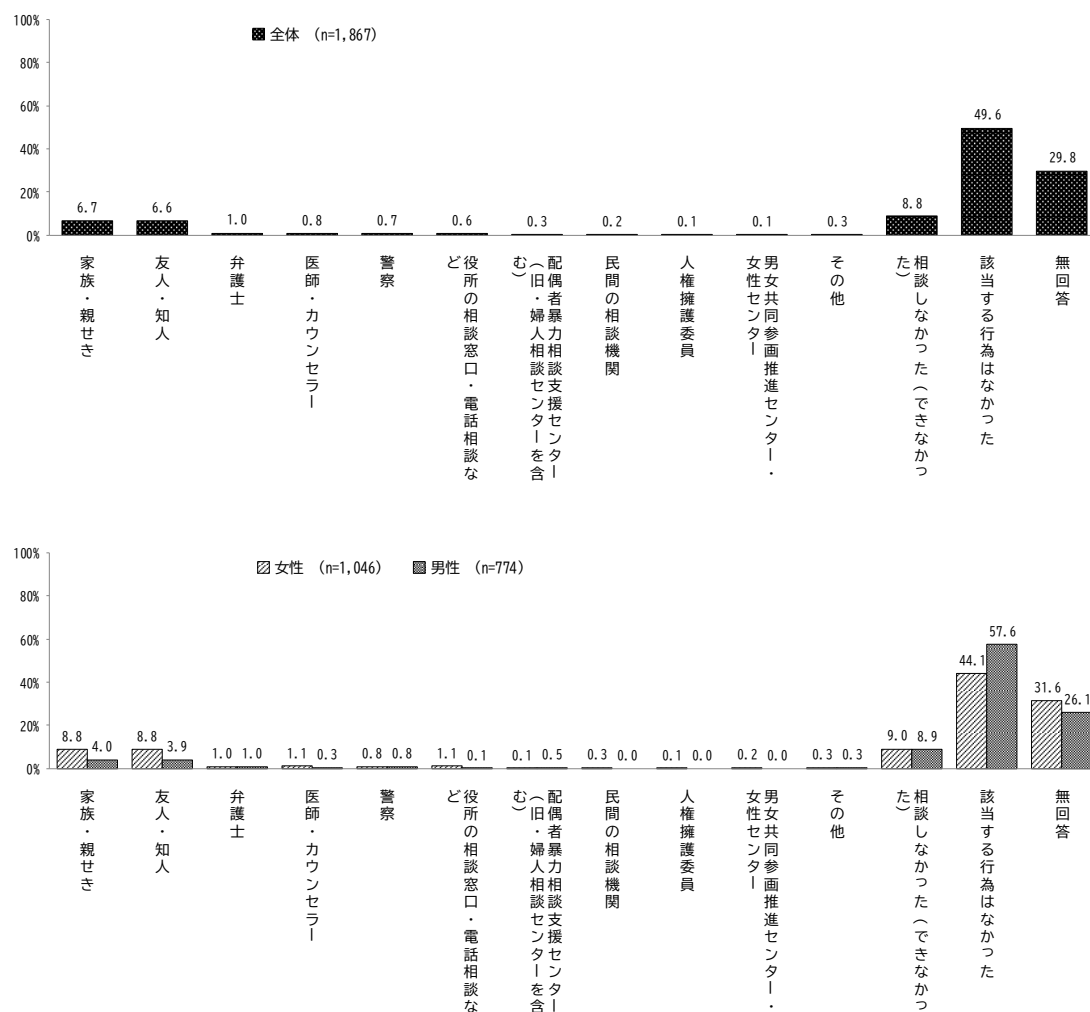
### (15) 配偶者からの暴力について相談した相手

#### ◎相談先は「家族・親せき」が最も高くなっている

【結婚をしている（いた）方（事実婚を含む）、交際相手がいる（いた）方に（該当しない方は問26へ）】

**問24-1** あなたが、問21の配偶者からの行為について、相談した人（場所）を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

図表5-36 配偶者からの暴力について相談した相手



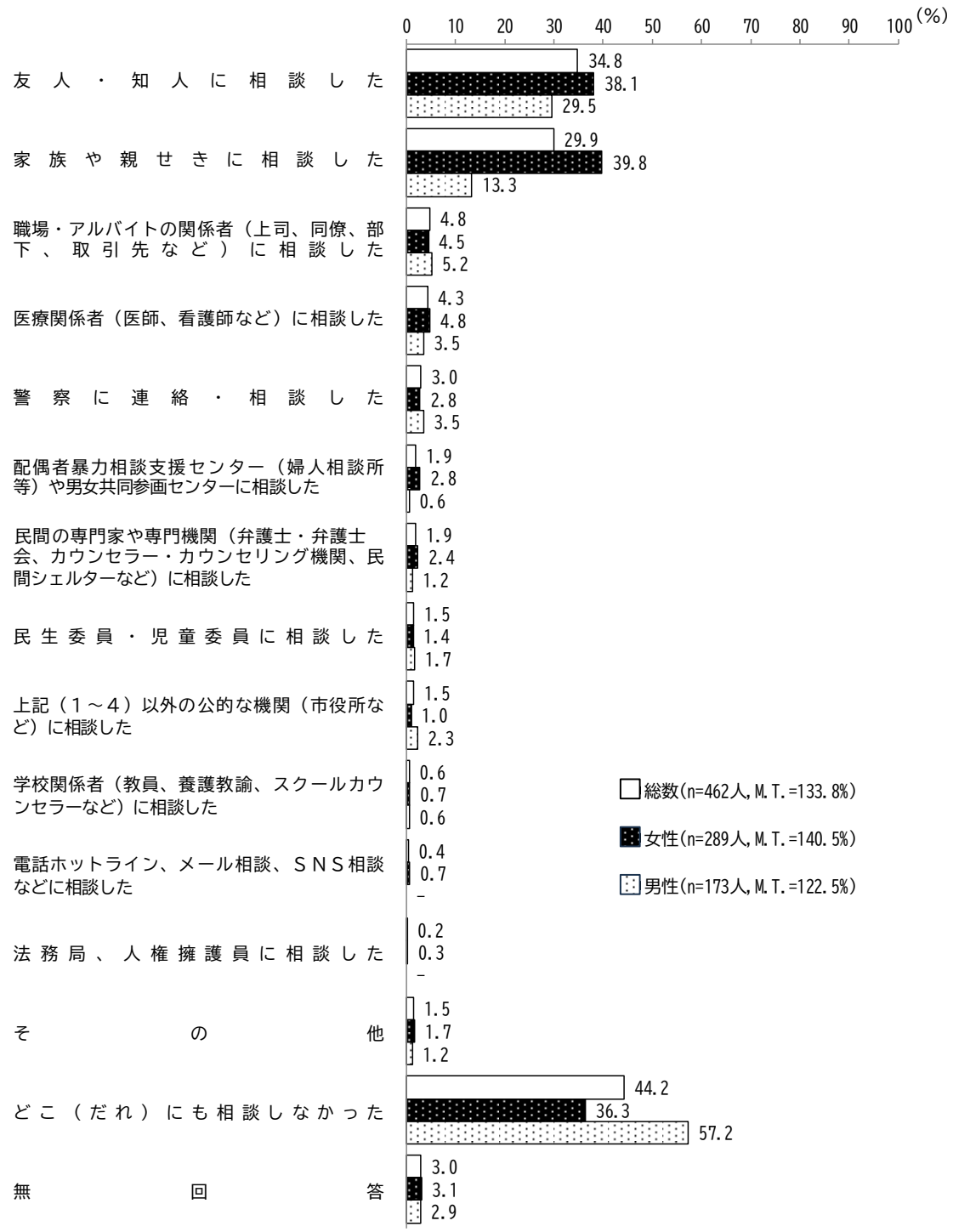
相談先としては、全体でみると「家族・親せき」が6.7%と最も高く、次いで「友人・知人」（6.6%）、「弁護士」（1.0%）となっている。一方、「相談しなかった（できなかった）」は8.8%となっている。

性別でみると、「友人・知人」では女性（8.8%）、男性（3.9%）と、女性が男性を4.9ポイント、「家族・親せき」では女性（8.8%）、男性（4.0%）と、女性が男性を4.8ポイントそれぞれ上回っている。

（図表5-36）

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

配偶者からの暴力の相談先（複数回答）



\*「上記（1～4）以外の公的な機関」とは、下記以外の公的な機関を指す。  
1. 配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所等）や男女共同参画センター  
2. 警察  
3. 民生委員・児童委員  
4. 法務局、人権擁護委員

#### 第IV章 調査の結果

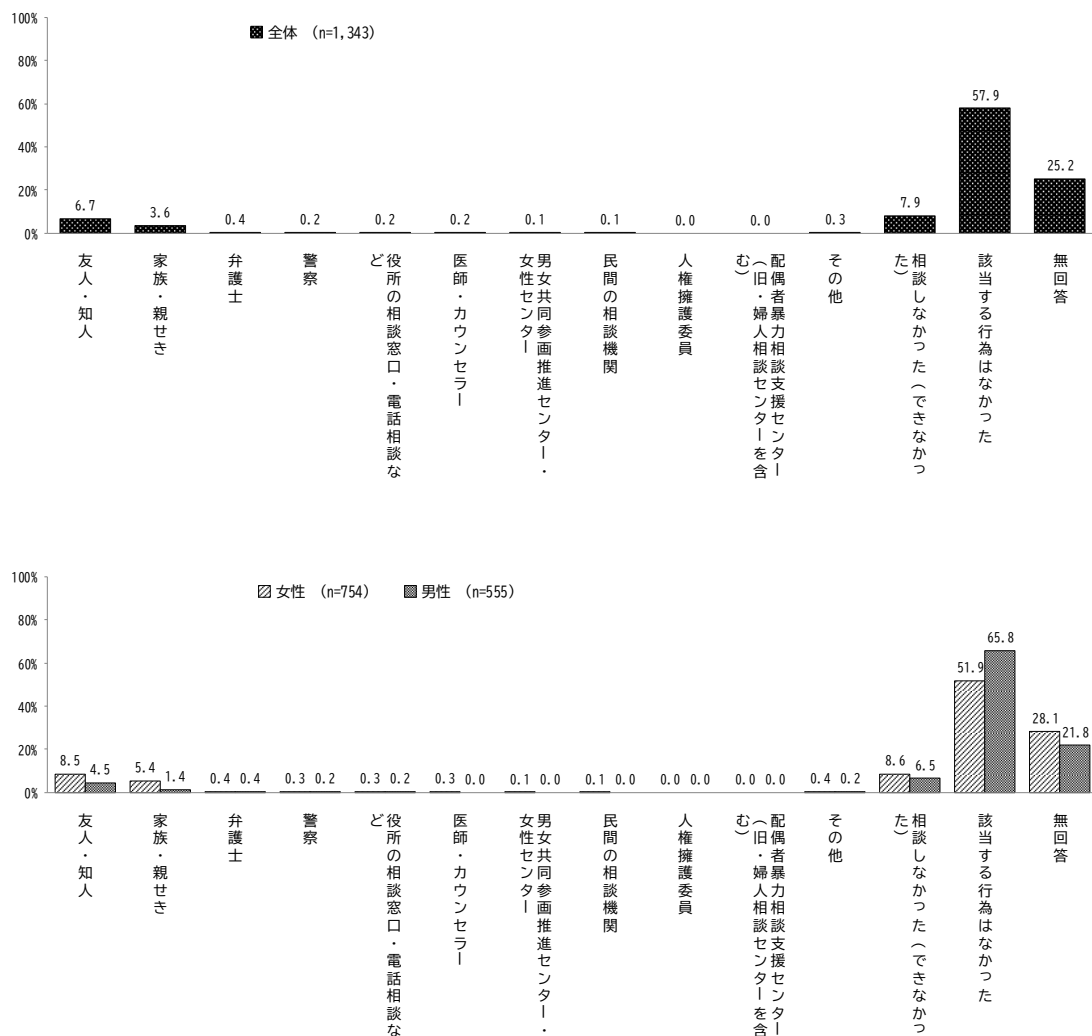
##### (16) 交際相手からの暴力について相談した相手

◎相談先は「友人・知人」が最も高くなっている

【結婚をしている（いた）方（事実婚を含む）、交際相手がいる（いた）方に（該当しない方は問26へ）】

**問24-2** あなたが、問23-1の交際相手からの行為について、相談した人（場所）を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

図表5-37 交際相手からの暴力について相談した相手



相談先としては、全体でみると「友人・知人」が6.7%と最も高く、次いで「家族・親せき」（3.6%）、「弁護士」（0.4%）となっている。一方、「相談しなかった（できなかった）」は7.9%となっている。

性別でみると、「友人・知人」では女性（8.5%）、男性（4.5%）と、「家族・親せき」では女性（5.4%）、男性（1.4%）と、ともに女性が男性を4.0ポイント上回っている。（図表5-37）

(17) 配偶者からの暴力について相談できなかった理由

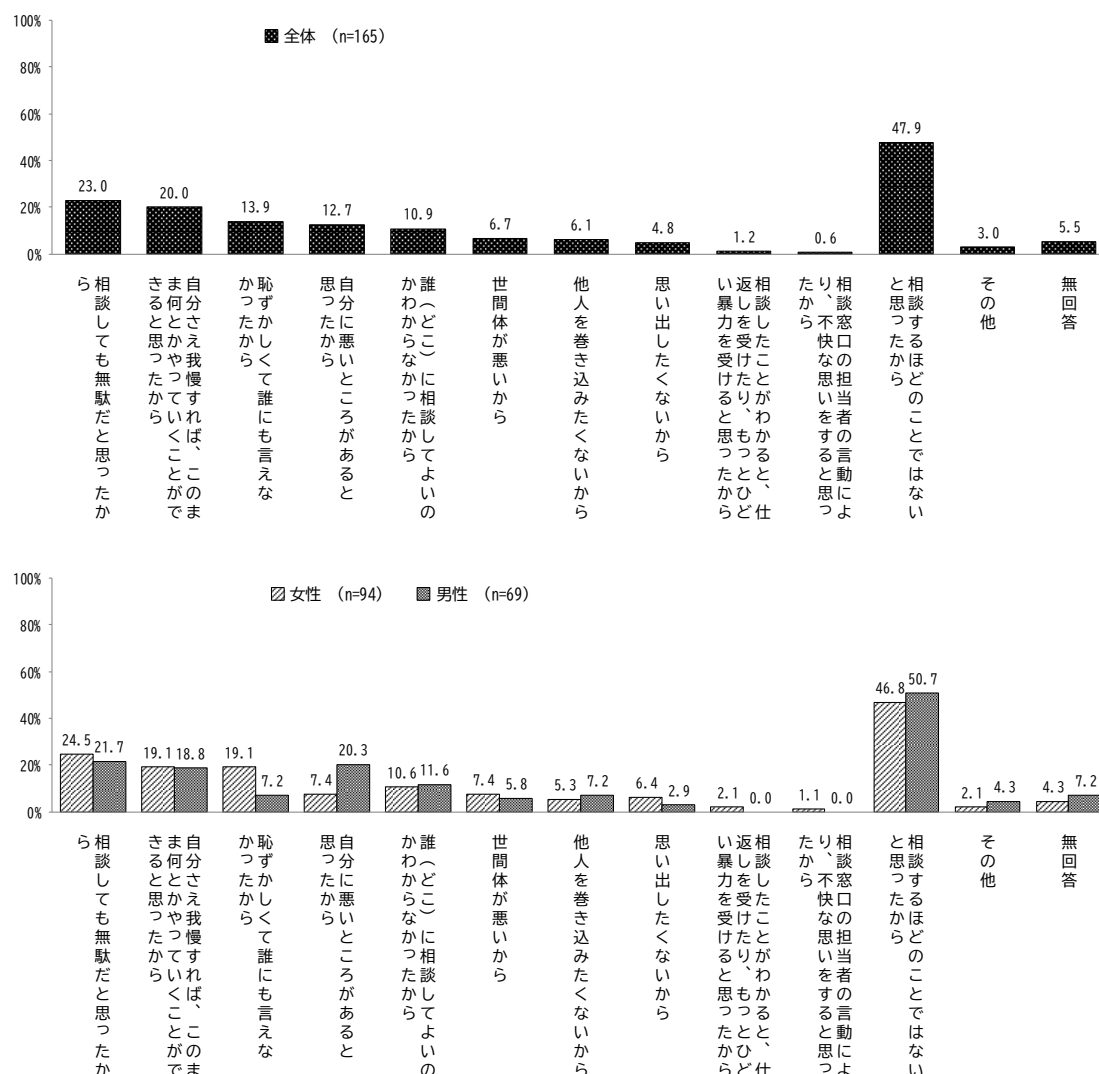
◎「相談するほどのことではないと思った」が4割台半ばを超えている

【問24で、「12 相談しなかった（できなかった）」と回答した方に】

問25-1 あなたが、誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

図表5-38 配偶者からの暴力について相談できなかった理由

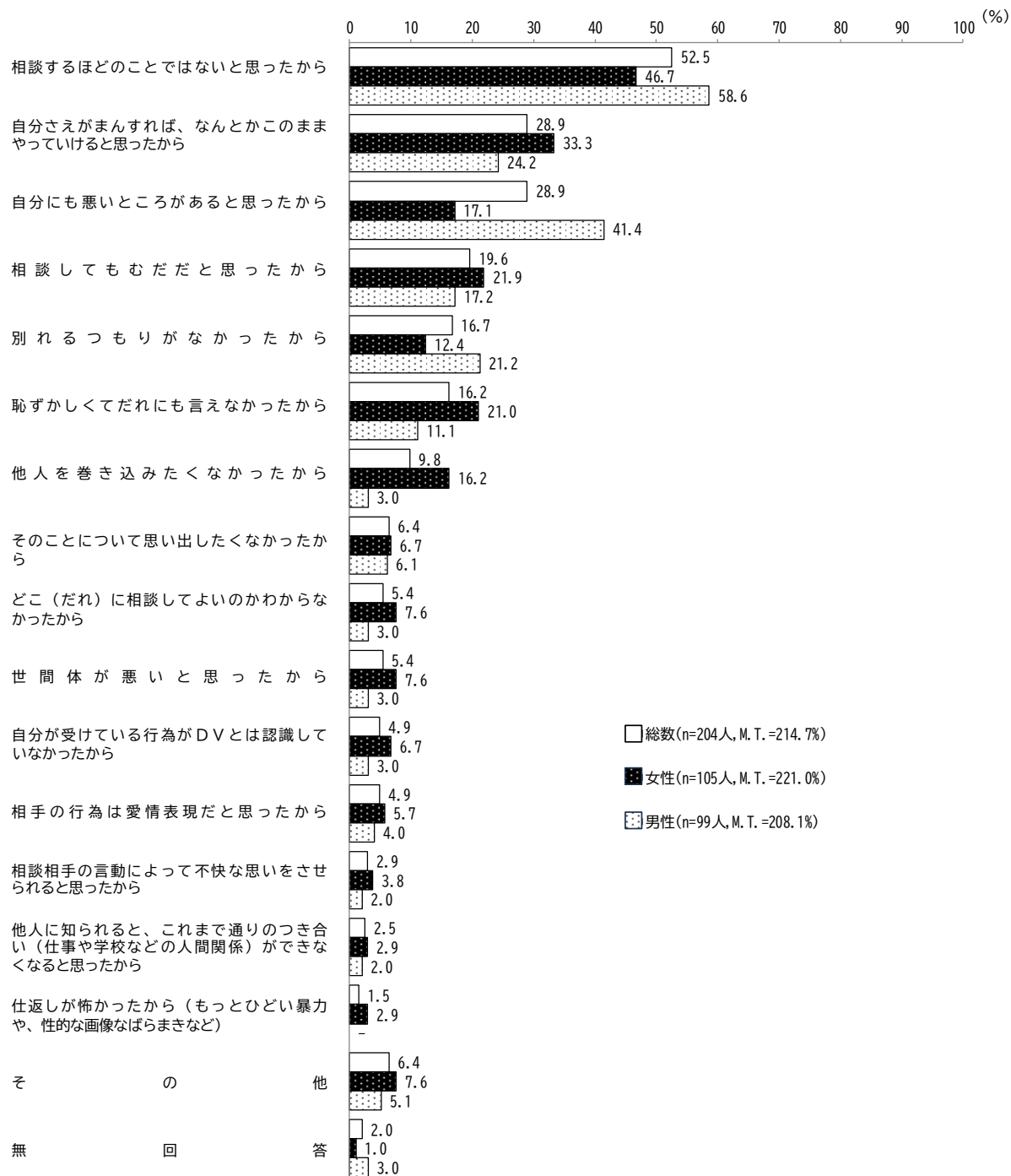


相談できなかった理由として、全体で見ると「相談するほどのことではないと思ったから」が47.9%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」(23.0%)、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」(20.0%)、となっている。

性別でみると、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」では女性（19.1%）、男性（7.2%）と女性が男性を11.9ポイント上回っている。「自分に悪いところがあると思ったから」では女性（7.4%）、男性（20.3%）と男性が女性を12.9ポイント上回っている。（図表5—38）

参考 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」(令和6年3月)

相談しなかった理由（複数回答）



## (18) 交際相手からの暴力について相談できなかった理由

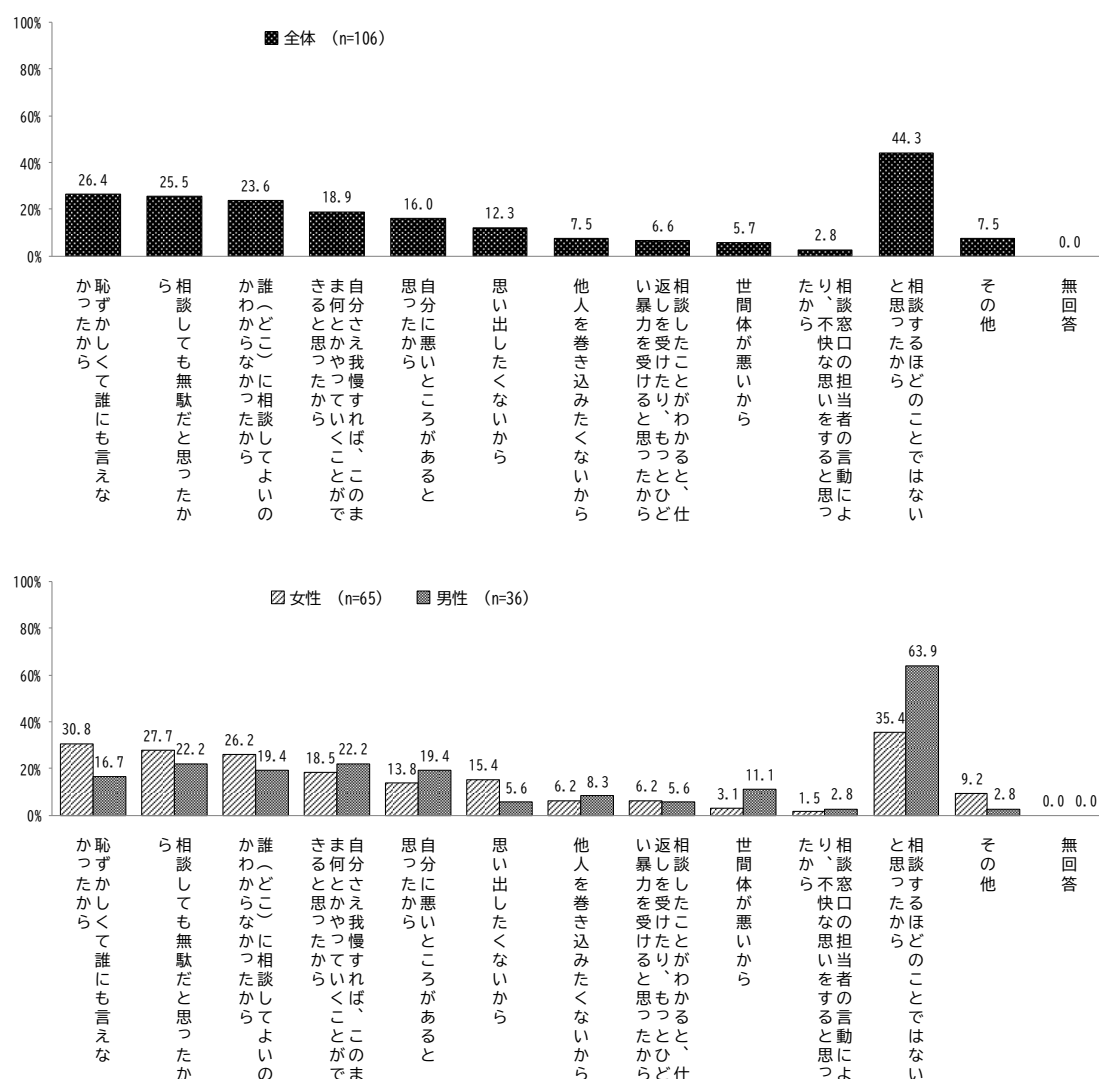
◎「相談するほどのことではないと思った」が4割台半ばとなっている

【問24で、「12 相談しなかった（できなかった）」と回答した方に】

問25-2 あなたが、誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。

（あてはまるものすべてに○）

図表5-39 交際相手からの暴力について相談できなかった理由



相談できなかった理由として、全体でみると「相談するほどのことではないと思ったから」が44.3%で最も高く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(26.4%)、「相談しても無駄だと思ったから」(25.5%)、となっている。

性別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」では女性(35.4%)、男性(63.9%)と男性が女性を28.5ポイント上回っている。「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」では女性(30.8%)、男性(16.7%)と男性が女性を14.1ポイント上回っている。(図表5-39)

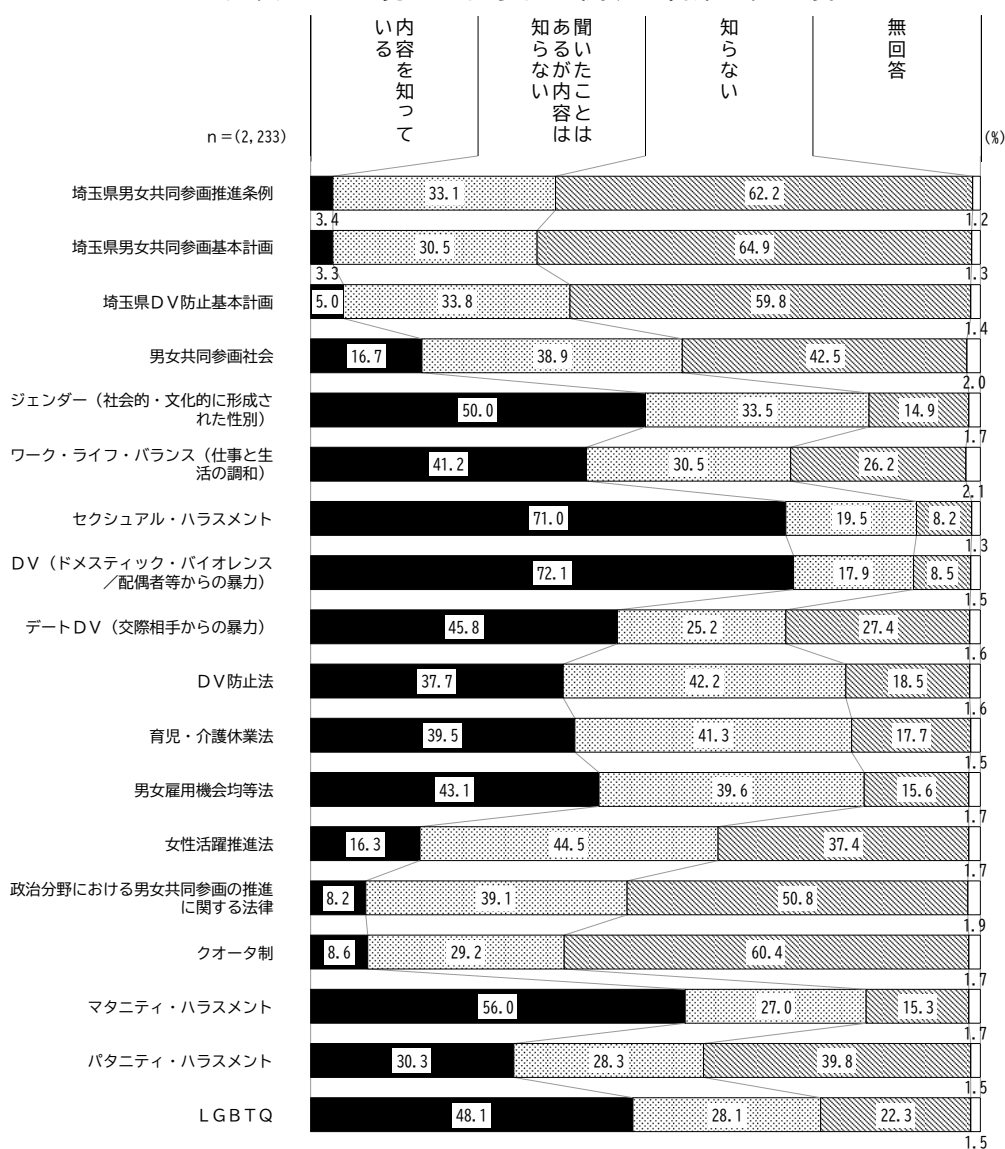
## 6. 男女共同参画を推進するための取組について

### (1) 男女共同参画に関する言葉の認知度

◎【DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）】、【セクシュアル・ハラスメント】の認知度は7割強となっている

問26 あなたは(1)～(18)の男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見た  
り聞いたりしたことがありますか。(それぞれ1つずつに○)

図表6-1 男女共同参画に関する言葉の認知度

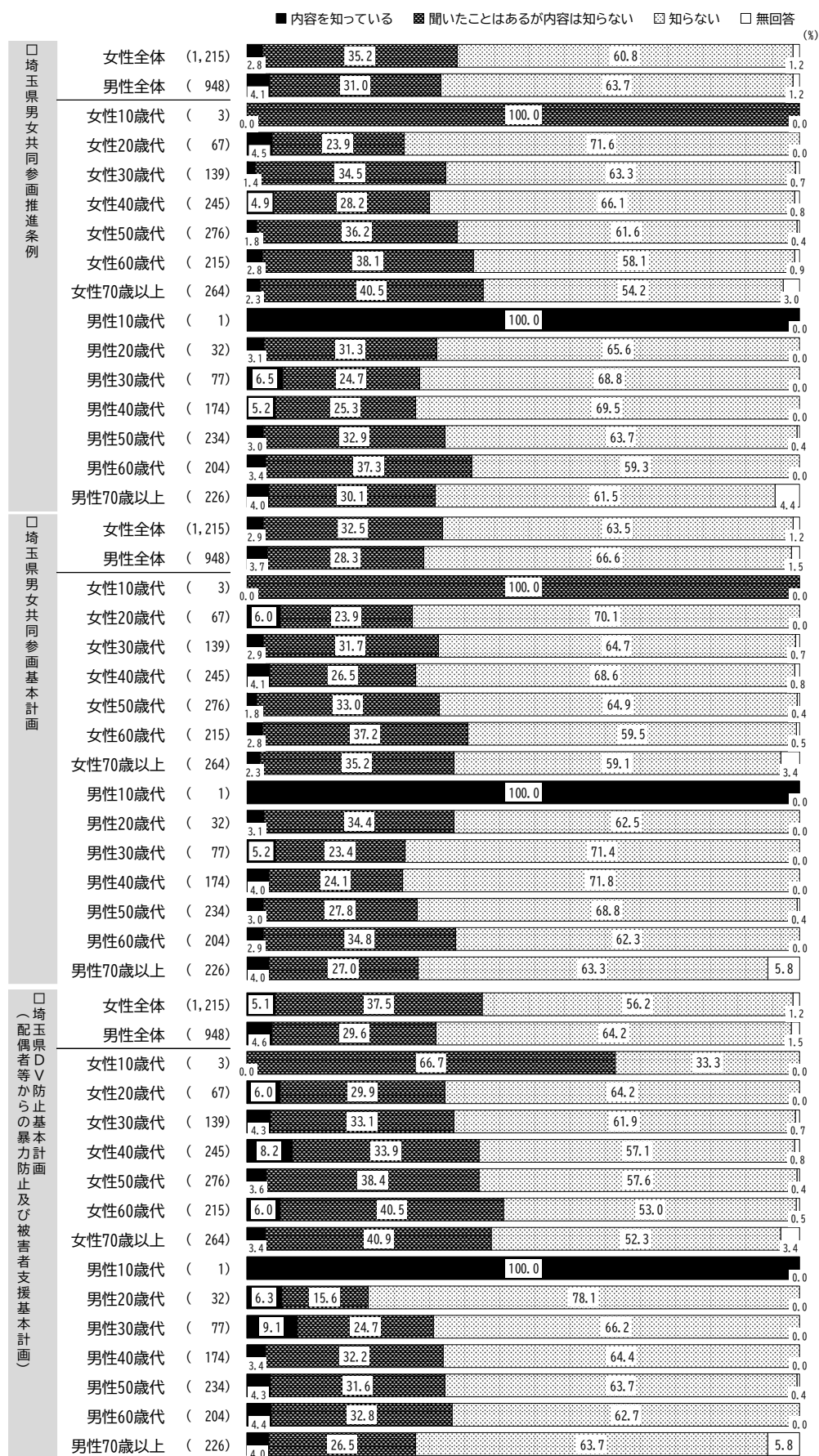


男女共同参画に関する社会の動きや言葉18項目についての認知度は、全体でみると「内容を知っている」では【DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）】（72.1%）が最も高く、次いで【セクシュアル・ハラスメント】（71.0%）、【マタニティ・ハラスメント】（56.0%）となっている。

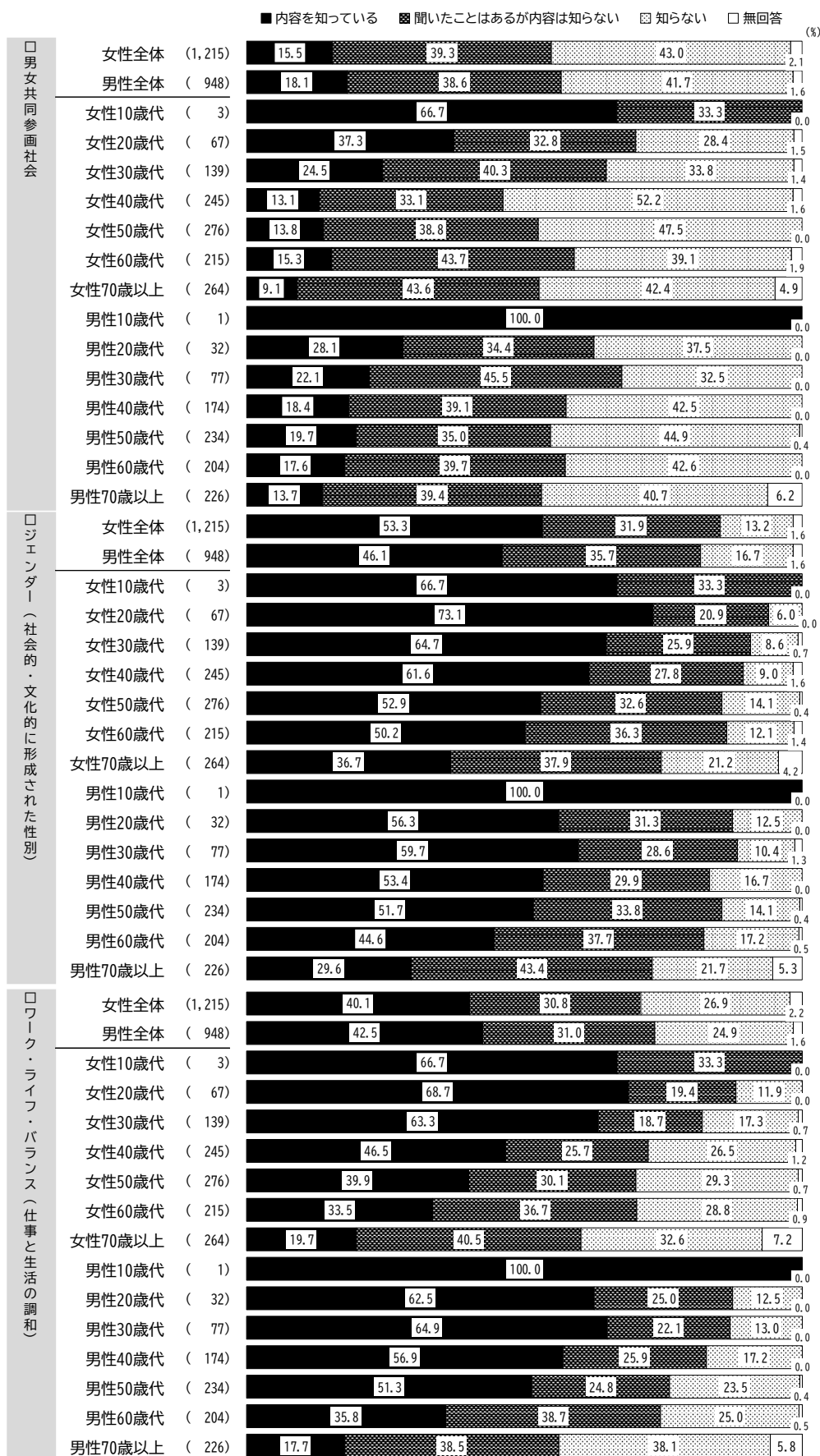
一方、「聞いたことはあるが、内容は知らない」では【女性活躍推進法】（44.5%）が最も高く、次いで【DV防止法】（42.2%）、【育児・介護休業法】（41.3%）となっている。（図表6-1）



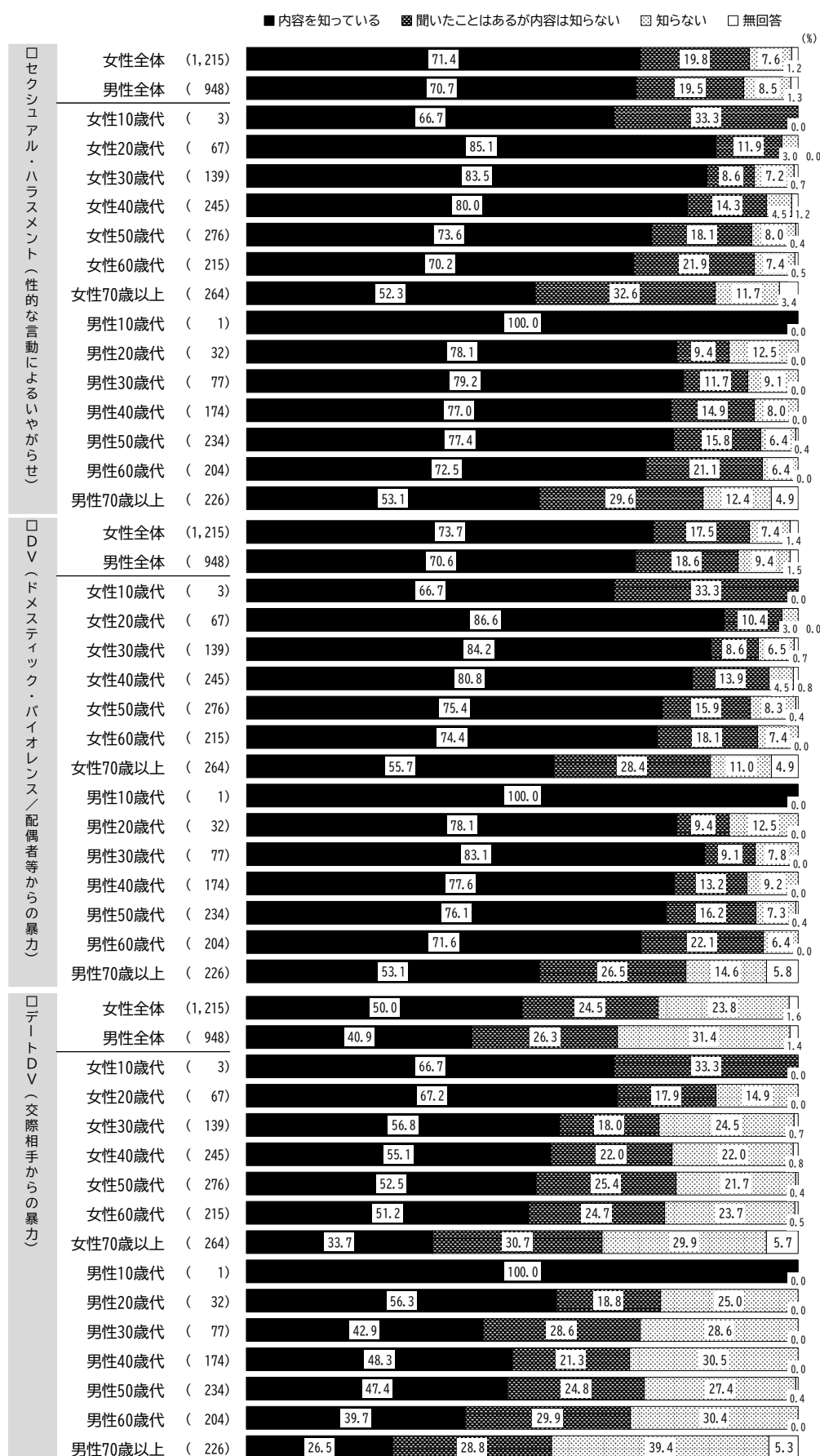
図表 6-2 男女共同参画に関する言葉の認知度（性別・性／年齢別）



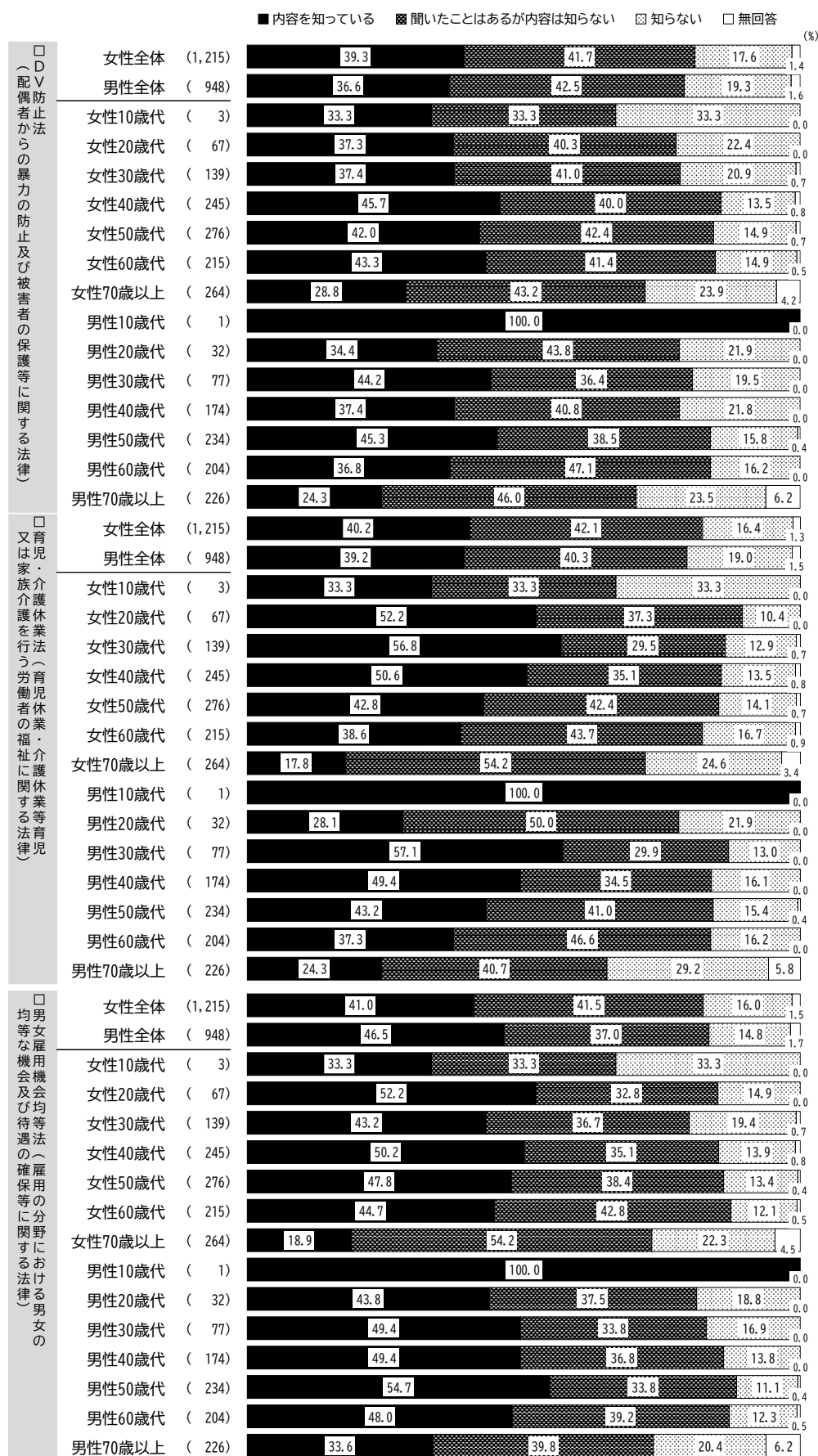
## 第IV章 調査の結果

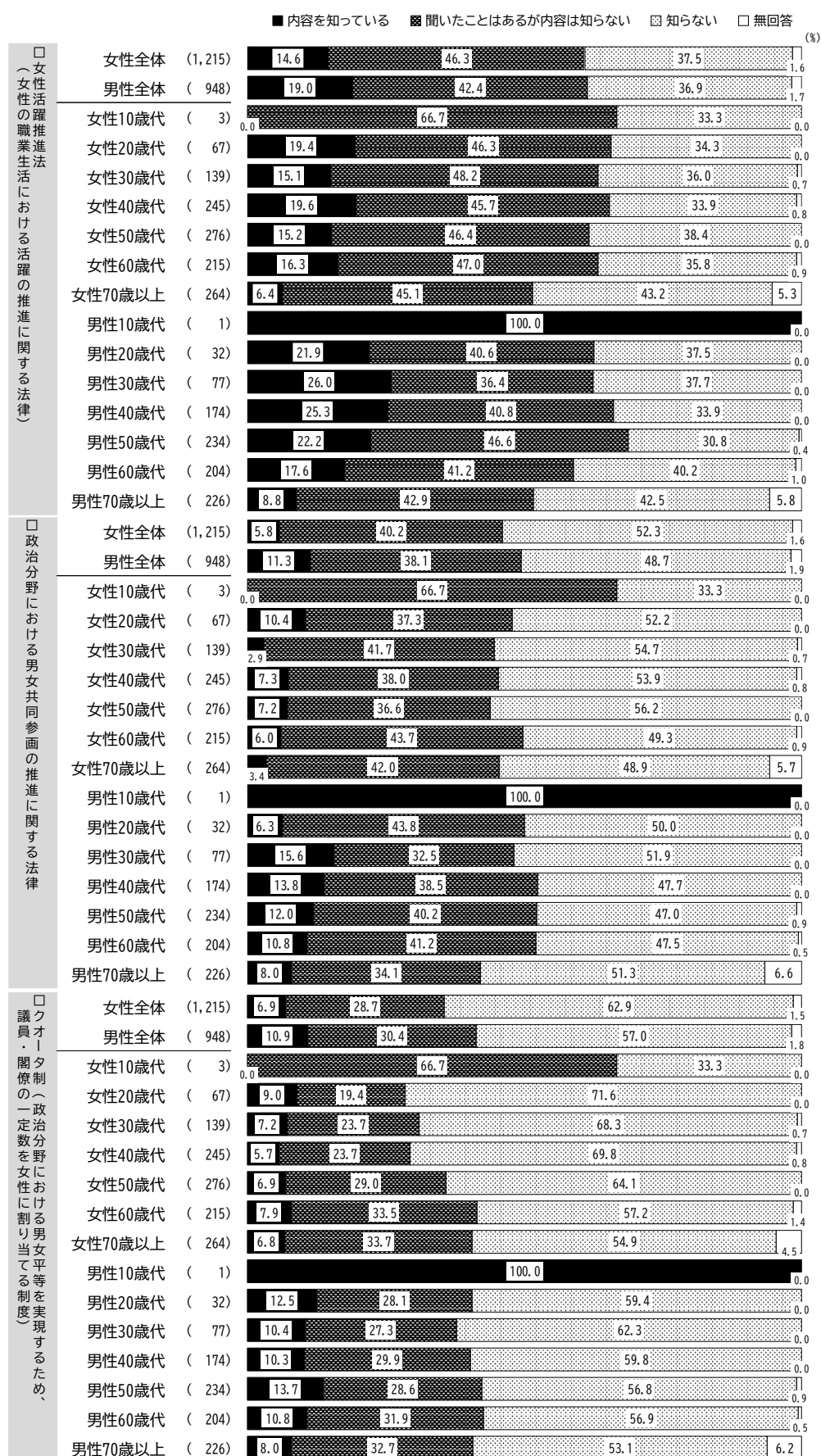


## 第IV章 調査の結果

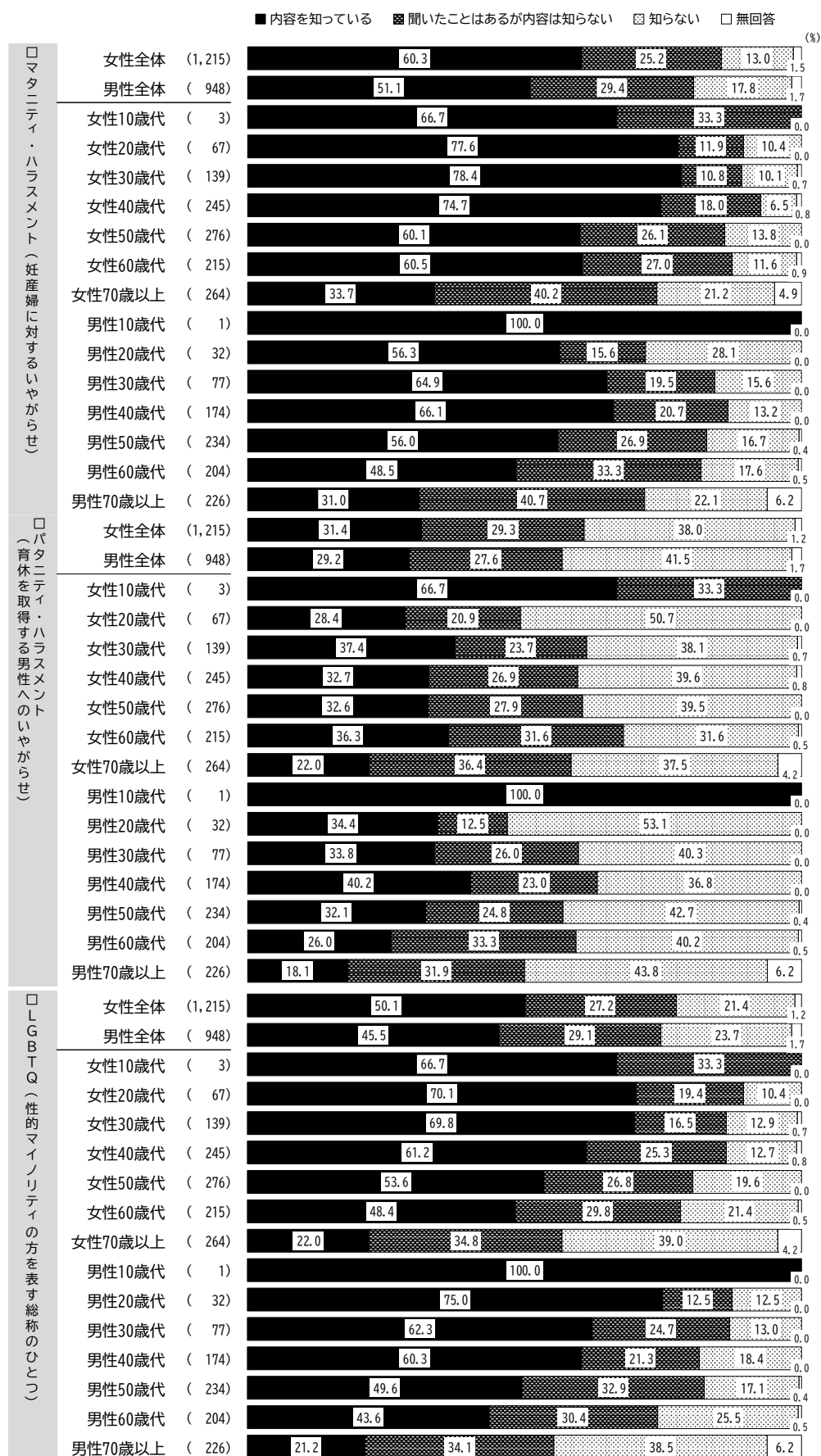


## 第IV章 調査の結果





## 第IV章 調査の結果



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする

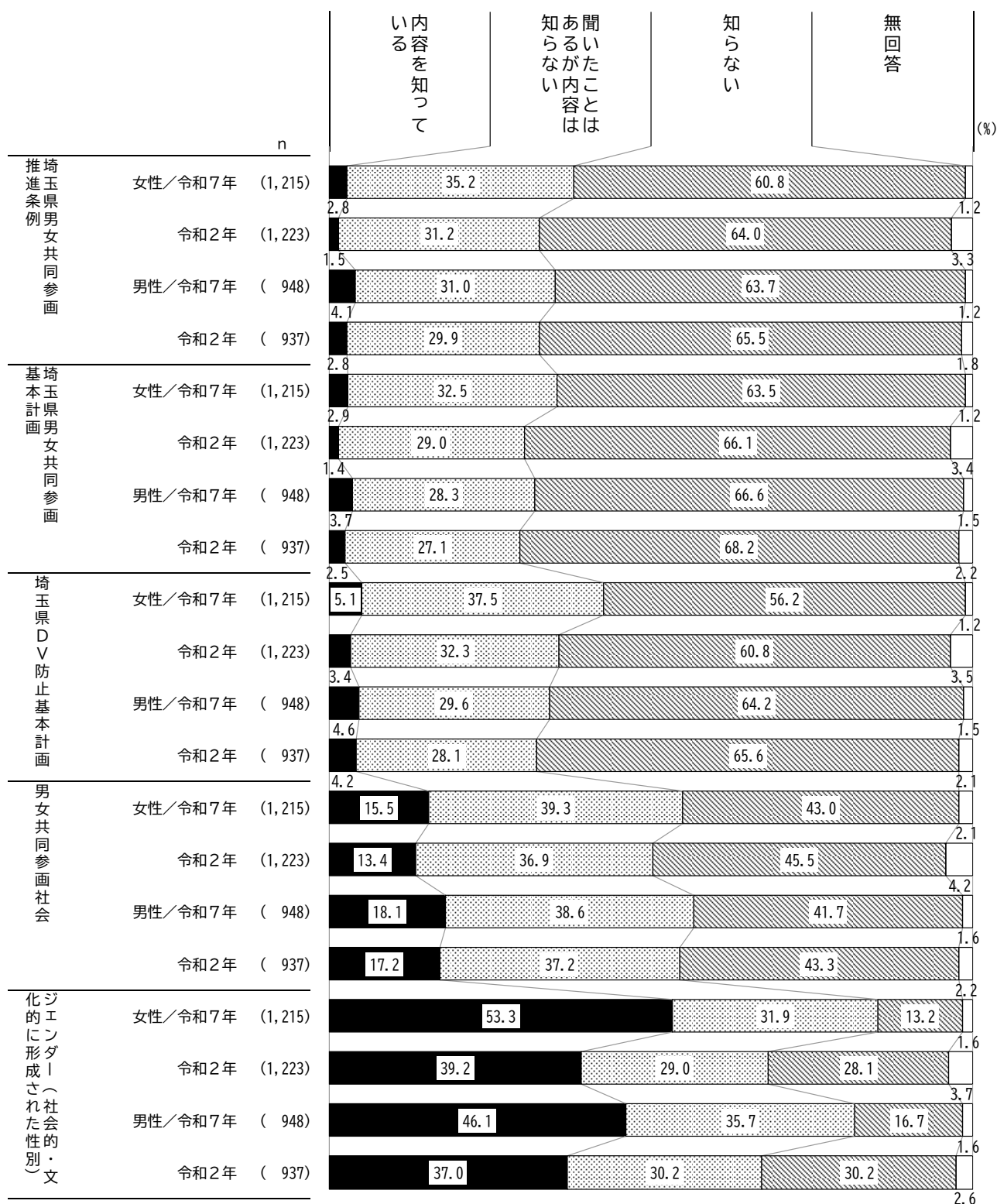
性別でみると、男女間で認知度の差が大きいものでは、【デートDV（交際相手からの暴力）】は、女性（50.0%）、男性（40.9%）と、女性が男性を9.1ポイント上回っている。【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】は、女性（53.3%）、男性（46.1%）と、女性が男性を7.2ポイント上回っている。

性／年齢別でみると、「内容を知っている」は【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】、【ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】、【セクシュアル・ハラスメント】、【DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）】、【デートDV（交際相手からの暴力）】といった項目では男女ともに年代が上がるにつれ、概ね認知度が下がる傾向が見られる。【男女共同参画社会】、【デートDV（交際相手からの暴力）】、【LGBTQ】は、男女ともに20歳代が最も高くなっている。

法律・条令関係は、男女ともに「内容を知っている」は【男女雇用機会均等法】が概ね4割強～5割台半ば、【DV防止法】、【育児・介護休業法】が概ね約4割となっている。（図表6－2）

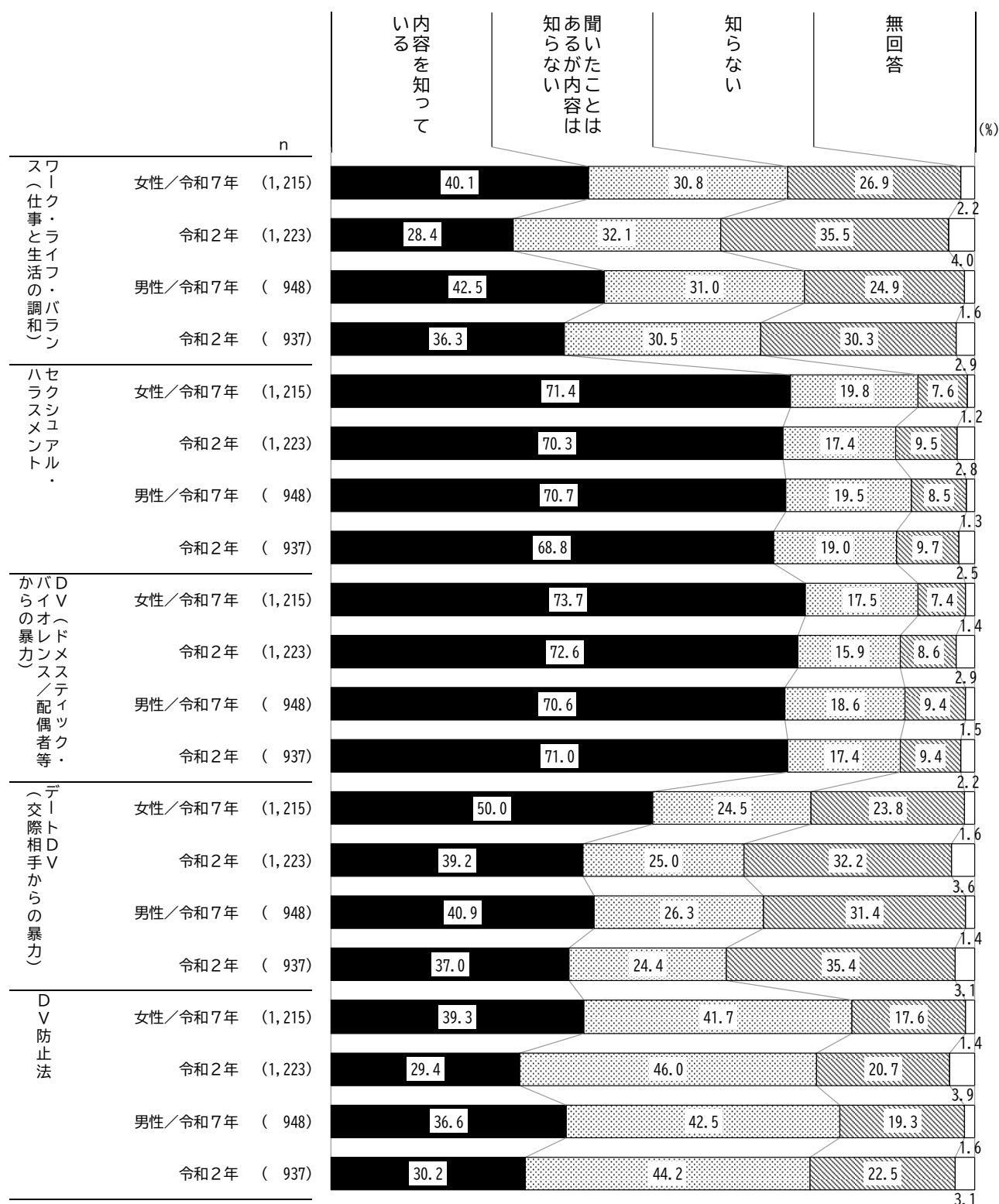
# 第IV章 調査の結果

図表 6－3 男女共同参画に関する言葉の認知度（令和2年度調査との比較）

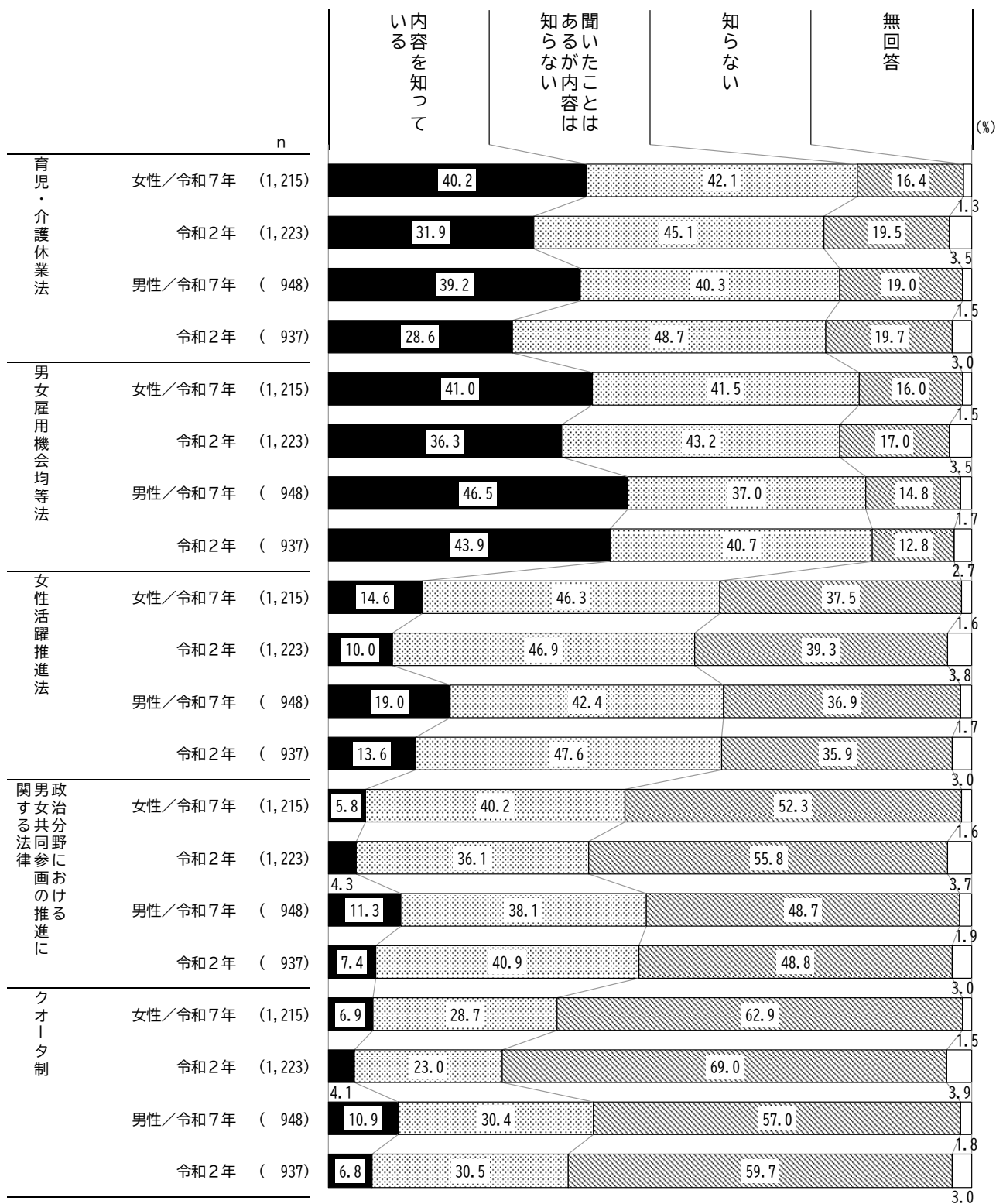


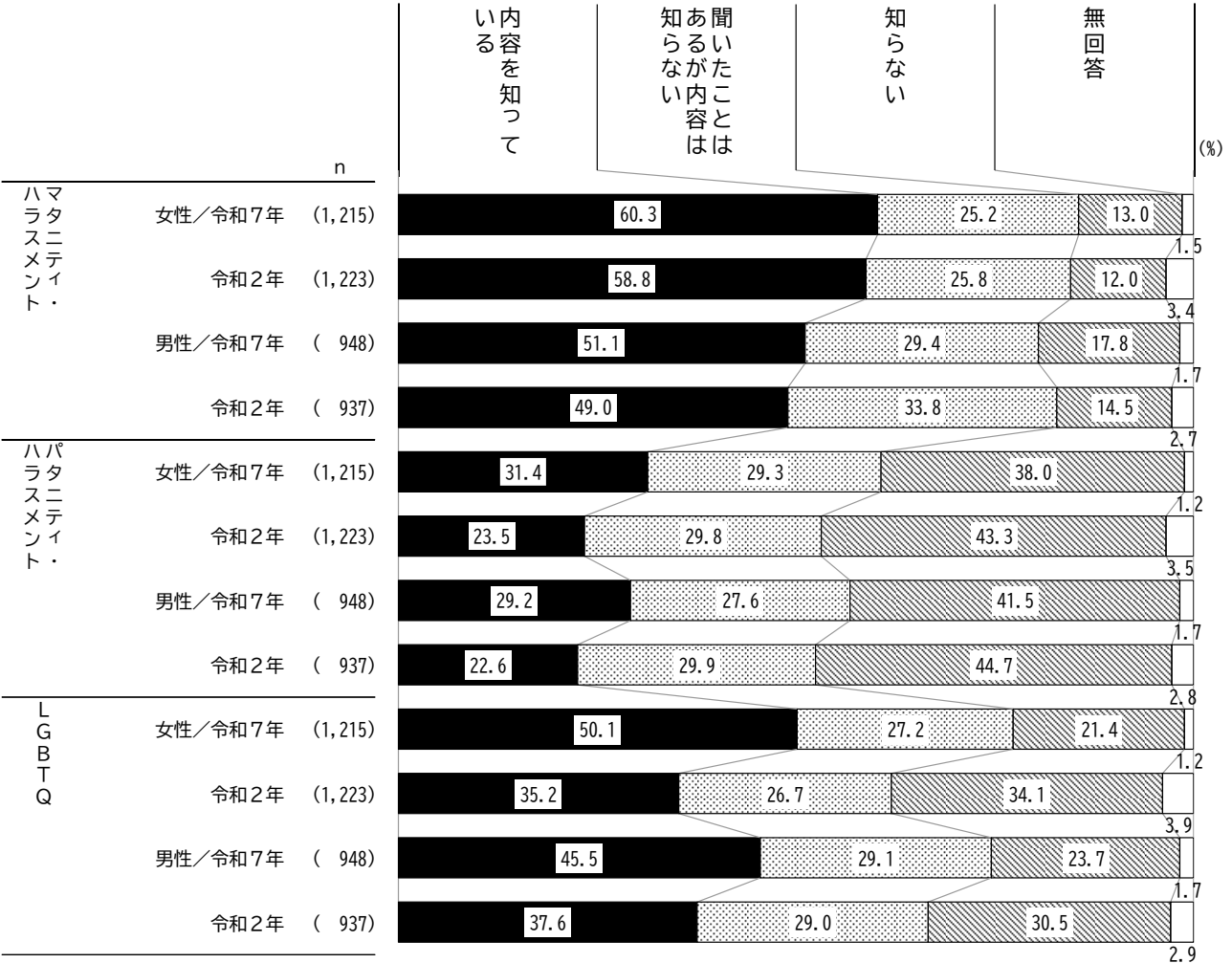


# 第IV章 調査の結果



# 第IV章 調査の結果





令和2年度調査と比較すると、「内容を知っている」では【LGBTQ】は前回に比べ女性で14.9ポイント、男性で7.9ポイント増加している。

【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】は、前回に比べ女性で14.1ポイント、男性で9.1ポイント増加している。

【育児・介護休業法】は、前回に比べ女性で8.3ポイント、男性で10.6ポイント増加している。

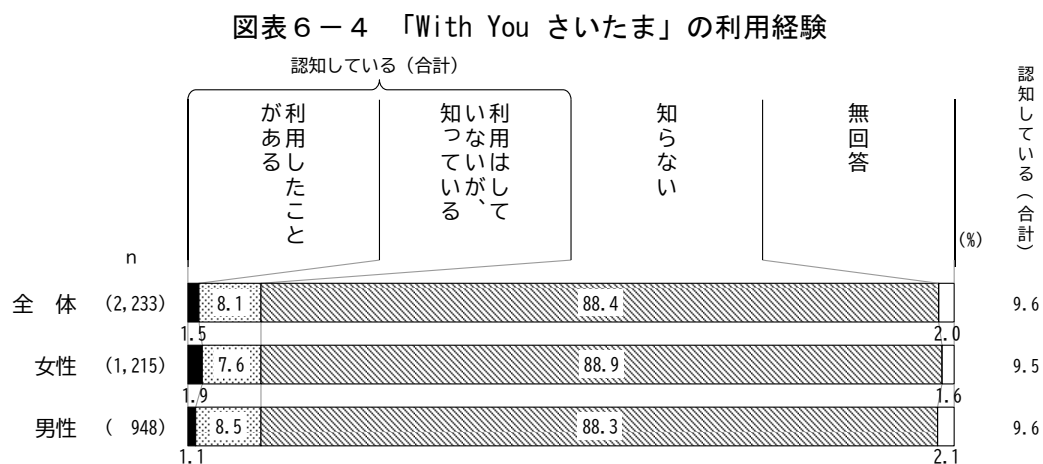
(図表6-3)

## 第IV章 調査の結果

### (2) 「With You さいたま」の利用経験

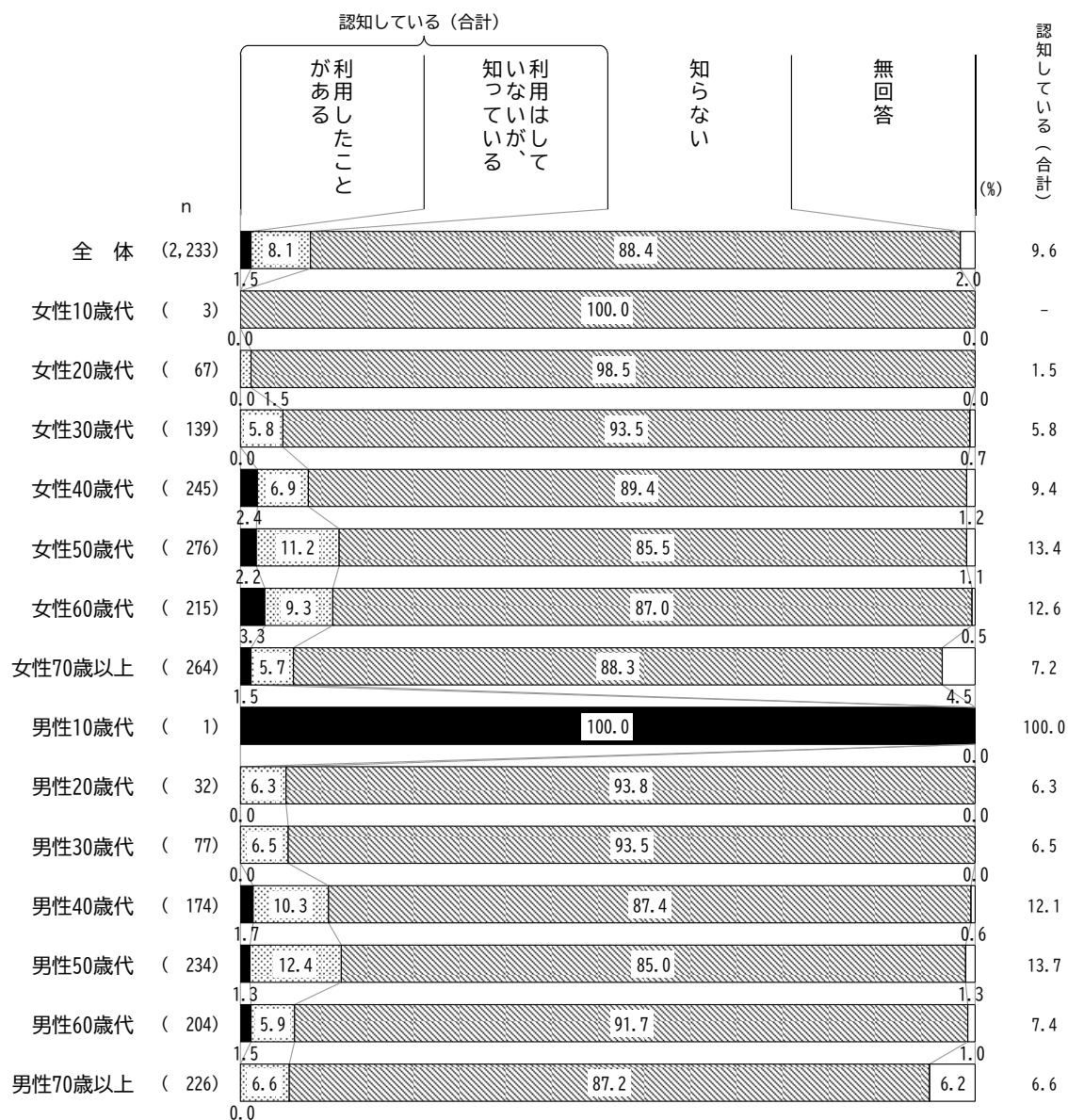
#### ◎ 「With You さいたま」を認知しているのは約1割

**問27** 埼玉県には男女共同参画を推進するための拠点として、さいたま新都心に「埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）」があります。あなたは、この施設を利用したことがありますか。  
(1つだけに○)



埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）の利用経験を聞いたところ、全体でみると「利用したことがある」（1.5％）と「利用はしていないが知っている」（8.1％）を合わせた《認知している（合計）》は、9.6％となっている。（図表6-4）

図表6-5 「With You さいたま」の利用経験（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする

性／年齢別でみると、《認知している（合計）》（「利用したことがある」と「利用はしていないが知っている」の合計）が最も高いのは、男性の50歳代で13.7%となっている。（図表6-5）

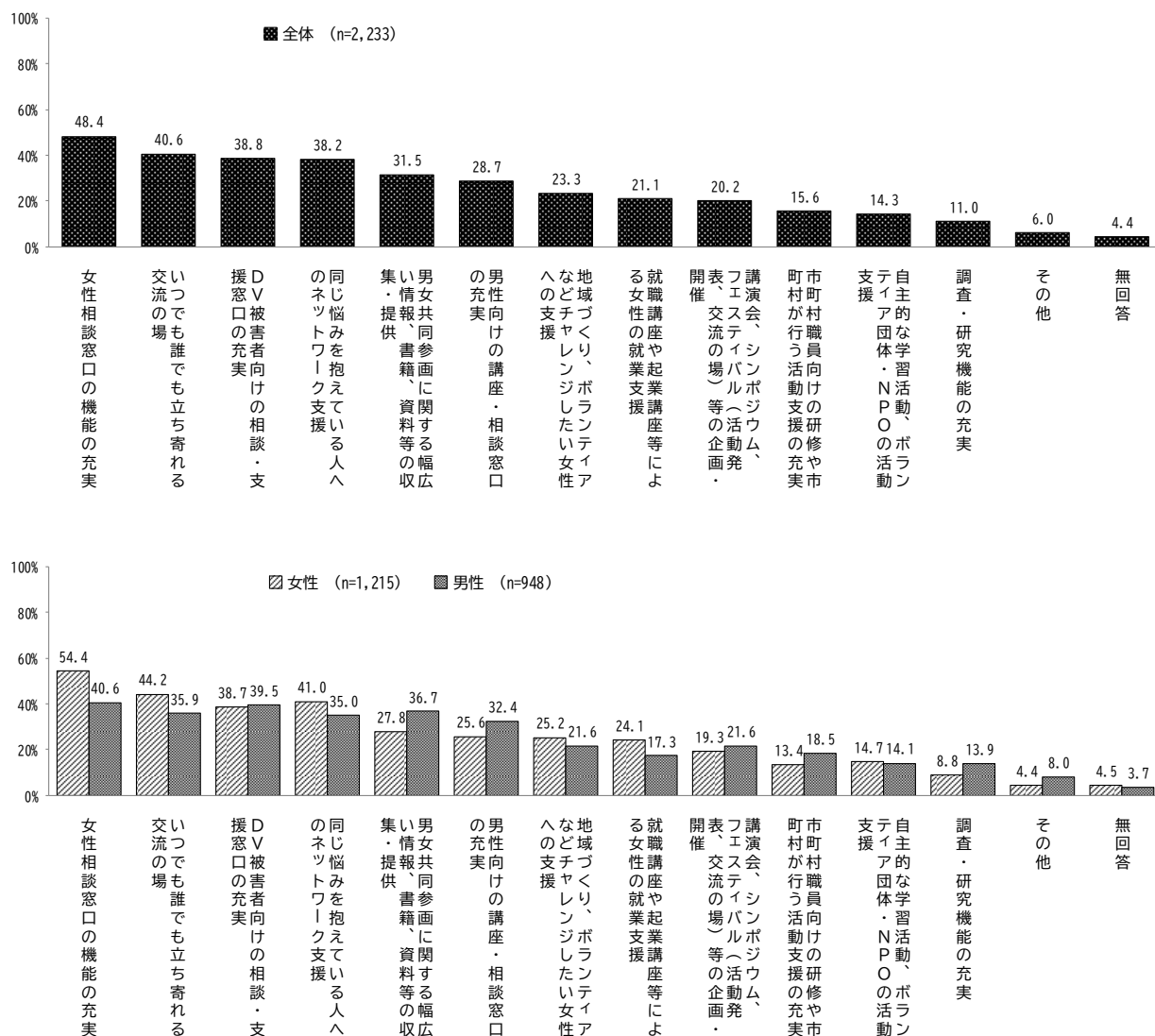
## 第IV章 調査の結果

### (3) 「With You さいたま」に期待すること

#### ◎「女性相談窓口の機能の充実」が最も高く、5割弱となっている

**問28** あなたは、この「With You さいたま」にどのような役割を期待しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

図表6-6 「With You さいたま」に期待すること

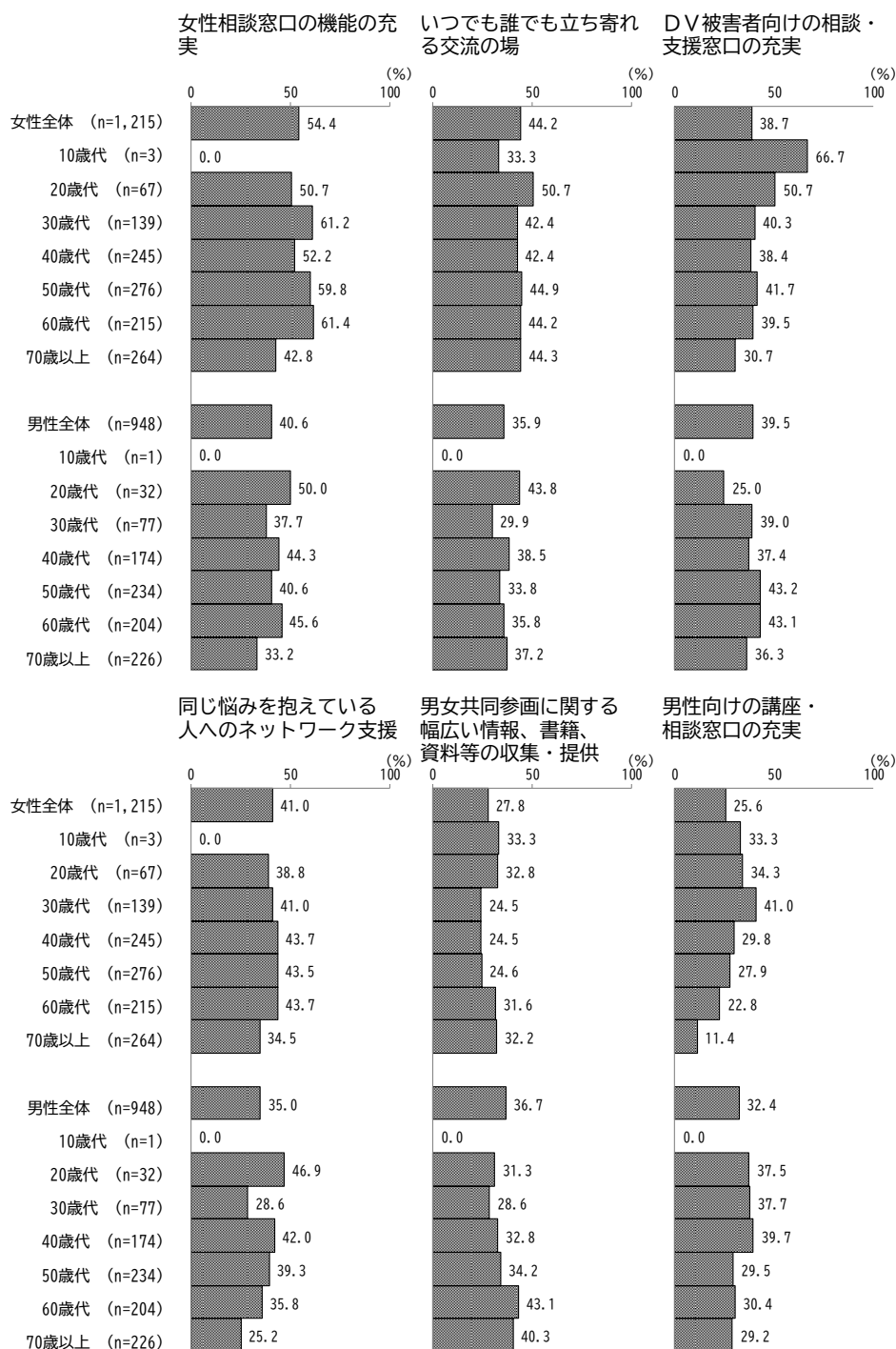


「With You さいたま」に期待することを、全体でみると「女性相談窓口の機能の充実」が48.4%で最も高く、次いで「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」(40.6%)、「DV被害者向けの相談・支援窓口の充実」(38.8%)、「同じ悩みを抱えている人へのネットワーク支援」(38.2%)となっている。

性別でみると、「女性相談窓口の機能の充実」は女性(54.4%)、男性(40.6%)と、女性が男性を13.8ポイント上回っている。一方、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」では女性(27.8%)、男性(36.7%)と8.9ポイント、「男性向けの講座・相談窓口の充実」では女性(25.6%)、男性(32.4%)と6.8ポイント、男性が女性を上回っている。(図表6-6)

## 第IV章 調査の結果

図表 6－7 「With You さいたま」に期待すること（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「女性相談窓口の機能の充実」が女性の30歳代と60歳代で6割強と高く、次いで50歳代が約6割となっている。「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」は、女性の20歳代で5割を超え、男性20歳代で4割強となっている。「DV被害者向けの相談・支援窓口の充実」では、女性20歳代で5割を超え、男性では50歳代～60歳代で4割強となっている。（図表 6－7）

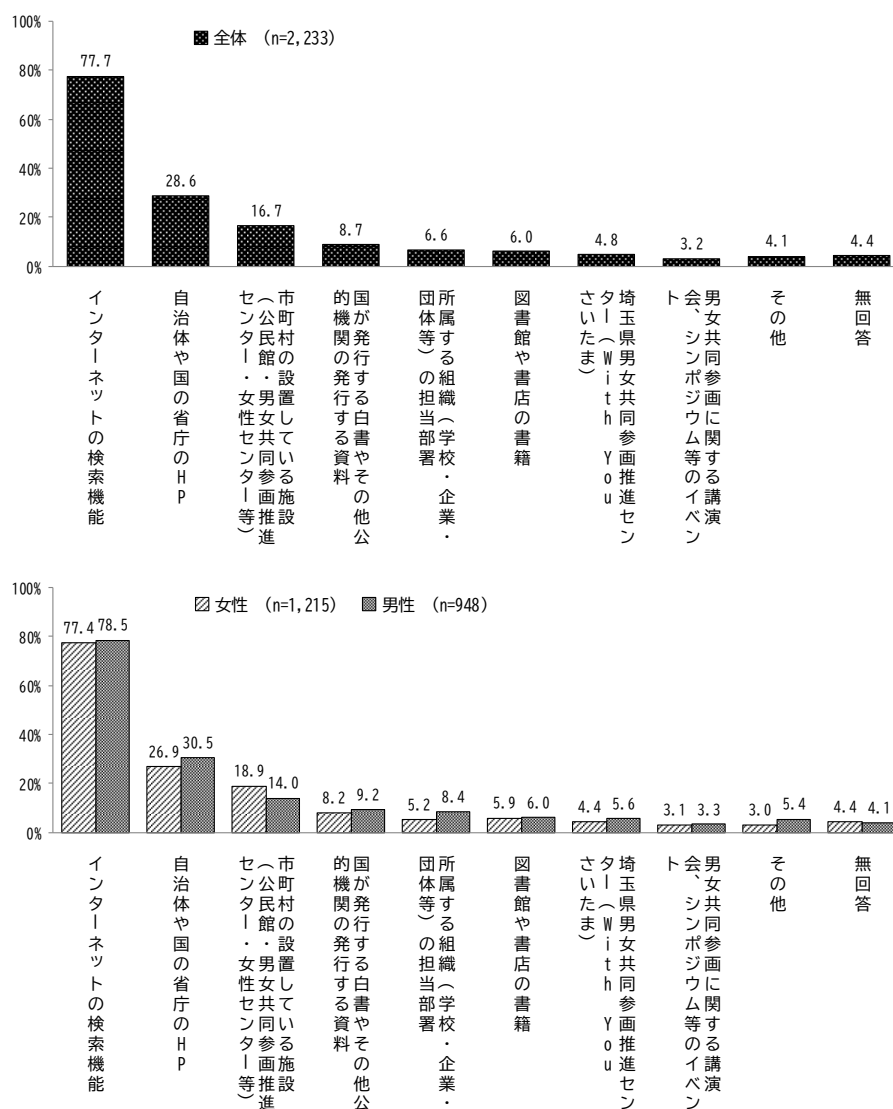


## (4) 男女共同参画に関する情報の入手方法

◎「インターネットの検索機能」が最も高く7割台半ばを超え、次いで「自治体や国の省庁のHP」が3割弱となっている

問29 あなたは、男女共同参画に関する情報を探すとき、どのような方法で手に入れますか。  
(あてはまるものすべてに○)

図表6-8 男女共同参画に関する情報の入手方法



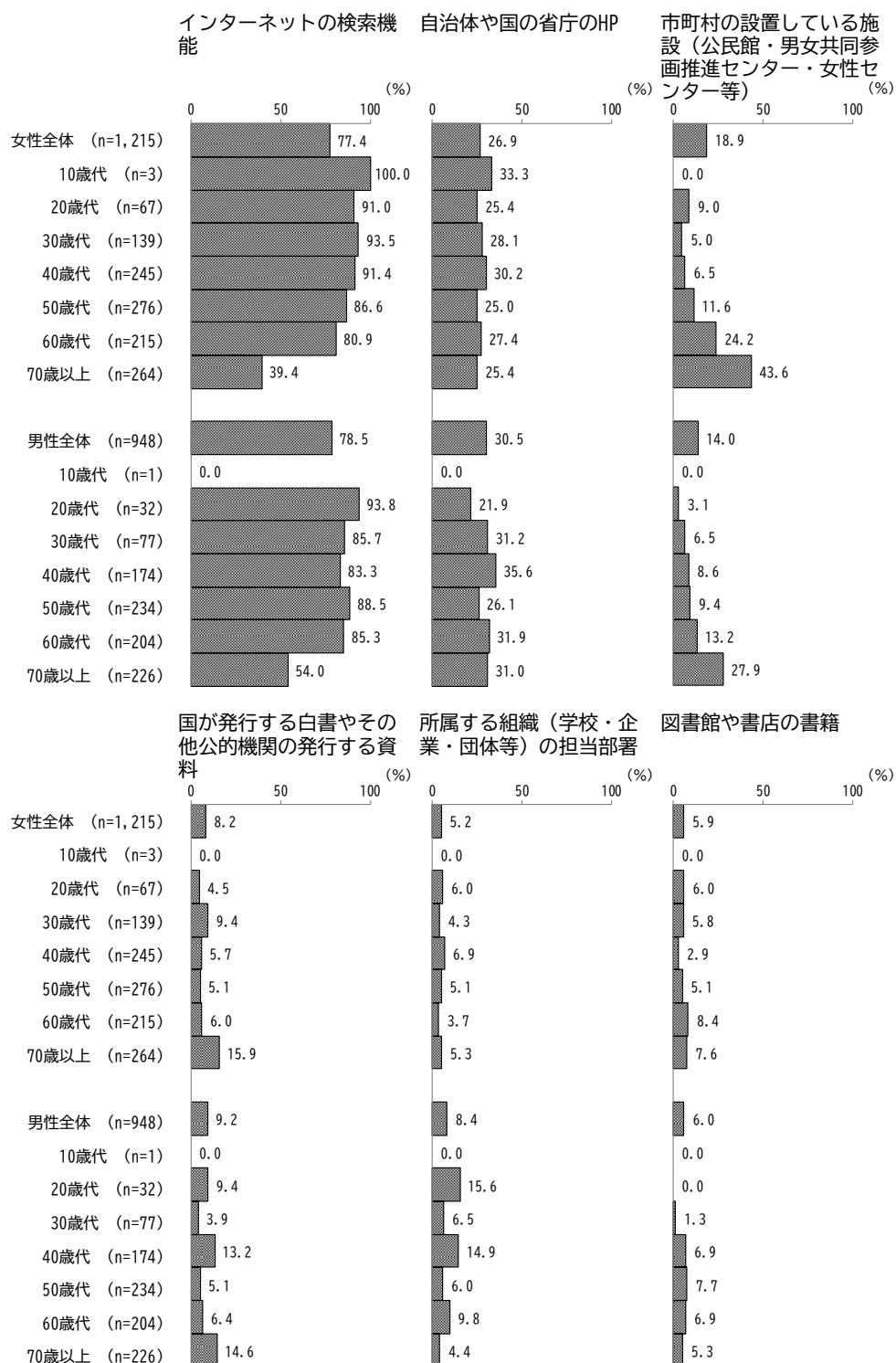
男女共同参画に関する情報の入手方法を、全体でみると「インターネットの検索機能」が77.7%で最も高く、次いで「自治体や国の省庁のHP」(28.6%)、「市町村の設置している施設（公民館・男女共同参画推進センター・女性センター等）」(16.7%)となっている。

性別でみると、「市町村の設置している施設（公民館・男女共同参画推進センター・女性センター等）」は女性(18.9%)、男性(14.0%)と、女性が男性を4.9ポイント上回っている。また「自治体や国の省庁のHP」は女性(26.9%)、男性(30.5%)と、男性が女性を3.6ポイント上回っている。

(図表6-8)

## 第IV章 調査の結果

図表 6－9 男女共同参画に関する情報の入手方法（性／年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

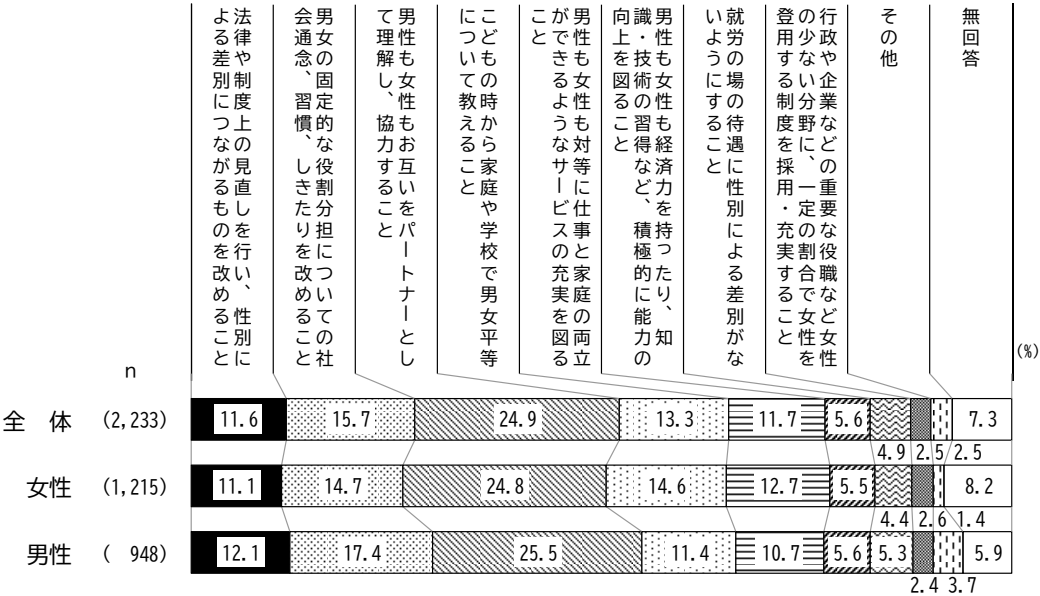
性／年齢別でみると、男女とも20歳代～60歳代では「インターネットの検索機能」がいずれも過半数で8割以上と高くなっている。また、女性の60歳代以上、男性の70歳代以上では「市町村の設置している施設（公民館・男女共同参画推進センター・女性センター等）」が他の年代と比べて高くなっている。（図表 6－9）

(5) 男女共同参画社会実現のために必要なこと

◎「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること」が最も高く、2割台半ばとなっている

問30 今後、男性も女性も、ともに社会のあらゆる分野にバランス良く積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(1つだけに○)

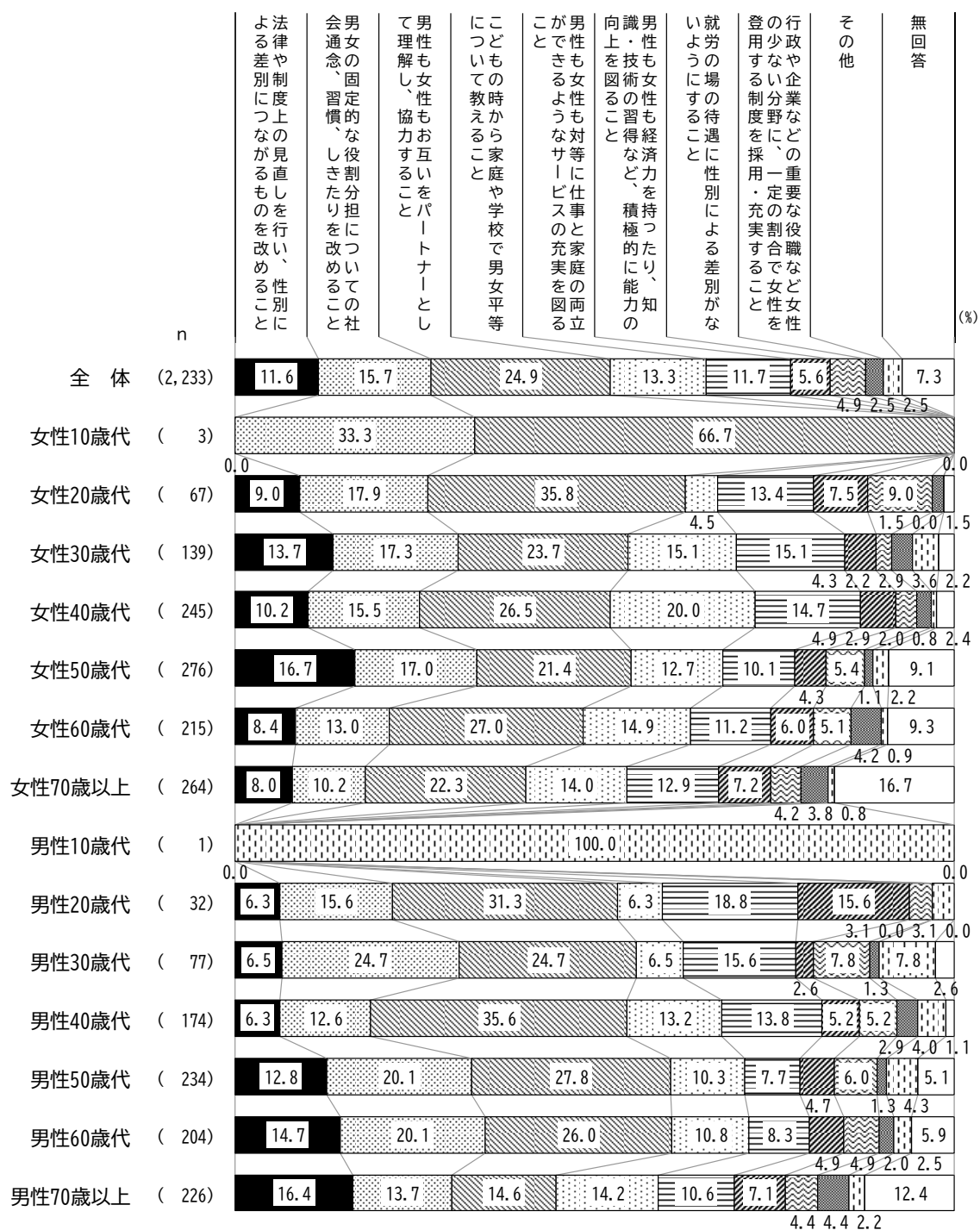
図表6-10 男女共同参画社会実現のために必要なこと



社会のあらゆる分野で、男女がバランスよく積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思うかを聞いたところ、全体でみると「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること」が24.9%で最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」(15.7%)、「こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」(13.3%)となっている。

性別でみると、「こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」が女性(14.6%)、男性(11.4%)と、女性が男性を3.2ポイント上回っている。(図表6-10)

図表 6－11 男女共同参画社会実現のために必要なこと（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別の女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること」が女性のすべての年代と、70歳以上を除く男性のすべての年代で最も高くなっている（男性30歳代は「男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」と同率）。男性70歳以上では「法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること」が最も高くなっている。

(図表 6－11)

図表 6-12 男女共同参画社会実現のために必要なこと（令和2年度調査との比較、上位6項目）

【全体】					
	令和7年 (n=2,233)			令和2年 (n=2,034)	
第1位	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること ↑ (24.9)	←		男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること (24.6)	
第2位	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること ↓ (15.7)	←		男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること (17.6)	
第3位	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること ↑ (13.3)	←		こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること (12.9)	
第4位	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること ↑ (11.7)	←		法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること (12.6)	
第5位	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること ↓ (11.6)	←		男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること (11.2)	
第6位	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること ↓ (5.6)	←		男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること (7.0)	

【女性】					
	令和7年 (n=1,215)			令和2年 (n=1,114)	
第1位	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること ↓ (24.8)	←		男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること (28.3)	
第2位	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること ↓ (14.7)	←		男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること (17.4)	
第3位	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること ↑ (14.6)	←		こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること (13.5)	
第4位	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること ↑ (12.7)	←		男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること (11.8)	
第5位	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること ↑ (11.1)	←		法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること (10.5)	
第6位	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること ↓ (5.5)	←		男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること (7.6)	

【男性】					
	令和7年 (n=948)			令和2年 (n=859)	
第1位	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること ↑ (25.5)	←		男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること (21.5)	
第2位	男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること ↓ (17.4)	←		男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること (19.2)	
第3位	法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること ↓ (12.1)	←		法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること (15.8)	
第4位	こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること ↓ (11.4)	←		こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること (13.0)	
第5位	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること ↓ (10.7)	←		男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること (11.3)	
第6位	男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること ↓ (5.6)	←		男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること (6.6)	

令和2年度調査との比較を順位表（上位6項目）としてみると、全体でみると上位6項目の内容に変動はみられないが、「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること」が第5位から第4位へ順位を上げている。一方、前回第4位の「法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること」は第5位に順位を下げている。

性別でみると、男女ともに前回と上位6項目の順位に変動はみられない。（図表 6-12）

## 7. 困難な問題を抱える女性への支援について

### (1) 「困難女性支援法」の認知度

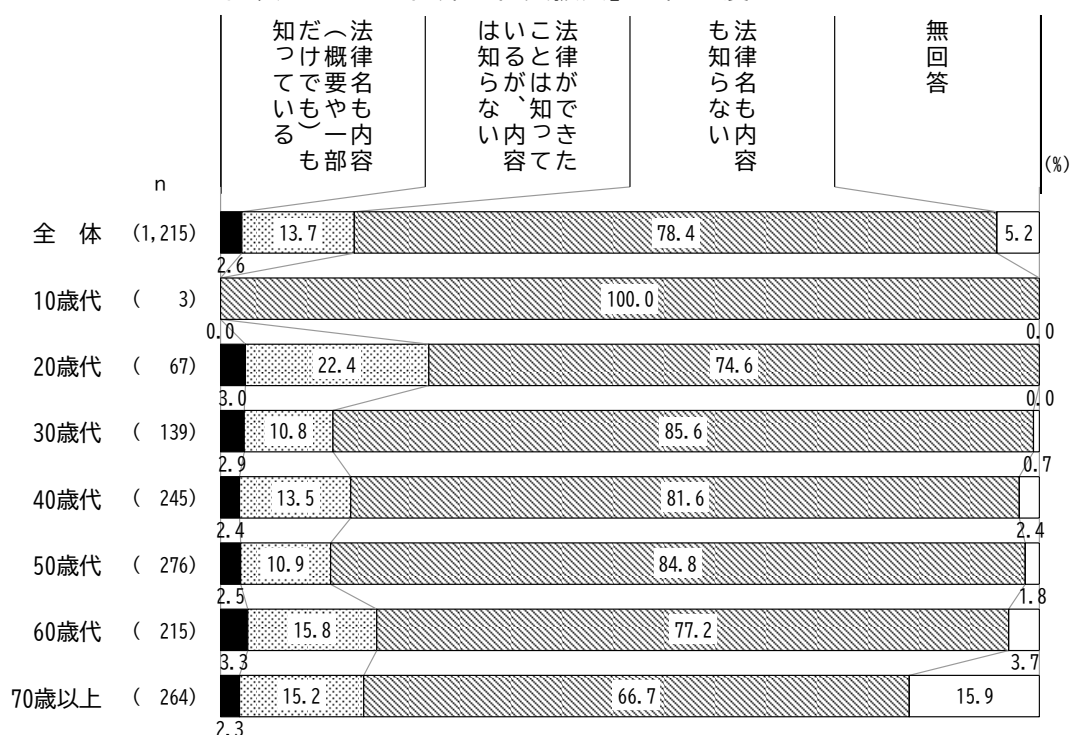
#### ◎「法律名も内容も知らない」が8割弱

##### 新規調査

【女性の方に伺います】（F1で「2 男性」「3 回答しない」と答えた方は問34へ）

問31 あなたは、「女性の福祉」「人権の尊重や擁護」「男女平等」といった視点を明確に規定した、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」（困難女性支援法）を知っていますか。  
（1つだけに○）

図表7-1 「困難女性支援法」の認知度



※基数が不足しているため、10歳代は参考扱いとする。

女性の方に「困難女性支援法」の認知度について聞いたところ、全体でみると「法律名も内容（概要や一部だけでも）も知っている」は2.6%、「法律ができたことは知っているが、内容は知らない」は13.7%、「法律名も内容も知らない」は78.4%となっている。

年齢別でみると、「法律名も内容も知らない」は30歳台（85.6%）、40歳台（81.6%）、50歳台（84.8%）で8割台と高くなっている。（図表7-1）

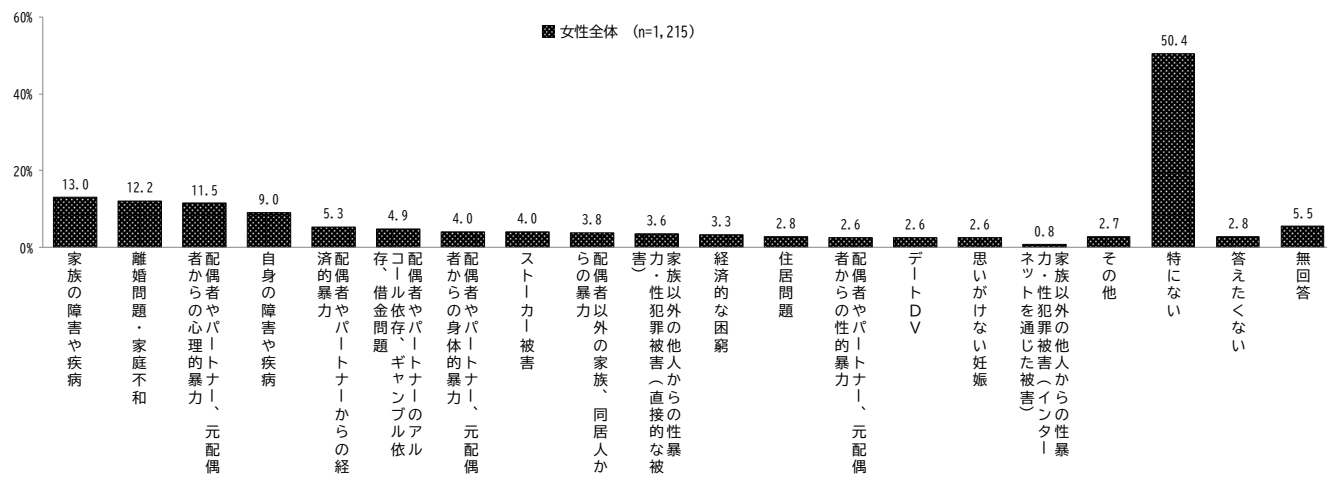
(2) これまでに抱えたことのある悩み

◎「家族の障害や疾病」が最も高く、1割強となっている

新規調査

【女性の方に伺います】（F1で「2 男性」「3 回答しない」と答えた方は問34へ）  
問31-1 あなたがこれまでに抱えたことのある悩みはありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

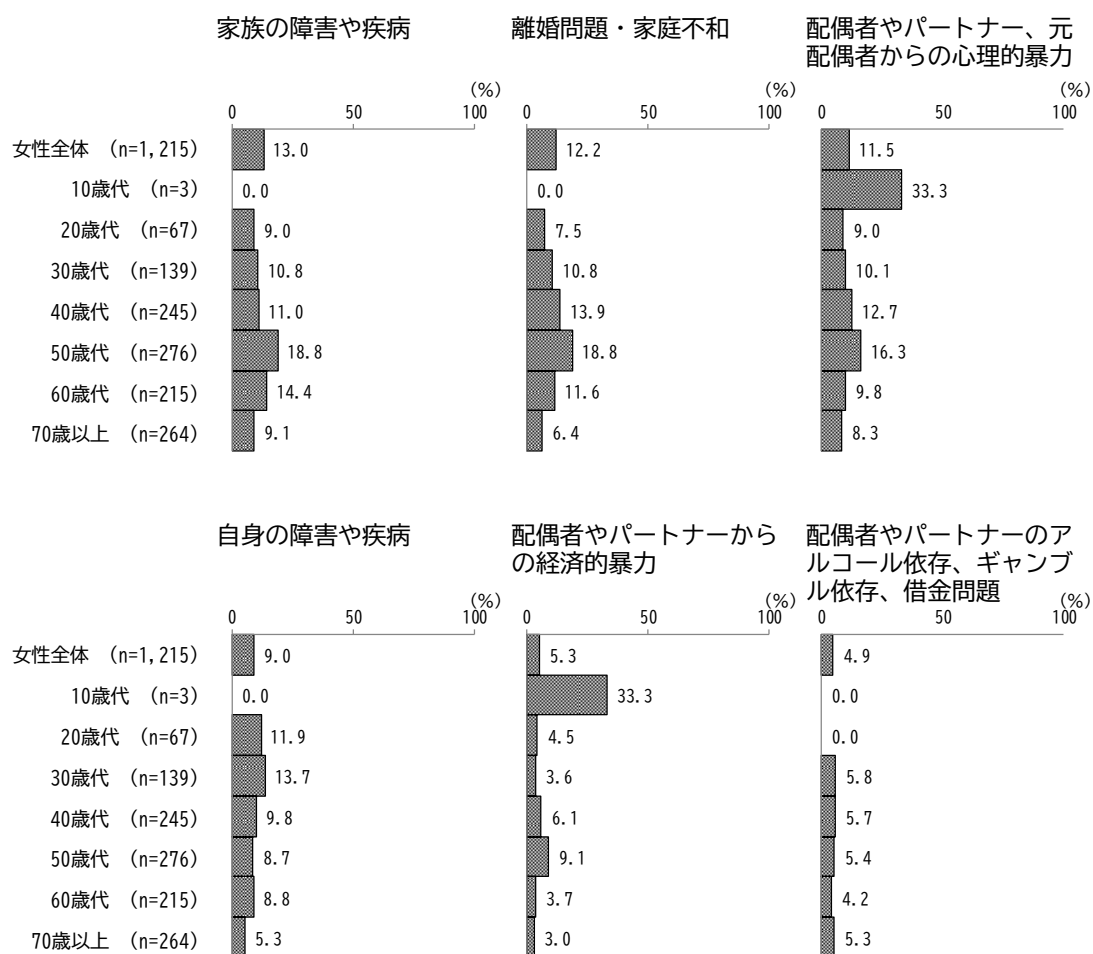
図表7-2 これまでに抱えたことのある悩み



女性の方にこれまでに抱えたことのある悩みについて聞いたところ、全体でみると「特にない」を除くと「家族の障害や疾病」が13.0%で最も高く、次いで「離婚問題・家庭不和」（12.2%）、「配偶者やパートナー、元配偶者からの心理的暴力」（11.5%）となっている。（図表7-2）

#### 第IV章 調査の結果

図表 7－3 これまでに抱えたことのある悩み（年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、10歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、50歳代で「家族の障害や疾病」（18.8%）、「離婚問題・家庭不和」（18.8%）、「配偶者やパートナー、元配偶者からの心理的暴力」（16.3%）がそれぞれ最も高くなっている。

（図表 7－3）



## (3) 悩みの相談相手

◎「家族」が最も高く、4割台半ばとなっている

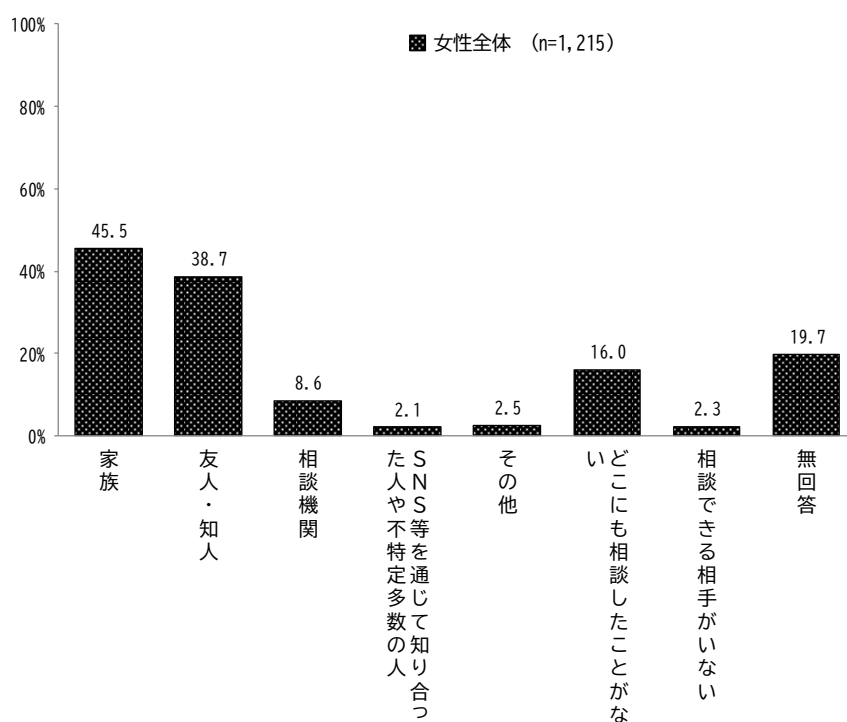
**新規調査**

【女性の方に伺います】(F1で「2 男性」「3 回答しない」と答えた方は問34へ)

問31-2 悩みがある場合、相談したことがあれば相手を教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

図表7-4 悩みの相談相手

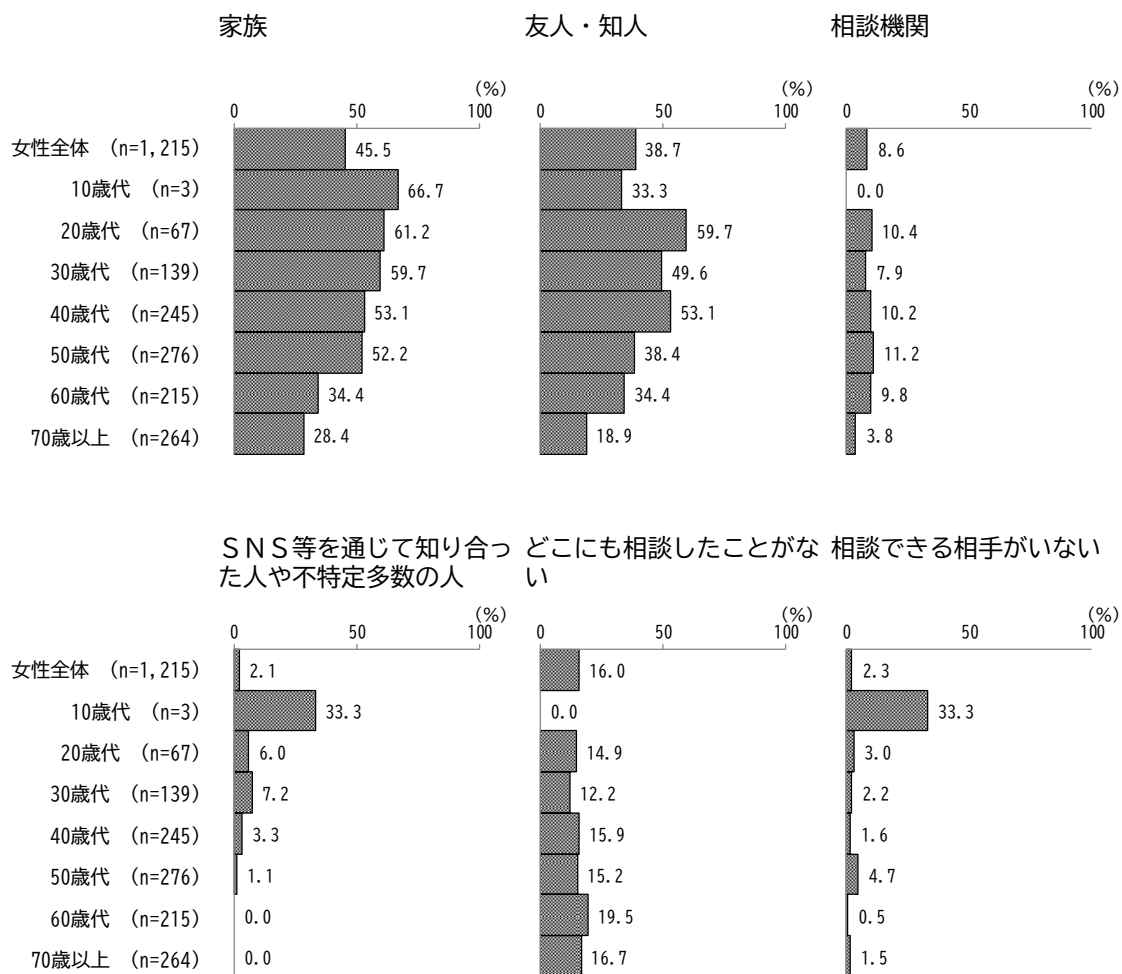


女性の方に悩みの相談相手について聞いたところ、全体でみると「家族」が45.5%で最も高く、次いで「友人・知人」が38.7%となっている。

一方、「どこにも相談したことがない」は16.0%、「相談できる相手がいない」は2.3%となっている。(図表7-4)

## 第IV章 調査の結果

図表 7－5 悩みの相談相手（年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、10歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、「家族」は20歳代の61.2%で最も高く、年代が上がるにつれて低くなっている。「友人・知人」も概ね年代が上がるにつれて低くなっており、70歳以上では18.9%となっている。

(図表 7－5)

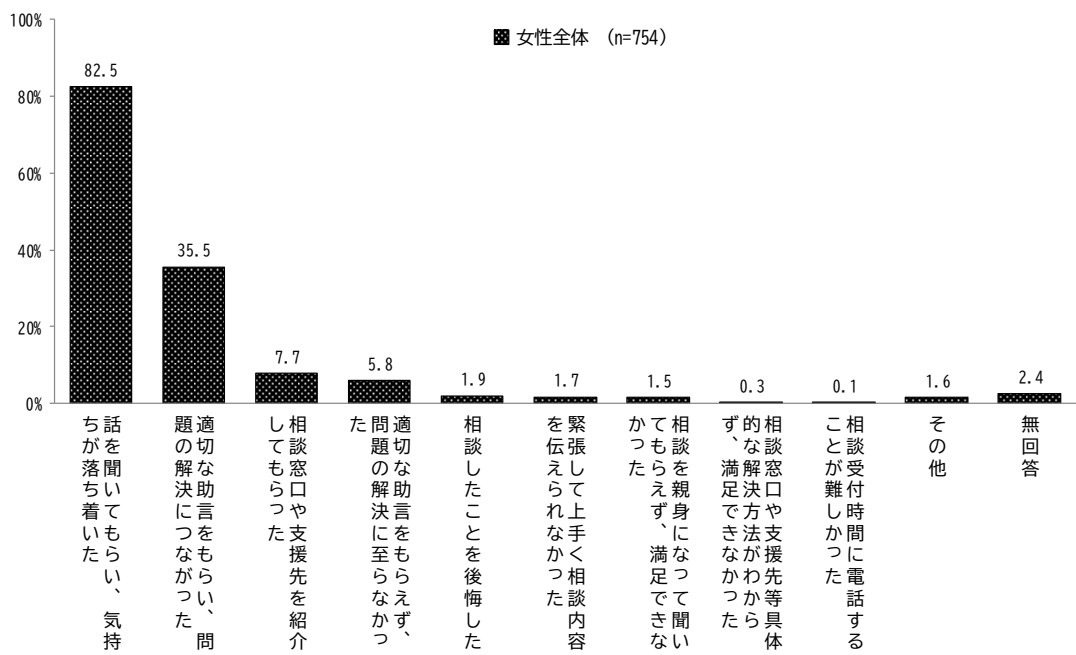
(4) 悩みを相談した結果

◎「話を聞いてもらい、気持ちが落ち着いた」が最も高く 8 割強となっている

新規調査

【問3 1-2で、「1」～「5」のいずれかを回答した（相談したことがある）方に】  
問3 1-3 相談したことがある場合、その結果はどうでしたか。  
(あてはまるものすべてに○)

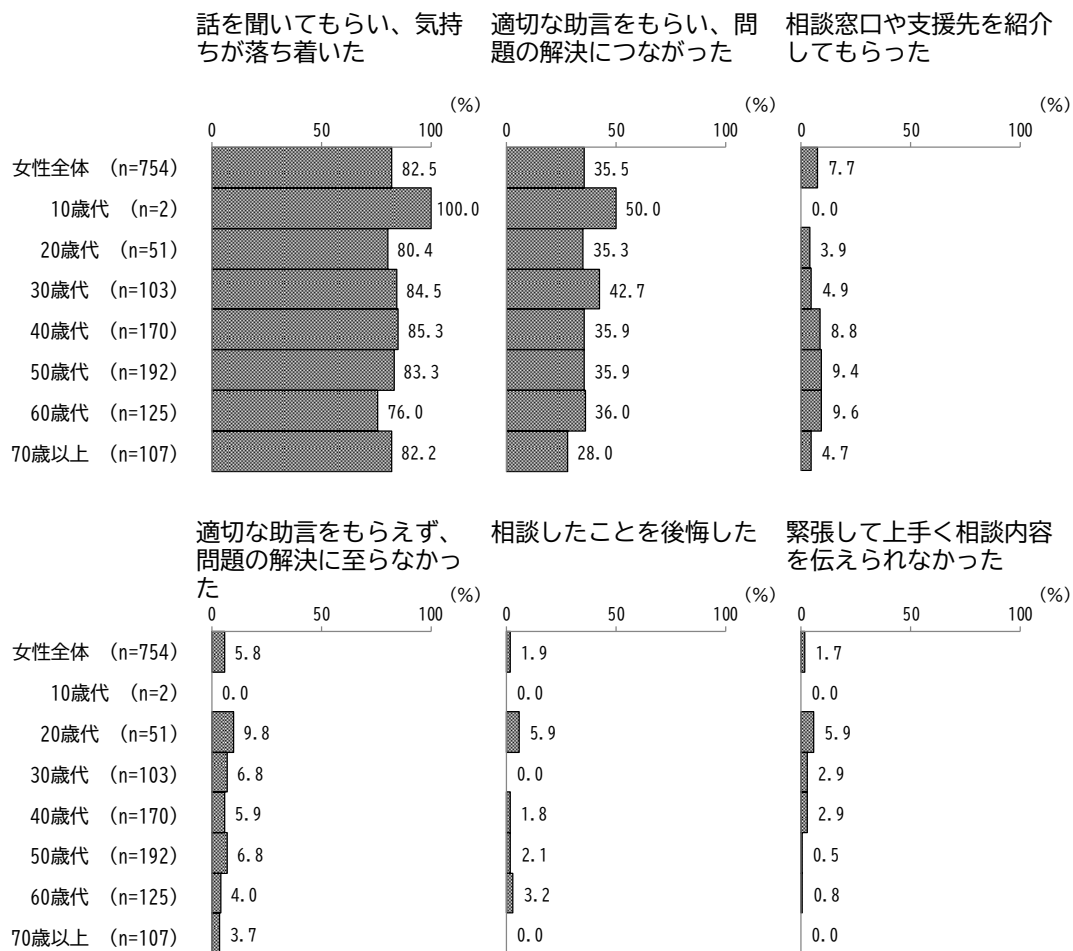
図表 7－6 悩みを相談した結果



悩みを相談したことがある女性に相談した結果について聞いたところ、全体でみると「話を聞いてもらい、気持ちが落ち着いた」が82.5%で最も高く、次いで「適切な助言をもらい、問題の解決につながった」が35.5%となっている。（図表 7－6）

## 第IV章 調査の結果

図表 7－7 悩みを相談した結果（年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、10歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、「話を聞いてもらい、気持ちが落ち着いた」は60歳代を除くすべての年代で8割以上となっている。「適切な助言をもらい、問題の解決につながった」は30歳代で42.7%と最も高くなっている。(図表 7－7)

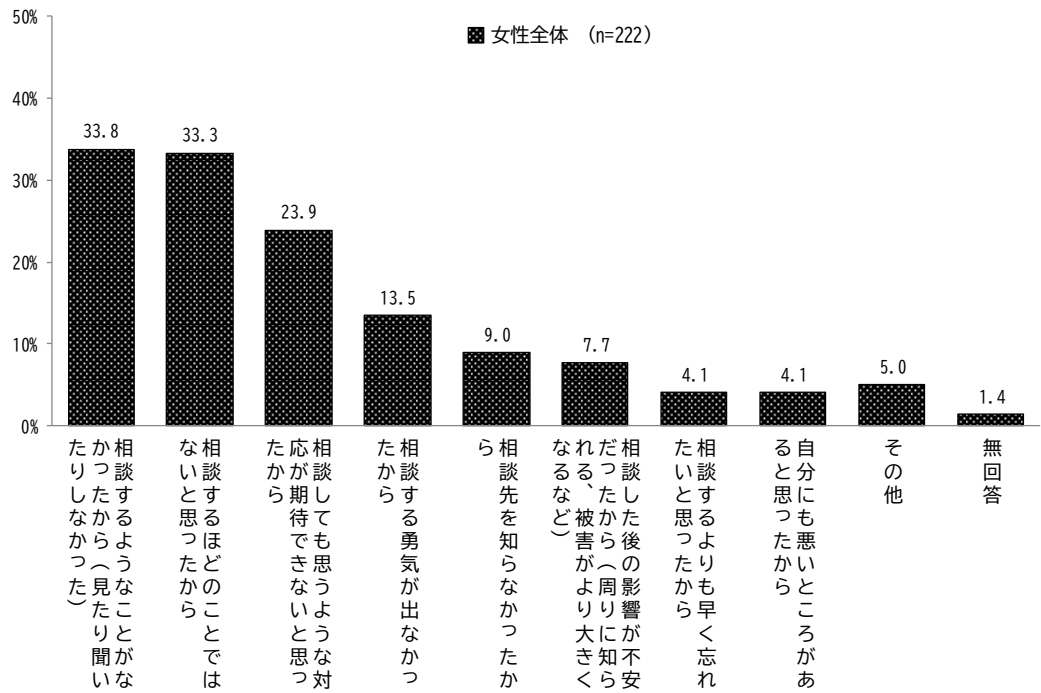
(5) 悩みを相談したことがない理由

◎「相談するようなことがなかったから（見たり聞いたりしなかった）」が最も高く、3割強となっている

新規調査

【問3 1-2で、「6」「7」を回答した（相談したことがない）方に】  
問3 2 相談したことがない場合、その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

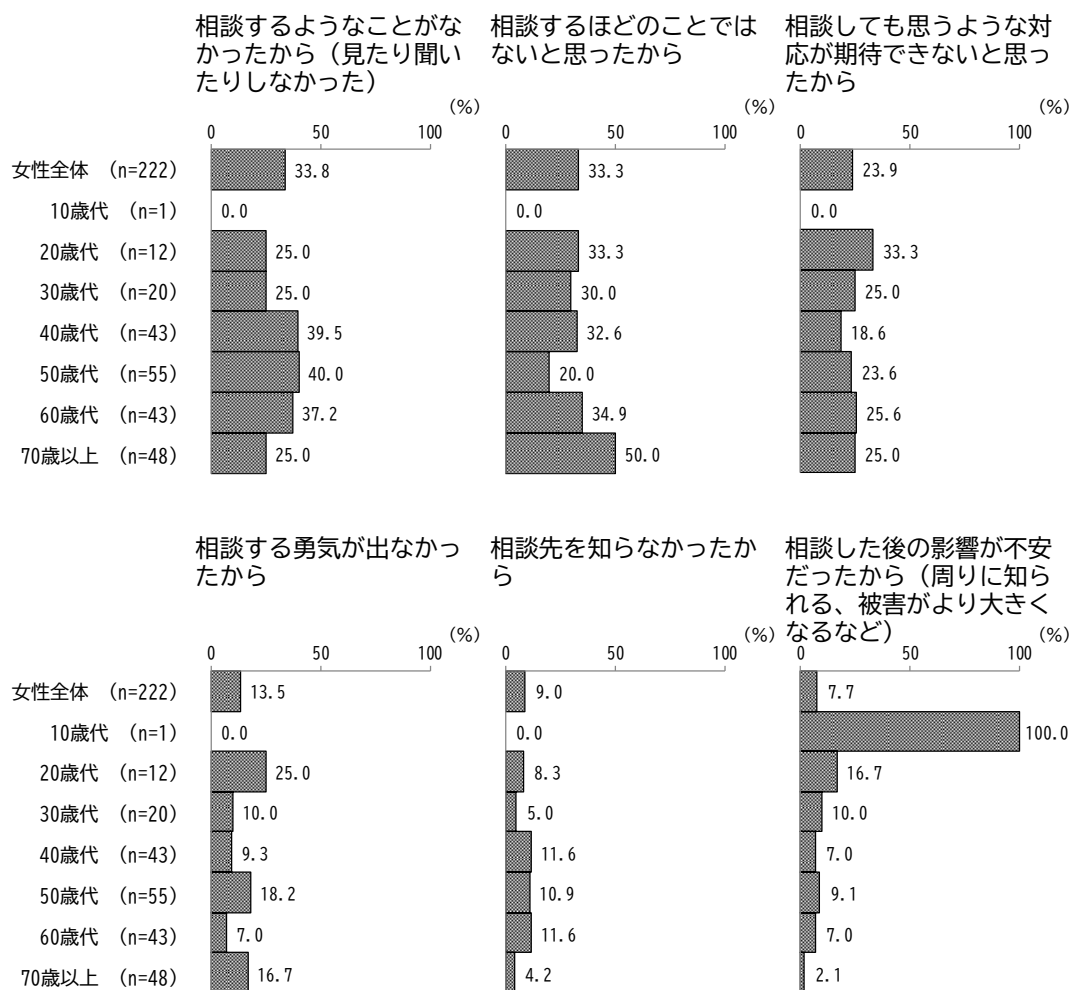
図表 7－8 悩みを相談したことがない理由



悩みを相談したことがない女性にその理由について聞いたところ、全体でみると「相談するようになかったから（見たり聞いたりしなかった）」が33.8%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」（33.3%）、「相談しても思うような対応が期待できないと思ったから」（23.9%）となっている。（図表 7－8）

## 第IV章 調査の結果

図表 7－9 悩みを相談したことがない理由（年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、年齢別の10～30歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は70歳以上が50.0%で最も高くなっている。（図表 7－9）

(6) 悩みを相談したい方法・場所

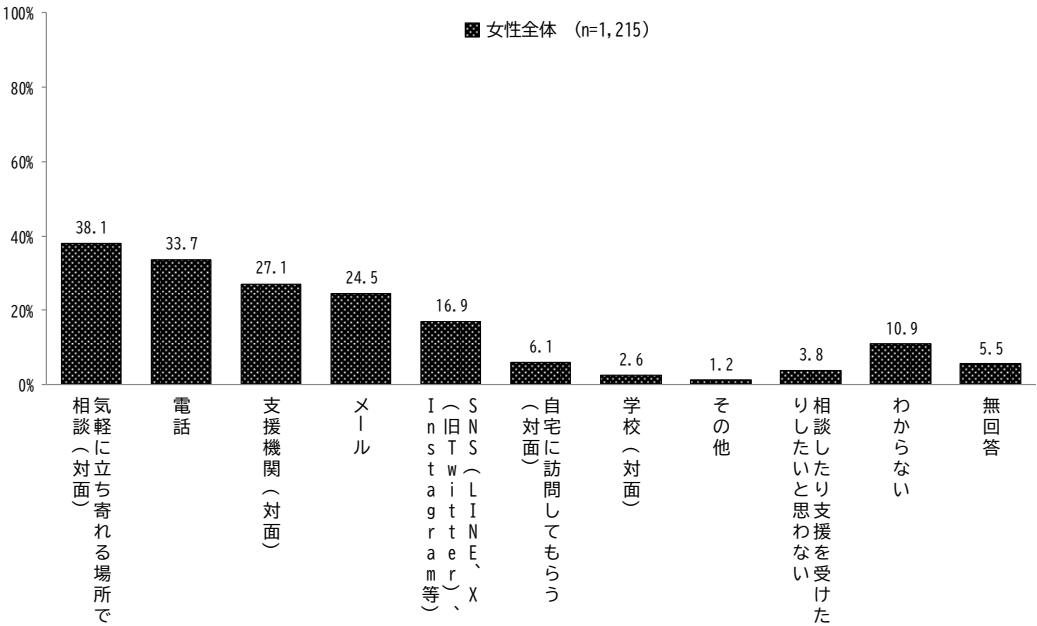
◎「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」が最も高く 4 割弱となっている

新規調査

【女性の方に伺います】

問33 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。  
(あてはまるものすべてに○)

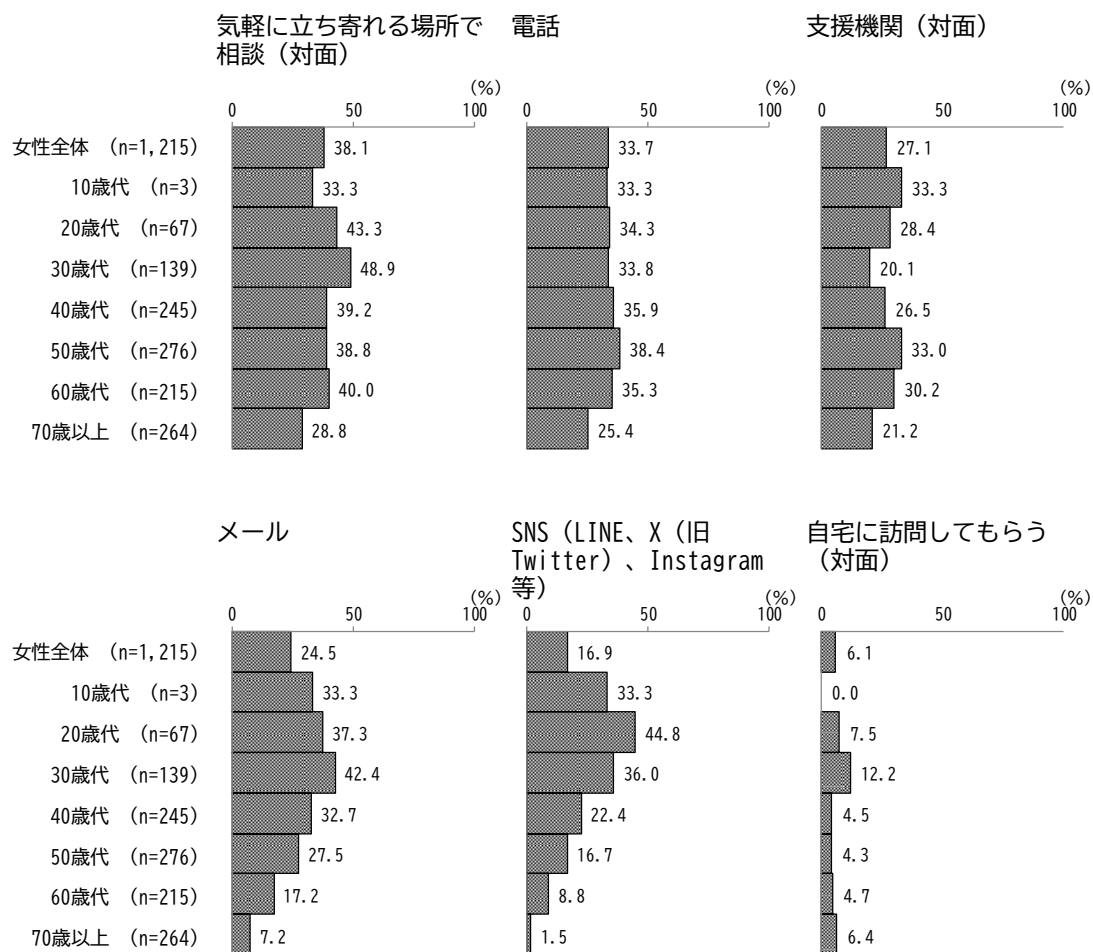
図表 7－10 悩みを相談したい方法・場所



女性の方に悩みを相談したい方法や場所について聞いたところ、全体でみると「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」が38.1%で最も高く、次いで「電話」（33.7%）、「支援機関（対面）」（27.1%）となっている。（図表 7－10）

## 第IV章 調査の結果

図表 7-11 悩みを相談したい方法・場所（年齢別、上位6項目）



※基数が不足しているため、年齢別の女性10歳代は参考扱いとする。

年齢別でみると、「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」は30歳代が48.9%で最も高くなっている。「電話」では50歳代が4割弱、「メール」では30歳代が4割強、「SNS」では20歳代が4割台半ばでそれぞれ最も高くなっている。（図表 7-11）



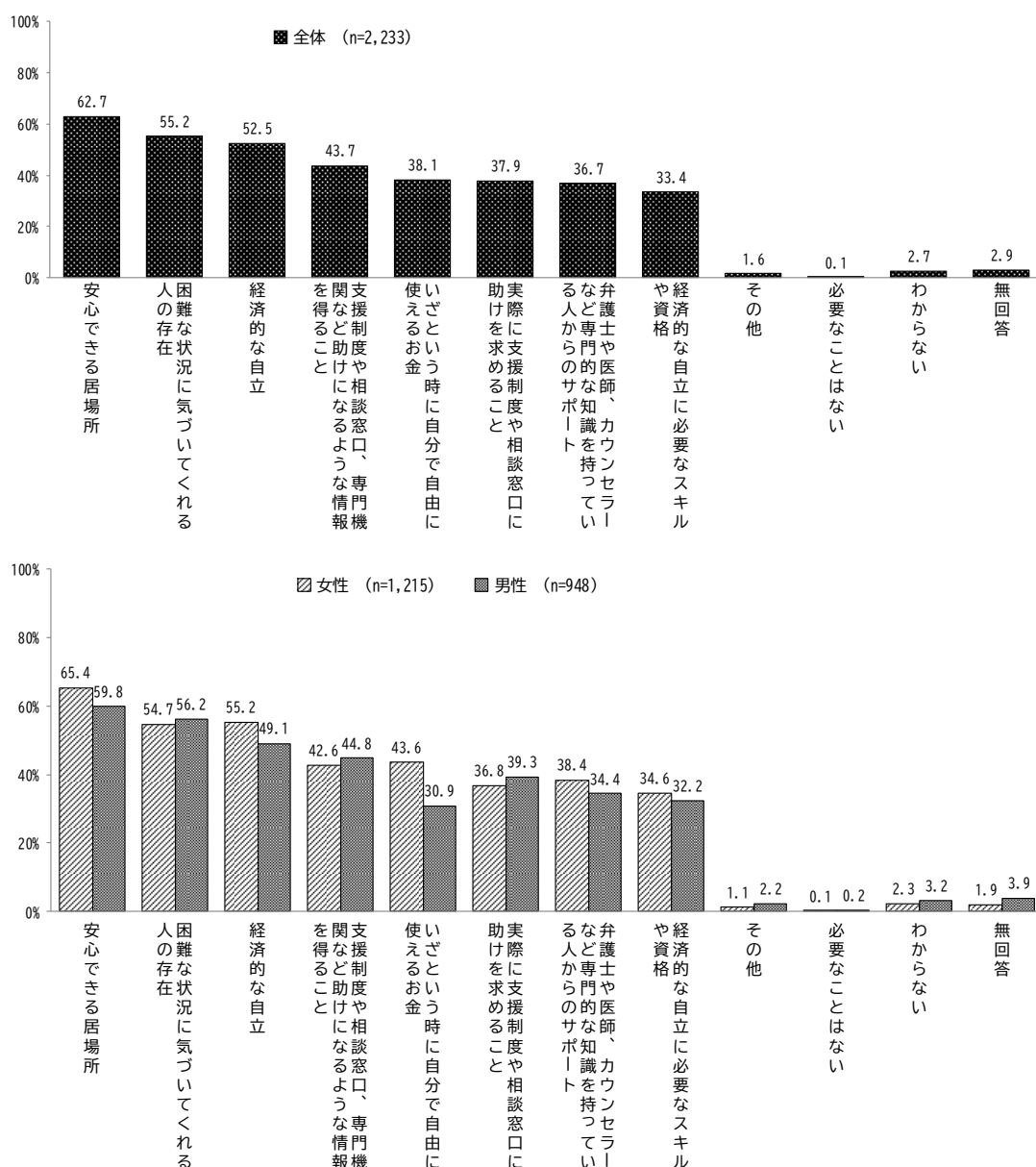
## (7) 女性が困難な状況から回復するために必要なこと

◎「安心できる居場所」が最も高く、6割強となっている

## 新規調査

問34 女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

図表7-12 女性が困難な状況から回復するために必要なこと

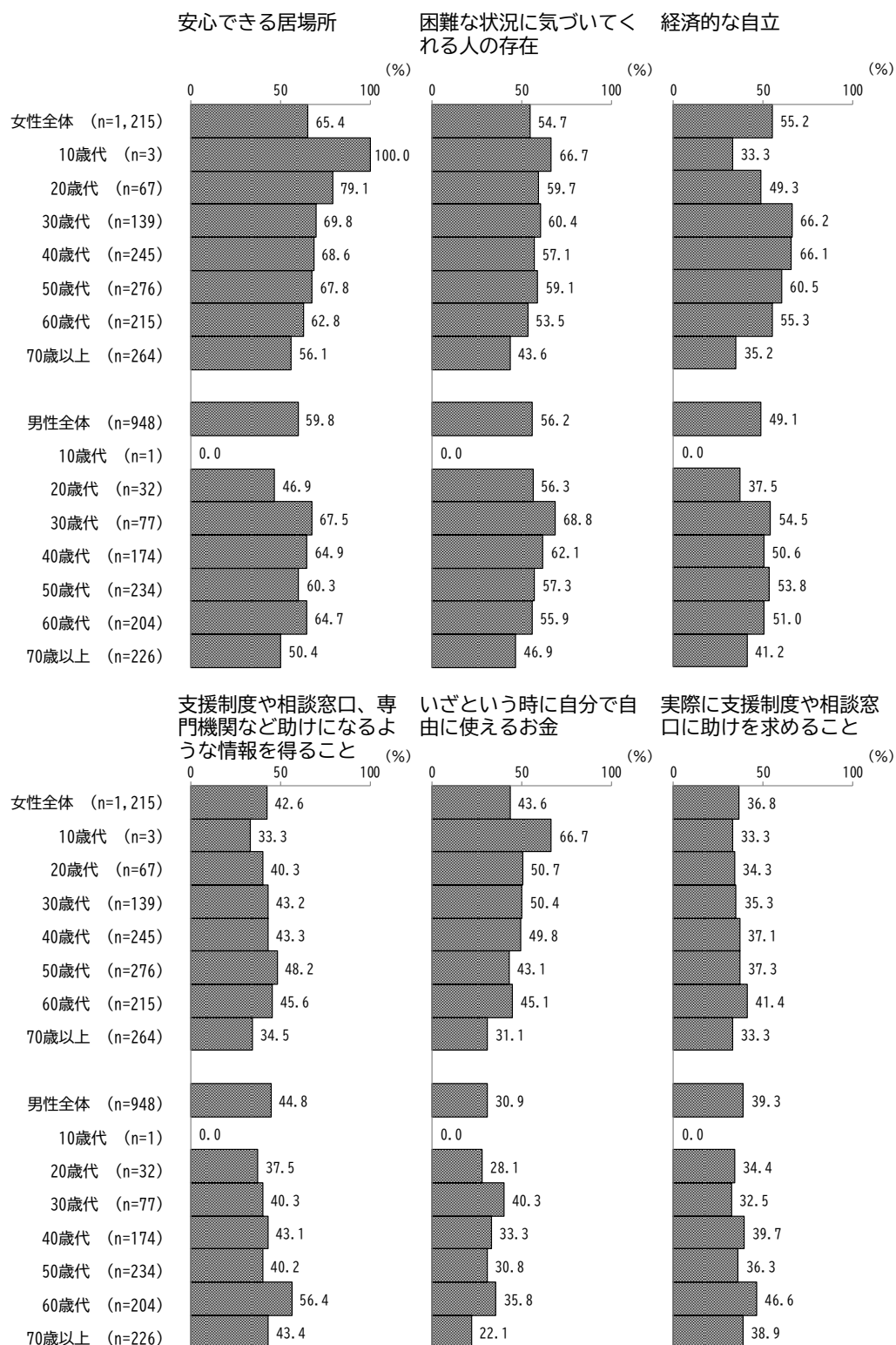


女性が困難な状況から回復するために必要なことについて、全体でみると「安心できる居場所」が62.7%で最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」(55.2%)、「経済的な自立」(52.5%)となっている。

性別でみると、「いざという時に自分で自由に使えるお金」が女性(43.6%)、男性(30.9%)と女性が男性を12.7ポイント上回っている。(図表7-12)

#### 第IV章 調査の結果

図表 7-13 女性が困難な状況から回復するために必要なこと（性／年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「安心できる居場所」は女性では20歳代で約8割であるが、年代が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。男性では30歳代が67.5%で最も高く、60歳代が64.7%で続いている。

(図表 7-13)

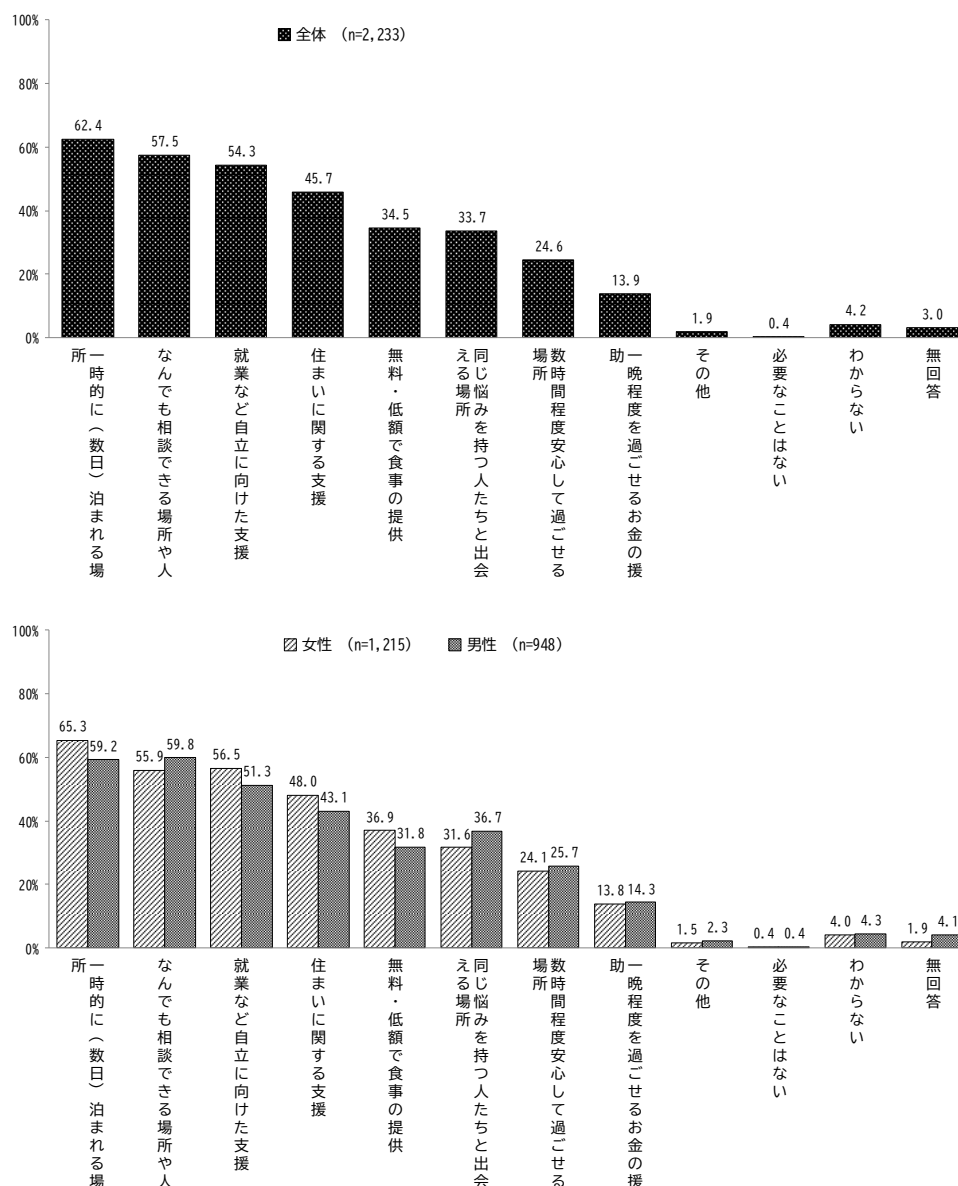
## (8) 家に居場所がない女性に対してあるといいと思うサポート

## ◎「一時的に（数日）泊まれる場所」が最も高く、6割強となっている

## 新規調査

問35 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちに、どんなサポートがあるといいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表7-14 家に居場所がない女性に対してあるといいと思うサポート

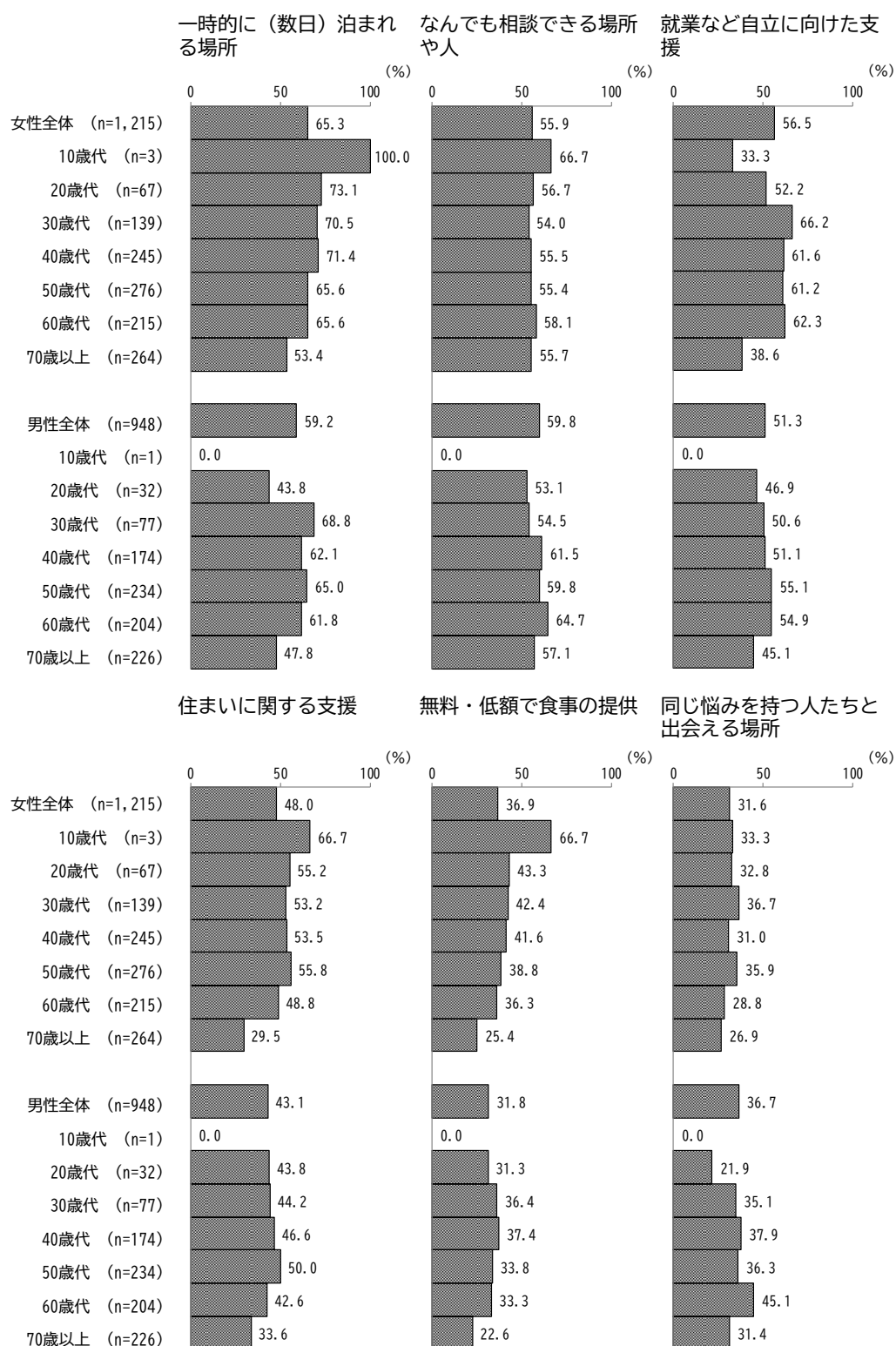


家に居場所がない女性に対してあるといいと思うサポートについて、全体でみると「一時的に（数日）泊まれる場所」が62.4%で最も高く、次いで「なんでも相談できる場所や人」（57.5%）、「就業など自立に向けた支援」（54.3%）となっている。

性別でみると、「一時的に（数日）泊まれる場所」は女性（65.3%）、男性（59.2%）と女性が男性を6.1ポイント上回っている。「同じ悩みを持つ人たちと出会う場所」は男性（36.7%）、女性（31.6%）と男性が女性を5.1ポイント上回っている。（図表7-14）

#### 第IV章 調査の結果

図表 7-15 家に居場所がない女性に対してあるといいと思うサポート（性／年齢別、上位 6 項目）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、「一時的に（数日）泊まれる場所」は女性では20～40歳代で7割以上となっている。「なんでも相談できる場所や人」は男性の60歳代で64.7%と最も高くなっている。（図表 7-15）

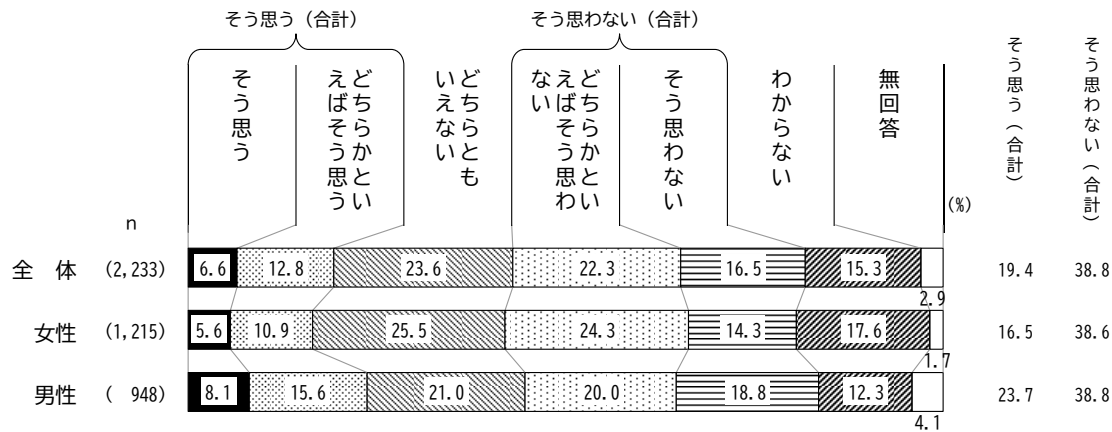
(9) 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているか

◎ 《そう思う（合計）》が約2割、《そう思わない（合計）》は4割弱となっている

新規調査

問36 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できていると思いますか。  
(1つだけに○)

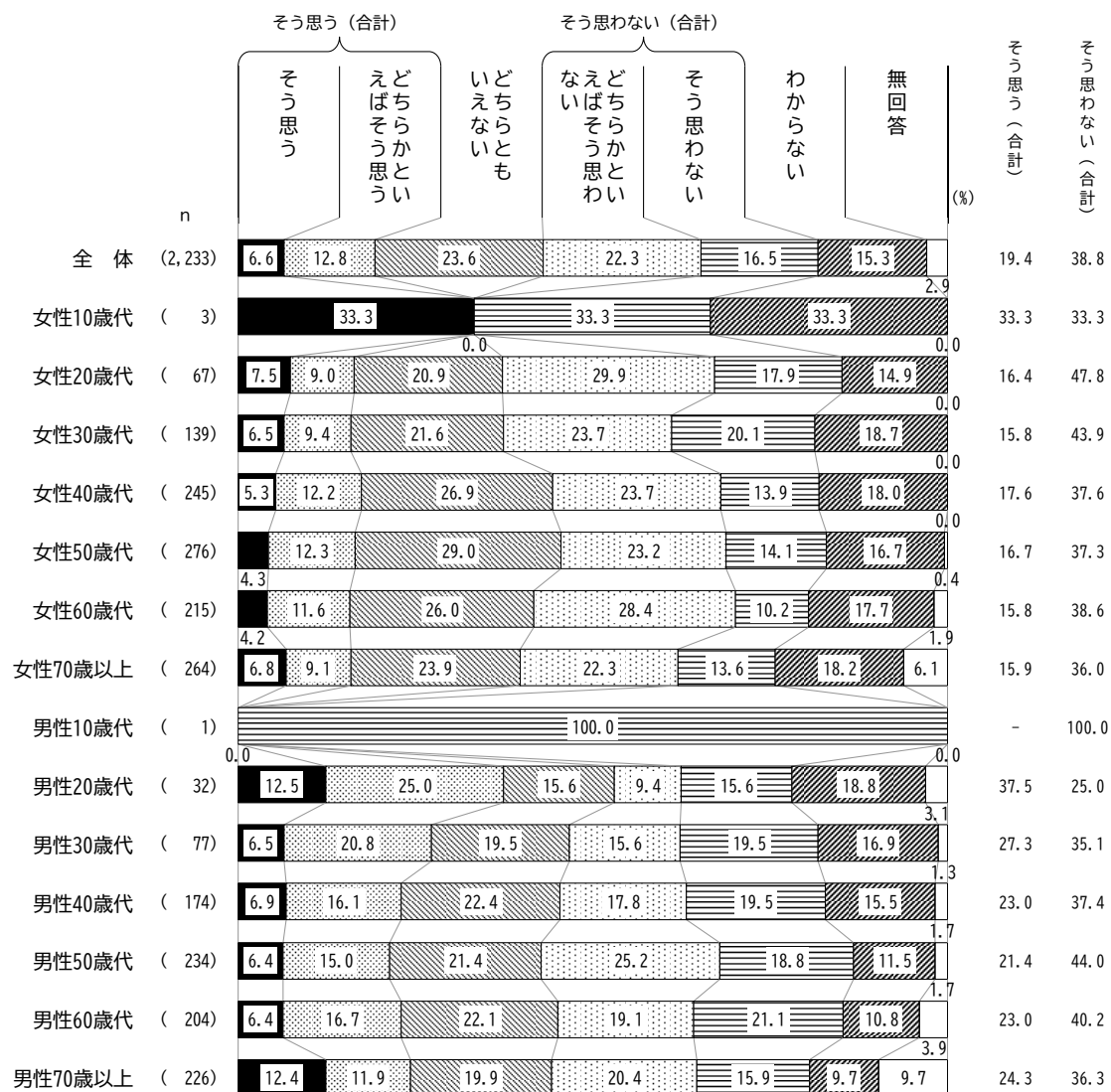
図表7-16 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているか



悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているかについて、全体でみると「そう思う」（6.6%）と「どちらかといえばそう思う」（12.8%）を合わせた《そう思う（合計）》は19.4%、「そう思わない」（16.5%）と「どちらかといえばそう思わない」（22.3%）を合わせた《そう思わない（合計）》は38.8%、「どちらともいえない」は23.6%となっている。

性別でみると、《そう思う（合計）》は女性（16.5%）、男性（23.7%）と、男性が女性を7.2ポイント上回っている。《そう思わない（合計）》は男女間で大きな差異はみられない。（図表7-16）

図表 7-17 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できているか（性／年齢別）



※基数が不足しているため、性／年齢別での女性10歳代、男性10歳代は参考扱いとする。

性／年齢別でみると、《そう思う（合計）》は男性では20歳代で3割台半ばを超えているが、他の年代では3割未満となっている。

《そう思わない（合計）》は女性では20歳代で47.8%と最も高くなっているが、男性では50歳代で44.0%と最も高くなっている。（図表 7-17）

## 第V章 自由回答





最後に、埼玉県男女共同参画の推進に関する施策や男女共同参画社会についてご意見やご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

県の男女共同参画の推進に関する施策や男女共同参画社会についての意見や要望に対して、女性176人、男性165人、回答しない7人、性別無回答4人、合計352人から、404件の回答が寄せられた。

ここでは、意見や要望を内容ごとに分類し、その一部を掲載する。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨が損なわないよう回答を分け、それぞれを1件として分類している。また、掲載については、なるべく多くの方の意見や要望を掲載するため、回答の文中から一部抜粋した場合もある。

### 【男女共同参画について】

◎家庭、職場、地域などの支援や女性の経済的な自立を促す施策は少子高齢化、地域への活性化にも重要なことだと思います。（女性／40歳代）

◎男女平等を考えることは大事だと思いますが、偏った方向で考えたり、思い込みはいけないので慎重に扱う必要があると思います。相談も大事ですが自立して学んで自分で解決できるように強く生きていける教育も必要だと思います。（女性／40歳代）

◎性別に関係なく誰もが自分らしい生き方を選べる社会こそがより豊かで持続可能な未来に繋がると思います。（男性／60歳代）

◎男女平等は必要ではあるが、性別で出来ない事もある為すべてがすべて平等であるべきではないと思う。体格差などで出来ないものもあると思うので何でもかんでも男女平等は難しい。（女性／40歳代）

◎男女共同参画社会の推進には賛同しますが、一方で女性にばかり目が向いてしまい、男性側は「女尊男卑」や「男性の方が肩身が狭い」等声を漏らす時があります。「女性だから」や「男性だから」と多くの方が固定概念がなくなれば自然と平等になるのではないかと思います。（男性／30歳代）

◎日本は男女差別のひどい国だと思います。教育の場でも、女子より成績の悪い男子を優遇したり、職場でも女性には重要な仕事をまかせない。男性中心で物事を決めるから社会全体が歪む。（女性／50歳代）

◎男・女ではなく人間として（社会人として）、どうあるべきか考えてほしい。子供からの教育のあり方を考えてほしい。（女性／70歳以上）

◎社会に出て男性と同じ様に働く女性が増えて良かったと思っています。私の若い頃は女性が働くことについて色々な事を言われ、家事も子育ても全て完璧にしようと頑張りました。今は託児施設、社会の支援も充実し企業の取組や男性も積極的に家事・育児に協力しているようです。男女が協力してより良い関係で成長したいですね。（女性／60歳代）

## 第Ⅴ章 自由回答

- ◎昔の“仕事を120%やる男性”から現代の“仕事も家事も育児も120%求められる男性”に役割が変わってきた。女性を守ろう、女性を優遇しようという動きは否定しないが、その分昔の男性の役割プラス現代の男性の役割とプラスオンな負荷が求められ、子育て世代の男性は社会でも家庭でも大変疲弊している。  
(男性／40歳代)
- ◎クオータ制のような男女を均等に割り当てる政策は止めた方が良いと思う。能力がなくても女性（男性）だから採用みたいなのは本末転倒では？機会を設けることには賛成だがそれぞれ得意分野というものがあるのだから何でもかんでも平等というのはおかしいと感じている。  
(性別回答しない／30歳代)
- ◎“男女共同参画社会”と言いますが、それ自体が不平等を言っている。男性・女性の良い所（長所）を見て、それぞれができることを行えば良いと思います。  
(男性／50歳代)
- ◎男性にも女性にも生物学的な性差が明確にあって、それは尊重されるべきものと考えます。公的なサービスや機会は公平に与えられ、それぞれがそれぞれの理想に向かって努力できるようサポートすることが大事だと思います。  
(女性／30歳代)
- ◎男女の平等で女性が男性と同じ仕事、作業をして男性のレベルに合わせるのではなく、誰もが同等の作業ができるようになる事が本当の平等だと思う。  
(女性／40歳代)
- ◎男性も仕事や家庭で色々悩みを持って暮らしている。会社に行くのがつらくても、妻から暴言や無視が続いても子供のことを考えて離婚せずがんばっている人もいます。女性の意見だけでなく、男性の意見も聞いてより良い社会にしてください。  
(男性／50歳代)
- ◎女性の仕事における社会進出の機会が得られるのは良いことだが、同時にそれまでの家庭での役割もそのままである。“共同”参画なので、男性の家庭での役割の変化、社会のサポート等、これから期待。  
(女性／20歳代)
- ◎男女共同参画と名乗っている割には、男目線での質問が少ないと感じた。  
(男性／20歳代)

### 【子育て・介護について】

- ◎家庭において「手伝う」程度の認識では甘く、家庭での家事育児介護でも、社会での賃金格差でも双方同等であるべき。  
(女性／40歳代)
- ◎現在子供を産むか産まないかを検討する世代ですが、将来への経済的な不安があり踏み切れません。また、体力的に家事育児と仕事の両立に不安があります。すぐ対策をお願いします。  
(女性／20歳代)
- ◎男性が妊娠～子育てについて学ぶ場が必要。夫だけではなく、上に立つ上司や経営者にも学ぶ場が必要。  
(女性／30歳代)

- ◎男性が育休を取得する。取得しやすいだけでなく育休の期間の長短関係なく、その復帰後も嫌な思いをせずに働ける職場環境に大小問わずどんな企業もなって欲しいと思います。（男性／40歳代）
- ◎仕事を続けながら子育てしやすい社会になってきたと感じている。男女ともに在宅介護をしながら仕事や社会参加を続けられる社会も期待します。（女性／40歳代）
- ◎家庭では男性の育児、介護への参加に向け企業への男性の育児休暇、介護休暇を利用者へのインセンティブの導入推進を促してほしいです。（女性／40歳代）
- ◎現在は介護に追われ、パートナーや配偶者を得られる機会に恵まれず当事者として考えられないのが現状。（男性／50歳代）
- ◎男が仕事、女が家庭と分けるのではなく、できる人が仕事をして、もう1人が子育てをしたほうがいいと思う。（女性／40歳代）
- ◎企業にテレワーク、時短をもっと取り入れて欲しい。男性も看護休暇を取得できるようにして欲しい。民間学童が近くに欲しい。フルタイムで働いているが、育児と両立が大変すぎる。（女性／50歳代）
- ◎子供の人生は、母親の接し方がとても重要。それには収入がある程度十分であることと、夫婦間でお互いに思いやりをもって生活できる時間的余裕が必要なので、社会的にこれが満たされることが理想的だと思う。（女性／60歳代）
- ◎女性が男性と同じように働くようになって少子化が進んでいると思います。女性が働いたとしても子供を産み育てられる環境作りを進めなくてはいけないと思います。男女平等は良いですが、子供を産めるのは女性です。（女性／50歳代）
- ◎出産・育児など女性に負担がかかる時がある。その後、職場に戻ることができる流れがまずしっかり確立し、認識を誰でも理解できている社会になることが大切だと思う。（男性／60歳代）
- ◎コロナ・災害等も含むと、自分一人では抱えきれない人が大勢いる。自ら発信できる場が必要だと思います。悩みが小さなうちに国や市に頼る場所・機会が増える社会になる事を切に願います。（女性／50歳代）
- ◎男女関係なく、経済などの問題もあるが、安心してゆったり子育てをできる数年間を持てると良いと思います。（女性／60歳代）
- ◎女性の活躍、地位向上は喜ばしいが、家庭や子育てはもっと大事であり、男女（夫婦）が協力して子育てしやすい、産みやすい社会をつくっていくことが、大変重要である。（男性／50歳代）

【意識改革・啓発について】

- ◎男性だからやって当たり前の風潮もあることを知っておいてほしい。女性ばかりでなく男性への当たり前意識の改革も必要。  
(男性／50歳代)
- ◎今大人になられている女性の方々に目を向けるよりも、子供の頃から男女関係なく教育していく方が絶対に良いと思う。矛先は今より未来である。  
(男性／20歳代)
- ◎こういう活動がある事をどこで知る事が出来るのかわからない。もっと有効的に知らせる方法を考えて欲しい。  
(男性／60歳代)
- ◎実際に働き世代のお父さんお母さん双方からの意見は、普段の生活が忙しすぎて、意見を表明できる場所やチャンスが少ないと思うので、子連れでも参加できるイベントの開催の中で、ついでに意見を聞いていただけるなど、その辺りを考慮した場での意見収集を基にした活動を希望します。  
(女性／60歳代)
- ◎潜在的な意識を変えていくには、教育や周知によって徐々に周囲の人の認識を変えていく必要があると思う。  
(男性／30歳代)
- ◎埼玉県の男女共同参画についてあまり存じてませんでした。苦しい人にこそこのような情報が届いていないように感じます。どうかこの政策・意識が広く周知徹底されるように望みます。  
(女性／60歳代)
- ◎男性の育休というものを広めてほしい。  
(男性／40歳代)
- ◎幅広い年齢層の意識を統一させることは難しいが、理解することを諦めずに老若問わずお互いに歩み寄ろうとする努力をして貰えるような社会になって欲しい。  
(女性／30歳代)
- ◎社会のイメージ、考え方、会社の仕組みなど、女性の社会進出、男性の家庭育児介護があたり前の考え方になるようもっと社会に広まって欲しい。会社も社会も規則や法律をどんどん変えるべきだと思う。  
(女性／40歳代)
- ◎センシティブな問題ではあるが、多様化する時代の流れに沿っていかねばならないと思います。小さなうちからの教育もとても大事なので、学校で学ぶ時間があれば自分自身を守る知識を得る事ができると思います。  
(女性／30歳代)
- ◎虐げられてきた女性は、助けを求めたいと思っていても自分から行動できない事が多い。問34の「求めること」が難しい方も一定数いるということを知って欲しいと思います。モラ発言・行動は自身では気づきにくかったりするので、本人に気づかせる為の何かしらの場があればいいと思います。  
(男性／30歳代)

- ◎これからは、男性と女性が家事・子育て・仕事をわかち合う世の中になって欲しい。ジェンダーレスの考え方が更に普及することを願います。  
(女性／60歳代)
- ◎女性への役割分担への社会通念、習慣、しきたり等が、いまだに各所で存在していると思います。その考え方を徐々に無くしていくのは、埼玉県の方が必要不可欠だと考えます。未来に向けて頑張りたいと思います。  
(男性／40歳代)
- ◎施策があっても認知度がなければ、使われる事もなく意味がありません。まずは県民に対してアピールして本当にこまっている人を助ける施策を願っています。  
(女性／50歳代)
- ◎成人年齢も18才になったので、子供達にももっと早くから広めて、女性として何か悩みを持つ前に、いじめの相談とかと同じように相談できる場所・人・方法をもっと身近に発信して、安心して生活できるようにしてほしい。  
(女性／40歳代)
- ◎ささいな事で悩んでる人でも、本人には大事な事です。そんな人達の小さな声を聞き逃がさない様に行政だけでなく身近な人が支えになってくれる、そのような国になってほしいと願います。  
(男性／50歳代)

### 【社会制度について】

- ◎苦しい状況にある人は、少なからず自分から声をあげることができず一人で悩んでいる状態にあると思います。各自治体側でそういった状態にある人を把握できる仕組みがあれば、声をあげられるきっかけのひとつになると思う。  
(男性／20歳代)
- ◎難しい。重要なのは個々の意識だろうから、行政が一律に介入できることは少ない。唯一可能なのは教育くらいだろう。問題が起きたときの対処だけは何とか対応できるようにしておいてほしい。  
(男性／60歳代)
- ◎出産育児で退職した方が、正社員として再就職しやすい社会になると良いと思います。  
(女性／20歳代)
- ◎男女が様々な場面の意思決定にかかわることこそ良い社会が育まれると思います。(男性／60歳代)
- ◎フルタイムで働き保育や学童時間を延長し、帰宅後や隙間時間で子育てと家事、というタイムスケジュールでは、余裕が無くなりツラくなる。子どもを預けるシステムではなく、働くシステムが変わった方が嬉しい。  
(女性／30歳代)
- ◎これからももっと女性が働きやすい社会になることを期待しています。  
(女性／50歳代)
- ◎子育ては一人では出来ません。親族・近所・友人知人・社会システムなど様々な立場の人がゆるやかにつながって、若い方々を支えていく社会が作れば、女性の社会参画の後押しとなると思います。  
(女性／60歳代)

## 第V章 自由回答

◎DVに関しては、自己肯定感の低い方が多いと思います。そのため、表に出づらい問題なのではないでしょうか。自分からというよりも近所の方などの協力も必要なのではと思います。

(女性／50歳代)

◎企業や行政の女性リーダーは増えてきたように思いますが、地域の自治会などでは女性リーダーの所は少なく、家庭の事情もあるとは思いますが、何となく無意識の“リーダーは男性”という空気があるように思えます。

(女性／50歳代)

◎話を聞いて欲しいと思っている人は少ないと思います。ただみんなが優しく接してくれる世の中になってほしいです。関わる人がもっと優しくしてくれるだけで変わると思います。(女性／20歳代)

◎学校の面談や行事など共働きだと平日に調整が難しいことを学校側も理解が必要。(男性／40歳代)

◎急激に夫婦共働きの家庭が増えた。日本社会の制度が、その変化に付いてきていない。夫婦共働きの世帯に対するキメ細かいサービスが必要に思います。

(男性／40歳代)

◎子どもがいてからの再就職が本当に厳しいです。

(女性／30歳代)

◎夫（パートナー）が育児休業が取得しやすい職場や社会になってほしいと思います。

(女性／30歳代)

◎家族（夫婦）間DVは妻から夫の場合もあります。男性から女性へ、という要素が強いように感じました。女性も男性も、他の性自認の方も、一人の人間として尊重される社会になってほしいと願っています。

(女性／60歳代)

◎色々な施策があることを知った。本当に困っている時は見つける気力もない状態。周囲が気づき声をかけていける社会になることを望みます。

(女性／50歳代)

◎国会議員、地方議員等にもっと女性議員を増やし、女性の意見等を積極的に行政に反映させるべきと思う。

(男性／70歳以上)

◎困難な問題を抱える女性（男性）への支援には貧困のこともあり、就業・社会保障等、住居・金銭などの自立が問題です。身体と精神のゆとりができて、男女共同参画では？

(女性／50歳代)

◎男女の平等やジェンダーの課題はまだまだ沢山ある気がします。誰もが、一人にならずに誰かが見守る事が出来る社会が出来ると良いと思います。時間がかかる事も多いと思いますが、良い対策が出来る事を願っています。優しい社会でありたいものです。

(女性／50歳代)

### 【行政施策への要望について】

◎困っている人を無償で援助するなど、目的を明確にして行動指針とする機関であってほしい。慣習にとらわれず、常にあり方を模索する組織であってほしいです。

(男性／40歳代)

- ◎抽象的になるが、社会全体が、誰に対しても思いやりの気持ちを持てるような、心の豊かさを持つことが大切だと思う。そのための支援、推進に努めていただきたい。（男性／60歳代）
- ◎県庁自身、人員にゆとりが無く育児や介護休暇を取りにくく、定時に帰って子どもの面倒を見られることもできなくなっていないか。まず県庁自身が率先して取り組むべきことがいくつもあるので。（男性／50歳代）
- ◎女性が妊娠して仕事場で働けなくなるのは事実だと思います。それを在宅ワークなどで養う組織、企業がもっと増えた方がいいと思います。出産はとてもおめでたいことなのに、女性がそのことでストレスを抱えてしまうのはおかしいと思います。（男性／20歳代）
- ◎モラハラ等で男性が相談できる窓口も、各地域へ複数設置してほしいです。（男性／40歳代）
- ◎性別に関係なく困っていることや悩んでいることを気軽に相談できるようなサポート体制が必要だと思います。（男性／60歳代）
- ◎支援制度や相談窓口に至れない人を救ってほしい。（女性／40歳代）
- ◎自治体（市町村）と連携を密にして頂くとともに、県としては、市・町・村では上手く回らない部分をサポートできる施策を推進頂くことを期待している。（男性／50歳代）
- ◎アンケートを通じて、自分自身が男女共同参画の推進の内容について、よく分かっていないということが自覚できました。行政が積極的に関わってくると有難いです。（女性／60歳代）





## 第Ⅵ章 調査票



## 男女共同参画に関する意識・実態調査

本県の男女共同参画施策の参考とするため、県内にお住まいの18歳以上の方々の中から、無作為に抽出した5,000人に本調査票をお送りしております。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

- お答えいただいた内容は、行政上の基礎資料として活用することを目的としておりますので、他の目的に利用することはありません。
- この調査では、あなたのお名前やご住所をお答えいただく必要はありません。
- 調査の結果は、統計的に処理し公表いたしますが、お答えいただいた方の個人名や回答内容など、個々のお答えの内容やみなさまの個人情報公表されることはありません。

令和7年9月

### ご記入にあたってのお願い

- ① 回答は郵送又はインターネットホームページからのどちらかをお願いいたします。  
インターネットでの回答については、別紙「インターネットでの回答方法」をご覧ください。  
インターネットでの回答にあたっては、右記のID、パスワードの入力が必要となります。
- ② ご記入は、あて名のご本人をお願いいたします。
- ③ お答えは、1つだけ回答していただくものと、複数（あてはまるものすべて）回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。  
また、○印は、番号を囲むようにつけてください。
- ④ お答えが「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にその内容を具体的に記入してください。
- ⑤ 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。  
ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

（インターネット回答用）

ID :

パスワード :

（回答例）



**9月30日（火）までに投函してください。**

（お名前やご住所の記入は不要です）

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

#### 【 調査の趣旨・内容について／調査実施主体 】

- ・ 埼玉県県民生活部 人権・男女共同参画課 担当：坂本、央戸、平野
- ・ 電話：048-830-2921 又は 048-830-2925（平日 8:30～17:15）

#### 【 調査票の記入方法・締め切りなどについて／調査実施委託会社 】

- ・ 株式会社CCNグループ（東京都千代田区神田鍛冶町 3-7-4）
- ・ 電話：03-4400-4668（平日 9:30～17:30）

## あなたご自身についてお伺いします

**F 1** 差し支えなければ、あなたの性別を教えてください。 (1つだけに○)

1 女性	2 男性	3 回答しない
------	------	---------

**F 2** あなたの年齢をお答えください。 (1つだけに○)

1 18～19歳	6 40～44歳	11 65～69歳
2 20～24歳	7 45～49歳	12 70～74歳
3 25～29歳	8 50～54歳	13 75～79歳
4 30～34歳	9 55～59歳	14 80歳以上
5 35～39歳	10 60～64歳	

**F 3** あなたは就労経験がありますか。 (1つだけに○)

1 ある —————▶ <b>F 3-1 へ</b>	2 ない —————▶ <b>F 4 へ</b>
----------------------------	--------------------------

【F 3で、「1 ある」と回答した方に】

**F 3-1** あなたの現在の職業をお答えください。 (1つだけに○)

1 会社員・団体職員	5 専業主婦・専業主夫
2 自由業・自営業・家業	6 学生
3 パート・アルバイト	7 無職
4 公務員	8 その他 ( )

【すべての方に伺います】

**F 4** あなたには、「配偶者」がいますか (いたことがありますか)。

ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含みます。 (1つだけに○)

1 配偶者がいる —————▶ <b>F 4-1 へ</b>
2 配偶者がいたことがあるが、離別・死別した —————▶ <b>F 5 へ</b> 3 配偶者がいたことはない

【F 4で、「1 配偶者がいる」と回答した方に】

**F 4-1** あなたの配偶者・パートナーの年齢をお答えください。 (1つだけに○)

1 18～19歳	6 40～44歳	11 65～69歳
2 20～24歳	7 45～49歳	12 70～74歳
3 25～29歳	8 50～54歳	13 75～79歳
4 30～34歳	9 55～59歳	14 80歳以上
5 35～39歳	10 60～64歳	

## F 4-2 あなたの配偶者・パートナーの職業をお答えください。(1つだけに○)

1 会社員・団体職員	5 専業主婦・専業主夫
2 自由業・自営業・家業	6 学生
3 パート・アルバイト	7 無職
4 公務員	8 その他( )

## 【すべての方に伺います】

## F 5 あなたに子どもはいますか。成人しているお子さんや別居しているお子さんも含めてお答えください。(1つだけに○)

1 いる → F 5-1へ	2 いない → F 6へ
---------------	--------------

## 【F 5で、「1 いる」と回答した方に】

## F 5-1 あなたの一番下のお子さんは、現在次のどれにあてはまりますか。

(1つだけに○)

1 3歳未満	5 高校生
2 3歳以上就学前	6 大学生、大学院生
3 小学生	(高専、短大、専門学校を含む)
4 中学生	7 学校教育終了

## 【すべての方に伺います】

## F 6 あなたの現在の世帯構成は次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○)

1 単身世帯(一人住まい)	4 3世代世帯(親と子どもと孫)
2 1世代世帯(夫婦のみ)	5 その他( )
3 2世代世帯(親と子ども)	

## F 7 あなたの現在のお住まいの地域をお答えください。(1つだけに○)

地域名	地域に含まれる市町村名
1 南部地域	川口市、蕨市、戸田市
2 南西部地域	朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町
3 東部地域	春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町
4 さいたま地域	さいたま市
5 県央地域	鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町
6 川越比企地域	川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、小川町、川島町
7 西部地域	所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市
8 利根地域	行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、宮代町、杉戸町
9 北部地域	熊谷市、本庄市、深谷市、上里町、寄居町
10 秩父地域	秩父市、小鹿野町

## 男女平等に関する意識について伺います

問1 あなたは、現在、男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(1)～(8)のそれぞれについてあなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

<div data-bbox="384 463 805 571">  </div>	<div data-bbox="922 412 987 568">           平等になって いる         </div>	<div data-bbox="1058 412 1121 568">           平等になって いない         </div>	<div data-bbox="1187 412 1251 546">           どちらとも いえない         </div>	<div data-bbox="1321 412 1380 546">           わからない         </div>
(1) 家庭生活で	1	2	3	4
(2) 学校教育の場で	1	2	3	4
(3) 職場で	1	2	3	4
(4) 政治の場で	1	2	3	4
(5) 自治会等の地域活動の場で	1	2	3	4
(6) 社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで	1	2	3	4
(7) 法律や制度の上で	1	2	3	4
(8) 社会全体の中で	1	2	3	4

問2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考えについてどのように思いますか。 (1つだけに○)

1 賛成（同感する） 2 どちらかといえば賛成（同感する）	→ 問2-1へ	5 どちらともいえない 6 わからない
3 どちらかといえば反対（同感しない） 4 反対（同感しない）	→ 問2-2へ	

【問2で「1」「2」と回答した方に】

問2-1 そう思う理由を教えてください。

(1 つだけに○)

- 1 日本の伝統・美德だと思うから
- 2 性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから
- 3 こどもの成長にとって良いと思うから
- 4 個人的にそうありたいと思うから
- 5 その他（ ）
- 6 理由を考えたことはない

【問2で「3」「4」と回答した方に】

問2-2 そう思う理由を教えてください。

(1つだけに○)

- 1 男女平等に反すると思うから
- 2 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから
- 3 男女共に仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
- 4 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから
- 5 一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから
- 6 その他（ ）
- 7 理由を考えたことはない

## 【すべての方に伺います】

問3 あなたは「男性らしさ」または「女性らしさ」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(どの性別の方もお答えください。) (1つだけに○)

1 ある	2 ない	3 わからない
------	------	---------

### 家庭生活・子育てについてお伺いします

問4 あなたの家庭では、次の(1)～(8)のことについて、主に男性、女性のどちらが行なっていますか。(それぞれ1つずつに○)

<div>  </div>	主として男性が行っている	共同して分担している	主として女性が行っている	その他	該当しない
	1	2	3	4	5
(1) 家事(炊事・洗濯・掃除など)	1	2	3	4	5
(2) 子育て(こどもの世話、しつけ、教育など)	1	2	3	4	5
(3) 介護(介護の必要な親の世話、病人の介護など)	1	2	3	4	5
(4) 地域の行事への参加	1	2	3	4	5
(5) 自治会、PTA活動	1	2	3	4	5
(6) 生活費の確保	1	2	3	4	5
(7) 家計の管理	1	2	3	4	5
(8) 高額な商品や土地、家屋の購入の決定	1	2	3	4	5

問5 家庭生活(家事・子育て・介護)の考え方について、あなたは「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。(それぞれ1つずつに○)

## 【現実】

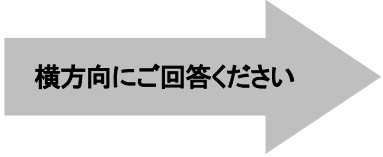
- 1 仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念
- 2 どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先
- 3 仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視
- 4 どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先
- 5 家庭生活(家事・子育て・介護)に専念

## 【希望】

- 1 仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念
- 2 どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先
- 3 仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視
- 4 どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先
- 5 家庭生活(家事・子育て・介護)に専念

**問6** あなたと配偶者・パートナーは、今までに子育ての経験はありますか。（配偶者・パートナーがいない場合、（2）は選択肢「3」をお選びください。）

（それぞれ1つずつに○）

	あり 子育ての経験	なし 子育ての経験	配偶者・パートナーは いない
	(1) あなた	1	2
(2) 配偶者・パートナー	1	2	3

問7へ

問8へ

【問6で「子育ての経験あり」に1つでも回答した方に】

**問7** あなたと配偶者・パートナーの子育てのかかわりは十分だと思いますか。

（それぞれ1つずつに○）

	た 十分である (あつ)	た ある程度は 十分である (あつ)	た あまり十分 ではない (なかつ)	た 十分ではない (なかつ)
	(1) あなた	1	2	3
(2) 配偶者・パートナー	1	2	3	4

問8へ

問7-1へ

【問7で「3 あまり十分ではない（なかつた）」または「4 十分ではない（なかつた）」と回答した方に伺います】

**問7-1** かかわりが十分ではない（なかつた）のは何が原因であると思いますか。

（それぞれ1つずつに○）

【あなた】

1 仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため 2 育児休業制度が不十分または利用しにくい（利用しにくかった）ため 3 趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にする（大切にしたい）ため 4 こどものことや家庭のことにあまり関心がない（なかつた）ため 5 こどもの世話が面倒だと考えている（考えていた）ため 6 子育ての大変さを理解していない（いなかた）ため 7 こどもとどのように接したらよいかわからない（わからなかつた）ため 8 子育てに関する知識や情報が乏しい（乏しかつた）ため 9 その他（ ）
---



【配偶者・パートナー】

- 1 仕事が忙しすぎる（忙しすぎた）ため
- 2 育児休業制度が不十分または利用しにくい（利用しにくかった）ため
- 3 趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にする（大切にした）ため
- 4 こどものことや家庭のことにあまり関心がない（なかった）ため
- 5 こどもの世話が面倒だと考えている（考えていた）ため
- 6 子育ての大変さを理解していない（いなかった）ため
- 7 こどもとどのように接したらよいかわからない（わからなかった）ため
- 8 子育てに関する知識や情報が乏しい（乏しかった）ため
- 9 その他（ ）

## 男女の就業・仕事について伺います

【すべての方に伺います】

問8 あなたは、女性の働き方について、「理想」はどうあるべきだと思いますか。

また、あなた自身について（男性の場合は配偶者・パートナーについて）、「現実」には  
 ですか。（どうでしたか）※結婚には事実婚を含みます。（それぞれ1つずつに○）

【理想】

- 1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- 2 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 3 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 4 結婚後または子育て終了時から仕事をもつ
- 5 こどもができるまでは仕事をもち、こどもができたらか家事や子育てに専念する
- 6 結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事などに専念する
- 7 仕事はもたない
- 8 その他（ ）
- 9 わからない

【現実】

- 1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（いた）
- 2 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（いた）
- 3 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（いた）
- 4 結婚後または子育て終了時から仕事をもっている（いた）
- 5 こどもができるまでは仕事もち、こどもができたらか家事や子育てに専念している（いた）
- 6 結婚するまでは仕事もち、結婚後は家事などに専念している（いた）
- 7 仕事はもっていない
- 8 その他（ ）

【就労経験のある方に伺います】（就労経験のない方は問10へ）

問9 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか  
（ありましたか）。 （あてはまるものすべてに○）


1	賃金に男女差がある（あった）
2	男性に比べて女性の採用が少ない（少なかった）
3	昇進、昇給に男女差がある（あった）
4	能力を正當に評価しない（しなかった）
5	配置場所が限られている（いた）
6	補助的な仕事しか任されていない（いなかった）
7	企画会議などの意思決定の場に女性が参加できない傾向がある（あった）
8	女性を幹部職員に登用しない（しなかった）
9	有給休暇や育児・介護休業が取得しにくい（しにくかった）
10	在宅勤務や短時間勤務等が認められない（認められなかった）
11	結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある（あった）
12	中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある（あった）
13	教育・研修を受ける機会が少ない（少なかった）
14	その他（
15	特にない（なかった）

【すべての方に伺います】

問10 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得すること  
についてどのように思いますか。 （それぞれ1つずつに○）

横方向にご回答ください	積極的に 取得した方がよい	どちらかといえば 取得した方がよい	どちらかといえば 取得しない方がよい	取得しない方がよい	わからない
	1	2	3	4	5
(1) 育児休業	1	2	3	4	5
(2) 介護休業	1	2	3	4	5


**問11** 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度に関連してあなたの状況を教えてください。（それぞれ1つずつに○）

活用機会の有無	機会有る方						機会のない方		
取得の状況  	自身が取得した経験がある (連続1月以上)	自身が取得した経験がある (連続1月未満)	機会があり必要性を感じたが取得できなかった	機会はあったが取得の必要性を感じなかった	配偶者・パートナーが取得した経験がある	自身は取得していないが、配偶者・パートナーが取得した経験がある	制度が知らなかった又は制度ができる前に機会があった	機会があれば取得しようと思う	機会があっても取得するつもりはない
(1) 育児休業	1	2	3	4	5	6	7	8	
(2) 介護休業	1	2	3	4	5	6	7	8	

**問12** あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の（1）～（9）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。（それぞれ1つずつに○）

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) 配偶者・パートナー（男性）の理解や家事・育児などの分担・協力	1	2	3	4
(2) 配偶者・パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などの分担・協力	1	2	3	4
(3) 保育施設や学童保育の充実	1	2	3	4
(4) 福祉施設やホームヘルパーの充実	1	2	3	4
(5) 労働時間の短縮、在宅勤務やフレックスタイム等の制度の導入・充実	1	2	3	4
(6) 企業経営者や職場の理解	1	2	3	4
(7) 育児・介護休業などの休業制度の充実	1	2	3	4
(8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	1	2	3	4
(9) 健康を保持する	1	2	3	4

**問13** あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の（1）～（7）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。（それぞれ1つずつに○）

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) 家族の理解や家事・育児などの分担・協力	1	2	3	4
(2) こどもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実	1	2	3	4
(3) 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	1	2	3	4

横方向にご回答ください	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(4) 技能習得のための職業訓練の充実	1	2	3	4
(5) 企業経営者や職場の理解	1	2	3	4
(6) 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	1	2	3	4
(7) 在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度の導入や介護休業などの制度の充実	1	2	3	4

問14 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。 (3つまでに○)

- 1 給与等の男女間格差をなくすこと
- 2 年間労働時間を短縮すること
- 3 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
- 4 育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること
- 5 育児休業・介護休業中の給付を充実すること
- 6 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
- 7 在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
- 8 職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること
- 9 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
- 10 男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること
- 11 男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること
- 12 その他 ( )
- 13 わからない

### 男女の社会参画についてお伺いします

問15 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。 (1つだけに○)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 十分反映されている   | 3 あまり反映されていない  |
| 2 ある程度反映されている | 4 ほとんど反映されていない |
|               | 5 どちらともいえない    |

問15-1 反映されていないと回答した方は、反映されていないと思う理由を選んでください。また、反映されていると回答した方は、より反映させるために、改善する必要があると思うものを選んでください。（3つまでに○）

1 女性議員が少ない	6 女性自身が消極的
2 行政機関の管理職に女性が少ない	7 男性の意識、理解が足りない
3 審議会や委員会に女性が少ない	8 社会のしくみが女性に不利
4 自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	9 女性の能力に対する偏見がある
5 女性自身の意欲や責任感が乏しい	10 その他（ ）

問16 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」（＝ポジティブアクション）という考え方について、あなたはどのように思いますか。（1つだけに○）

1 賛成する	4 どちらかといえば反対する
2 どちらかといえば賛成する	5 反対する
3 どちらともいえない	

問17 日本社会において「男性である」がゆえに生じる、男性特有の負担感や生きづらさについて、次のうちどれが強く存在すると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1 家族を養う経済力を求められる	
2 弱音を吐いたり、悩みを打ち明けるのは恥ずかしいという考え方が存在する	
3 「家」を背負っていかなければならないという意識、責任感を求められる	
4 力仕事や危険な仕事を任せられる	
5 家事・介護・育児等より仕事を優先するべきだと求められる	
6 リーダーシップを求められる	
7 男性が行うと揶揄される趣味等がある	
8 その他（ ）	
9 わからない	

問18 それは、どのような場面において強く現れていると思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

1 職場において	5 友人関係において
2 家庭において	6 学校において
3 親族関係において	7 その他（ ）
4 地域において	8 わからない

## 男女間における暴力についてお伺いします

**問19** あなたは、次の（１）～（14）のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた場合、それをどのように感じますか。

あなたの考えに近いものを選んでください。

（それぞれ1つずつに○）

<div style="text-align: center;">  <p>横方向にご回答ください</p> </div>	<div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">                         どんな場合でも 暴力にあたると思う                     </div>	<div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">                         暴力にあたる場合も そうでない場合も あると思う                     </div>	<div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">                         暴力にあたるとは思わない                     </div>
（１）骨折させる	1	2	3
（２）打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
（３）身体を傷つける可能性のある物でなぐる、突き飛ばしたり壁にたたきつけたりする	1	2	3
（４）平手でぶつ、足でける	1	2	3
（５）刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
（６）なぐるふりをして、おどす	1	2	3
（７）物を投げつける、ドアをけったり壁に物を投げて、おどす	1	2	3
（８）大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う	1	2	3
（９）持ち物や大切にしている物をこわす	1	2	3
（10）何を言っても、長期間無視し続ける	1	2	3
（11）交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する	1	2	3
（12）いやがるのに性的な行為を強要する	1	2	3
（13）見たくないのに、性的な動画や画像を見せる	1	2	3
（14）必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる	1	2	3

【問20から問21-7は、配偶者がいる方、または過去に配偶者がいた方に伺います】  
(該当しない場合は問22へ)

ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

問20 あなたはこれまでに、あなたの配偶者に対して（１）～（１４）のような行為をしたことがありますか。（それぞれ1つずつに○）

横方向にご回答ください	1、 2度あった	何度もあった	まったくない
(1) 骨折させる	1	2	3
(2) 打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
(3) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる、突き飛ばしたり壁にたたきつけたりする	1	2	3
(4) 平手でぶつ、足でける	1	2	3
(5) 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
(6) なぐるふりをして、おどす	1	2	3
(7) 物を投げつける、ドアをけったり壁に物を投げて、おどす	1	2	3
(8) 大声でどなる、「役立たず」とか、「能なし」などと言う	1	2	3
(9) 持ち物や大切にしている物をこわす	1	2	3
(10) 何を言っても、長期間無視し続ける	1	2	3
(11) 交友関係、電話、メール、郵便物を細かく監視する	1	2	3
(12) いやがるのに性的な行為を強要する	1	2	3
(13) 見たくないのに、性的な動画や画像を見せる	1	2	3
(14) 必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる	1	2	3

問20-1へ すべて3  
の場合は  
問21へ

【問20で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】

問20-1 あなたがそのような行為をするに至ったきっかけは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした
- 2 いろいろがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した
- 3 相手がそうされても仕方ないようなことをした
- 4 相手が自分に危害を加えてきたので、身を守ろうと思った
- 5 親しい関係ではこうしたことは当然である
- 6 その他（
- 7 覚えていない
- 8 特に理由はない

**問21** あなたはこれまでに、あなたの配偶者から（１）～（４）のような行為をされたことがありますか。  
(それぞれ1つずつに○)

横方向にご回答ください	1、 2度あった	何 度も あった	ま った く な い
(1) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）	1	2	3
(2) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）	1	2	3
(3) 性的強要（例えば、いやがっているのに、性的な行為を強要される、見たくないのに性的な映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）	1	2	3
(4) 経済的圧迫（例えば、生活費を渡されない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）	1	2	3

問21-1 へ  
すべて3  
の場合は  
問22 へ

【問21で、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答した方に】

問21-1 あなたが、その相手の行為を受けたのはいつごろですか。

(それぞれ1つずつに○)

横方向にご回答ください	こ の 1 年 に あ っ た	そ れ 以 前 に あ っ た
(1) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）	1	2
(2) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）	1	2
(3) 性的強要（例えば、いやがっているのに、性的な行為を強要される、見たくないのに性的な映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）	1	2
(4) 経済的圧迫（例えば、生活費を渡されない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）	1	2

**問21-2** あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことはありますか。  
(1つだけに○)

1 感じたことがある	2 感じたことはない
------------	------------



問2 1-3 あなたは、その相手の行為を受けたとき、どうしましたか。

(1つだけに○)

- 1 相手と別れた
- 2 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった
- 3 別れたい(別れよう)とは思わなかった

問2 1-4 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、ケガをしたり、医師の治療を受けたことがありますか。

(1つだけに○)

- 1 ケガをして医師の治療を受けた
- 2 ケガをして医師の治療が必要になる程度であったが、治療は受けなかった
- 3 ケガをしたが、医師の治療が必要にならない程度であった
- 4 ケガはしなかった

問2 1-5 あなたが、その相手の行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。

(1つだけに○)

- 1 目撃していた
- 2 目撃していたかどうかはわからない
- 3 目撃していない
- 4 こどもはいない

問2 1-6 あなたのお子さんは、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 ながる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど身体に対する行為
- 2 大声でどなる、無視する、目の前で家族に対して暴力をふるうなど心理的な虐待となる行為
- 3 わいせつなものや性交を見せつける、性的な行為を強要するなどの行為
- 4 食事を与えない、病気になっても病院に受診させないなどの行為
- 5 わからない
- 6 まったくない
- 7 こどもはいない

問2 1-7 あなたは、相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(1つだけに○)

- 1 相談した
- 2 相談できなかった
- 3 相談しようとは思わなかった

【すべての方に伺います】

問2 2 あなたはこれまでに、ある特定の異性から、執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・メールなどの被害にあったことがありますか。

(1つだけに○)

- 1 1人からあった
- 2 2人以上からあった
- 3 まったくない


【問23は、あなたの交際相手からの暴力の被害経験について伺います。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。】

問23 あなたには、これまでに交際相手がありましたか、結婚している方、結婚したことのある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。（1つだけに○）

1 交際相手があった（いる）	→ 問23-1へ
2 交際相手はいなかった（いない）	→ 問24へ

【問23で、「1 交際相手があった（いる）」と回答した方に】

問23-1 あなたは、これまでに交際相手から（1）～（4）のような行為をされたことがありますか。（それぞれ1つずつに○）

<div style="text-align: center;">  </div>	この1年にあった	それ以前にあった	なかった
	1	2	3
（1）身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）	1	2	3
（2）心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）	1	2	3
（3）性的強要（例えば、いやがっているのに、性的な行為を強要される、見たくないのに性的な映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）	1	2	3
（4）経済的圧迫（例えば、生活費を渡されない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）	1	2	3

【結婚をしている（いた）方（事実婚を含む）、交際相手がいる（いた）方に】

（該当しない方は問26へ）

問24 あなたが、問21の配偶者からの行為、問23-1の交際相手からの行為それぞれについて、相談した人（場所）を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

【配偶者からの行為】

1 家族・親せき	7 男女共同参画推進センター・女性センター
2 友人・知人	8 弁護士
3 警察	9 医師・カウンセラー
4 人権擁護委員	10 民間の相談機関
5 役所の相談窓口・電話相談など	11 その他（ ）
6 配偶者暴力相談支援センター （旧・婦人相談センターを含む）	12 相談しなかった（できなかった）
	→ 問25へ
	13 該当する行為はなかった

## 【交際相手からの行為】

1 家族・親せき	7 男女共同参画推進センター・女性センター
2 友人・知人	8 弁護士
3 警察	9 医師・カウンセラー
4 人権擁護委員	10 民間の相談機関
5 役所の相談窓口・電話相談など	11 その他（ ）
6 配偶者暴力相談支援センター (旧・婦人相談センターを含む)	12 相談しなかった(できなかった)
	→ 問25へ
	13 該当する行為はなかった

## 【問24で、「12 相談しなかった(できなかった)」と回答した方に】

問25 あなたが、誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

## 【配偶者からの行為】

1 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから
2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3 相談しても無駄だと思ったから
4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
6 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから
7 世間体が悪いから
8 他人を巻き込みたくないから
9 思い出したくないから
10 自分に悪いところがあると思ったから
11 相談するほどのことではないと思ったから
12 その他（ ）

## 【交際相手からの行為】

1 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから
2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3 相談しても無駄だと思ったから
4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
6 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから
7 世間体が悪いから
8 他人を巻き込みたくないから
9 思い出したくないから
10 自分に悪いところがあると思ったから
11 相談するほどのことではないと思ったから
12 その他（ ）

## 男女共同参画の推進に対する施策についてお伺いします

【すべての方に伺います】

問26 あなたは（１）～（１８）の男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見たり聞いたりすることがありますか。 （それぞれ１つずつに○）

				内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない
（１） 埼玉県男女共同参画推進条例	1	2	3			
（２） 埼玉県男女共同参画基本計画	1	2	3			
（３） 埼玉県DV防止基本計画 （配偶者等からの暴力防止及び被害者支援基本計画）	1	2	3			
（４） 男女共同参画社会	1	2	3			
（５） ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3			
（６） ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3			
（７） セクシュアル・ハラスメント（性的な言動によるいやがらせ）	1	2	3			
（８） DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）	1	2	3			
（９） デートDV（交際相手からの暴力）	1	2	3			
（１０） DV防止法 （配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3			
（１１） 育児・介護休業法（育児休業・介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律）	1	2	3			
（１２） 男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）	1	2	3			
（１３） 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3			
（１４） 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3			
（１５） クォータ制（政治分野における男女平等を実現するため、議員・閣僚の一定数を女性に割り当てる制度）	1	2	3			
（１６） マタニティ・ハラスメント（妊産婦に対するいやがらせ）	1	2	3			
（１７） パタニティ・ハラスメント（育休を取得する男性へのいやがらせ）	1	2	3			
（１８） LGBTQ（性的マイノリティの方を表す総称のひとつ）	1	2	3			

問27 埼玉県には男女共同参画を推進するための拠点として、さいたま新都心に「埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）」があります。あなたは、この施設を利用したことがありますか。 （１つだけに○）

1 利用したことがある	2 利用はしていないが、知っている	3 知らない
-------------	-------------------	--------

問28 あなたは、この「With You さいたま」にどのような役割を期待しますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供 2 講演会、シンポジウム、フェスティバル（活動発表、交流の場）等の企画・開催 3 女性相談窓口の機能の充実 4 男性向けの講座・相談窓口の充実 5 DV 被害者向けの相談・支援窓口の充実 6 自主的な学習活動、ボランティア団体・NPO の活動支援 7 就職講座や起業講座等による女性の就業支援 8 地域づくり、ボランティアなどチャレンジしたい女性への支援 9 同じ悩みを抱えている人へのネットワーク支援 10 いつでも誰でも立ち寄れる交流の場 11 調査・研究機能の充実 12 市町村職員向けの研修や市町村が行う活動支援の充実 13 その他（	                     
--	--

問29 あなたは、男女共同参画に関する情報を探すとき、どのような方法で手に入れますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 インターネットの検索機能 2 自治体や国の省庁のHP 3 国が発行する白書やその他公的機関の発行する資料 4 図書館や書店の書籍 5 所属する組織（学校・企業・団体等）の担当部署 6 市町村の設置している施設（公民館・男女共同参画推進センター・女性センター等） 7 埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま） 8 男女共同参画に関する講演会、シンポジウム等のイベント 9 その他（	                     
---	--

**問30** 今後、男性も女性も、ともに社会のあらゆる分野にバランス良く積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。 (1つだけに○)

- 1 法律や制度上の見直しを行い、性別による差別につながるものを改めること
- 2 男女の固定的な役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること
- 3 男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力すること
- 4 こどもの時から家庭や学校で男女平等について教えること
- 5 男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実を図ること
- 6 男性も女性も経済力を持ったり、知識・技術の習得など、積極的に能力の向上を図ること
- 7 就労の場の待遇に性別による差別がないようにすること
- 8 行政や企業などの重要な役職など女性の少ない分野に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- 9 その他 ( )

### 困難な問題を抱える女性への支援についてお伺いします

【女性の方に伺います】(F1で「2 男性」「3 回答しない」と答えた方は問34へ)

**問31** あなたは、「女性の福祉」「人権の尊重や擁護」「男女平等」といった視点を明確に規定した、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」(困難女性支援法)を知っていますか。 (1つだけに○)

- 1 法律名も内容(概要や一部だけでも)も知っている
- 2 法律ができたことは知っているが、内容は知らない
- 3 法律名も内容も知らない

## 問3 1-1 あなたがこれまでに抱えたことのある悩みはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 配偶者やパートナー、元配偶者からの身体的暴力（平手で打たれる、髪を引っ張られる、引きずりまわされるなど）
- 2 配偶者やパートナー、元配偶者からの心理的暴力（大声で怒鳴られる、人前でバカにされたり命令するような口調でものを言われる、大切にしているものを捨てられるなど）
- 3 配偶者やパートナー、元配偶者からの性的暴力
- 4 配偶者やパートナーからの経済的暴力（生活費を渡してもらえない、働いて収入を得ることを認めてもらえないなど）
- 5 デートDV（恋人間の暴力。勝手にスマホのデータを消去する、交友関係を制限する、別れたら死ぬと言う、避妊に協力しないなど）
- 6 配偶者以外の家族、同居人からの暴力（身体的、心理的、性的、経済的暴力を含む）
- 7 家族以外の他人からの性暴力・性犯罪被害  
（痴漢、盗撮、同意のない性交など、直接的な被害）
- 8 家族以外の他人からの性暴力・性犯罪被害  
（SNSを介して性的な画像を送信させられたなど、インターネットを通じた被害）
- 9 思いがけない妊娠（思いがけない妊娠をしたかもしれない不安などを含む）
- 10 ストーカー被害
- 11 住居問題（住む場所がない、失う可能性があるなど）
- 12 離婚問題・家庭不和
- 13 配偶者やパートナーのアルコール依存、ギャンブル依存、借金問題
- 14 自身の障害や疾病
- 15 家族の障害や疾病
- 16 経済的な困窮（食品や生理用品など生活に必要なものを買えないことがあるなど）
- 17 その他（ ）
- 18 特にない
- 19 答えたくない

## 問3 1-2 悩みがある場合、相談したことがあれば相手を教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族
- 2 友人・知人
- 3 SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人
- 4 相談機関
- 5 その他（ ）
- 6 どこにも相談したことがない
- 7 相談できる相手がいない

→ 問3 1-3 へ

→ 問3 2 へ

【問3 1-2で、「1」～「5」のいずれかを回答した（相談したことがある）方に】

問3 1-3 相談したことがある場合、その結果はどうでしたか。

（あてはまるものすべてに○）

- |                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 1 適切な助言をもらい、問題の解決につながった           |  |
| 2 話を聞いてもらい、気持ちが落ち着いた              |  |
| 3 相談窓口や支援先を紹介してもらった               |  |
| 4 適切な助言をもらえず、問題の解決に至らなかった         |  |
| 5 相談を親身になって聞いてもらえず、満足できなかった       |  |
| 6 相談窓口や支援先等具体的な解決方法がわからず、満足できなかった |  |
| 7 緊張して上手く相談内容を伝えられなかった            |  |
| 8 相談受付時間に電話することが難しかった             |  |
| 9 相談したことを後悔した（理由：_____）           |  |
| 10 その他（_____）                     |  |

【問3 1-2で、「6」「7」を回答した（相談したことがない）方に】

問3 2 相談したことがない場合、その理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

- |  |  |
|--|--|
| 1 相談するほどのことではないと思ったから                    |  |
| 2 相談先を知らなかったから                           |  |
| 3 相談する勇気が出なかったから                         |  |
| 4 相談した後の影響が不安だったから（周りに知られる、被害がより大きくなるなど） |  |
| 5 相談しても思うような対応が期待できないと思ったから              |  |
| 6 相談するよりも早く忘れたいと思ったから                    |  |
| 7 自分にも悪いところがあると思ったから                     |  |
| 8 相談するようなことがなかったから（見たり聞いたりしなかった）         |  |
| 9 その他（_____）                             |  |

【女性の方に伺います】

問3 3 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。

（あてはまるものすべてに○）

- |                                      |                        |
|--------------------------------------|------------------------|
| 1 電話                                 | 7 気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）    |
| 2 メール                                | 8 その他                  |
| 3 SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram 等） | （_____）                |
| 4 学校（対面）                             | 9 相談したり支援を受けたりしたいと思わない |
| 5 支援機関（対面）                           | 10 わからない               |
| 6 自宅に訪問してもらおう（対面）                    |                        |



【すべての方に伺います】

問34 女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1	困難な状況に気づいてくれる人の存在
2	安心できる居場所
3	支援制度や相談窓口、専門機関など助けになるような情報を得ること
4	実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること
5	弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート
6	経済的な自立
7	経済的な自立に必要なスキルや資格
8	いざという時に自分で自由に使えるお金
9	その他（ <span style="float: right;">)</span>
10	必要なことはない
11	わからない

問35 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちに、どんなサポートがあるといいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1	数時間程度安心して過ごせる場所
2	一時的に（数日）泊まれる場所
3	無料・低額で食事の提供
4	なんでも相談できる場所や人
5	同じ悩みを持つ人たちと出会える場所
6	一晩程度を過ごせるお金の援助
7	住まいに関する支援
8	就業など自立に向けた支援
9	その他（ <span style="float: right;">)</span>
10	必要なことはない
11	わからない

問36 悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できていると思いますか。（1つだけに○）

1	そう思う	4	どちらかといえばそう思わない
2	どちらかといえばそう思う	5	そう思わない
3	どちらともいえない	6	わからない

## 第Ⅵ章 調査票

最後に、埼玉県の男女共同参画の推進に関する施策や男女共同参画社会についてご意見やご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。


これで調査は終了です。  
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

令和 7 年度 男女共同参画に関する意識・実態調査 報告書

令和 8 年 1 月

調査主体 埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3 丁目15番1号

電話 048 (830) 2921 FAX 048 (830) 4755

調査機関 株式会社 C C N グループ